

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成17年7月

金沢工業高等専門学校

目 次

I	金沢工業高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	4
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	14
	基準3 教員及び教育支援者	44
	基準4 学生の受入	60
	基準5 教育内容及び方法	73
	基準6 教育の成果	113
	基準7 学生支援等	141
	基準8 施設・設備	172
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	182
	基準10 財務	203
	基準11 管理運営	210

I 金沢工業高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

- (1) 対象校名 金沢工業高等専門学校
 (2) 所在地 石川県金沢市久安2丁目270番地
 (3) 学科等構成

- 電気情報工学科（定員45名）
（平成15年4月1日 電気工学科を名称変更）
- 機械工学科（定員45名）
- 国際コミュニケーション情報工学科（定員45名）
（平成15年4月1日新設）

- (4) 学生数及び教員数（平成17年5月1日現在）

1) 学生数（名）

学科 学年	電気工学科		電 気 情 報 工 学 科	機 械 工 学 科	国際コミュニ ケーション情報 工 学 科	合 計
	電気電子 工学コース	情報工学 コース				
1年			48(1)	49	34(8)	131(9)
2年	2		47(1)	54(1)	35(7)	138(9)
3年	1		49(1)	55(1)	32(7)	137(9)
4年	38(2)	40(4)	—	43(2)	—	121(8)
5年	33	40(7)	—	36	—	109(7)
合計	154(13)		144(3)	237(4)	101(22)	636(42)

() 内は女子数で内数

2) 教員数（名）

	教 授	助 授 授	講 師	助 手	合 計
電気情報 工 学 科	5	2	2	0	9
機 械 工 学 科	6	1	0	0	7
国際コミュニ ケーション 情報工学科	5	4	1	0	10
一 般 科 目	7	7	7	0	21
合 計	23	14	10	0	47

2 特徴

金沢工業高等専門学校（以下本校）は、昭和37年に創立され、学校法人金沢工業大学（以下学園）が設置する金沢工業大学（以下大学）と共に、学園が目指す工学アカデミア実現の一翼を担って理念を共有し、5か年間一貫の制度を活用した特色ある教育の実現に努力しています。

本校の最も特徴的な点は、大学との理念の共有と学園が運営する教育及び研究の支援組織を大学と共用し、充実した教育研究環境で学生が学べる点にあります。また卒業後の進路として、大学への編入学に関しても、推薦制度の中で毎年20名を越える学生が金沢工業大学へ進学する等、密接な連携による運営が行われています。

本校の教育面の特色は「ハンズオン教育」と「英語教育」にあります。

「ハンズオン教育」は、学園がその歴史の中で、一貫して目指してきた現場技術者の養成を目的とするモノづくりを基本とした教育であり、学生の創造性を引き出す教育として今日改めて注目されています。

「英語教育」は、技術現場の国際化への対応の必要から力を注いできたものです。今日単位互換による海外留学制度の実現や海外の大学への編入学等の大きな特色となり、平成15年4月に新設された国際コミュニケーション情報工学科は、こうした本校の特色をより進化させたものと言えます。

本校は、多年にわたって培ってきた先の二つの特色の他、現在資格取得教育にも力を注いでいます。本校卒業生が社会に出て、その実力をいかんなく発揮するチャンスをつかむためには、単に学歴だけでなく、現場技術者として資格を持つことの重要性を認識しているからです。

本校は、学園の理念である「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」の三大旗標のもと、「人間形成」を教育の根本理念として豊かな人間性の涵養をすべての教育のベースに置くことを教員に求めています。本校が創立以来実施している穴水湾自然学苑教育は、本校の人間教育を象徴する必須の科目として定着しており、卒業生たちの学年をこえた共通の思い出として語られています。

II 目的

(1) 教育の実践目標

本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育の実践目標とし、5か年間にわたる教育課程や課外における、次の5つの活動を通じて、その実現を目指すものです。

- 1) 「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じてKIT-IDEALSに基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に、「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。
- 2) 21世紀が情報化、国際化が一層進展していく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。
- 3) エンジニアとして必要な知識や技能に係る専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を触発し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。
- 4) 地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。
- 5) 学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実向上を目指します。

これらはいずれも学園が定める理念や信条、さらにはビジョンに基づいた日々の活動を通じた努力によって初めて成し遂げられるものです。

- ・学園の理念は、私たちに高い志を持つことを求めています。
- ・学園の信条は、私たちに価値の共有を求めています。
- ・学園のビジョンは、私たちに「教育」「研究」「サービス」の卓越性の追究を求めています。

本校は、高い志の中で教育実践の目標を定め、学生、教職員の一致した努力のもと、その取り組みを実施しているものです。

(2) 学園の理念

本校は、学園が定める建学の綱領に基づき、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、三大建学綱領の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

「三大建学綱領」

人間形成：我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者を育成する。

技術革新：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者を育成する。

産学協同：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献する。

(3) 学園共同体の信条

私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“KIT-IDEALS”として定め、これらに基づく信条を次の通りまとめました。これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することにより、学園共同体の向上、発展を目指します。

K Kindness of Heart 思いやりの心

私たちは素直、感謝、謙虚の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。

I Intellectual Curiosity 知的好奇心

私たちは情熱、自信、信念を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。

T Team Spirit 共同と共創の精神

私たちは主体性、独創性、柔軟性を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。

I Integrity 誠実

私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。

D Diligence 勤勉

私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。

E Energy 活力

私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。

A Autonomy 自律

私たちは、自律することを大切にし、1人ひとりを信頼し、尊敬します。

L Leadership リーダーシップ

私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割における自覚と責任を持ちます。

S Self-Realization 自己実現

私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に臆することなくさらに高い目標に挑戦することに努めます。

(4) 学園のビジョン

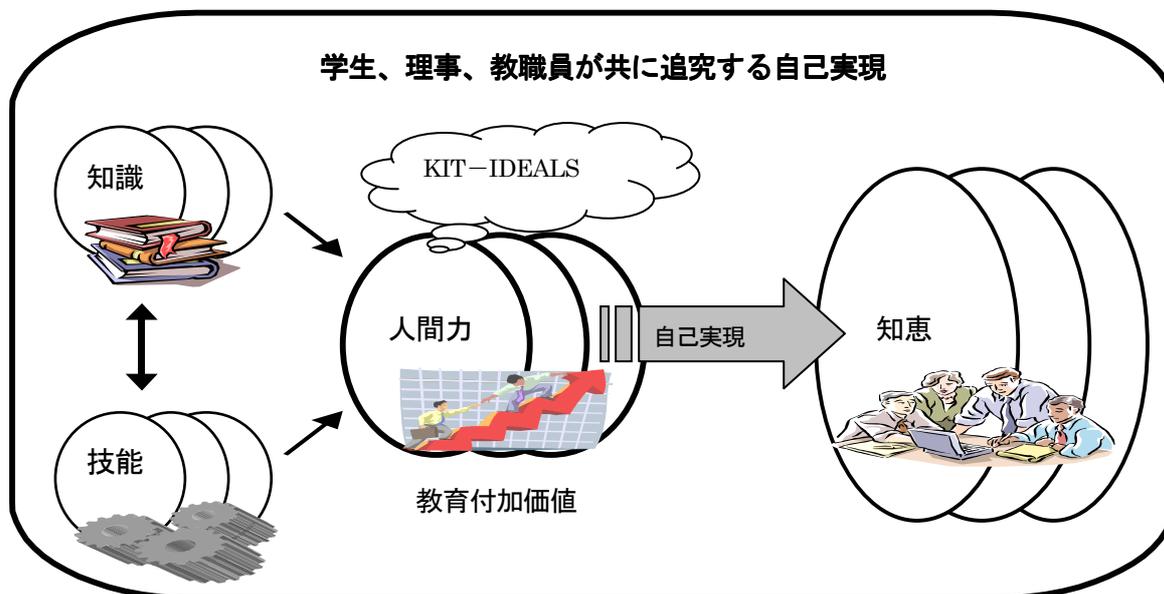
私たちは、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が共有する経営理念と価値群に基づく明確なビジョンを掲げ、社会が必要とする教育、研究、サービスの継続的な改善活動に努めると共に、その卓越性を追究し、社会に貢献します。

- ① 教育の卓越性: 人間形成を目的とする「教育付加価値日本一の学園」を目指します。
- ② 研究の卓越性: 「共同と共創による技術革新と産学協同の実現」を目指します。
- ③ サービスの卓越性: 「自己点検評価システムの成熟」を図り、学生を始めとする学園に関係する方々（顧客）の満足度の向上を目指します。

(5) 学園共同体の理解

理念の実現に向けて、学園の理事、教職員は、次のことを理解することが強く求められています。

- 1) 工学アカデミアとは、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が学園共同体の一員として行動する際、意思決定の根拠をなす価値群である“KIT-IDEALS”を共有し、お互いが必要な知識や技能を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場である。
- 2) 教育とは、学生が持つ潜在能力を引き出して総合的に伸ばしていくことにある。すなわち、学生の「知性、感性、徳性」を涵養することである。教育付加価値とは、本校における学習や経験全般から獲得した知識や技能だけでなく、価値観や態度を包含する総合的な「人間力」である。
- 3) 学園の活動は、学園を構成する人々（学生、理事、教職員）や企業、保護者、社会等の要求に応える「サービス」を成熟させ、その卓越性を追究することである。



Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1. 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校では、学園が目指す工学アカデミア実現の一翼を担い、学園が定める理念、信条、ビジョンを金沢工業大学と共有することが学園が発行するイーグルブック（資料 1-1-①-1）に明示され定められています。
- ・その上で本校の実践目標を「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」と定め、さらには具体的活動方針を明らかにしています。

(資料 1-1-①-1)

「本校の実践目標」

「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育の実践目標とし、5か年間にわたる教育課程や課外における次の5つの活動を通じて、その実現を目指すものです。

- 1) 「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じて“KIT-IDEALS”に基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に、「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。
- 2) 21世紀が情報化、国際化が一層進展していく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。
- 3) エンジニアとして必要な知識や技能に係る専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を触発し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。
- 4) 地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。
- 5) 学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実向上を目指します。

これらはいずれも学園が定める理念や信条、さらにはビジョンに基づいた日々の活動を通じた努力によって初めて成し遂げられるものです。

学園の理念は、私たちに高い志を持つことを求めています。

学園の信条は、私たちに価値の共有を求めています。

学園のビジョンは、私たちに「教育」「研究」「サービス」の卓越性の追究を求めています。

こうした学園の一翼を担う本校は、高い志の中で教育実践の目標を定め、本校の学生、教職員の一致した努力のもと、その取り組みを行わんとするものです。

(出典 「イーグルブック（工学アカデミアの実現をめざして）」 P.7)

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の使命、目的が「イーグルブック」に明確に定められていると認識しています。

観点 1-1-②：目的が学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものでないか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は学園の「工学アカデミア」構想の一翼を担い、高等教育機関である高等専門学校制度の特色を生かした教育の実現に努力してきました。
- ・本校の実践目標である「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」は、本校の学則及び高等専門学校を中堅技術者の育成を目指すものとした、高等専門学校制度の趣旨に合致する目的であると考えています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の実践目標は、学校教育法の定めを外れるものではないと考えています。(資料 1-1-②-1)

(資料 1-1-②-1)

「学則 第1章 目的及び使命」

金沢工業高等専門学校学則

※学則別表第1教育課程表はP.27～39に掲載

第1章 目的及び使命

第1条 金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として、工業の分野において国家社会に貢献すべき有為の人材を養成することをもって使命とする。

2 前項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。

3 前項に関し、必要な事項は、別に定める。

(出典 「学生便覧 2005」 P.110 抜粋)

観点 1-2-①：目的が学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の目的やビジョン等を明示したイーグルブックは、JQA21プロジェクトによって全教職員に配付され学園の価値共有が図られています。
- ・本校が発行する学生便覧に教育の実践目標が明示され、全学生に配付されています。(資料 1-2-①-1)
- ・学園の信条をポスターにして校内に掲示しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の目的やビジョンに沿ったその年の活動方針は、本校、大学、学園の全教職員が集まる年頭の場において、校長より説明され、これらは学園教育会誌「旦月会」(資料 1-2-①-2)によって改めて全教職員に周知されます。また、これらは学内向け本校ホームページ (<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/>) において公開されることで、学生の参照も可能としています。全学生に配付される学生便覧や、在学生を対象とした本校ホームページには、教育目標やビジョンを学生の視点にそった、校長からのメッセージとして掲載されています。以上の点から、学生並びに教職員において、本校の教育目標やビジョンが周知されていると認識しています。

(資料 1 - 2 - ① - 1)

「教育実践」



教育実践

金沢工業高等専門学校校長

堀岡雅清

高等専門学校は、国公立を合わせ全国に63校ありますが、金沢工業高等専門学校は、これらの中で最も古く、43年の歴史をもち、「人間形成・技術革新・産学協同」の建学綱領のもと、力強い発展を続けてきました。

本校教育の目標を一言で述べると、新時代を切り開くことのできる心豊かで創造性に富んだ技術者の養成であります。この目標に沿って平成8年に教育改革を実施し、教育内容の一層の改善を図りつつある中で平成15年には「国際コミュニケーション情報工学科」の新設と「電気工学科」の「電気情報工学科」への名称変更など学科の改組を行いました。また同時に、全学的なカリキュラムの見直しをしました。

以下、5項目にわたる本校の教育実践目標を述べます。

教育の実践目標

本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育の実践目標とし、5か年間にわたる教育課程や課外における次の5つの活動を通じて、その実現を目指しています。

- ①「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じて“K I T - I D E A L S”に基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に、「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。
- ②21世紀が情報化、国際化が一層進展していく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションのできる素養の養成を目指します。
- ③エンジニアとして必要な知識や技能に係わる専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を触発し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。
- ④地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。
- ⑤学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実向上を目指します。

これらはいずれも学園が定める理念や信条、さらにはビジョンに基づいた日々の活動を通じた努力によって初めて成し遂げられるものと考えています。

- ・学園の理念は、私たちに高い志を持つことを求めています。
- ・学園の信条は、私たちに価値の共有を求めています。
- ・学園のビジョンは、私たちに「教育」「研究」「サービス」の卓越性の追究を求めています。

本校は、高い志の中で教育実践の目標を定め、学生、教職員の一致した努力のもと、その取組を実施しているものです。

(出典 「学生便覧 2005」 P.8)

(資料1-2-①-2)

「旦月会誌 平成17年1月号」

学位授与機構の本審査に全力

本校教育の特色の明確化を図る

新しい年の高専 校長 堀岡 雅清

皆様、新年あけましておめでとうございます。高いところから恐縮ですが、平成17年の年頭にあたり一言ご挨拶を述べさせていただきます。

まず、昨年10月に発生した中越地震、そして年末のスマトラ島沖地震に伴うインド洋大津波で被災された多く



成果と抱負を披露する堀岡校長

の方々にお見舞い申しあげると共に犠牲となられた方々に対して深く哀悼の意を表わしたいと思います。一方、暮れも押し迫った12月30日には皇室の紀宮様ご婚約内定とのおめでたいニュースに接し、大変嬉しく思いました。心からお喜び申し上げます。

さて、金沢高専は現在元気に前進を続けておりますが、これは学園創設者泉屋利吉先生をはじめ歴代の校長先生、本校の発展に苦勞された多くの皆様のお陰であり、ここに深く感謝申し上げます。

ところで昨年の高専を振り返ってみると、本校の歴史始まって以来ともいえる大きなことがありました。それは全国にある高専63校に先駆けて、他の高専7校と共に大学評価・学位授与機構による試行的な認証評価を受審したことであります。受審の理由の一つは平成16年度から法律により全国の大学、短大、高専が文部科学省の認めた評価機関によって7年に1回の割りで認証評価を受けなければならないことでした。もう一つの理由は、今回の評価を本校へやってきた黒船と考え、これを教育

改革のチャンスと考えたからであります。評価については、昨年7月の自己評価書の提出、10月には授与機構による訪問調査が行われました。この訪問調査をクリアすると共に教育改善を進めるため全校的な取り組みがなされ、全教職員対象の研修会の開催など種々努力がなされました。

待ちに待った認証評価結果については、昨年の12月24日に授与機構からメールが入りました。それによれば「本校は高等専門学校の評価基準を満たしている」つまり「合格」ということでした。これは今年度本校にとって最もおめでたいニュースでした。この成功は高専の教職員のみならず学園のJQAの皆さんをはじめとする関係の方々のお陰であり厚くお礼申し上げたいと思います。

しかしながら今回の認証評価は試行であるため、平成17年度から実施される本審査を7年以内に受けなければなりません。教職員の意識の高まっている今年、授与機構による本審査クリアを最大の目標と定め、全力を注ぎたいと思います。そのためには今回の審査で指摘を受けた点の改善を図ること、ついで本校の教育の特色の一層の明確化を図ることが重要であると思います。

具体的に改善すべき点は1)教育改善への組織的な取り組みを徹底すること。2)例年入学者は定員を超えてはいるが、国際コミュニケーション情報工学科については定員を若干名下回っており、この確保を図ること。3)授業満足度の向上を図ること。4)シラバスの改善を図ることなどです。

現在これら四つの項目を中心に改善を図りつつありますが、特に2年前に設置した「国際コミュニケーション情報工学科」が順調に伸展するよう注意を払っていききたいと思います。

今回の評価で優れているとされた点は、「ハンズオン教育」、「インターンシップ」、「英語教育と留学支援」、「穴水湾自然学苑教育」、「教員個々の自己点検評価と次年度に向けての改善」などでした。今年はこの特色の一層の明確化、前進を図りたいと思います。特に1)ハンズオン教育における創造実験については、新たな試みとして企業との連携を取り入れ、現場技術者養成の実をあげていきたいと思います。2)留学支援については2年前の学科改組時に入学した学生を対象とする新たなニュージーランド3年次留学プログラムを成功に導かなければならないと考えています。

(出典 「旦月会」 平成17年1月号 P.10)

「1日一感動運動」を全校で展開

さらに3)建学の精神を実践する穴水湾自然学苑教育の延長として、学園のKIT-IDEALSの精神、感謝と奉仕の精神を育むため1日一感動運動を展開します。

この運動の趣旨は、昨年新年互礼会で理事長がご挨拶のなかで述べられた「感動こそが向上心の原動力であり、学生に感動を伝え、また我々自らも感動を」とのお考えを实践していこうというものであります。試行として、昨年の11月、1年のクラス担任の先生が指導され、1年生全員に1日に一つ感動したことや実践した善い行いを1か月間にわたり所定用紙に記入させ提出させました。

その一部を紹介すると

「ゴミを拾ってゴミ箱に捨てた」「…のスリッパをきれいに並べた」「水道の水が出っ放しだったので止めた」「教室の窓から見た紅葉が幻想的で美しかった」「…に元気に挨拶ができた」「家の手伝いをして母の苦勞が分かった」「数学がわかるようになった」「1日一感動を1週間続けることができた自分に感動した」などであります。

学生が提出した用紙にはこのような小さな感動や善いことが1日に1年生142名分、1か月でその30倍の約4,200件近くが記録されており、読み進むうち学生たちの素直な、そして美しい心に深い感動を覚えました。そして「思いやり」や「感謝・奉仕の心」、そして「向上心」を育むには、このように小さなことでも親切な行為を实践すること、人や物事の良い点、美しい点を発見し感動することが大切であるとの思いを強くしました。そしてまさに江戸時代の思想家江藤樹の言葉「…小善は徳をもたらす」は本当のように思えました。3月までは試行期間とし、4月から全校的に実施する計画です。

最後に昨年の本校学生の活躍ぶりや先生方の教育の取り組みとして先に述べたものに次の五つの出来事に加え、教職員の皆様に感謝したいと思います。

まず第1は経済産業省などが発行する「平成15年度ものづくり白書」に、創造的ものづくり教育の实践事例として東京工業大学大学院理工学研究科、埼玉大学工学部の例と併せて本校のものづくり教育の計三つが掲載され

たことです。第2には昨年から本格化した地域の小学校・中学校に対するサイエンスの出前授業は、文部科学省から大学ジュニアサイエンス事業の助成を受け、昨年は12校の小中学校などへ出かけ生徒さんの好評を博したことです。第3は、NHKのアイデア対決全国高専ロボットコンテストの東海北陸地区大会で特別賞を受賞したこと。そして第4は全国高専体育大会で剣道が団体で3位入賞を果たしたことです。第5は校長表彰・褒賞の受賞数が年々増加している事です。平成11年から15年までの4年間で総数では14%増、そのうち優秀科目賞は35%増、年間皆勤・精勤賞は43%増となっています。

このように学生たちの積極的な取り組みとその成果は、



服部副学長の発声で万歳三唱をする出席者

高専の教職員、そしてここにおられる全教職員のお力のお陰であり、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて本日この時より金沢高専日本一に向けての今年の新たな目標に向かってお互い邁進していきたいと思えます。皆様方なにとぞよろしく願い申し上げます。

平成17年1月6日

金沢工業高等専門学校
校長 堀岡 雅清

観点 1-2-②：目的が社会に広く公表されているか。

(観点にかかる状況)

- ・ 本校が発行する入学案内「HANDS-ON 2005」(資料 1-2-②-1) に建学綱領及び教育実践目標を明示し、県下の中学校を中心に広く配布しています。
- ・ ホームページ (<http://www.kanazawa-tc.ac.jp/>) (資料 1-2-②-2)、(資料 1-2-②-3) にて、本校の目的、特色や取り組みを広く社会に公表しています。
- ・ 地域に対する次の活動を通じて本校の目的や特色を理解いただく努力を行っています。
 - ・ 高専祭での学校紹介：年 1 回
 - ・ 小中学校への出前授業 年 12 回
 - ・ 中学生への技術指導、招待試合 (バスケットボール部、剣道部)：年 1 回
 - ・ 吹奏楽部の定期演奏会 (年 1 回)
 - ・ 地域住民と協同で実施するボランティア活動 (清掃活動)：年 1 回
 - ・ 本校の年間行事を記載した「CAMPUS CALENDAR」の配布 (4,000 枚)：年 1 回
- ・ 企業に対する次の活動を通じて本校の目的や特色を理解いただく努力を行っています。
 - ・ 県内外の企業年間約 120 社 (インターンシップ訪問 70 社、企業訪問 50 社) への訪問
 - ・ 機械工業見本市「ME X 金沢」への出展：年 1 回

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 中学生、中学校の先生及びその保護者を主たる対象とする入学案内を 2 万部作成し、県内を中心とした中学校訪問を行い、中学 3 年生全員に配布を依頼しています。これらにより、本校を理解してほしい人々に十分行き渡っていると認識しています。
- ・ ホームページでは、在学生、保護者、中学生、中学の先生、卒業生、企業毎にページを開設 (資料 1-2-②-3) し、伝える情報の精査や、見せ方、表現をそれぞれ工夫し、分かりやすく伝える努力を行っています。
- ・ 地域に対する活動 (高専祭、演奏会、ボランティア) は、多年に亘る継続した取り組みとして定着したものとなっており、地域の理解を促進する努力がなされていると考えています。
- ・ 企業に対する活動も多年に亘る継続した取り組みとして定着しており、本校との良好な関係が構築されていると考えています。

(資料 1 - 2 - ② - 1)

「入学案内 HANDS-ON 2005 教育理念 教育実践目標」

教育理念



金沢工業高等専門学校校長
堀岡 雅清

21世紀を担う 心豊かで、創造性に あふれたエンジニアを育成

金沢高専は5年間の一貫教育により、心豊かで創造性あふれるエンジニアを育成します。平成15年に新設された「国際コミュニケーション情報工学科」では情報技術(IT)と実践的な英語力の修得に重点をおき、国際的なコミュニケーションがとれる情報技術者を育成します。また、「電気情報工学科」ではコンピュータとネットワークに強い電気電子技術者を育成、「機械工学科」ではメカトロニクスに強い機械技術者を育成します。さらに、今回の新カリキュラムでは3年次に1年間のニュージーランドのオタゴ・ポリテクニク(大学に相当)での留学プログラム(全学科学学生の希望者を対象)を設けました。留学先と本校で共同開発したプログラムを修得し、これを単位として認めるため、高専の修業年限である5年間での卒業が可能です。

本校の教育プログラムの柱となるハンズオン(モノづくり)教育は、モノづくりを通して、主体的に研究や開発に取り組める

学生を育てるというものです。そのベースには学生の無限の可能性を開花させたいという教職員の願いがあり、それはすべての学生たちに心の波となって広がっています。学園は暖かい雰囲気、学生、教員は仲のよいファミリーと言った感じです。このような学びの成果は学生の進路にはっきりと現れており、平成15年度の就職は景気が低迷するなかで例年通り就職率100%を達成。進学についても、金沢工大3年次への編入学をはじめ、他の国公立・私立大学へも多くの学生が進みました。平成17年の春に入学する皆さんが卒業するのは平成22年です。本校では「思いやりがあり」「大いなる夢を描き、目標に向かってまい進する」「学力と創造性を身につけ様々な課題が解決できる」そんな人間像を実現し、自信をもって巣立ってほしいと願っています。

教育実践目標

1 人間力の養成

「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じてKIT-IDEALSに基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。

2 コミュニケーション力の育成

21世紀は情報化、国際化が一層進展してゆく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。

3 自学自習力の育成

エンジニアとして必要な知識や技能に係わる専門教育においては、「わかりやすい授業の実践」を重要課題と位置付け、また専門分野における資格取得等の具体的目標の設定により、学生の学習意欲を醸成し、自主的、主体的学習態度の育成を目指します。

4 企業と連携した インターンシップの実践

地域産業界との連携を推進し、インターンシップを軸とする学生が参加できる教育・研究活動の構築を目指します。

5 能力の総合化の実践と 創造性の涵養

学生との共同と共創による教育・研究活動の推進に注力し、学生の創造性を喚起する卒業研究の充実に注力します。

(出典 入学案内「HANDS-ON 2005」教育実践目標 P.18)

(資料 1 - 2 - ② - 2)

「ホームページ 教育実践」

The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer browser window displaying the website <http://www.kanazawa-tc.ac.jp/guide/practice.html>. The page features a green header with the text 'HANDS-ON ハンズオン' and '金沢工業高等専門学校'. Below the header is a navigation menu with categories like '学校案内', '学科紹介', and 'ハンズオン教育'. The main content area is titled '学校案内 GUIDANCE' and '教育実践'. A large banner image shows a person working in a lab with the text 'EDUCATIONAL PRACTICE'. The main heading is '21世紀を担う心豊かで、創造性にあふれたエンジニアを育成'. The text below discusses the school's history and educational goals, mentioning reforms in 2010 and 2015. Three sub-sections are listed: (1) 人間力の養成, (2) コミュニケーション力の育成, and (3) 自学自習力の育成.

学校案内: 教育実践 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス http://www.kanazawa-tc.ac.jp/guide/practice.html

HANDS-ON ハンズオン 金沢工業高等専門学校

? お問い合わせ 資料請求 見学受付

対象者別メニュー 学校案内 学科紹介 ハンズオン教育 英語教育国際交流 施設紹介 Q&A 入試情報

STATUS MENU GUIDANCE SUBJECT HANDSON SPEAK UP CAMPUS GUIDE HELP ENTRANCE

学校案内 GUIDANCE

> ごあいさつ

> 金沢高専の特色

> 建学綱領

>> 教育実践

> 学園の行動規範

> 校章

> 校歌

> 沿革

> 学校法人
金沢工業大学の構成

> アクセス

> お問い合わせ

教育実践

21世紀を担う心豊かで、創造性にあふれたエンジニアを育成

金沢工業高等専門学校校長
堀岡雅清

高等専門学校は、国公私立を合わせ全国に63校ありますが、金沢工業高等専門学校は、これらの中で最も古く、42年の歴史をもち、「人間形成・技術革新・産学協同」の建学綱領のもと、力強い発展を続けてきました。本校の目標をひと言で述べると、新時代を切り開くことのできる心豊かで創造性に富んだ技術者の養成であります。この目標に沿い、平成8年に教育改革を実施し、教育内容の一層の改善を図りつつある中で、平成15年には「国際コミュニケーション情報工学科」の新設と「電気工学科」の「電気情報工学科」への名称変更など学科の改組を行いました。また同時に全学的にカリキュラムを見直しました。

以下、5項目にわたる本校教育実践の目標、特長を述べます。

(1) 人間力の養成

「人間力」の養成こそが教育の根本目標です。あらゆる教育機会を通じてKIT-IDEALSに基づく自己実現の意欲を持つべく、励ますと共に「ハンズオン教育」「穴水湾自然学苑教育」のさらなる向上を図り、人間力を基礎とする創造性の涵養を目指します。

(2) コミュニケーション力の育成

21世紀は情報化、国際化が一層進展してゆく時代であると考え、本校の特色とも言える「情報教育」「英語教育」「国際交流」のさらなる向上を図り、あらゆる人とコミュニケーションできる素養の養成を目指します。

(3) 自学自習力の育成

(出典 金沢工業高等専門学校ホームページ)

(資料 1 - 2 - ② - 3)

Microsoft Internet Explorer
 ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)
 アドレス(D) http://www.kanazawa-tc.ac.jp/ 移動 リンク >>
HANDS-ON ハンズオン 金沢工業高等専門学校
 ?お問合せ 資料請求 見学受付

CONTENTS MENU> 学校案内 学科紹介 HANDS-ON教育 英語教育/国際交流 施設紹介 Q&A 入試情報
 GUIDANCE SUBJECT HANDS-ON SPEAK UP CAMPUS GUIDE HELP ENTRANCE

NEWS & TOPICS 新着情報

2005.03.29 オタゴ・ポリテクニク(ニュージーランド)留学の27名が帰国
 地元紙「オタゴ・デイリー・タイムス」に本留学プログラムが取り上げられる [詳細](#)

2005.01.18 1月19日(水)公開講座「実験空間“創造学”」のお知らせ
 『ロボットに「心」は宿るのか? ~攻殻機動隊に見るヒトとロボットの未来社会~』
 [講師] [詳細](#)

過去のニュースはこちら

5分でわかる金沢高専ツアー!
 金沢高専がよくわかる
 キャンパスナビ!
 HANDS-ON教育、1年間の
 海外留学、気になる進路に
 ついて、まとめて紹介しま
 す!
[MORE](#)

ぼくたちのHANDS-ON・ストーリー
 KTCの学生たちが語る
 キャンパスライフ!
 海外留学や夢考房プロジ
 ェクトの体験記、クラブ活
 動など、学生たちが綴るキ
 ャンパス紹介!
[MORE](#)

創造力をシゲキするHANDS-ON教育
 モノづくりの感性を磨く
創造実験
 クリエーティブなエンジニ
 アを生み出す秘密は、「ハ
 ンズオン」教育にあっ
 た!!
[MORE](#)

夢の海外留学も金沢高専におまかせ!
 休学なしで卒業できる
画期的な留学プログラム
 ニュージーランドのオタゴ・
 ポリテクニクに留学。国際
 派をめざすキミは要チェッ
 ク!
[MORE](#)

おもろ実験授業~出前授業~
KTC総合アンケート活動
 金沢工業大学へ
 サイトマップ
 アクセス
 プライバシーポリシー

金沢工業高等専門学校
 〒921-8601
 石川県金沢市久安2-270
 TEL 076-248-1080
 FAX 076-248-5548
 www-admin@kanazawa-tc.ac.jp

> HOME > Copyright(c) Kanazawa Technical College. All rights reserved.

(出典 金沢工業高等専門学校ホームページ)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・イーグルブックをはじめ、ホームページ、且月会誌、年頭の挨拶といったさまざまな手段を用いて、本校のビジョンや教育目標が学園内に周知されています。

(改善を要する点)

- ・地域社会を対象とする本校独自の広報活動は十分とは言えず、マスメディアの利用などの方策に改善が必要であると認識しています。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、学園として本校と大学を一体とした「工学アカデミア」構想を掲げるとともに、本校の教育実践目標として、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を挙げ、その実現を目指すために、5か年間にわたる教育課程や課外における5つの活動を挙げており、目的は具体的かつ明確に定められています。その内容は、学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的から外れるものではないと考えます。

これらの目的は、教職員向けのイーグルブック（建学綱領や学校の実践目標等を掲載した小冊子）、学生便覧、ウェブサイトなどに明記されており、ポスターを構内に掲示するなどして、教職員及び学生に対して周知されています。また、ウェブサイトへ掲載するとともに、県内を中心とした中学生に教育実践目標等を掲載した入学案内などを配布することにより、社会に対して広く公表されています。

また地域や企業に対しても本校への理解を促すべく多年にわたる継続した努力がなされています。

以上のとおり、学校の目的の内容、学校の構成員に対する周知の状況、及び社会への公表の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準 2. 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2-1-① 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校は、昭和37年に電気工学科、昭和38年に機械工学科が設置され、わが国基幹産業界の最もベースとなる現場技術者の養成を担ってきました。以来、時代の変化に対応するため、教育内容の充実を積み重ねながら今日に至っています。（資料 2-1-①-1）
- ・現場技術者の養成を担う本校は、平成15年4月、情報技術の進展と産業の海外進出に伴う国際化に対応するため、新たに「国際コミュニケーション情報工学科」を新設しました。また電気工学科を「電気情報工学科」に名称変更し、教育課程の改編を図りました。
- ・旧電気工学科は、昭和63年、科学技術の進展と産業の変化に対応するために、情報工学関連科目を大幅に加えると共にコース制を導入し、電気・電子工学の分野全体を体系的に学ぶ「電気電子工学コース」と電気工学を基礎にコンピュータ関連技術を中心に学ぶ「情報工学コース」を編成してきました。平成15年度の改組は、「情報工学コース」を基盤に実践的な英語コミュニケーション力を養成する国際コミュニケーション情報工学科を設置し、「電気電子工学コース」を基盤に進展する情報技術に精通する現代の電気電子技術者を養成する電気情報工学科に名称変更したものです。
- ・各学科の目的及び概要は、（資料 2-1-①-2）、（資料 2-1-①-3）、（資料 2-1-①-4）の通りです。

（分析結果とその根拠理由）

- ・本校の教育目的ならびに組織は、学園の建学綱領を具現化し、社会に貢献するため適切な構成がされていると考えています。

（資料 2-1-①-1）

「金沢工業高等専門学校の沿革」

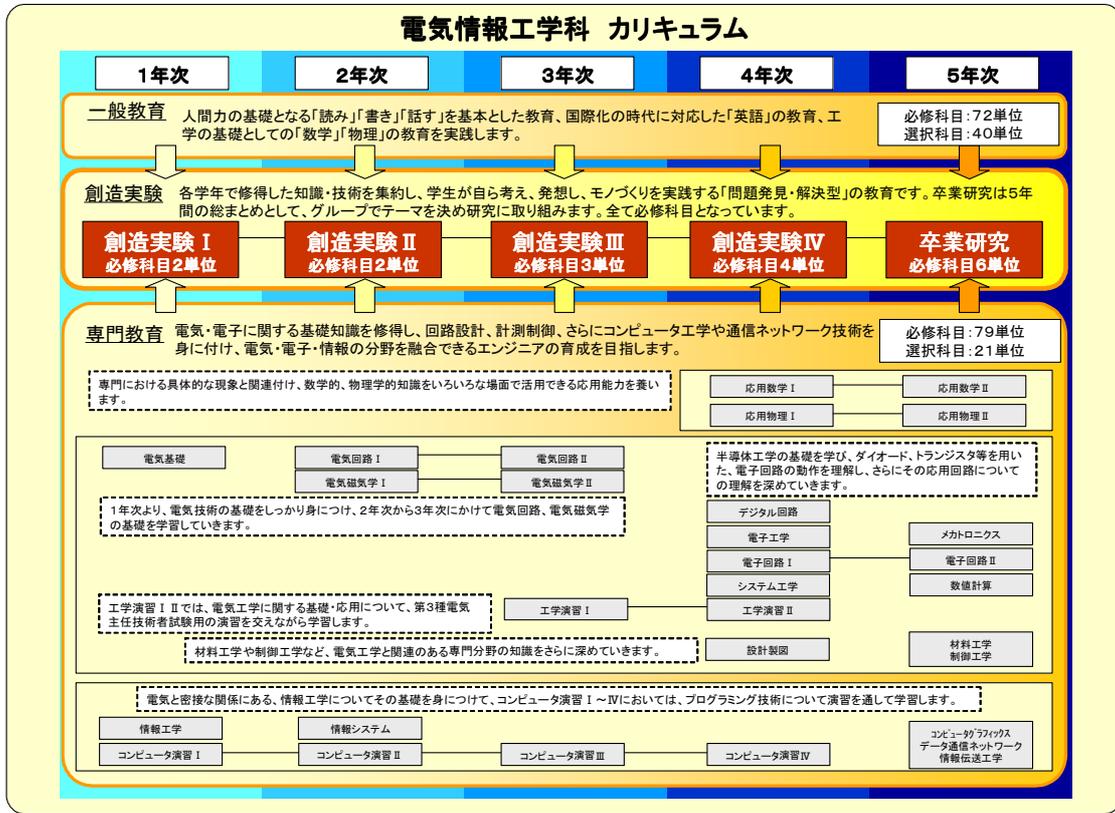
昭和37年4月1日 金沢工業高等専門学校開校 電気工学科設置	昭和63年4月1日 電気工学科1学級増 平成2年4月26日 工学基礎実技センター開設 (現工学設計教育センター)	平成8年4月1日 マルチメディア考房開設 平成9年4月1日 創造技術教育研究所開設 平成12年4月1日 工学基礎教育センター開設
昭和38年4月1日 金沢工業高等専門学校 機械工学科設置	平成3年4月1日 新校舎完成	平成14年12月17日 ニュージーランドオタゴ・ポリ テクニクと協力協定覚書調印
昭和43年11月5日 穴水湾自然学苑開苑	平成5年7月8日 夢考房開設	平成15年4月1日 国際コミュニケーション情報 工学科設置 電気工学科を電気情報工学科 に名称変更
昭和44年1月16日 情報処理センター開設 (現情報処理サービスセンター)	平成7年4月1日 人材開発センター開設 (現自己開発センター)	平成16年2月7日 ニュージーランドオタゴ・ポ リテクニクと協力協定調印
昭和48年9月21日 扇が丘診療所開所	平成7年5月23日 シンガポール理工学院と協力 協定調印	
昭和57年6月1日 ライブラリーセンター開館	平成7年7月12日 米国セントマイケルズ大学と 協力協定覚書調印	
昭和58年6月1日 基礎語学教育研究所開設 (現基礎英語教育センター)		

（出典 「学生便覧 2005」 P.5 抜粋）

(資料2-1-①-2)

「電気情報工学科 学習・教育目標」

電気・電子に関する基礎知識を修得し、回路設計、計測制御、さらにコンピュータ工学や通信ネットワーク技術を身に付け、電気・電子・情報の分野を融合できるエンジニアの育成を目指します。



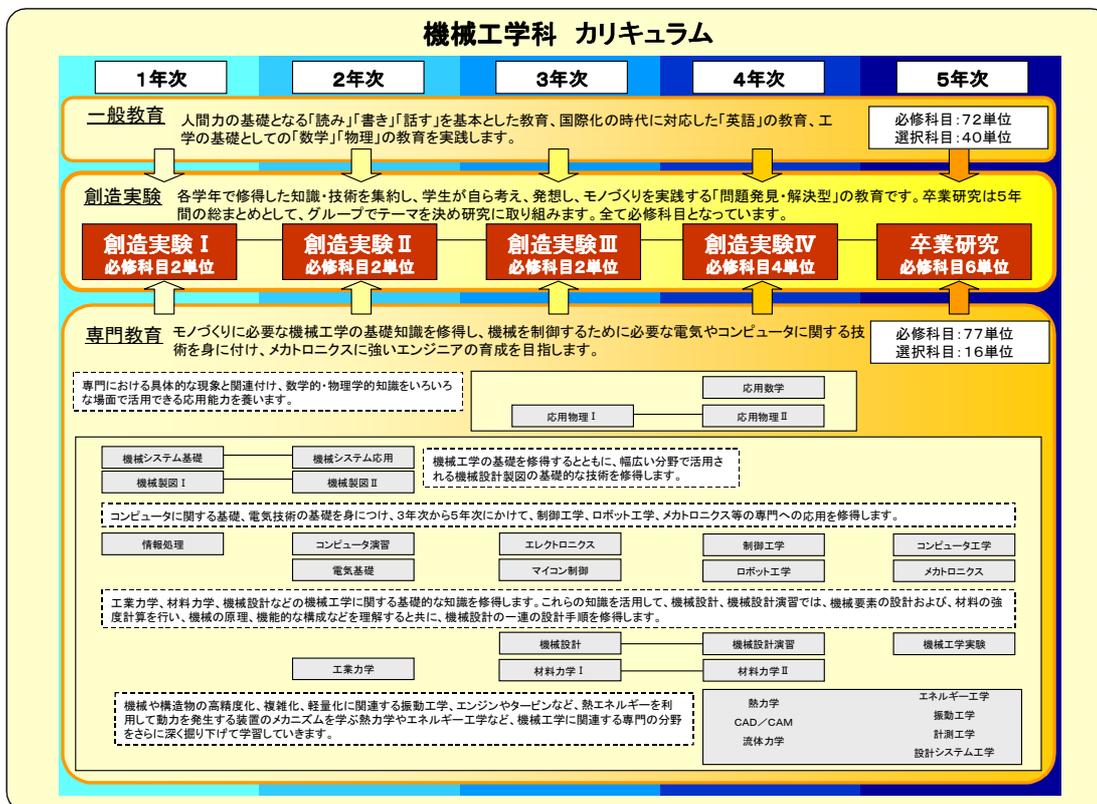
	1年	2年	3年	4年	5年
一般教育	国語Ⅰ (3)	国語Ⅱ (2)	国語Ⅲ (2)	国語Ⅳ (1)	文学 2
	日本史 (2)		世界史 (2)	地理 2	科学技術史 2
			政治経済 (2)	環境学 1	哲学 2
				修学技法 1	心理学 2
					デザイン概論 2
	基礎数学Ⅰ (2)	線形代数Ⅰ (3)	線形代数Ⅱ (2)		数学特論 2
	基礎数学Ⅱ (4)	微分積分Ⅰ (3)	微分積分Ⅱ (4)		倫理 2
	物理学Ⅰ (2)	物理学Ⅱ (3)	化学 (2)		
	保健体育Ⅰ (3)	保健体育Ⅱ (2)	保健体育Ⅲ (2)	保健体育Ⅳ 2	
	芸術 (1)			総合英語Ⅳ 2	
	総合英語Ⅰ (5)	総合英語Ⅱ (3)	総合英語Ⅲ (3)	英語表現技法 2	英語資格技術 2
	英語スキルズⅠ (3)	英語スキルズⅡ (3)	英語スキルズⅢ (3)	上級英語Ⅰ 4	上級英語Ⅱ 2
		世界文化事情Ⅰ 2		ドイツ語 2	
		世界文化事情Ⅱ 2		中国語 2	
人間と自然Ⅰ (1)		人間と自然Ⅱ (2)		人間と自然Ⅲ (2)	
創造実験Ⅰ (2)	創造実験Ⅱ (2)	創造実験Ⅲ (3)	創造実験Ⅳ (4)	卒業研究 (6)	
専門教育				応用数学Ⅰ (2)	応用数学Ⅱ (2)
				応用物理Ⅰ (2)	応用物理Ⅱ (2)
	電気基礎 (2)	電気磁気学Ⅰ (3)	電気磁気学Ⅱ (2)	電子工学 (2)	メカトロニクス (2)
		電気回路Ⅰ (3)	電気回路Ⅱ (2)	電子回路Ⅰ (2)	電子回路Ⅱ (2)
				デジタル回路 (2)	制御工学 (2)
				設計製図 (2)	材料工学 (2)
				システム工学 (2)	
		計測工学 2	工学演習Ⅰ (2)	工学演習Ⅱ (2)	
				電気法規と施設管理 1	電気機器 2
				発変電工学 2	送配電工学 2
				パワーエレクトロニクス 2	
	情報工学 (2)	情報システム (2)			数値計算 (2)
	コンピュータ演習Ⅰ (2)	コンピュータ演習Ⅱ (2)	コンピュータ演習Ⅲ (2)	コンピュータ演習Ⅳ (2)	コンピュータグラフィックス (2)
					データ通信ネットワーク (2)
				情報伝送工学 (2)	
			アルゴリズム 2	マルチメディア 2	
			オペレーティングシステム 2	ソフトウェア工学 2	
			インターンシップ 2		

① …必修科目 1 …選択科目 ※数字は単位数

(資料 2-1-①-3)

「機械工学科 学習・教育目標」

モノづくりに必要な機械工学の基礎知識を修得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身に付け、メカトロニクスに強いエンジニアの育成を目指します。



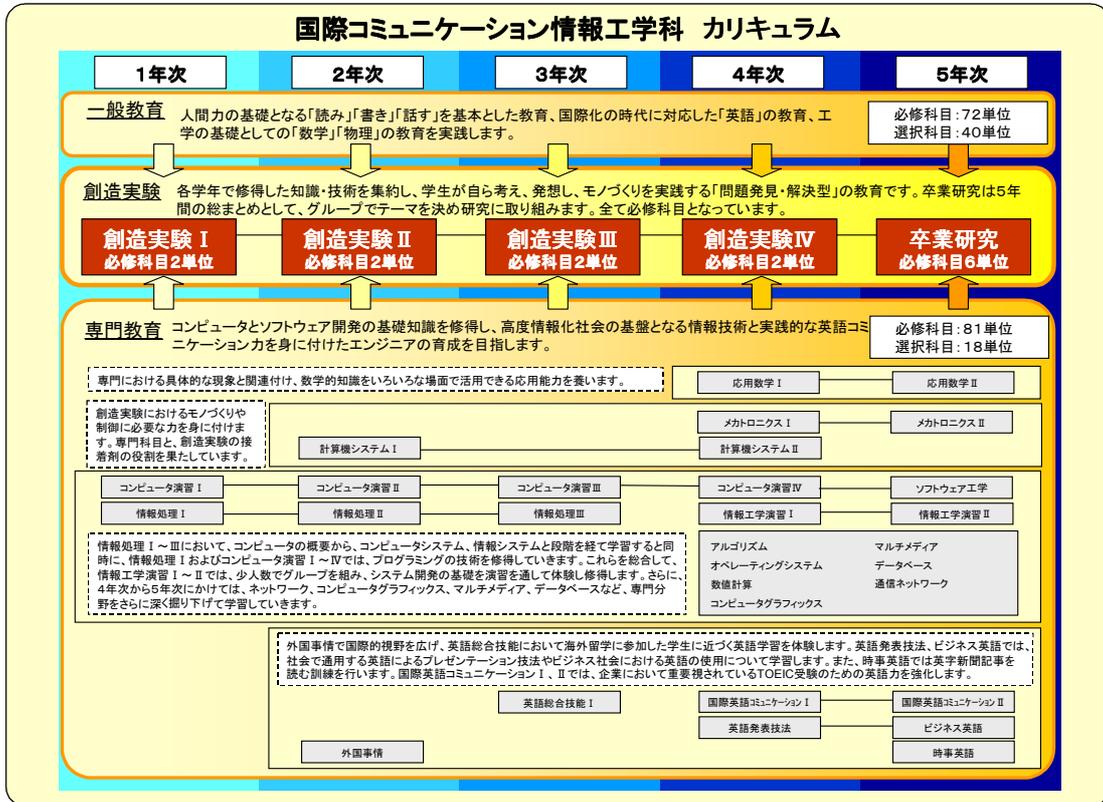
	1年	2年	3年	4年	5年
一般教育	国語 I ③	国語 II ②	国語 III ②	国語 IV ①	文学 2
	日本史 ②		世界史 ②	地理 2	科学技術史 2
			政治経済 ②	環境学 1	哲学 2
				修学技法 1	心理学 2
	基礎数学 I ②	線形代数 I ③	線形代数 II ②		デザイン概論 2
	基礎数学 II ④	微分積分 I ③	微分積分 II ④		数学特論 2
	物理学 I ②	物理学 II ③	化学 ②		倫理 2
	保健体育 I ③	保健体育 II ②	保健体育 III ②	保健体育 IV 2	
	芸術 ①			総合英語 IV 2	
	総合英語 I ⑤	総合英語 II ③	総合英語 III ③	英語表現技法 2	英語資格技術 2
	英語スキルズ I ③	英語スキルズ II ②	英語スキルズ III ③	上級英語 I 4	上級英語 II 2
	世界文化事情 I 2		ドイツ語 2		
	世界文化事情 II 2		中国語 2		
人間と自然 I ①		人間と自然 II ②		人間と自然 III ②	
創造実験	創造実験 I ②	創造実験 II ②	創造実験 III ②	創造実験 IV ④	卒業研究 ⑥
専門教育			応用物理 I ②	応用物理 II ②	
	機械システム基礎 ②	機械システム応用 ②			
	機械製図 I ②	機械製図 II ②			
	情報処理 ②	コンピュータ演習 ②	マイコン制御 ①	ロボット工学 ②	コンピュータ工学 ②
		電気基礎 ②	エレクトロニクス ②	制御工学 ②	メカトロニクス ②
		工業力学 ②	材料力学 I ②	材料力学 II ②	振動工学 ②
				熱力学 ②	エネルギー工学 ②
				流体力学 ②	計測工学 ②
			機械設計 ②	機械設計演習 ②	機械工学実験 ③
				CAD/CAM ②	設計システム工学 ③
		材料加工 2		機械工学演習 I 2	機械工学演習 II 2
					機械材料 2
					先端材料工学 2
					生産システム工学 2
					ビークル工学 2
				インターンシップ 2	

① … 必修科目 1 … 選択科目 ※数字は単位数

(資料 2-1-①-4)

「国際コミュニケーション情報工学科 学習・教育目標」

コンピュータとソフトウェア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の基盤となる情報技術と実践的な英語コミュニケーション力を身に付けたエンジニアの育成を目指します。



	1年	2年	3年	4年	5年
一般教育	国語 I ③	国語 II ②	国語 III ②	国語 IV ①	文学 2
	日本史 ②		世界史 ②	地理 2	科学技術史 2
			政治経済 ②	環境学 1	哲学 2
				修学技法 1	心理学 2
	基礎数学 I ②	線形代数 I ③	線形代数 II ②		デザイン概論 2
	基礎数学 II ④	微分積分 I ③	微分積分 II ④		数学特論 2
	物理学 I ②	物理学 II ③	化学 ②		倫理 2
	保健体育 I ③	保健体育 II ②	保健体育 III ②	保健体育 IV 2	
	芸術 ①			総合英語 IV 2	
	総合英語 I ⑤	総合英語 II ③	総合英語 III ③	英語表現技法 2	英語資格技術 2
	英語スキルズ I ③	英語スキルズ II ③	英語スキルズ III ③	上級英語 I 4	上級英語 II 2
		世界文化事情 I 2		ドイツ語 2	
		世界文化事情 II 2		中国語 2	
	人間と自然 I ①		人間と自然 II ②		人間と自然 III ②
創造実験	創造実験 I ②	創造実験 II ②	創造実験 III ②	創造実験 IV ②	卒業研究 ⑥
専門教育				応用数学 I ②	応用数学 II ②
				数値計算 ②	
		計算機システム I ②		計算機システム II ②	計算機システム III 2
				メカトロニクス I ②	メカトロニクス II ②
	コンピュータ演習 I ②	コンピュータ演習 II ②	コンピュータ演習 III ②	コンピュータ演習 IV ②	
	情報処理 I ④	情報処理 II ④	情報処理 III ④	情報工学演習 I ②	情報工学演習 II ②
				アルゴリズム ②	データベース ②
				オペレーティングシステム ②	ソフトウェア工学 ②
				コンピュータグラフィックス ②	マルチメディア ②
					通信ネットワーク ②
		電気電子工学 I 2		電気電子工学 II 2	情報理論 2
				英語発表技法 ②	ビジネス英語 ②
		外国事情 ②	英語総合技能 I ③	国際英語コミュニケーション I ②	国際英語コミュニケーション II ②
		日本文化 2		英語総合技能 II 2	時事英語 ②
				英語作文技法 2	
				英語討議技法 2	
			インターンシップ 2		

① ……必修科目

1 ……選択科目

※数字は単位数

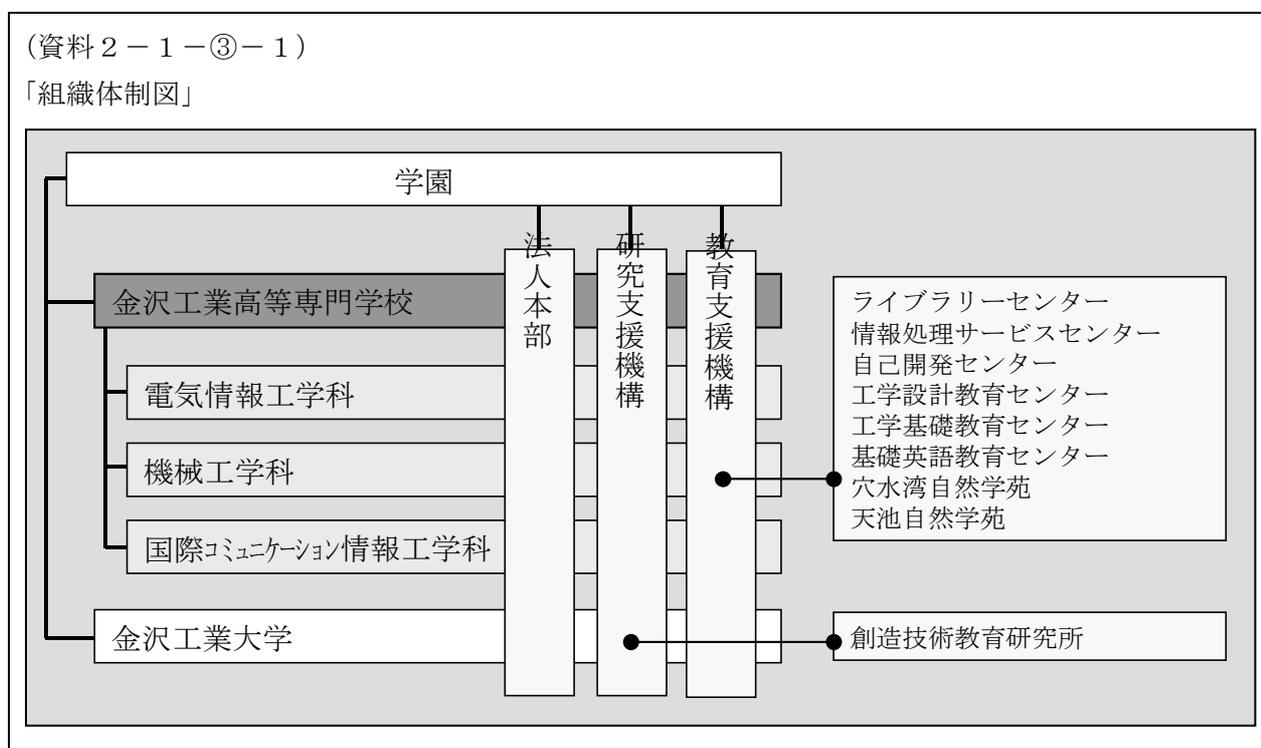
観点2-1-② 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

該当ありません。

観点2-1-③ 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点にかかる状況)

- ・学園に教育活動の振興を総合的に推進し支援する「教育支援機構」および研究活動を推進し支援する「研究支援機構」が設置されており、その運営委員会に校長が出席し、学生の利用等について適宜意見を述べることとしています。また、両機構の運営には、本校教員が所属あるいは兼任職として係わり、教育・研究の目的達成に貢献しています。(資料2-1-③-1)



- ・教育支援機構について (資料2-1-③-2)、(資料2-1-③-3)

教育支援機構は、学園全体の教育の振興を図ることを目的として、大学、高専における学生の正課・課外の学習を支援しています。本校においては、学科、各部会といった組織的な取り組みの中において、教育支援機構の各センターとの連携を図り、学生への学習支援を実施しています。

教育支援機構においては、月1回「教育支援センター連絡会」を開催し、各センターの活動状況の報告が行われ、センター間の連携や運営委員長による活動報告に対する評価のコメントがなされています。

(資料 2 - 1 - ③ - 2)

「金沢工業大学教育支援機構規程」

(目的)

第 1 条 金沢工業大学教育支援機構(以下「教育支援機構」という。)は、本学園に設置される教育支援組織の行う教育活動の振興を総合的に推進することを目的とする。

(事業)

第 2 条 教育支援機構は前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 学生の自学自習支援
- (2) 学生の技能及びスキル向上のための講習会、講座等の開催
- (3) 学生の資格取得支援
- (4) 教育支援組織の組織化と支援
- (5) 学生プロジェクト活動の組織化と支援
- (6) 教育関連情報の収集、整備、充実
- (7) 教育研究活動の振興
- (8) 教育研究活動の公開
- (9) 情報インフラ環境の整備、充実
- (10) 実技教育支援のための技術員派遣
- (11) 学生、教職員、卒業生の生涯学習支援
- (12) その他、前条の目的達成に必要な事業

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 140 抜粋)

(資料 2 - 1 - ③ - 3)

「金沢工業大学教育支援機構教育支援組織規程」

(目的)

第 1 条 この規程は、学校法人金沢工業大学管理規則第 13 条第 1 項及び金沢工業大学教育支援機構規程に基づき設置された教育支援組織(以下「教育支援機関」という。)全般についての組織と事業の適性を期すために定める。

(使命)

第 2 条 各教育支援機関はそれぞれの組織において定められた目的に従い、教育への積極的な支援並びに教育の社会的使命の達成に努めなければならない。

(教育支援機関)

第 3 条 金沢工業大学の教育支援機関は次の各号に掲げる教育支援組織をいう。

- (1) 情報処理サービスセンター
 - (2) ライブラリーセンター
 - (3) 工学設計教育センター
 - (4) 工学基礎教育センター
 - (5) 自己開発センター
 - (6) 穴水湾自然学苑
 - (7) 天池自然学苑
- 2 各教育支援機関の事業については別に定める。

(構成)

第 4 条 各教育支援機関は次の職員をもって構成される。

- (1) 所長、館長、苑長
- (2) 次長、副館長、副苑長
- (3) 教員
- (4) 技術職員
- (5) 事務職員

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 141 抜粋)

○ライブラリーセンター

(授業との関連における利用)

教員は、授業に関連する参考文献をシラバスに記載するなど、学生に積極的に紹介することで利用の促進を図っています。(資料 2-1-③-4)、(資料 2-1-③-5)

(資料 2-1-③-4)

「本校学生の各センター利用実績」

本校学生の各センター利用実績(年間延べ人数)

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
ライブラリーセンター(図書館) 入館者数	42,010	42,648	38,481	36,516	49,344	44,367
自己開発センター利用者数 (資格試験申込者数)	299	988	813	947	963	863
夢考房(モノづくりのための作業環境) ライセンス取得者数	641	731	338	481	485	299

さらに、問題発見解決能力を養うハンズオン教育の支柱とする「創造実験」や「卒業研究」等の授業では、学生自らが情報を収集し解決策の糸口を探るため、ライブラリーセンター(LC)において情報収集するように指導しています。

LC 2階フロア「教科書コーナー」は、高専5年間の学習内容を確認できるように、教科書はじめシラバスに記載されている参考書が学年別に整備されています。また、授業の事前準備として関連資料の学習や、授業後の学習内容の再確認を行うためにその教科専用の図書を準備し、学生に利用させる「リザーブドブック制度」システムがあります。各教科の授業内容に応じて必要資料を複数冊準備し、教育効果を高める仕組みがあり、本校では平成17年度から、文章読解能力、鑑賞力の向上を目的にこのリザーブドブック制度を利用した取り組みを始めました。さらに、「高専英語図書コーナー」を設置し、イクステンシブ・リーディング教材としての「PENGUIN READERS」等を揃え、英語教育を支援しています。

LC館内には、資料検索端末が18台設置され、学生が自由に検索できる環境が整備されています。LC高層階分野別フロアは、機械工学系、電気工学系、情報工学系等専門分野を考慮した排架フロアとなっており、さらに図書ラベルは各フロア別に色分けされ本校の学生にとって利用しやすい環境となっています。

(教室としての利用)

少人数での英語教育を実践する場として、授業(「総合英語」、「英語スキルズ」等)でグループ閲覧室を利用しています。大学の学生も利用するスペースとなっていますが、本校の授業を優先した形で、スペースの確保を行っています。

(創造力を養う空間として利用)

LCには、図書館としての機能だけではなく、デジタル技術を活用するモノづくりの場(マルチメディア考房)としての機能も有しています。このマルチメディア考房では、文字、映像、音を組み合わせたコンピュータグラフィックス等さまざまなデジタルコンテンツを創作することが可能となっています。現在は、クラブ紹介や高専祭等、各種行事で用いるポスターの作成での利用や、インターネット端末を活用した情報収集といった利用があります。

(サブジェクトライブラリアンについて-SL活動の指針より)

サブジェクトライブラリアン(SL)制度とは、大学の各専門分野を代表する教員と本校の

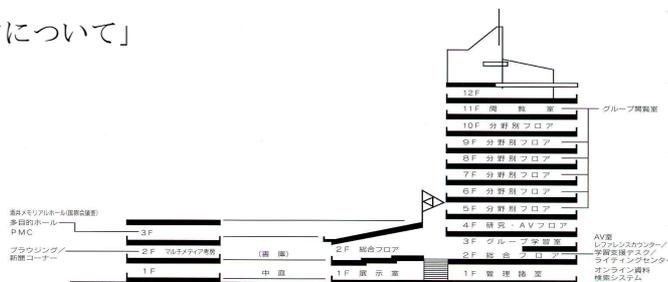
代表教員から成るチームが、大学及び高専における学習支援プログラムの企画立案を行うと共に、学生に対して充実した学習支援を行うものです。基本的役割については、以下のとおりです。

- (1) 主題（専門分野）情報専門家としての役割
- (2) LCの企画スタッフとしての役割
- (3) 教員、学部生、院生、高専生等に対する、LCを用いた情報入手や研究、教育上の情報利用の啓蒙
- (4) SLとLCスタッフ（Library Staff:LS）との協力によるLC所蔵の研究情報、教育情報の性格や質の評価および向上とその入手方法や適切な情報サービスの在り方に関する企画検討

こうしたSLの役割によって、本校とライブラリーセンターの連携が図られ、先に述べたような正課・課外における学生に対する充実した学習支援を提供しています。

(資料 2-1-③-5)

「ライブラリーセンターの利用案内について」



金沢工業大学ライブラリーセンター(KIT-LC)は我が国の代表的な工学専門図書館として構想され、その規模の大きさや高度な各種機能は、国内はもとより世界各国から注目を集めている。49万冊の図書資料、233万件の書誌情報を収集。国内外との情報交換を積極的に行うとともに、サブジェクトライブラリアン(SL)制度、コンピュータによる情報検索など、本学の情報発信基地になっている。予習や復習、またレポート作成などでLCを充分に利用してほしい。

■開館時間
 月曜日～金曜日 …8:30～22:00
 土曜日 ……8:30～17:00
 日曜日 ……10:00～17:00
 ※LCの開館日程については、インフォメーションカウンターまたはホームページで確認してほしい。

インフォメーションカウンター 1F
 展示室やAV室、グループ閲覧室などの館内施設の利用予約やOHPなどの機器利用の申し込み、その他総合案内。

総合フロア 2F
 一般的な教養図書や、基礎的な教育・研究に対応する図書が約3万冊ある。放送大学の教材もある。

レファレンスカウンター/学習支援デスク/ライティングセンター 2F
 SLが、各種学習相談や問い合わせに応じている。ライティングセンターでは、文章表現力の向上を支援している。

高専図書コーナー 2F
 高専生のレベルに合わせた英語図書が揃っている。

検索コーナー 2F
 LCの中のすべての情報を検索できるコンピュータを設置してある。なお、使用後は整理整頓を心掛けてほしい。

CD-ROMコーナー 2F
 CD-ROMやDVDなどの電子媒体とそれを閲覧するコンピュータを設置してある。貸出可能なものもあるので、詳しくはレファレンスカウンターに問い合わせしてほしい。

資格・就職コーナー 2F
 各種資格試験や検定試験の参考書・問題集、また就職活動の参考になる図書が数多く置いてある。

ブラウジング/新聞コーナー 2F
 気軽に閲覧できる趣味・娯楽・教養雑誌などがある。また、北海道から沖縄までの全国の地方紙など50余紙を閲覧することができる。

マルチメディア考房 2F
 本誌136ページ参照

PMC(ポピュラー・ミュージック・コレクション) 3F
 本誌137ページ参照

研究・AVフロア 4F
 AVIS(オーディオ・ビジュアル・インストラクションシステム)では、約10,000巻のAV資料を視聴できる。
■利用時間 平日/8:30～21:45
 土曜日/8:30～17:00
 日曜日/10:00～17:00
 イン트라ネット上でもAVISを利用することができる。
<http://web.avis.kanazawa-it.ac.jp/avis/>

分野別フロア 5F～10F
 工学系各専門分野の図書が各フロアに排架してある。各フロアにはグループ閲覧室も設けられていて、セミナーなどに利用できる。

5階	情報工学系、経営管理工学系
6階	電気工学系、電子・通信工学系
7階	機械工学系、資源・エネルギー工学系
8階	力学応用系、建設工学系、材料工学・加工工学系
9階	環境・都市工学系、建築計画・デザイン系
10階	化学・バイオ系、生命・心理系

自習室(7・102) 1F
 7号館1階の自習室は、365日24時間利用することができる。ただし、入室には終日利用者カード(学生証)が必要。室内には、情報コンセント、プリンタなどが設置されており、自由に使用できる。なお使用後は、整理整頓に心掛けてほしい。

(出典 「学生便覧 2005」 P.134)

○情報処理サービスセンター（資料 2-1-③-6）

（パソコン室のパソコン管理支援、ハード、ソフトウェア保守）

パソコン室の管理運営については、情報教育部会における担当者と情報処理サービスセンターのスタッフとの連携において、その運用体制を決定し実施されます。

具体的な運用体制として、パソコン室では、学生にアカウントを割り振り、サーバ上に学生一人ひとりの利用環境を構築しています。また、パソコンの共同利用の利便性を高めるために Reborn Card（復元ツール）を利用しており、再起動すると初期設定状態に戻るよう設定し、前の利用者記録が残らないようになっています。

（ネットワークインフラ、サーバの計画、管理運営）

本校では、コンピュータ演習室、マルチメディア演習室、多目的実験室 I（無線 LAN）、各研究室、実験室等に学内ネットワークを整備し、円滑な授業運営を行っています。また、教員室、事務局においても、ネットワークが整備されており、教員が担当する学事運営業務を行っています。また、サーバ面においては、基本的には情報処理サービスセンターにおいて一括管理を行う方針となっていますが、本校において、スムーズな授業運営を行うために、情報処理サービスセンターとの連携において、本校独自のメールサーバ（パソコン教室でのみ利用可能）や、学生のデータ保存領域を確保するファイルサーバを設置し運用しています。

これらは、本校における情報教育の充実を図る計画において、情報処理サービスセンターとの調整を行い、随時整備されてきたものです。なお、大学との共用施設内には利用できる情報コンセント環境が整備されており、学生個人の所有パソコンも情報処理サービスセンターの行う情報倫理学習コースを受講し、修了テストに合格すると利用することができます。また、電子メールアドレスを申し出て登録することにより利用することが可能です。

（学籍、成績等の学事運営システムの開発と改良ならびに運用）

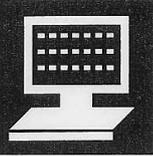
高専事務局を中心に、教務係、学生係の各教員が携わる学事運営を円滑に実施するために独自のシステムを開発し、そのシステムの管理を行っています。また、必要に応じて学事運営に携わる各教職員から、システムに対する問題点やニーズを収集すると共に、システムの改良を行っています。

(資料 2-1-③-6)

「情報処理サービスセンター」

情報処理 サービスセンター

6号館 240室



●ネットワークの利用…6号館 240室

金沢工科大学園のキャンパスには、ギガビットのバックボーンを核に高速ネットワークが構築されている。

ネットワーク内にはIBMの大型計算機(IBM Zシリーズ)や大容量のサーバーをはじめ、教育・研究用のワークステーションや高性能パソコン約2,000台が配備され、ネットワークに接続されている。

また、キャンパス内随所に6,000個を超える情報コンセントが設けられ、教材をはじめ、修学に必要なさまざまな情報をサーバーからダウンロードしたり閲覧することができる。

IT(情報技術)の驚異的な発展を背景に情報通信社会の変革が地球規模で進む中、情報処理サービスセンターでは、コンピュータやネットワークならびにマルチメディアを活用した先進的な教育や研究環境を提供するため積極的な支援を行っている。

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/>

ネットワークの利用

ネットワークを利用するには、情報倫理(インターネットを活用する上でのルールやマナー)に関する学習コース(INFOSS)を受講する必要がある。受講申込みは、国際コミュニケーション情報工学科科長まで。

INFOSSを受講し修了すると

- 学内ネットワークへのパソコン接続
- メールサーバーの利用
- VPNによるネットワーク接続
- PPPによるネットワーク接続

が可能になる。

※利用するにあたって別途申請手続きが必要

■学内ネットワークへのパソコン接続

各自のノートパソコンを学内に設置された情報コンセントにつなぐ事で、学内ネットワークへ接続することができる。ネットワークへ接続することで、学内外のWebサーバーにアクセスして情報を得たりすることができる。

●情報コンセントの設置場所

- 1号館 中2階ラウンジ
- 6号館 2階マルチメディア考房
- 7号館 自習室
- 8号館 ラウンジ
- 夢考房 etc.

(出典 「学生便覧 2005」 P.138)

○自己開発センター

(資格取得教育の支援、資格の相談や講習会に利用)

資格指導部会には、各学科の主任がメンバーとして参画しており、自己開発センターとの連携のもと資格取得に関する情報を収集しています。(資料 2-1-③-7) また、各学科において実施される授業と資格取得の関連について、自己開発センターに対して情報を提供しています。

これらの連携により、授業との連携の中において、以下の資格について資格取得支援を実施しています。

- ・ 実用数学技能検定
- ・ 日本語文章能力検定試験
- ・ 漢字能力検定
- ・ 電気主任技術者第 3 種および 2 種
- ・ 3 級機械設計技術者
- ・ ボイラ技士
- ・ 工事担当者試験
- ・ 情報技術検定試験
- ・ 基本情報処理技術者試験

(資料 2-1-③-7)

「自己開発センター」



在学中の資格取得のためにさまざまなバックアップを行っている。

「資格は実力の証明」「学歴は無限の可能性への保証」という言葉があるが、資格は就職活動の際、心強い味方となってくれるはず。

TOEIC(トイーック)に代表されるような語学系、国家・地方公務員や秘書技能検定、宅地建物取引主任者等の実務系資格および機械設計技術者、電気主任技術者、情報処理技術者、公害防止管理者等の専門資格など、幅広い資格取得をサポートしていることも特徴だ。

詳しい情報：<http://www.kitnet.jp/shikaku/>

利用時間

月曜日～金曜日…… 8：30～17：00
土曜日…………… 8：30～13：00

自己開発センターで取り扱っている資格試験

- 公務員(国家・地方)
- 機械関係
- 電気・電子関係
- 情報関係
- 環境・土木関係
- 高度技術系
- 語学関係
- 実務関係
- 認定講習



在学中に資格を取ろう。

■自己開発センターで取り扱っている資格試験

- 一般公務員
 1. 国家公務員、地方公務員
 - 機械関係
 2. 危険物取扱者
 3. ボイラー技士
 4. 機械設計技術者
 - 電気・電子関係
 5. 電気主任技術者
 6. 電気工事士
 7. 電気通信主任技術者
 8. 工事担任者
 9. 陸上無線技術士
 10. 特殊無線技士
 11. ラジオ・音響技能検定
 12. 家電製品エンジニア・アドバイザー
 13. 消防設備士
 - 情報関係
 14. 情報処理技術者
 15. 画像情報技能検定 (CG/マルチメディア/画像処理)
 16. デジタル技術検定
 17. 情報技術検定
 - 環境・土木関係
 18. 公害防止管理者
 19. 火薬類保安責任者(製造・取扱)
 20. 施工技術者試験
 - 高度技術系
 21. 技術士補
 - 語学関係
 22. 実用英語技能検定
 23. 工業英語能力検定
 24. TOEIC
 25. ドイツ語技能検定
 26. 日本漢字能力検定
 27. 日本語文章能力検定
 - 実務関係
 28. 宅地建物取引主任者
 29. 秘書技能検定
 30. 簿記検定(日商)
 31. カラーコーディネーター検定(東商)
 32. 福祉住環境コーディネータ(東商)
 33. パーソナルコンピュータ利用技術認定
 34. CAD利用技術者
 35. 数学技能検定
 36. 照明コンサルタント
 - 認定講習
 37. ガス溶接技能者
 38. 2級ボイラー技士(受験資格取得)
 39. 電気取扱業務安全衛生特別教育
- ※資格の詳細については、LICENSE(各種資格について)を参照してください。

(出典 「学生便覧 2005」 P. 141)

○工学設計教育センター（夢考房）

（授業との関連における利用）

夢考房では、さまざまな機械を利用するにあたり、夢考房ライセンス（安全技能講習）の受講が義務づけられています。（資料 2-1-③-8）学生は、授業（機械工学科の創造実験）の中において、これらの安全技能講習（各種加工機械等の取り扱い技術を身につける講習会）を受講し、授業ならびに課外におけるさまざまなモノづくりに取り組む場として夢考房を有効に活用しています。

また、同じく機械工学科における創造実験において、モノを作るにあたっての安全性の理解を深めるため、夢考房等でのヒヤリハットに関する事例等を収集し、授業の中で学生に伝えています。

（創造力を養う空間としての利用）

学生の課外における積極的な学習を支援する仕組みとして、モノづくりを中心に取り組むハンズオン部を設置しています。ハンズオン部では、部内対抗ロボコンや他校とのロボコン対戦を実施しており、これらの企画・運営に関する情報について夢考房から提供してもらい、円滑な運営を図っています。またハンズオン部の学生は、夢考房に在籍する技師や夢考房のプロジェクトメンバー等から技術的なアドバイスを受ける等、緊密な連携が図られています。

その他、夢考房では学生のプロジェクト活動を推進しています。この夢考房プロジェクトには、大学の学生が主体となって参画していますが、一部の高専の学生が参加しているプロジェクトもあり、大学、高専の学生同士の交流の場としても位置づけられています。

(資料 2-1-③-8)

「工学設計教育センター (夢考房)」



夢考房は、自由に利用できる作業環境。ものづくりの喜び、失敗の経験、試行錯誤の数々、仲間達との議論は工学の原点だ。

主な機能

小型機器から大型の工作機械までを取り揃え、多様なものづくりに対応する機能があり、常駐する技師や学生スタッフから適切なアドバイスを受けることができる。また資料作成空間では発表会などで使用するためのプレゼンテーション資料作成ができる。

①自由空間 (1階)

個人またはグループで利用できるテーブルを設置し、情報コンセントを備えている。

②作業空間 (1階)

金属と木材を材料とした工作ができる機器と道具を準備している。手工具等は工具室に多くの貸出用セットを準備しており、パーツショップにて材料を販売している。

③資料作成・編集空間 (1、2階)

調査・研究成果を第三者に効果的にプレゼンテーションする資料作成機器を準備している。作成できるものは、A0サイズまでのポスター、カラーOHP、カッティングシートの加工等で、発表用のパソコンソフトでデータ編集もできる。

④多目的教室 (2階)

OHP、パソコンプロジェクターを備えた教室があり、各種講習会、会議、打ち合わせに利用できる。

⑤各種工作機械の講習 (1階)

工作用の機械として、旋盤、フライス盤、ボール盤、板金、電気関係機器の使用講習会を定期的に行っている。

⑥バーベキュー・ガーデン

学生・教職員のコミュニケーションを手軽に安く実施できるスペース。最大140名まで利用可能。

利用方法

パソコンで受付をすれば、全学生が自由に使用可能。ただし、使用する工具・機械によって「夢考房ライセンス」を取得しなければならないものもある。詳細は夢考房26まで。

夢考房の利用時間

月曜日～金曜日……8:40～21:00

土曜日……8:40～17:00

休日……9:30～17:00

詳しい情報や開館日は、HPで確認できる。

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>

各種サービス

■夢考房ライセンス (安全技能講習) の受付

夢考房26・41で、各種工具や工作機械を利用する場合、「夢考房ライセンス」を取得する必要がある。旋盤やフライス盤、板金など、使用する工具・機械によってさまざまなコースがある。詳細は夢考房26まで。

■バーベキュー・ガーデンの予約

予約の受付は夢考房26で行っている。

ぶらりと訪ねて、
気軽に創作。
サポート万全、夢考房26。

HOBBY

趣味

- Tシャツ
- ポストカード
- 名刺
- ステッカー
- 模型製作
- 自転車修理

BUILD

工作

- ものづくり相談
- 木材工作
- 金属工作

PRESENTATION

プレゼンテーション

- カラーコピー
- 企画書・計画書
- パネル・ポスター
- レポート・報告書
- ラミネート加工

COMPUTER

コンピュータ

- プリンター
- スキャナ

(出典 「学生便覧 2005」 P. 142)

○工学基礎教育センター（数理教育の学習支援）

工学基礎教育センターでは、大学の学生を中心に、数理教育に対して個別指導を展開し、課外における充実した学習環境を提供しています。数理教育部会は、工学基礎教育センターの教員と緊密な連携を図り、学習支援におけるノウハウ（運営方法や指導方法）等の情報を提供してもらいながら、本校における学生の学習支援の充実に寄与しています。

具体的には、通常のオフィスアワーの時間以外に質問教室を設け、気軽に学生が質問できる環境を構築し、学生の自学自習への意欲を高めています。

○穴水湾自然学苑（資料 2-1-③-9）

能登半島の穴水町に穴水湾自然学苑が設置されています。ここでは、「人間と自然」の科目を実践する教育の場として活用されています。「人間と自然」の教育内容およびスケジュールの決定については、穴水湾自然学苑の教職員と緊密な連携の基で決定されています。例えば、研修プログラムの中のグループ討議では、学生がチームを構成し、その中で、さまざまなテーマに対して討議（ブレインストーミング）を行い、コミュニケーションスキル（リーダーシップ、協調性、ディスカッションスキル、プレゼンテーションスキル）を身につけると共に、エンジニアとして必要な人間力を養うプログラムです。これらは、大学における「人間と自然」において既に実施されているプログラムであり、学生の人間力向上において効果を発揮している点から、穴水湾自然学苑との連携において、本校にも導入されるようになりました。また海洋活動は、カッターによる操艇訓練を行い、チームワークの重要性を体験する機会としています。

（資料 2-1-③-9）

「穴水湾自然学苑」



・研究支援機構について（資料 2 - 1 - ③ - 10）

研究支援機構は学園の研究活動を支援し、推進することを目的に組織され、本校の教員に対する支援及び本校の創造技術教育研究所の活動支援を行っています。また本校教員の学位取得にかかる留学等の支援も行っています。

（資料 2 - 1 - ③ - 10）

「金沢工業大学研究支援機構規程」

（目的）

第 1 条 金沢工業大学研究支援機構(以下「研究機構」という)は、本学園に設置される研究所、研究プロジェクトの他、本学園教職員すべての研究活動を総合的に推進することを目的とする。

（事業）

第 2 条 研究機構は前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 研究所及び研究プロジェクトの組織化と支援
- (2) 産学官研究交流の活性化及び国際的学術研究の推進
- (3) 研究者養成による人材の拡充
- (4) 国内外の教育研究機関への研究者派遣
- (5) 学内外での共同研究の推進及び学外研究者の招聘
- (6) 研究環境の整備・充実
- (7) 受託(寄附)研究等の推進
- (8) 学会活動等の支援
- (9) 研究関連情報の収集及び提供
- (10) 研究成果の公表並びに社会還元
- (11) ベンチャービジネスの育成
- (12) 研究会、講演会、講習会、シンポジウム及び公開講座等の開催
- (13) その他前条の目的達成に必要な事業

（出典「金沢工業高等専門学校関係規則集」P. 122 抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

- ・本校学生が大学と共用による充実した施設設備を利用し、また学園の人的サポートを受けて、教育目的の達成や学生の自発的活動を推進する体制が整備されていると考えています。

観点 2-2-① 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点にかかる状況)

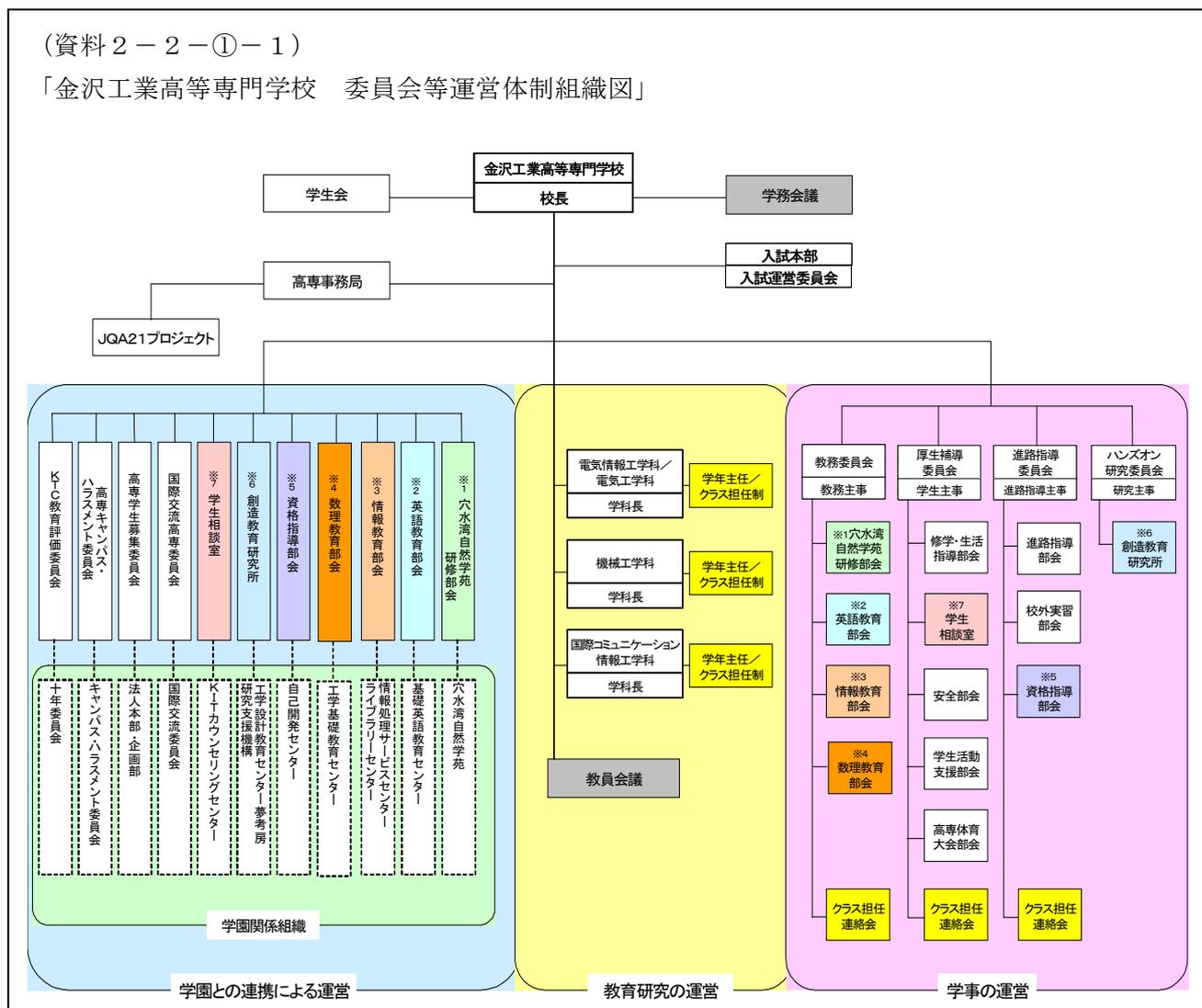
- ・校長を議長とする学務会議において、教育課程全体の企画調整と編成が行われています。また、より精密な議論が必要とされる場合は、校長の指示のもと「教務委員会」等において十分討議が尽くされるような仕組みを有しています。
- ・学務会議は、規程上毎月の開催としていますが、実状は週 1 回程度の開催となっており、学務全般の計画と運営を審議しています。教務委員会は、学務会議で決定された事項について運営方法を策定する委員会として適宜開催しています。具体的には、各教科の内容充実を図る教育部会の運営、シラバスの確認、時間割や担当者の割付、成績処理、進級判定の日程などの実務運営管理と教務スケジュール管理を担当しています。

(分析結果とその根拠理由)

学務会議を中心とする各種委員会等が整備され、活動が行われていると考えています。(資料 2-2-①-1)、(資料 2-2-①-2)、(資料 2-2-①-3)、(資料 2-2-①-4)、(資料 2-2-①-5)、(資料 2-2-①-6)、(資料 2-2-①-7)

(資料 2-2-①-1)

「金沢工業高等専門学校 委員会等運営体制組織図」



(資料 2-2-①-2)

「委員会等担当者表」(平成 17 年度)

所属学科	氏名	学務会議	教務委員会	教務係	厚生補導委員会	学生係	進路指導委員会	ハンズオン研究委員会	クラス担任連絡会	担当クラス名
電気情報工学科	堀 岡 雅 清	校長								
電気情報工学科	香 林 利 男	学科長(D,E)			委員		委員		副担任	D1
電気情報工学科	下 谷 俊 昭								担任	D3
電気情報工学科	直 江 伸 至		委員	○			委員		担任	D2
電気情報工学科	表 義 憲	進路指導主事					委員長		副担任	E4A
電気情報工学科	南 出 章 幸						委員		担任	E4A
電気情報工学科	林 孝 広					○			副担任	E5A
電気情報工学科	石 黒 泰 治						委員		担任	E5A
電気情報工学科	土 地 邦 生					○	委員		副担任	D3
機械工学科	山 田 弘 文	研究主事	委員				委員長		副担任	M3
機械工学科	天 日 三知夫		委員	○					副担任	M1
機械工学科	杉 森 勝								担任	M4
機械工学科	杉 井 洋						委員		担任	M5
機械工学科	堀 隆 一					○			担任	M3
機械工学科	金 光 学	学科長(M)			委員		委員		副担任	M5
機械工学科	古 屋 栄 彦								副担任	M2
国際コミュニケーション情報工学科	榊 原 東一郎						委員		副担任	E4B
国際コミュニケーション情報工学科	田 村 景 明				委員	○	委員		担任	E5B
国際コミュニケーション情報工学科	村 本 紘		委員						担任	C3
国際コミュニケーション情報工学科	今 澤 明 男	学科長(C)	委員				委員		副担任	C1
国際コミュニケーション情報工学科	海 法 俊 光	学生主事			委員長					
国際コミュニケーション情報工学科	川 崎 順 治					○			担任	E4B
国際コミュニケーション情報工学科	中 川 秀 敏		副委員長						副担任	E5B
国際コミュニケーション情報工学科	中 沢 政 幸		委員	○			委員		副担任	C2
国際コミュニケーション情報工学科	D. ゲイロード						委員			
国際コミュニケーション情報工学科	坂 倉 忠 和					○	委員		担任	C2
一般科目	壽 時 廣		副委員長							
一般科目	大 慶 清				委員				担任	D1
一般科目	作 宮 和 泉						副委員長	委員		
一般科目	半 田 敬								副担任	C3
一般科目	青 木 敏 彦					○			副担任	M4
一般科目	向 井 守		委員							
一般科目	村 田 俊 也				副委員長				担任	M2
一般科目	大 原 しのぶ					○				
一般科目	大 崎 富 雄								担任	M1
一般科目	氏 家 亮 子				○					
一般科目	宮 野 純 光				○					
一般科目	佐 藤 守	教務主事	委員長					副委員長		
一般科目	原 孝 義				委員				担任	C1
一般科目	松 下 臣 仁									
一般科目	佐 伯 昭 彦					○	委員		副担任	D2
一般科目	陳 ？									
事務局	宮 西 瑞 子	事務局長	委員		委員		委員	委員		
事務局	千 川 康 夫				委員					

(資料 2 - 2 - ① - 3)

「金沢工業高等専門学校学務会議規程」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 学 務 会 議 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校学務会議（以下「学務会議」という。）について必要な事項について定める。

第 2 条 学務会議は、校長のほか次の者をもって構成する。

- (1) 副校長
- (2) 教務主事、学生主事、研究主事及び進路指導主事
- (3) 電気情報工学科科長、機械工学科科長及び国際コミュニケーション情報工学科科長
- (4) 事務局長

第 3 条 学務会議は、次の事項について審議する。

- (1) 教育研究の質的向上に関する事項
- (2) 学則、その他教育研究に係る重要な規則に関する事項
- (3) 教育課程編成に関する事項
- (4) 学生の入学、退学、進級、休学、卒業の認定及び留学に関する事項
- (5) 学生の厚生補導に関する事項
- (6) 学生の賞罰に関する事項
- (7) 認証評価機関による第三者評価に関する事項
- (8) その他、校長からの諮問事項

第 4 条 学務会議は毎月開催するものとし、校長が招集する。又、校長が必要と認めたときは随時、開催することができる。

2 学務会議の議長は、校長が当たり、会務を主宰する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

第 6 条 学務会議の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後、これを保管する。

附 則

- 1 この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 74)

(資料 2 - 2 - ① - 4)

「金沢工業高等専門学校教務委員会規程」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 教 務 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 教務主事、教務副主事及び学科長
- (2) 教務主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 教務運営の方針及び教育実施状況の把握に関する事項
- (2) 教育内容の改善及び授業満足度評価に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 教務主事から提案された事項
- (6) その他、教育運営全般に関する事項

第 4 条 委員会は、教務主事が招集し、その議長を務める。

2 教務主事に支障があるときは、教務副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の教務委員会申合せは廃止する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 75)

(資料 2 - 2 - ① - 5)

「金沢工業高等専門学校厚生補導委員会規程」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 厚 生 補 導 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 学生主事、学生副主事及び学科長
- (2) 学生主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 学生の厚生補導に関する事項
- (2) 校長から諮問された事項
- (3) 学務会議から付託された事項
- (4) 学生主事から提案された事項
- (5) その他、学生の修学全般に関する事項

第 4 条 委員会は、学生主事が招集し、その議長を務める。

2 学生主事に支障があるときは、学生副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会で審議された内容及び報告において知り得た個人情報については、その秘密を漏らしてはならない。

第 8 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の厚生補導委員会申合せは廃止する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 78)

(資料 2-2-①-6)

「金沢工業高等専門学校進路指導委員会規程」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 進 路 指 導 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校進路指導委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 進路主事、進路副主事及び学科長
- (2) 進路主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長の指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 進路指導の方針及び進路指導状況の把握に関する事項
- (2) 進路開拓に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 進路主事から提案された事項
- (6) その他、進路指導全般に関する事項

第 4 条 委員会は、進路主事が招集し、その議長を務める。

2 進路主事に支障があるときは、進路副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の進路指導委員会申合せは廃止する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 79)

(資料 2-2-①-7)

「金沢工業高等専門学校ハンズオン研究委員会規程」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 ハ ン ズ オ ン 研 究 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校ハンズオン研究委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 研究主事
- (2) 研究主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) ハンズオン教育の実施方針及び実施状況の把握に関する事項
- (2) 創造実験の実施に伴う施設設備の充実と学習内容に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 研究主事から提案された事項
- (6) その他、ハンズオン教育全般に関する事項

2 ハンズオン教育の手法及び実施計画の立案については、金沢工業高等専門学校創造技術教育研究所に付託する。

第 4 条 委員会は、研究主事が招集し、その議長を務める。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、研究委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。なお本規程の施行により従前の研究委員会申合せは廃止する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 80)

観点 2-2-② 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が機能的に行われているか。

(観点にかかる状況)

- ・学務会議や教務委員会において、一般科目及び専門科目の代表者が出席し適宜教員間の連携に務めています。特に、本校が特色とする情報教育、穴水湾自然学苑教育、ハンズオン教育、資格取得教育等の取り組みは、各教育部会において推進が図られています。(資料 2-2-②-1)
- ・教員間の連携を図るために、授業参観(見せ合い授業)実施や、教育成果発表会を開催しています。(資料 2-2-②-2 「授業参観(見せ合い授業)」)、(資料 2-2-②-3 『教育成果発表会』目次)
- ・一般科目と専門科目の連携を実践する科目として「創造実験」を柱とするカリキュラムを編成し、創造技術教育研究所の取り組みにより、その具体化を推進しています。(資料 2-2-②-4 『創造技術教育』目次)
- ・数学、物理は、使える数理知識の習得を目的に、創造実験との連携を図り、数理知識の定着を目指しています。
- ・インターネットを利用した専門科目の情報教育を英語科の教員が担当しています。
- ・校長の方針のもと、教務主事を中心に担当者が連携して、情報教育においては情報処理サービスセンターとライブラリーセンター、穴水湾自然学苑教育においては穴水湾自然学苑と、それぞれ協議し教育の充実を図るべく運営しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・学務会議や教務委員会における審議を通じた連携と共に、本校が実施している特色ある教育の取り組みは、ハンズオン研究委員会の活動や教育支援機構の各センターの支援により、十分な連携が図られていると考えています。
- ・教務委員会の各部会の活動や創造技術教育研究所の活動によって、教員間の連携が図られていると考えています。

(資料 2 - 2 - ② - 1)

「平成17年度校務担当者一覧」

平成17年度 校務担当者一覧

所属学科	職名	氏名	学務会議	学科長	教務係	学生係	教務委員会	穴水湾自然学苑研修部会	英語教育部会	情報教育部会	数理教育部会	厚生補導委員会	修学・生活指導部会	学生相談室	安全部会	学生活動支援部会	ロボコン委員会	クラス担任連絡会	進路指導委員会	進路指導部会	校外実習部会	資格指導部会	ハンズオン研究委員会	創造技術教育研究所	一般教育部会
電気情報工学科	教授	堀岡雅清	●																						
電気情報工学科	教授	香林利男	○	●				○		○							○	△	○	○			○		
電気情報工学科	教授	表義憲	○															△	●	●	●	●			
電気情報工学科	教授	下谷俊昭																◎					○		
電気情報工学科	教授	直江伸至			○		○											◎					○	○	
電気情報工学科	助教授	林孝広				○										○		△							
電気情報工学科	助教授	南出章幸								○								◎			○		○	○	
電気情報工学科	講師	土地邦生				○							○					△					○	○	
電気情報工学科	講師	石黒泰治																◎	○	○					
機械工学科	教授	金光学	○	●				○				○					○	△	○	○		○			
機械工学科	教授	杉森勝																◎			○				
機械工学科	教授	天日三知夫			○		○										○	△							
機械工学科	教授	堀隆一				○								○				◎							
機械工学科	教授	松井洋								○								◎	○	○					
機械工学科	教授	山田弘文	○				○											△					●	●	
機械工学科	助教授	古屋栄彦																△							
国際コミュニケーション情報工学科	教授	今澤明男	○	●			○	○		●							○	△	○	○		○			
国際コミュニケーション情報工学科	教授	海法俊光	○			●		○				●	●	●	●	●	●								
国際コミュニケーション情報工学科	教授	榊原東一郎								○	○							△			○		○	○	
国際コミュニケーション情報工学科	教授	田村景明				○				○	○					○		◎	○	○					
国際コミュニケーション情報工学科	教授	村本紘					○			○								◎							
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	川崎順治				○				○				○				◎			○				
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	ドリンゲイロード								○													○	○	
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	中川秀敏				○	○											△							
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	中沢政幸			○	○				○	○							△					○	○	
国際コミュニケーション情報工学科	講師	坂倉忠和				○									○			◎					○	○	
一般科目	教授	青木敏彦				○									○			△				○		○	
一般科目	教授	作宮和泉										○								○	○			○	○
一般科目	教授	壽時廣			○		○	○	○											○	○				
一般科目	教授	大慶清										○						◎							○
一般科目	教授	半田敬																△				○		○	
一般科目	教授	向井守					○		○													○		○	
一般科目	教授	佐藤守	○		●		●	●	●	●	●											○		●	
一般科目	助教授	氏家亮子			○									○										○	
一般科目	助教授	大崎富雄										○						◎							
一般科目	助教授	大原しのぶ								○															
一般科目	助教授	佐伯昭彦				○				○								△	○						
一般科目	助教授	陳璋																							
一般科目	助教授	原孝美										○		○				◎							
一般科目	助教授	村田俊也				○						○		○	○			◎							
一般科目	講師	ブルース・ゲイロード																							
一般科目	講師	アム・サージェント																							
一般科目	講師	ハバ・ベリッチ																							
一般科目	講師	ケント・マツダ																							
一般科目	講師	松下臣仁								○															
一般科目	講師	宮野純光				○																			○
一般科目	講師	マコー・スミス・ハフ																							
穴水湾自然学苑	講師	阿保和久						○																	
穴水湾自然学苑	講師	長谷川政秀						○																	
穴水湾自然学苑	講師	村中博文						○																	
事務局		宮西瑞子	○				○					○					○		○				○		
事務局		千川康夫										○					○								

(●:委員長 ○:委員 ◎:正 △:副)

(資料 2-2-②-2)

「授業参観 (見せ合い授業)」

「魅力あふれる授業」を求めて



授業を参観する金沢高専の先生方

金沢高専で「見せ合い授業」

金沢高専は、初めての「見せ合い授業」を12月7日から20日の間に5回実施した。参加した教員は延べで84名であった。

この試みは、各教員が「分かりやすく、魅力ある授業」を行うことで、学生の授業満足度をより向上させることを目的とするものである。

方法としては、5名の担当教員がそれぞれ異なる日に授業を実施し、これを一般教員が参観し、授業終了後、それらの担当教員と参観教員間で意見交換する方式をとった。

5名の教員が担当

今回の担当として、金光学、今澤明男、香林利男、氏家亮子、原孝美の各教員を選び、8月中に決定した。その後実施に伴う時間割の調整を開始した。

一方、授業は、多くの教員が参観できるよう放課後の時間帯に正規の授業扱いで実施した。各参観教員には少なくとも二つの授業を参観することを義務づけた。

ところで、同僚教員に見られながら授業を行う担当教員は、かなり緊張したようである。一方、受講する学生も参観教員を意識してか、1日の授業を終え疲れているにもかかわらず、真剣に取り組んでいる姿が印象的だった。

各授業について「参考になったか、否か」について5段階に分けたアンケートをとった。この結果から、全授業について、評価2の「かなり参考になった…」が1位(46%)、評価3の「参考になった…」が2位(30%)、そして評価1の「非常に参考になった…」が3位(20%)であった。これらポジティブな評価のトータルは96%に達しており、5回の見せ合い授業は参観教員のほとんどに役に立ったと結論づけることができる。

なお、今回の参観者による「授業アンケート」には授業内容について自由記述の欄を設けたが、そこには多くの感想や意見が記されていた。それらの記述内容を含めた詳しい分析の結果は別に冊子をつくり報告する予定である。(高専 杉森)

【日程と担当者等】

回	実施日	曜日	時限	担当者	クラス	教室	科目名
1	12月7日	火曜	8	金光	M3	M3教室	材料力学I
2	12月14日	火曜	8	今澤	E5A E5B	合同講義室	システム工学
3	12月17日	金曜	7	香林	D2	D2教室	電気回路I
4	12月20日	月曜	7	氏家	D1	D1教室	基礎数学II
5	12月20日	月曜	7	原	M1	M1教室	物理学I

(出典 「旦月会」 平成17年2月号 P.14)

(資料2-2-②-3)

『教育成果発表会』目次

目 次	
平成16年度教育成果	
創造実験	
創造実験 I	1
創造実験 II	5
創造実験 III	7
創造実験 IV	9
英語教育	
コンピュータ演習 I	11
留学教育	13
学科教育現況及び成果	
電気情報工学科	16
機械工学科	19
国際コミュニケーション情報工学科	21
出前教育、担任教育、部活動指導	
中学生対象出前授業	24
クラス担任教育	27
部活動指導	31

(出典 「教育成果発表会」講演論文集)

(資料 2-2-②-4)

『創造技術教育』目次

目次			
(創造技術教育第 5 巻 1 号)			
(巻頭言)			
大学評価・学位授与機構による本校の認証評価	顧問 (校長)	堀岡 雅清	1
(論壇)			
教育効果の運動性と即効的期待	所長	山田 弘文	2
(ショートレポート)			
イントラネットを利用した情報倫理教育の導入 —金沢高専・電気情報工学科の情報倫理教育—	所員	南出 章幸	3
2 値単純マルコフ系列を用いた酔歩における補講長分布に関する母関数	所員	坂倉 忠和、林 彬	6
(技術レポート、創造技術教育)			
【特別寄稿】			
金沢高専のインターンシップの取り組み		堀 隆一	9
ハンズオン部におけるロボコン指導		古屋 栄彦	13
(論文)			
【特別寄稿論文】			
資格モデルにおける視点・視野の客観的評価尺度 η^2 に関する検討 金沢工業高等専門学校 川崎 順治、金沢工業大学 武田康佑、 (株) 創研 加藤 恭子、飯島 泰蔵			17
固定型等価近似法の画像サイズにおける窓サイズ 金沢工業高等専門学校 川崎 順治 金沢工業大学 北村 直人 (株) 創研 加藤 恭子、飯島 泰蔵			23
Robust Design of Lamination Flexural Properties of CFRP 金沢工業高等専門学校 金光 学、中安 秀俊			29
【所員オリジナル論文】			
金沢高専におけるネットワークを利用した学習支援環境構築の提案 所員坂倉 忠和、榊原東一郎、中沢 政幸			35
プロジェクト型水質調査実験の実践 所員 直江 伸至、所員 南出 章幸、金沢工業大学 竹俣 一也			41
金沢高専における小中学生のための出前授業の実施 所員 南出 章幸、直江 伸至			45
インターンシップと連携した新しい創造設計教育に関する 1 考察 所員 山田 弘文			51

(出典 「創造技術教育」 研究所報告)

観点 2-2-③ 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の事務局職員は 3 名で、職務内容は主に庶務的業務を行っています。(資料 2-2-③-1) 一方、教務業務に関しては、教務主事を長とする教務系の教員が、学生業務に関しては学生主事を長とする学生系の教員が行うことになっています。また、クラス担任や部活顧問によって、日常的な学生相談の体制を構築しています。その他の施設管理や財務管理といった管理運営業務は法人本部が一括して行っています。
- ・教育支援機構および研究支援機構が学園に設置され、本校の教育及び研究活動全般の支援が行われる体制が整備されています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校は、創立間もない頃より教員が事務的業務にも参画する現在の体制で運営が行われており、教

員と学生、教員と職員、教員相互の関係において、学務運営の当事者としての自覚と責任が醸成され、校務の適正と円滑化が推進されていると考えています。

- ・ 修学支援体制の中核をなす仕組みとして、クラス担任制（各クラスに担任と副担任を配置）を有しており、各担任は、学生の意見や要望を聞き、また、生活面での相談相手になるなど、教育活動と生活面における円滑化を推進しています。
- ・ 教育支援機構は、教員が行う教育活動の支援や本校の教育課程、学生の自発的学習を支援する仕組みとして適切に機能しており、本校の教育活動を推進していると考えています。

(資料 2 - 2 - ③ - 1)

「高専事務局の基本業務」

第 4 条 高専事務局

校長の掲げる教育方針のもと、教育の向上と発展を目的とした円滑な教育運営を図り、着実な教育成果をあげることがを目標とする。

＜高専事務局の基本業務＞

- (1) 高専諸行事に関する業務
- (2) 高専の庶務全般に関する業務
- (3) 修学支援に関する業務
- (4) 課外活動の支援に関する業務
- (5) 入試及び進路に関する業務

◎ 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 高専の行事、式典等の実施に関する事項
- (2) 工場見学、修学旅行等の実施に関する事項
- (3) 高専の庶務全般に関する事項
- (4) 各種委員会の予算管理に関する事項
- (5) 高専の公印の押印、保管等に関する事項
- (6) 高専の公文書の受付、発送、記録、保管に関する事項
- (7) 育友会の運営に関する事項
- (8) 学生便覧、学習支援計画書等の編集、発行に関する事項
- (9) 学籍の管理に関する事項
- (10) 奨学金等に関する事項
- (11) 学生の健康管理に関する事項
- (12) 学生証の交付及び各種証明書の発行、管理に関する事項
- (13) 学生会等の課外活動の支援、指導に関する事項
- (14) 募集活動に関する事項
- (15) 入学試験に関する事項
- (16) 就職、進学等の進路に関する事項

(出典「金沢工業高等専門学校規則集」P. 36「事務分掌規程」抜粋)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・本校は入学定員が135名と小規模ですが、金沢工業大学との施設、設備の共用や、学園の人的サポートを受けて、充実した教育環境を学生に提供しています。
- ・事務的業務に教員が参加することから、教員と学生、教員と職員、教員相互のコミュニケーションが十分に図られています。

(改善を要する点)

- ・国際コミュニケーション情報工学科の名称が分かりにくいとする意見もあり、今後の検討課題と考えています。

(3) 基準2の自己評価の概要

本校の学科構成は、「機械工学科」、平成15年度の学科改組により名称変更された「電気情報工学科」及び同年に設置された「国際コミュニケーション情報工学科」からなり、教育の目的に沿って体系的に編成されています。さらに、学園に教育・研究活動を支援するための組織として、「教育支援機構」および「研究支援機構」が置かれ、その下に各種センターが設置されています。「ライブラリーセンター」は、文献の検索など学生の積極的な情報収集の場や、少人数授業における教室として利用されるほか、デジタル技術を活用する「モノづくり」の場としての機能も有しています。

「情報処理サービスセンター」は情報機器の環境整備や管理運営等を行っています。「自己開発センター」は資格取得教育の支援や相談・講習会等を実施しています。「工学設計教育センター(夢考房)」は、授業及び課外において様々なものづくりに取り組む現場として活用されています。「工学基礎教育センター」は、数理教育に関する学習支援のノウハウなど情報提供等の役割を担っています。さらに、「穴水湾自然学苑」は、本校が掲げる「人間力」を養うプログラムである「人間と自然」の科目を実践する教育の場として活用されています。これらの諸施設は教育目的を達成する上で適切であり、高度で充実した環境として整備されていると考えています。

教育課程全体を企画・調整する体制として、学校全体の教育課程については学務会議、細部については教務委員会が整備されており、機能しています。一般科目と専門科目の教員の連携については、学務会議や教務委員会で組織的に検討され、機能的に行われています。本校の専任事務職員は少数であります。管理運営、施設・設備等については法人本部が業務を担当し、教育支援機構が教育活動についての支援を行っており、教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しています。

以上のとおり、学科等の構成、及び教育活動等を展開する上で必要な運営体制の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準 3. 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点 3-1-① 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の一般教育課程の運営実施に必要な教員は確保され、高専設置基準を満たしていると認識しています。(資料 3-1-①-1 「教員配置状況」)
- ・本校の特色化を図るため英語教員を多く配置しています。(資料 3-1-①-2 「教員(一般科目・学科別)配置状況」)

(資料 3-1-①-1)

「教員配置状況」(平成17年5月1日現在)

準学士課程担当教員

(単位:人)

	専任教員														非常勤講師	技術職員	教員のうち博士号取得者		
	教授			助教授			講師			助手			計						
	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 計					
一般科目	-	7	0	-	4	3	-	5	2	-	0	0	-	16	5	21	5	-	0
専門科目(学科合計)	-	16	0	-	6	1	-	3	0	-	0	0	-	25	1	26	1	-	12
電気情報工学科	-	5	0	-	2	0	-	2	0	-	0	0	-	9	0	9	0	-	5
機械工学科	-	6	0	-	1	0	-	0	0	-	0	0	-	7	0	7	0	-	5
国際コミュニケーション情報工学科	-	5	0	-	3	1	-	1	0	-	0	0	-	9	1	10	1	-	2
合計	-	23	0	-	10	4	-	8	2	-	0	0	-	41	6	47	6	-	12

資料 3-1-①-2)

「教員(一般科目・学科別)配置状況」

	氏名			役職			専門分野			氏名			役職			専門分野									
	氏名	氏名	氏名	役職	役職	役職	専門分野	専門分野	専門分野	氏名	氏名	氏名	役職	役職	役職	専門分野	専門分野	専門分野							
一般科目(学科共通)	青木 敏彦	教授		教授			数学	電気情報工学科	堀岡 雅清	教授	校長	電子・電気材料工学	香林 利男	教授	学科長	電力工学・電気機器工学	表 義憲	教授	進路指導主事	電力工学・電気機器工学					
	作宮 和泉	教授	進路指導副主事	物理学	下谷 俊昭	教授	通信工学		直江 伸至	教授		電力工学・電気機器工学	林 孝広	助教授		通信工学	南出 章幸	助教授		計測工学					
	壽時 廣	教授	教務副主事	英語学	向井 守	教授	日本文学		石黒 泰治	講師		電子・電気材料工学	金光 学	教授	学科長	機械材料・材料力学	杉森 勝	教授		機械材料・材料力学					
	大慶 清	教授		スポーツ科学	佐藤 守	教授	英語学		天日三知夫	教授		設計工学・機械機能要素	堀 隆一	教授		機械力学・制御	村田 俊也	助教授	学生副主事	スポーツ科学	堀 隆一	教授		機械材料・材料力学	
	半田 敬	教授		日本文学	大崎 富雄	助教授	数学		山田弘文	教授	研究主事	生産工学・加工学	古屋榮彦	助教授		機械力学・制御	ブルース・ゲイロード	講師		英語学	国際情報工学科	今澤 明男	教授	学科長	人文社会情報学・経営情報システム
	向井 守	教授	教務主事	数学	大原 しのぶ	助教授	日本文学		カト・マツエ	講師		英語学	海法 俊光	教授	学生主事	船舶海洋工学	アダム・サージェント	講師		英語学	柳原 東一郎	教授		計算機システム	
	佐藤 守	教授		物理学	佐伯 昭彦	助教授	英語学		カト・マツエ	講師		英語学	田村景明	教授		通信・ネットワーク工学	カト・マツエ	講師		英語学	村本 紘	教授		人文社会情報学・教育情報システム	
	大崎 富雄	助教授		日本文学	陳 璋	助教授	数学		パ・ペリー・チ	講師		英語学	川崎剛台	助教授		知覚情報処理	宮野 純光	講師		日本史	トリン・ゲイロード	助教授		英語学	
	大原 しのぶ	助教授		英語学	原 孝美	助教授	絵画・デザイン		松下 臣仁	講師		英語学	中川秀敏	助教授	教務副主事	通信・ネットワーク工学					中沢政幸	助教授		知覚情報処理	
	佐伯 昭彦	助教授		数学	村田 俊也	助教授	複合化学		宮野 純光	講師		英語学	坂倉忠和	講師		フットボール・エデュケーション									
	陳 璋	助教授		絵画・デザイン	氏家 亮子	助教授	スポーツ科学																		
	原 孝美	助教授		複合化学	ブルース・ゲイロード	講師	数学																		
	村田 俊也	助教授	学生副主事	スポーツ科学	アダム・サージェント	講師	英語学																		
	氏家 亮子	助教授		数学	カト・マツエ	講師	英語学																		
	ブルース・ゲイロード	講師		英語学	パ・ペリー・チ	講師	英語学																		
	アダム・サージェント	講師		英語学	松下 臣仁	講師	英語学																		
カト・マツエ	講師		英語学	宮野 純光	講師	日本史																			

(*分野は平成17年度科学研究費補助金細目表に基づく)

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の一般教育課程の運営に必要な教員は適切に配置されていると考えています。
- ・英語教育は本校の特色として充実した体制が整備されていると考えています。
- ・穴水湾自然学苑教育は学園の支援を受けて適切に実施されていると考えています。
- ・数理教育は一部非常勤教員（資料3-1-①-3「非常勤講師の担当科目及び週時間数」：訪問調査時閲覧資料）の応援を求めています。いずれの方も高等学校を定年退職されたベテラン教員であり、適切に実施されていると考えています。

観点3-1-② 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の専門教育課程の運営、実施に必要な教員は確保されていると考えています。
- ・高専設置基準から判断しても、教員数は充足しており、教育運営上は問題がないと考えています。しかしながら、本校は現場技術者養成を目的としており、教員の専門性という観点の他に、企業出身者による、より実務的な課題や研究に対するアプローチが教育現場において必要であると感じています。特にネットワーク関連及びロボティクス関連の技術現場における変革は著しく、より実務的な教員の補充が必要であると考えています。
- ・学務運営の円滑化を図るために、金沢工業大学大学院生を本校のTA（ティーチング・アシスタント）（資料3-1-②-1「TA採用状況」：訪問調査時閲覧資料）として採用しています。また、学園の技術職員（技師）、（資料3-1-②-2「学園の技術職員（技師）一覧」：訪問調査時閲覧資料）が実験や実習に協力することで、授業運営を措置しています。
- ・実験実習科目の一部において金沢工業大学の学生をSA（スチューデント・アシスタント）として採用し、補助的業務を措置しています。（資料3-1-②-3「SA採用状況」：訪問調査時閲覧資料）

(分析結果とその根拠理由)

- ・著しい科学技術の進展の中で教員は各分野の専門家として常に新しい知識の獲得に努力する必要があります。しかしながら、学際的領域ともいえるネットワーク及びロボティクスの専門分野は特に進歩が著しく、より実務的な人材の確保がままならない中で、現有の教員の努力によって必要な運営がなされています。
- ・今後中長期的な課題として、企業出身の現場技術者等の採用や産業界における人材の活用を視野に入れた教育の活性化を推進していくこととしています。
- ・学園の技術職員や金沢工業大学のTA、SAによって、教育運営上必要な補助者は適切に確保できていると考えています。
- ・TAやSAの採用は、本校の卒業生を優先しています。本校での教育を経験していることが業務運営の円滑化に役立っていると考えています。

観点3-1-③ 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

該当ありません。

観点3-1-④ 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置(例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる)が講じられているか。

(観点にかかる状況)

- ・専門分野における教員の年齢構成が高いと認識しています。(資料3-1-④-1「教員年齢構成一覧表」)ここ数年、若手教員の採用を進め、平成11年から平成17年の間に35歳以下の若手教員9名を新規に採用してきましたが、まだ十分とはいえません。(資料3-1-④-2「教員の採用状況(過去7か年):訪問調査時間閲覧資料」)

(資料3-1-④-1)

「専任教員年齢構成一覧表」

専任教員の年齢構成

平成17年5月1日現在

		24歳以下	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳以上	計
一般科目	教授						1		3	3	7
	助教授			1		3	1		2		7
	講師		2	3	1				1		7
	助手										0
	計		2	4	1	3	2		6	3	21
電気情報工学科	教授					1			1	3	5
	助教授				1	1					2
	講師						1			1	2
	助手										0
	計				1	2	1		1	4	9
機械工学科	教授								5	1	6
	助教授			1							1
	講師										0
	助手										0
	計			1					5	1	7
国際コミュニケーション情報工学科	教授						1	1	1	2	5
	助教授					1	1		2		4
	講師			1							1
	助手										0
	計			1		1	2	1	3	2	10
合計	教授	0	0	0	0	1	2	1	10	9	23
	助教授	0	0	2	1	5	2	0	4	0	14
	講師	0	2	4	1	0	1	0	1	1	10
	助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	2	6	2	6	5	1	15	10	47

- ・本校では、学位取得を目指す教員に対して、クラス担任や部活動顧問の担当を外したり、授業担当時間数を考慮するなど、教員の負担をできる限り軽減するための支援をしています。また、学位取得に伴う留学制度を設けております。(資料3-1-④-3)

(資料3-1-④-3)

「学園の支援による学位取得・留学状況(過去6か年の学位取得)」

氏名	職名	学位取得年月	留学の期間	留学先
田村景明	教授	H15. 3	H11. 4~14. 3	金沢工業大学大学院工学研究科情報工学専攻
林 孝広	助教授	H16. 3	H10. 4~13. 3	金沢工業大学大学院工学研究科電気電子工学専攻
南出章幸	助教授	H12. 3	H 9. 4~12. 3	金沢工業大学大学院工学研究科電気電子工学専攻
佐伯昭彦	助教授	H17. 3	H14. 4~17. 3	兵庫教育大学大学連合学校教育学研究科

- ・教員の研究活動に関しては、科学研究費補助金への申請を奨励すると共に創造技術教育研究所を設置し、「教育を研究する」を合言葉に研究活動を推進しています。(資料3-1-④-4)

(資料3-1-④-4)

「科学研究費補助金申請件数・採択件数」

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
申請件数(A)	15	21	17	15	16	12	12
採択件数(B)	8	9	5	4	4	5	4
採択率(%) B/A*100	53	43	29	27	25	42	33
採択額(千円)	8,400	15,500	7,100	6,800	4,800	6,900	7,100

- ・本校の活動に貢献のあった教職員に対する表彰制度として、「理事長賞」があり、本校の教職員が過去4か年の間に16名受賞しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・年齢構成の一部不均衡については、小規模校において一気にその是正は困難であります。熟達した教員の授業には大きな魅力を感じます。一方、若手教員によるはつらつとした授業にも魅力があります。本校としては、こうした点を考慮しながら個人の能力を尊重し、時間をかけて是正を図ってまいりたいと考えています。
- ・学位取得への取り組み支援については、教員の希望があっても校務の都合によって、なかなか希望を満たすことが出来ません。時間はかかりますが、これまでの取り組みを地道に積み上げてまいります。
- ・研究においては、教員の努力の中で一応の成果が得られていると考えています。一方で、科学研究費補助金の採択件数が低く努力が必要であると認識しています。

観点3-2-① 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点にかかる状況)

・教員の採用基準については、高等専門学校設置基準に基づく定めがありますが、さらに面接等を通じて教育に熱意を持ち、本校の理念、信条、ビジョン、教育目標に理解と協力を約束する人材の確保に努めています。また、昇格基準についても、教育研究業績を基礎とする定めが作られていますが、当人の勤務状況、教育に対する熱意、学生指導の能力を考慮して一律の適用は行っていません。採用及び昇格については、いずれも校長が原案を作成し学園人事委員会及び理事会の議を経て決定されます。(資料3-2-①-1「教員の昇格状況(過去6か年)」:訪問調査時閲覧資料)

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校では教員の任用基準(資料3-2-①-2)及び教員の昇任基準(資料3-2-①-3)を定めています。
- ・その上で、校長が教員に求めている最も重要な評価基準は「教育に対する高い情熱の維持」にあり、「教員の服務」(資料3-2-①-4)が定められています。
- ・校長は、教員との面談等を通じて、教員の評価を適切に行っていると認識しています。
- ・教員の人事は校長の専決事項としての合意が形成されており、校長が作成する教員人事の原案は、学園人事委員会及び理事会において、これまで否決された例はありません。

(資料 3-2-①-2)

「金沢工業高等専門学校教員任用基準」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 教 員 任 用 基 準

- 1 本校の教員の任用については、高等専門学校設置基準(以下「基準」という。)によるほか、本基準に基づくものとする。
- 2 本校の教員となる者は、本校の建学の精神を理解するとともに、その継承、実践に努めなければならない。
- 3 本校の教員となる者は、社会の規範たる高潔な人格と豊かな識見を併せ持つとともに、優れた教育、研究指導能力を有していなければならない。
- 4 基準第 11 条 1 項 3 号の在職期間は、教授が 15 年以上、助教授が 10 年以上とする。
- 5 基準に定める教育、研究に関する実績、技術に関する業務の実績ならびに特定の分野についての優れた知識、経験等の審査は、次の各項目による。
 - (1) 公刊された著書、論文、報告等
 - (2) 発明、特許、発見または設計、考案等
 - (3) 教育研究、技術及び学事運営等に関する実績
- 6 5 の項目について教授になれる者は、(1) 2 編以上 (2) 2 件以上 (3) 実績に対する評価が特に顕著なものいずれか有する者とする。
- 7 5 の項目について助教授になれる者は、(1) 1 編以上 (2) 1 件以上 (3) 実績に対する評価が顕著なものいずれか有する者とする。
- 8 本基準は、本校専任教員に適用するほか、本校が必要とするその他の教員に準用する。

附 則

- 1 この基準は昭和 61 年 4 月 1 日より施行する。
- 2 この基準は平成 14 年 4 月 1 日改正し、即日施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 81)

(資料3-2-①-3)

「金沢工業高等専門学校教員昇任基準」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 教 員 昇 任 基 準

- 1 本校の教員の昇任については、高等専門学校設置基準によるほか、本基準に基づくものとする。
- 2 助手としての勤務年数が3年を超えたものは、講師となる資格を有する。
- 3 講師、助教授が昇任することについては、次の各項目のいずれかの教育研究業績を評価する。
 - (1) 公刊された著書、論文、報告等
 - (2) 発明、特許、発見または設計、考案等
 - (3) 教育研究、技術及び学務運営等に関する実績
- 4 3の評価項目について教授になれる者は、(1) 2編以上 (2) 2件以上 (3) 実績に対する評価が特に顕著なものいずれか有する者とする。
- 5 3の評価項目について助教授になれる者は、(1) 1編以上 (2) 1件以上 (3) 実績に対する評価が顕著なものいずれか有する者とする。

附 則

この基準は昭和61年4月1日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 82)

(資料 3-2-①-4)

「金沢工業高等専門学校教員の服務について」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 教 員 の 服 務 に つ い て

1 教員の使命について

- ① 教員は本学園創設の理念に立脚した建学の綱領に基づいて、重要な社会的使命を持っていることを認識し、教育と研究の遂行に不動の努力を重ね、その職務に専念することが使命です。
- ② 教員は、学園の名誉と発展を常に念頭に置くとともに、本校教員であることに高い誇りを持たなければなりません。その行為が世間から注目されていることを自覚することが必要です。
- ③ 教員が矜持をもって、その服務に厳正な行動と節度を保つことは、本校が社会から厚い信頼を寄せられていることから、学生の尊敬を受け教育を完遂するためにも重要なことです。人間形成の場としての学園において、その範となるよう心がけねばなりません。

2 使命の達成について

- ① 本校は、わが国の代表的な工業高等専門学校たるべく、その充実発展に学園全体が一丸となって努力してきました。今後、さらにその目標に向け教職員全員が渾身の力を持って邁進していかなければなりません。
- ② この目標に向かう第一歩として、校内における教育研究はもとより、校外における研究等諸活動においても第一級の成果を期し努力しなければなりません。また、その成果は、本校の使命の達成と併せて学園の将来の発展に結び付かねばなりません。

3 本校の教育改革について

- ① 本校は従来の教育課程や教育システムを見直し、「自ら問題を発見し、解決する」創造型人材を育成するため、他の高等専門学校では類をみない「ハンズオン(ものづくり)教育」を教育の根幹とする斬新な教育実践を展開しています。学生が中心、主役となる教育環境、教育システムの創生に教員の積極的な参加、取り組みを強く要請します。

附 則

この規定は平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 83)

観点3-2-② 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点にかかる状況)

- ・KTC教育評価委員会が平成15年度からKTC総合アンケート及びKTC授業アンケートを実施しています。(資料3-2-②-1「KTC総合アンケート調査結果」、(資料3-2-②-2「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・全教員が、年度末に校務全般の活動について「教育の抱負及び実施に関する報告書(自己点検自己評価書)」(資料3-2-②-3)を提出し、校長が評価しています。
- ・校長は、教員から提出された報告書やKTC授業アンケートの結果を踏まえて、各教員と面談を行い、必要な改善点を指摘することで次年度の計画立案と実施を教員に求めています。
- ・また、各教員は、教育の実践目標を念頭に置いた自己点検評価を行うために、「教育改善への取組と今年度の目標」(資料3-2-②-4)を作成し、昨年度の実績とその評価・反省の上に立って今年度の目標を明確にし、授業改善に取り組んでいます。
- ・各教員から提出された「教育の抱負及び実施に関する報告書」や「教育改善への取組と今年度の目標」、「KTC総合アンケート調査結果」、「KTC授業アンケート調査結果」は、教育活動へのフィードバックをするために各教員に配付しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・校長への報告書の提出と面談を通じて、本校教員の評価が行われていると考えています。また、KTC教育評価委員会が実施するKTC授業アンケートは、各教員の教育方法の改善等に活かされ、教育の向上に繋がるものと考えており、校長を中心とする適切な評価体制が整備されていると考えています。

(資料 3 - 2 - ② - 1)

「KTC 総合アンケート調査結果」

INDEX

<1> 本調査の全体像	1
<2> 学生の満足度に関して	9
<3> 学生の満足度に関するまとめ	61
<4> クラスメートと自分の学生生活の過ごし方に関して	71
<5> 人材の能力に関して	85
<6> 教員の満足度に関して	97
<7> 調査票見本	107

<1-1> 全体概略

調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- また、この調査企画では教職員にも金沢高専の評価を聞き、学生との意識の違いを見いだすことで、学生のための学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は、将来的に継続して実施していくことで金沢高専の評価の変化を時系列で確認することを前提として設計している。今回は平成15年度の調査に続く2回目であり、時系列による状況の変化を把握することが可能となる。

調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とした。(配布方法は下記の通り、学内での配布と郵送式) なお、全て無記名式とした。	
総回収数	総回収数は649サンプル(昨年は811サンプル。ただし、卒業生、企業担当者も含む。詳細は後述)	
対象者と実施方法	1年生～4年生	・ 終業式前に配布し、学内で回収した。(配布:2月18日、回収締切:2月18日) ・ 有効回答数 1年生:135サンプル、2年生135サンプル、3年生98サンプル、4年生109サンプル
	5年生	・ 卒業式前に配布し、学内で回収した。(配布:2月10日、回収締切:2月10日) ・ 有効回答数 116サンプル
	卒業生	・ 今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
	教職員	・ 終業式前に配布し、学内で回収した。(配布:1月28日、回収締切:2月14日) ・ 有効回答数 56サンプル
	企業担当者	・ 今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成20年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

調査内容

各属性別に実施した主な調査項目は下記の通り。

質問分野	質問形式	1年	2年	3年	4年	5年	教職員
授業に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	●
教員に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	×
学生生活の過ごし方に関して	選択肢	●	●	●	●	●	×
学生生活に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	×
施設や設備などに関して	自由記述	●	●	●	●	●	●
金沢高専に関して	選択肢式&自由記述	●	●	●	●	●	●
就職・進学に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×	●	●	×
人材像に関して	選択肢式&自由記述	×	×	×	×	●	●
教員業務に関して	選択肢式	×	×	×	×	×	●
KIT-IDEALSに関して	選択肢式	×	×	×	×	×	●

集計に関して

今回の調査結果は基本的に下記の方針で集計、分析を行っている。ただし、これらの内容と異なる際には各ページに注意書きをつけている。

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では選択肢が、「そう思う〜どちらかといえばそう思う〜どちらかといえばそう思わない〜そう思わない」などのように4択式で構成した。なお「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現している。
昨年との比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> 幾つかの項目で昨年度との比較を行ったが、調査対象者の違い、集計に含める範囲の違いなどにより、同じ切り口の集計結果でも結果が昨年度のものとは異なるものがある。 特に、昨年度は卒業生が対象者であったので、学校の評価として卒業生の回答結果も集計に加えていたが、今回は対象ではないため集計には加えていない。また、昨年度は教職員を加えて集計していた点に関しても、純粋な学生の意見を見るために今年度は加えていない点などがある。 ただし、今年度の集計に関しては、全て集計対象者を統一しており、同一条件で比較できるものとなっている。

(出典 「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」 目次、PP. 3〜4)

(資料 3 - 2 - ② - 2)

「KTC授業アンケート調査結果」

目 次

< 1 >	全体概略	1
< 2 >	回答者の基本属性	4
< 3 >	基本的集計	5
< 4 >	昨年度との比較	23
< 5 >	創造設計・実験に関して	29
< 6 >	学年別・部会別結果比較	39
< 7 >	達成度に関して	52
< 8 >	全体のまとめ	56
< 9 >	1年生・科目別集計表	59
< 10 >	2年生・科目別集計表	139
< 11 >	3年生・科目別集計表	227
< 12 >	4年生・科目別集計表	317
< 13 >	5年生・科目別集計表	439
< 14 >	調査票見本	547

<1>全体概略

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- そして、一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は、各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであり、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容														
対象者	<table border="0"> <tr> <td>1年生: 延べ回答数1,778</td> <td>有効回答数1,743</td> <td rowspan="5" style="vertical-align: middle;">(在校生数 1年生:135名 2年生:135名 3年生:98名 4年生:109名 5年生:116名)</td> </tr> <tr> <td>2年生: 延べ回答数1,800</td> <td>有効回答数1,791</td> </tr> <tr> <td>3年生: 延べ回答数1,419</td> <td>有効回答数1,416</td> </tr> <tr> <td>4年生: 延べ回答数1,696</td> <td>有効回答数1,668</td> </tr> <tr> <td>5年生: 延べ回答数1,661</td> <td>有効回答数1,652</td> </tr> <tr> <td>合計延べ回答数 8,354件</td> <td>合計有効回答数 8,270件</td> <td></td> </tr> </table>	1年生: 延べ回答数1,778	有効回答数1,743	(在校生数 1年生:135名 2年生:135名 3年生:98名 4年生:109名 5年生:116名)	2年生: 延べ回答数1,800	有効回答数1,791	3年生: 延べ回答数1,419	有効回答数1,416	4年生: 延べ回答数1,696	有効回答数1,668	5年生: 延べ回答数1,661	有効回答数1,652	合計延べ回答数 8,354件	合計有効回答数 8,270件	
1年生: 延べ回答数1,778	有効回答数1,743	(在校生数 1年生:135名 2年生:135名 3年生:98名 4年生:109名 5年生:116名)													
2年生: 延べ回答数1,800	有効回答数1,791														
3年生: 延べ回答数1,419	有効回答数1,416														
4年生: 延べ回答数1,696	有効回答数1,668														
5年生: 延べ回答数1,661	有効回答数1,652														
合計延べ回答数 8,354件	合計有効回答数 8,270件														
有効回答	回収は上記の通りであり、学科別の速報版は延べ回答数で処理した。 最終報告書作成に関しては成績データを追加するために学籍番号のマッチングを行ったが、その際、学籍番号無記入のデータが84件見つかり、最終報告書ではそのデータを除いて集計をした。従って、速報版の全体数値と最終報告書の内容がわずかに異なる点もある。														
対象科目	239科目 前年度は教員が異なる同一科目は1つとして集計したが、今年度は別科目として集計した。														
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の最終日に20分程度の記入時間を取って行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOCR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 														
調査主体	学校法人 金沢工業大学														
集計	有限会社 アイ・ポイント														

3) 実施スケジュール

今回の調査のラフスケジュールは下記の通り。

	学年	ステップ	時期	備考
速報版	5年生	調査実施	2月2日～2月8日	各授業の最終日に実施
		データ入力	2月9日に完了	OCRIにより処理
		速報版作成	2月10日～2月18日	
		速報版完成	2月18日	
	1～4年生	調査実施	2月17日～2月23日	各授業の最終日に実施
		データ入力	2月25日に完了	OCRIにより処理
最終報告書	全学年	速報版作成	2月28日～3月7日	
		速報版完成	3月7日	
		成績マッチングデータ作成 報告書作成	4月15日 5月20日	授業データに対して学籍番号で成績をマッチング

4) 集計に関して

- 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するために、加重平均値を多く活用している。選択肢が、「そう思う～そう思わない」のような段階的な選択肢に用いた。加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
- 学年、成績及び6つのグループ[一般科目、語学科目、数理科目、電気情報工学科(電気電子工学コースを含む)、機械工学科、国際コミュニケーション情報工学科(情報工学科を含む)]による比較を行った。(本報告書では、便宜上これら6つのグループを“部会”と称する)
- 平成15年度と平成16年度の比較を行ったが、下記的前提で集計した。
 - 授業番号体系が異なっているため、6つの部会毎の比較は行っていない。
 - 平成15年度の報告書では「評定なし」データも集計対象としたが、今年度は集計方法を統一して、「評定なし」のデータは集計対象外としたため、昨年度の報告書と集計結果が異なる点があると思われる。平成15年度データでは「評定なし」のデータが684件あり、今回の集計ではそれらを集計対象外とした。

5) カイ2乗検定に関して

この調査では、学年毎、学科毎などでクロス集計を行っており、その属性間の傾向を探っているが、そこで統計的にその傾向を確認する方法として「カイ2乗検定」という方法を使っている。
学年別にクロス集計を行うと学年の違いによって何らかの傾向が見られるが、どのような設問に於いても必ず差があるとは言いきれない。特に対象者が少なくなると偶然に差がでることも考えられる。その偶然性を統計的に判断するのが検定であり、今回の集計では複数の選択肢同士のクロス集計なので「カイ2乗検定」という手法を採用している。
「カイ2乗検定」の結果は「有意差あり」「有意差なし」の2つに分類され、「有意差あり」とはクロス集計した変数の間に何らかの関係性があるということであり、「有意差なし」とは実際の数値的に差はあるが、その差はグループの特性によって出たものとは言いきれないことになる。
ここで注意しなければならないのは、「有意差なし」と判断されるということは、「2つの変数の間に関係がない」と言い切れるものではなく、「2つの変数の間に関係があると積極的に判断できない」という解釈となることである。
一般的に100人規模のサンプル数ではクロス集計において20ポイント以上の差がなければ「有意差あり」とならない。また、400人規模のサンプル数であれば10ポイントの差で「有意差あり」となるという目安がある。
本調査はSPSSという統計ソフトでクロス集計を行い、カイ2乗検定を行っており、5%水準で有意差の有無を判断している。5%水準とは検定の結果が間違っている危険性が5%あるということであり、統計学では一般的に5%水準で検定することが慣例となっている。

(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 目次、PP. 1～2)

(資料 3-2-②-3)

「教育の抱負及び実施に関する報告書（自己点検自己評価）」

平成 16 年度教育の抱負及び実施に関する報告書(自己点検自己評価書)

電気情報工学科 教授 直江 伸至

平成 16 年度の目標, 改善事項	実施結果
<p>1. 全般 教育・研究活動を通して本校学生の意欲を向上させる。 幅広い教育を行い、「生きる力」を持った学生の育成に貢献する。</p> <p>2. 教科教育 (1) 送配電工学 昨年度は、全範囲に亘って要点および問題を提示した資料を配布した。学生諸君には好評であったので引き続き、<u>内容を精選したものを学生に提供し理解度を向上させる。</u> 本年度は、<u>資料の練習問題に、電験第 3 種のものを追加して取り入れ、電験第 3 種の問題が容易に解けるようにし、その後、レベルの高い問題を提示することで理解が容易になるばかりでなく、電験第 3 種の合格に近づける。また、最近、環境やエネルギー問題は重要である。このことを踏まえて、環境やエネルギー問題の話題を提供し、学生とディスカッションすることで学生の環境やエネルギー問題に対する判断力つけさせる。</u> 本科目は、数式による表現が多いため、学生の理解が容易でない箇所があった。本年度は、まず<u>概要を理解させ、その後、数式による表現で授業を展開する。</u> 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値を 53.2%(そう思うと+まあそう思う)から 60%に上昇させる。</p> <p>(2) 電気回路Ⅲ 電気工学の全体像を学生諸君に理解してもらうため、<u>基本的な事項の理解および他科目との連携を意識して授業を行い、学生の理解を容易にする。</u> 本年度は、電気関係の話題を提供し、意識付けを行いたい。学期に一課題についてレポート(リレーレポートと呼称する)を通して議論する。例えば、「<u>停電は何故起こるか</u>」などの話題を提供し、その回答を教員または他の学生とのやり取りで、<u>その原因や解決策を模索する過程で、電気回路に興味をもたせるようにする。</u>電気工学に興味を持てば、その後の授業が展開しやすくなるために実施する。 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値を 71%(そう思うと+まあそう思う)から 80%に上昇させる。</p>	<p>1. 全般 所期の目的は果たしたと考える。</p> <p>2. 教科教育 (1) 送配電工学 昨年度使用した配布プリントの改善と新規内容を追加し、学生に配布した。教材や配布資料が有益かとのアンケート結果では約 80%の学生が肯定的な回答を得ている。従って、学生は配布資料に満足していることになる。 電験 3 種の過去の問題を提示したが、学生自身に興味を引くことができなかった。また、環境やエネルギー問題についても同様である。 数式表現を最小限にして概要からの説明を始めたが、学生の興味を引くことはできなかった。 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値は昨年より下がり 36.1%となった。アンケート結果より分析すると、資料や説明の仕方は 80%以上の学生が肯定している。授業の満足度も 53%であることから、教科に対する動機付けや興味の点で工夫が必要である。今後は、意義や概念を中心に授業を進める予定である。</p> <p>(2) 電気回路Ⅲ シラバスに明記されている基本的な事柄については全範囲講述できた。しかし、三相交流回路について理解が十分でない点がある。 リレーレポートは1回のみで終了してしまった。当方に余裕が無かったためである。 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値は昨年とほぼ同じ値であった。来年度は本科目を担当しない。</p>

(出典 「平成16年度 教育の抱負及び実施に関する報告書」 P. 73)

(資料3-2-②-4)

「教育改善への取組と今年度の目標」

教育改善への取組と今年度の目標（平成 17 年度）

所 属	職員番号	職 名	氏 名	作成年月日
国際コミュニケーション情報工学科	81020	教授	今澤 明男	平成17年4月30日

1. 平成 17 年度 担当科目と担当クラスについて

番号	担当科目名 (コマ数)	担当クラス	学期	受講学生数	特記事項
1	創造実験V (6)	E5A・B	123	4	
2	システム工学 (2)	E5A・B	123	47	
3	ソフトウェア工学 (2)	E5B	123	40	
4	電気磁気学I(b) (1)	E4A・B		24	
5	情報処理III (4)	C3	123	17	
6	情報処理I(a) (2)	C1	123	34	
7	情報処理I(b) (2)	C1	123	34	
8					
9					
10					

2. 現在の校務分担を記入してください(各委員会の委員、クラス担任・副担、クラブ顧問など)。

番号	校務名	いつから	番号	校務名	いつから
1	国際コミュニケーション情報工学科長	H15.4.1	11	学園安全委員会委員	H16.4.1
2	学級副担任(C1)	H15.4.1	12	体験入学委員	H15.4.1
3	教務委員会委員	H16.4.1	13	進路指導部会委員	H16.4.1
4	情報教育部委員長	H16.4.1	14	校外実習部会委員	H16.4.1
5	KTC教育評価委員会委員	H15.4.1	15		
6	国際交流委員会委員	H15.4.1	16		
7	穴水湾自然学苑研修部会委員	H15.4.1	17		
8	広報委員	H16.4.1	18		
9	資格指導部会委員	H15.4.1	19		
10	バドミントン部顧問	H16.4.1	20		

3. 学外活動について(名称と内容)

日本経営工学科北陸支部運営委員：支部活動の立案・計画・実施
 金沢市新製品・デザイン開発促進事業選考委員：金沢市内企業を対象とする新製品・デザイン開発促進事業の対象企業選定・進捗評価・助言・結果の評価

注) この報告書は、各自の1年間の計画書として毎年4月に作成します。作成後、校長に提出し、校長のコメントを得た後、各自が保管します。なお、校長との面談にも使用します。

(出典 「平成17年度 教育改善への取組と今年度の目標」 P.82)

「教育改善への取組と今年度の目標」

4. 「わかりやすい授業」の実施に創意工夫している教育方法（教案の作り方、実験するなど授業の展開の仕方、教育機器の使い方、ノートの取らせ方、予習・復習への動機付け、小テストの実施など）について具体的に記入してください。

①授業内容への関心の喚起（「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅲ」）：コンピュータの歴史や教員の学生時代のコンピュータ学習のエピソードなどを講義に挿入し、学生の関心を喚起する。／②練習による基礎力の充実（「情報処理Ⅰ」）：毎授業時に講義内容を理解するための演習を実施しているが、さらに同じ内容の宿題を配布し翌週提出させる。これにより学習内容の定着を図るとともに、結果から学生の理解度を把握する。／③レジュメの配布と授業内容の明確化（全担当科目）：毎回の授業内容をA3版1ページ（場合によって2ページ）のレジュメにまとめて学生に配布し、これにより要点を明確にする。／④図解（全担当科目）：抽象的になりやすい内容を図解し、学生の理解を促進する。

5. 授業改善を図るために、今年度の重点目標とその達成のための取組を具体的に記入してください。

本年度は新規担当科目が2科目5コマ（「情報処理Ⅲ：C3対象」「電気磁気学Ⅰb：E4の昨年度N2留学者対象」）あり、これを充実したものにすることが本年度の最重点課題である。具体的には、①エピソード挿入による授業内容への関心の喚起／②レジュメの作成と授業内容の明確化／③抽象的になりやすい内容の図解化等による学生の理解の促進／④演習ならびに課題の充実による基礎力の育成があげられる。また「電気磁気学Ⅰ(b)」では、対象が留学経験者であることから、英文教材により学生の興味を喚起するとともに、技術英語に関する力も育成する。

6. 学生の自学自習の習慣付けや学習意欲の向上を図るために実施されている取組を記入してください。

①原則として毎週の授業の最初に「予習テスト」を行う。予習すべき内容と重要点は前の週の授業の最後に伝える（「ソフトウェア工学」）。／②資格試験の受験を奨励し、講座を開講している（低学年における「情報技術検定試験」、上級学年における「基本情報処理技術者」試験）。／③主要な資格試験の実際の問題を授業で取り上げ、学生に資格取得へ向けての自信と関心をもたせる。

7. 「心豊かな、創造性にあふれたエンジニアを育成する」ために、授業や課外活動、学生指導等において注力されている点について記入してください。

①情報技術に秀でた学生は、往々にして技術的興味だけに囚われ、自らの社会性を伸ばす努力を怠る傾向がある。そこで、エンジニアが作り上げるものは「作品」ではなく「製品」であり、エンジニアは顧客あるいは社会の代理人としてその技術を活かす立場にあることを理解させ、社会性の大切さを納得させるよう努力している。／②ソフトウェア開発の分野で重要視されている「構造化」の考えは、幅広い分野の創造活動に適用可能であると考え、この考えを学生に浸透させるよう努力している。

8. 前年度の授業アンケートや総合アンケートに基づいて、今年度、特に留意される事項を記入してください。

- (1) 5年次科目「システム工学」「ソフトウェア工学」において、授業満足度を一昨年レベルに引き戻すため、学生が消化不良にならないよう講義・演習をコントロールする。
- (2) 清掃活動などを通じて担当クラスならびに学科の学生との接触をより多くする。

9. 授業を進める上でライブラリーセンター、夢考房などの施設利用に関してご意見を聞かせてください。

夏休みの宿題として専門科目に関するサイドリーディングを計画中。

10. 自由意見（ご提案やご要望など）

①現在、各教室にOHPが配備されているが、ノート型パソコンの普及に鑑み、各教室分（15台）程度の小型プロジェクターを教員室に配備してはどうか。／②忙しい中で多数の科目の授業準備、演習・宿題の採点等をしなければならない立場としては、突如の会議は致命的であり、本校では当日突然会議が開催されるということが多すぎる。会議は原則1週間前に通知し、止むを得ない場合も3日前までに通知するとの申し合わせを行ってはどうか。さらに3日以内に会議を開催する場合は理由・原因を明示し、議事録に記録すれば、校務の運営改善・効率化へつながるのではないかと。

11. 校長コメント

平成16年度の授業アンケートでは満足度が高い（約90%）。これは普段からの授業改善への努力の賜であり評価したい。学科で取り組む資格教育については、基本情報技術者試験4名（目標5名）などよい結果を得た。平成17年度は、予習テストなどユニークな授業を継続し、また授業アンケートに基づく改善への取り組みが奏功することを期待している。プロジェクターの配備当についてのご提案については早速検討したい。会議の案内は、特別の場合を除いて1週間前までに通知することとしたい。

金沢工業高等専門学校

（出典 「平成17年度 教育改善への取組と今年度の目標」 P.83）

観点3-3-① 学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点にかかる状況）

・本校の教育課程を展開するに必要な事務的、技術的支援の体制は、学園が設置運営する教育支援機

構及び研究支援機構によって構築されており、各機構に所属する職員は本校及び金沢工業大学の教育研究活動の支援を本務としています。

- ・また本校の教育活動を支援するための事務職員として本校の専任事務職員3名の他、学園の教育支援機構に所属する事務職員27名が支援体制を構築しています。
- ・技術職員等については、基準3-1-②で述べた通り金沢工業大学の大学院生をTA(資料3-1-②-1「TA採用状況」:訪問調査時閲覧資料)、学部生をSA(資料3-1-②-3「SA採用状況」:訪問調査時閲覧資料)として採用する他、学園の教育支援機構に所属する技師31名(資料3-1-②-2「学園の技術職員(技師)一覧」:訪問調査時閲覧資料)が教育活動を支援しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校専任の事務職員は少数ですが、学園が設置運営する教育支援機構の事務職員や技術職員の支援や本校が採用するTAやSAによって本校の教育課程の運営は適切に行われていると考えています。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・英語教員、特にネイティブ・スピーカーの配置が充実しており、本校が教育の実践目標として掲げている『英語教育』のさらなる向上に向けて、15名程度の少人数による英語教育を可能とする教員組織体制が構築されています。
- ・毎年実施される校長と各教員との面談によって、校長は、各教員から提出された報告書や授業アンケート等を踏まえて必要な改善点を指摘し、方針を全教員個々に伝えることができます。また、校長は、各教員の現状や思いを十分に把握することができます。

(改善を要する点)

- ・教員の評価とその改善に関する指導に校長の負担が大きく、また多くの点が校長に依存されており、改善する必要があると考えています。

(3) 基準3の自己評価の概要

一部の専門科目については、より実務的な教員の補充によりその充実を目指すこととしています。現在、一般科目及び専門科目の教員の配置は、適切に行われており、特に、英語教育に関する教員が充実していると考えています。教員の年齢構成には一部不均衡が見られることから、若手教員の採用を推進しています。また、教員に対する学位取得や留学を含むキャリアアップのための支援など、教員組織の活動を活性化するための措置が講じられています。

教員の採用基準や昇格基準は、「教員任用基準」及び「教員昇任基準」として定められています。

教員の教育活動に関する定期的な評価としては、各教員による「教育の抱負及び実施に関する報告書」の提出、それに基づく校長の評価、校長との面談、各教員の次年度の計画立案に関する「教育改善への取り組みと今年度の目標」の作成、「KTC総合アンケート」や学生の「授業アンケート」の実施などを行っており、校長が教員の活動を把握・評価するシステムが整備され、機能しています。

事務職員や技術職員等による教育支援の体制も学園が設置運営する教育支援機構の事務職員、技術職員によって適切な支援が行われています。

以上のとおり、教員の配置状況、教員の採用及び昇格の方法、教員の教育活動を評価する体制、及び事務職員、技術職員等の教育支援者の配置の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準 4. 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-① 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

(観点にかかる状況)

- ・入学者を選ぶ時代から入学者に選ばれる時代になったとの認識から、本校においては、「教育の実践目標」を明確に定め、こうした教育を求める学生を選抜したいと考えています。そのため、入学案内や学校見学会・体験入学における「サイエンス講座」や「モノづくり教室」、あるいは年3回入学案内等作成資料を持参し、中学校(約100校程度)に訪問して学校説明を通じ教育内容や目標を理解いただくことに努めています。また、こうした活動は本校の全構成員が参加しての活動であり、「本校の教育に共感し、自己実現の意欲を継続できる人材」を求める姿勢を明確にしています。
- ・本校のアドミッション・ポリシーは、「入学試験の面接に係る申合せ」に定められ、教職員に周知されています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の教育目標が入学案内や中学校での説明会によって周知されています。また、学校見学会・体験入学の参加者の中から多数の生徒が入学する実績から、本校のアドミッション・ポリシーが理解され、本校への入学に繋がっていると認識しています。(資料 4-1-①-1 「刊行物の配布数」)(資料 4-1-①-2 「学校見学会・体験入学参加者数」)(資料 4-1-①-3 「学校説明会参加者数」)
- ・中学校に訪問しての学校説明や学校見学会、体験入学の実施には、本校の教職員全員が参加し、説明や案内に従事することから、本校の教職員は、本校のアドミッション・ポリシーを理解できていると考えます。
- ・本校のアドミッション・ポリシーは「入学試験の面接に係る申合せ」(資料 4-1-①-4 : 訪問調査時閲覧資料)に明確に定められています。

(資料 4-1-①-1)

「刊行物の配布数」

<平成16年度>

都道府県	訪問校	未訪問校	刊 行 物					計
			ハンズオン (リーフレット)	体験入学 案内	ハンズオン (入学案内)			
					体験入学時	資料請求	中学訪問・学校説明会等	
石川県	97	7	12,100	12,100	300	50	4,500	4,850
富山県	14	72	1,750	1,750	0	5	300	305
計	111	79	13,850	13,850	300	55	4,800	5,155

(資料 4-1-①-2)

「学校見学会・体験入学参加者数」

		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
参加者数	第1回	192	131	193	235	291	153
	第2回	159	90	164	129	166	133
	第3回	—	66	—	—	—	—
計		351	287	357	364	457	286
(内：入学者数)		(65)	(22)	(63)	(58)	(72)	(46)

(資料 4-1-①-3)

「学校説明会参加者数」

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
学校説明会 参加者数(教員)	82	70	124	156	150	106

観点 4-2-① アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の入学者選抜は、推薦入学試験と一般入学試験によって行われています。推薦入学試験は、中学校長の推薦に基づいて基礎学力試験と面接によって選抜しています。(資料 4-2-①-1「入学試験問題2004」) 本校が5年間にわたる専門分野の教育機関であることから、途中での進路の変更は非常に困難です。中学校側で本人や保護者との話し合いが行われることが望ましく、結果として推薦による入学者を優先してきました。多年にわたる「本校の教育に共感し、自己実現の意欲を継続できる人材」を求める本校の選抜のあり方が中学校側に浸透した結果として学力での志願者は少数に留まっています。また、一般入学試験においても面接を実施し、本校への進学意欲の確認を行っています。
- ・校長を長とする入試本部が入試運営委員会を設け、入学試験に関する業務全般を統括し組織的に実施しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・推薦入学試験および一般入学試験での「面接」は、本校の「入学試験の面接に係る申合せ」に基づいて実施することで適切に行われていると考えています。また、試験の実施前には、試験を担当する教職員が全員集まり、試験実施に関する注意事項等を周知徹底しています。
- ・「金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて」(資料 4-2-①-2)に基づく入学者選抜にかかる運営組織と手順によって適切に実施されています。

(資料 4-2-①-1)

「入学試験問題 2004」

数学 (50分)

1. 次の計算をしなさい。(計算の途中過程は書きなさい。)

(1) $(-3)^2 \times (-2)^3 \times 5$

答 _____

(2) $\sqrt{43} + \sqrt{57} + \sqrt{5}$

答 _____

(3) $\frac{3-2y}{3} - \frac{4x+y}{3} + y$

答 _____

(4) $\frac{5}{2}a^2 + \frac{3}{2}a + (-\frac{a}{2})$

答 _____

2. 次のそれぞれの問いに答えなさい。(計算の途中過程は書きなさい。)

(1) $-a^2b + 4b$ を因数分解しなさい。

答 _____

(2) ある整数 x を 3 倍してから 2 乗しなければならぬのに、誤って 2 乗してから 3 倍したため、計算の結果が 600 だけ小さくなりました。はじめの整数 x の値を求めなさい。

答 _____

(3) $(x+6)(2x-1) - (x-3)^2$ を展開しなさい。

答 _____

(4) 半径 3cm の円があります。この円から半径が 3cm で中心角が 20° と 40° の扇形を切り抜いたところ、斜線のような図形になりました。この斜線形の面積を求めなさい。



答 _____

3. 横の長さが x 、たての長さが y である長方形があります。このとき、次のそれぞれの問いに答えなさい。

(1) 面積が 10 になるような長方形を作るためには、それぞれの辺の長さをどのようにすればよいでしょうか? 下の表の空欄 (ア) ~ (ウ) にあてはまる数を求めなさい。

横の長さ : x	1	(ア)	(イ)	2.0
たての長さ : y	1.0	5	2.5	(ウ)

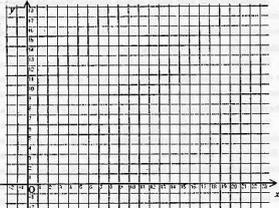
答 (ア) _____ (イ) _____ (ウ) _____

(2) x と y の関係を数式で求めなさい。

答 _____

(3) x と y の関係をグラフで表しなさい。

ただし、(1) の表における x, y の値の範囲と座標と軸を、グラフ上にあてこめなさい。



4. 5円玉と 10円玉と 50円玉を使って、ちょうど 80円にしたいと考えています。次のそれぞれの問いに答えなさい。

(1) 5円玉と 10円玉だけを使うとすると、組み合わせは何通りありますか? ただし、どちらも必ず 1枚以上使うとします。

答 _____

(2) どれを使っても良いことにすると、全部で何通りありますか? ただし、1枚も使わないものがあるても良いことにします。

答 _____

5. 図のように、4つの一次関数のグラフの交点を A, B, C, D とします。このとき、3点 A, B, C の座標はそれぞれ (3, 6), (0, 3), (4, 0) でした。次のそれぞれの問いに答えなさい。(計算の途中過程は書きなさい。)

(1) 2点 A, B を通る直線の式を求めなさい。

答 _____

(2) 直線 AD の式は $y = -\frac{4}{3}x + 10$ 、直線 CD の式は $y = x - 4$ でした。このとき、点 D の座標を求めなさい。

答 _____

(3) 四角形 ABCD の面積を求めなさい。

答 _____

6. 図のような三角形 ABC があります。この三角形 ABC を、点 C を中心として、点 B が辺 AB 上にくるように回転しました。このとき、回転して得られた三角形を A'B'C' として、辺 AC と辺 A'B' の交点を D とします。

次のそれぞれの問いに答えなさい。(注: 図は実際の角度、長さとは異なりすので、注意してください。)

(1) 三角形 A'B'D と三角形 A'CD は相似であることを証明しなさい。

(証明)

答 _____

(2) $\angle B'DC = \angle B'BC$ のとき、 $\angle BCB' = \angle DCB'$ であることを証明しなさい。

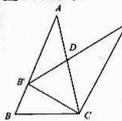
(証明)

答 _____

(3) (2) の条件のもとで、 $\angle DCB' = \angle DCB$ であることを証明しなさい。

(証明)

答 _____



理科 (50分)

1. 下の ア ~ コ までの原子について、問に答えなさい。答は () 内に書きなさい。

ア. 水素 イ. 炭素 ウ. マグネシウム エ. 塩素 オ. 鉄 カ. O 希. Ar ク. N ケ. Na コ. Cu

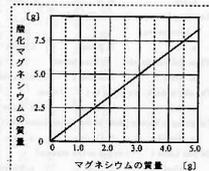
- ア ~ オ を原子の記号で書きなさい。
ア () イ () ウ () エ () オ ()
- カ ~ コ の記号で表される原子の名前を書きなさい。
カ () キ () ク () ケ () コ ()
- カ と コ の原子からできる化合物の物質名とその化学式を書きなさい。
物質名 () 化学式 ()
- エ と ケ の原子からできる化合物の物質名とその化学式を書きなさい。
物質名 () 化学式 ()
- オ と カ の原子 1 個の質量を比較して、同じ場合は○を、ちがう場合は×を書きなさい。()
ア ~ コ までの原子が、単体となったとき分子になるものを 3 つ、分子にならないものを 6 つ選んでア ~ コ の記号で書きなさい。
分子になるもの () () ()
分子にならないもの () () () () () ()
- ア ~ コ までの原子が、単体となったときに金属の性質を示すものを 5 つ選んでア ~ コ の記号で書きなさい。() () () () ()

2. A, B, C の 3 つのビーカーに濃度 5% の水酸化ナトリウム水溶液がそれぞれ 10 [cm³]、20 [cm³]、40 [cm³] ずつ入っている。この A, B, C のビーカーに、ある濃度の塩酸を 15 [cm³] ずつ加えてよく混ぜ、B のビーカーの水溶液の性質を調べたら中性だった。問に答えなさい。答は () 内に書きなさい。

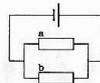
- 酸とアルカリがたがいの性質を打ち消しあう変化を何というか。()
また、このときできた物質を何と呼ぶか。()
上の水酸化ナトリウム水溶液と塩酸との反応でできた物質の名前は何か。()
- A のビーカーの水溶液の性質は、酸性、中性、アルカリ性のどれか。()
- C のビーカーの水溶液を中性にするためにはどちらの水溶液を、あとどれだけ加えればよいか。
水溶液 () を、あと () [cm³] 加える。
- B のビーカーの水溶液をスライドガラスに少しとり、水分を蒸発させたあと、顕微鏡で調べた。このとき見えた結晶のような形のものは何か。()

3. 右の図は、マグネシウムとしょうぶん加熱し酸と反応させたときの、マグネシウムの質量とできた酸化マグネシウムの質量との関係を表したグラフである。問に答えなさい。

- マグネシウム 3.0 [g] が酸と反応すると、酸化マグネシウムはどれだけできるか。
答 _____
- マグネシウム 7.5 [g] と反応する酸の質量はいくらか。
式 _____
答 _____
- マグネシウムの質量と化合する酸の質量を関係な数値の比で表しなさい。
答 _____



4. 10 [Ω] の抵抗 a と 15 [Ω] の抵抗 b を下の図のように電池につないだ。



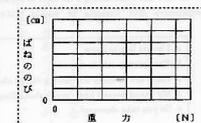
- この状態で 15 [Ω] の抵抗 b を流れる電流の大きさを求めるには、電流計をどのようにつなげばよいか。右の枠の中に全体の回路図を書きなさい。図の中の電流計を利用して書きなさい。
- 15 [Ω] の抵抗 b を流れる電流が 0.12 [A] であった。電池の電圧はいくらか。
式 _____
答 _____
- 電池から流れ出る電流はいくらか。
式 _____
答 _____

5. 右の図のようにばねに 50 [g] のおもりをつるしたとき、ばねの伸びが 1.2 [cm] であった。

(1) 50 [g] のおもりにかかる重力の大きさはおよそ何 [N] か。
答 _____

(2) 50 [g] のおもりの数を 1 個ずつ増やしていったら、のびが下のようになった。この表をもとにして、縦軸にばねののび [cm]、横軸に重力の大きさ [N] をとったグラフを右に書きなさい。

おもりの数 [個]	1	2	3	4	5
ばねののび [cm]	1.2	2.3	3.6	4.9	6.0



(3) おもりを 1 個つるした状態で、右の図のように + [N] の電気をおびた物体をおもりの下部に近づけたところ、ばねののびが 3.6 [cm] となった。以下の問に答えなさい。

- 下の文章の () 中に適切な言葉を入れなさい。
+ [N] の電気をおびた物体を近づけたとき、ばねののびが大きくなったことから、おもりにかかる下向きの力の大きさが () になったと考えられる。つまり、近づけた物体がおもりに () 向きに力を与えたこととなる。近づけた物体が + [N] の電気を持っていたので、このおもりは () の電気をおびていたことが予想される。
- 近づけた物体がおもりに与えた力の大きさは何 [N] か。
式 _____
答 _____



平成 16 年度 入学試験問題

●一般入試

(出典 「入学試験問題 2004 (過去 3 年間)」 P. 1)

英語 (50分)

1. 次の1)～8)の文中に入るべき語を抜頭の類文字につづけて完成させなさい。
- It is too dark to read without a 1 .
 - We need a 2 . _____ to use the Internet.
 - 3 _____ comes after Wednesday.
 - We went to Australia during last summer's 4 .
 - What 5 _____ of sports do you like?
 - My parents are the 6 _____ age. Both of them are forty-five years old.
 - Go 7 _____ on this street, and you will find the post office on your left.
 - 8 _____ is the month between March and May.

2. 次の1)～7)の質問の応答として正しいものを後のa～gより選んで()に記号を書きなさい。
- Excuse me. Can you help me with my homework? ()
 - Where are you from? ()
 - I really liked the movie. What did you think? ()
 - How did you like your visit to Kyoto? ()
 - How many times have you been to Paris? ()
 - May I speak to Mike? ()
 - Which sweater do you want? ()
- a. I'll take the yellow one.
 b. I was very impressed with the beauty of the city.
 c. From San Francisco.
 d. I'm sorry. He is not here. May I take a message?
 e. Sure. I'd be glad to.
 f. I thought it was O.K.
 g. Oh, more than twenty times.

3. 次の1)～10)の各文の()に入る正しい語句をa, b, c, dより1つ選んで()に記号を書きなさい。
- Whose car is this?
It's ().
a. him b. his c. her d. me
 - () everyone like the English teacher?
a. Do b. Is c. Does d. Are
 - How long have you lived in Kyoto?
() ten years.
a. For b. Since c. With d. By
 - When did you finish () the letter?
a. write b. wrote c. written d. writing
 - The sky is dark. It's going to () soon.
a. rain b. raining c. rains d. rained
 - I'm going to have a party at my house tomorrow. () you like to come?
a. Would b. Could c. Can d. Did
 - Do you know () to get to the station?
a. what b. how c. where d. who
 - The students like Mr. White's English class () he is a very good teacher.
a. but b. because c. than d. without
 - There () three boys and two girls in my family.
a. be b. is c. are d. am
 - What time does your school start?
It starts ().
a. at 8:30 a.m. b. on 8:30 a.m. c. in 8:30 a.m. d. for 8:30 a.m.

4. 次の対話文中の()の中に入る最も適切なものを後のa～iより選んで()に記号を入れなさい。
- M = Masayuki R = Roland
 M: What is the most interesting thing about Japan?
 R: It's difficult to choose only one. ()
 M: Well, have you seen any differences between Singapore and Japan?
 R: () There are a lot of differences between our two countries.
 M: Please give an example. ()
 R: All right. Let me see...OK. How about this? In Singapore, we usually don't take a hot bath because it is very hot and humid.
 M: ()
 R: Yes, we do, but the water is usually cool. The temperature of the water is about 30°C to 30°C.
 M: How () We usually use 42°C hot water.
 R: The first night when I came to your house, you asked if I wanted to take a hot bath, but () The bath water was too hot for me. I was not able to get into the bathtub.
 M: Really? I didn't know that. I thought you enjoyed a Japanese-style hot bath at that time. ()
 R: It's OK now and I like taking a hot bath in Japan, but I can't stay in the bath for more than two minutes!
- 注: differences: 違い example: 例 humid: 湿気が多い temperature: 温度

- | | |
|--|---|
| a. I would like to know. | f. How about now? |
| b. That sounds cold to me. | g. I didn't play it. |
| c. There are so many interesting things about Japan. | h. Yes, I have. |
| d. My friend doesn't know much about Singapore. | i. I was shocked when I got into the bathtub. |
| e. Do you take showers? | |

5. 次のタイムノールという薬の説明書を読んで後の1)～6)の各文が説明書の内容に合っているなら○、違っているなら×をそれぞれ()に書きなさい。

Tylenol
 For: Headache, backache, colds, toothache, and fever.
 Directions:
 Adults and children 12 years old and over
 • Take 2 tablets every 4 to 6 hours.
 • Do not take more than 8 tablets in 24 hours.
 • Children under 12 years old do not take this tablet.

Warnings:
 If you take too many tablets, call your doctor immediately.
 Questions and Comments:
 • Call: 1-888-634-2233
 • Write to: Green Drug and Healthcare
 Bridgeway St.
 Colchester, Texas 54762
 U.S.A.

- 注: Tylenol: 鎮痛剤・解熱剤 headache: 頭痛 backache: 腰痛 colds: 風邪 toothache: 歯痛 fever: 熱 tablet: 錠剤
- () Adults have to take more than 8 tablets in 24 hours.
 - () Adults can take 3 tablets every 4 to 6 hours.
 - () 10-year-old children can take this tablet.
 - () If you have any questions or comments, you can call or write.
 - () If you take too many tablets, take a rest at home.
 - () Green Drug and Healthcare is in the U.S.A.

6. 次の英文を読んで後の設問に答えなさい。

My name is Masayuki and I am a high school student. I had a great experience in June this year. A student from Singapore stayed at my house for a week. His name was Roland Tan and he is a twenty-year-old university student in his country. He came to Kanazawa to attend an international student meeting in Kanazawa. Over 200 students from all over the world came. ① All of the students in the meeting enjoyed their homestays at people's homes in Kanazawa. ② 私の家族と私はローランドを私の家に迎入れてとてもうれしかった。

Roland was very kind and a serious student. When he was at our house, he talked a lot about his country, Singapore. I didn't know much about the country before, but I started to be interested in () the culture and people of Singapore after listening to Roland. He told us that many ethnic groups live there. ③ People in Singapore speak English, Chinese, Malay, and Tamil. English is their official language and many ethnic groups use English to communicate with each other.

Singapore is a small island and it is a very clean country. Roland said people in Singapore do not throw garbage away on the streets. If they do that, they will have to pay a fine. Many tourists visit () and they like the country because it is very clean. People in Singapore try to keep their country clean. I think this is very important and we should learn this wonderful behavior from Singapore. Some people in Japan throw garbage, cans, trash, and cigarettes in public places.

During his stay at my house, I tried to talk to him in English. Of course, my English is not very good but we tried to understand each other. We sometimes used dictionaries to communicate. I learned about the many differences in language, culture, people and rules between our two countries. I learned a very important thing from our conversations. That is, ④ We are all the same people and we can be friends even though we have different languages and cultures. We must understand and respect each other. This can also be true of countries. If we try to understand and respect differences among countries, we will all be happy and the world can be one.

注: attend: 出席する serious: まじめな culture: 文化 fine: 罰金 tourist: 旅行者 garbage: ごみ trash: くず throw away: 捨てる behavior: 行い rule: 規則 conversation: 会話 respect: 尊敬する

- 設問1) 下線部①の英語を日本語で表す時、次のa, b, cのうち正しいものを○で囲みなさい。
- 会議に出席した学生達は金沢の人々の家にホームステイすることを楽しんだ。
 - 会議に出席した学生達は金沢の人々と出会ったことをよろこんだ。
 - 会議に出席した学生達は金沢の人々にホームステイの素晴らしさを教えた。
- 設問2) 下線部②の日本語に合うように()内の単語を並び替えて英文を完成しなさい。
- (and, to, Roland, my, house, very, family, I, at, were, happy, have, our)

- 設問3) ()に入る最適な語をa, b, c, dより1つ選んで○で囲みなさい。
- a. on b. than c. in d. of

- 設問4) 下線部③の文を English を文頭にして同じ意味を持つ文に書き換えるために()に1語ずつ書きなさい。
- English, (), (), and Tamil (), () Singapore.

- 設問5) 下線部④の語を発音が同じで綴りと意味が異なる語を文中より選んでその語を書きなさい。

- 設問6) 下線部④の部分の英文は日本語で言うどのようなことを言っているのか次の日本語に続けて完成させなさい。
- たとえ言語や文化が違っていたとしても、私たちは_____

- 設問7) 次の質問に英語で答えなさい。
- Why did Roland come to Kanazawa?
 - Did Masayuki know a lot about Singapore before he met Roland?

国語 (五十分)

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ニューヨークに滞留していたとき、歌舞伎がやっていた。見に行った同行の友人が、暗い表情でもってきた。歌舞伎はすばらしいが、開幕前、ロビーで、日本の若い人のごあいさつがあったのをきかされて涙がこぼれ、という、日本的な規模でいえば、べつにわるいスピーチではない。こころの日本的とは、たとえばできるだけ私情を入れず、その催しの概説をのべ、公演の意義をかれ、さらには公演にいたるまでの関係各位の労をたたえ、といった「ごあいさつ」をさす。日本人のあいさつで、それで十分足りる。私も日本人は、無意味な言語に忍従するように、馴らされている。さらには、言語というものは魅力のないものだときめてもいるのである。この場合、友人が心を暗くしたのは、そのスピーチを地元のアメリカ人にも聴かされたことだった。

言語は、ひとりごとである場合以外は、他者のものでもある。聴かされる側にとって、自分の時間と体力と、それに相手の言語が喚起する想像力という三つのエネルギーを話し手に提供しているのである。魅力のない言語は、傍聴にひとしい。しかも人間は、言語こそこの世の魅力の最高のもので、とだれもが意識の底におもっている。乳幼児は言語こそ奪られないが、たえず母親のことばによって、聴覚を誘い大膽に、快く刺激をうけつけている。人間が最初に出会う芸術は、絵画でも音楽でもなく、言語なのである。やがて幼児が言語の意味を解するようになると、母親が話してくれるおとぎ話を、宇宙のかがやきと同質のものを感じてしまう。

三遊亭内朝は、幕末から明治中期にかけての作家で、不世出の天才だったらしい。創作もした。私はその速記録『円朝全集』をもっているが、どうにも感情移入ができて四苦八苦してしまふ。やはり内朝は音声言語で書くべきものであると思う。かれの生涯で、山岡鉄舟との出会いは大きい。鉄舟は不世出の剣客であり、あらゆる面で、磨りあげたようなサムライの典型だった。鉄舟が、自分は幼いころ寝床のなかで母親か、徳太郎の斬きかけた、この斬りになってそのおもしろさが忘れられない、ぜひ徳太郎の斬をしてみたい、……内朝は大いに怖れ、とても自分には先生の母君が、別い感受性にあたえたような能力がない、とこわった。請うた側のほうの鉄舟も、こわったほうの内朝も、言語における魅力とはなにかというところを知りぬいていたのである。

私がおおとして語っているのは、内朝・鉄舟における言語の本質論というより大それたものではない。ちよつとした方法論をいおうとしている。話し手の「ア」こそが、言語における魅力をつくりだすということである。それが唯一の条件でないにせよ、正直さの欠けた言語は、ただの音響にすぎない。私は日本人は「イ」とは決して思わないが、しかし「ウ」であろうとするところについての練度が不足しているとはたしかである。ナマ正直はしばしば下品で悪徳でさえある。しかし練度の高い「エ」は、まったくべつのものである。ユーモアを生み、相手との間を水平にし、安堵をあたえ、言語を魅力的にする。もしニューヨークでの歌舞伎の開幕前のスピーチで、えらい人が、じつをいうと私は日本人のくせに歌舞伎には関心がうすい、と正直に言つたら、もつとすばらしかつたらう。

(司馬遼太郎「言語の魅力」より)

問一 傍線部①～⑤の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 ア イ エ 正直 または不正直 という語句が入る、適当な語句をそれぞれ答えなさい。

問三 傍線部aについて、なぜ「アメリカ人とともに聴かされた」ことが「心を暗く」する原因となるのか。その理由を具体的に説明しなさい。

問四 傍線部b「幼い感受性にあたえたような能力」とあるがどのような「能力」なのか説明しなさい。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

いのちが生まれ、死んでいく。その当たり前のことが見えない都会の生活、ところが大草原サバンナでは、生と死が視覚的にとらえやすい。生まれたばかりの草食獣の子どもが、その日のうちにチーターに食べられるシーンを何度も「モグキ」してきた。残酷でかわいそう」と言う人が多い。確かに、確かに見ていると切ない気持ちになる。が「かわいそう」と言った人がチーターの子どもを見たときは「かわいい」と大喜びしている。どちらも素直な感情なのだろうが、「その感情を超えたところにある。いのちの真実について知ってほしい。昨年出会ったチーター親子の物語。母親と生後二週間の子どもたちは、とてもやせていた。地上最速のチーターでさえ、獲物を狩るのはそうたやすいことではない。母親が何日も食べていないと母乳が出なくなるので、子どもたちはやせてしまったのだらう。かわい子どもたちが無事に育ってほしいと思うのだが、生き残る必要があるのは、子どもよりもむしろ親の方。親が死ねば当然子どもは死ぬ。親が生き残れば遺伝子を継承する可能性が出てくる。」そのような状況でも、母親は子どもたちの折り目もなしに、翌日には子どもは三頭から二頭に「い」、その翌日にはもう姿を見ることができなくなった。サバンナでチーターの子どもが大人になれる。カグリツは低い。だから母親が狩りに成功したとき、草食獣を「B」と感じる以上に「チーターのいのちがなくなつてよかった」と思ってしまう。食べられる草食獣の数は圧倒的に多く、天敵の間引かなければ、数が増えすぎて種の「C」の図式でとらえては、いのちの本質からかけ離れてしまふ。自然界は「D」的なパランスの上に成り立っていて、その中で生きていくことも食べられることも必要のこと。大切なのは「E」ではなく、新しい「いのち」がつかうっていくことなのだ。

(井上冬彦「生と死が見える場所」より)

問一 傍線部アイオのカカナを漢字に直して書きなさい。

問二 傍線部I「その感情」とはどのような感情なのか説明しなさい。

問三 傍線部II「そのような状況」とはどのような状況なのか説明しなさい。

問四 この文章を二段落に分けるとすると、二段落と三段落はどこからか。それぞれの初めの四字を抜き出さなさい。

問五 A E に入る最も適当な語句を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ語句は入らない。)

- ①「食う」食われる
②「死なないこと」
③「かわいそう」
④「早く狩りに成功してほしい」
⑤「残酷」かわいそう

問六 この文章についての感想を三百字以内(句読点を含む)で書きなさい。

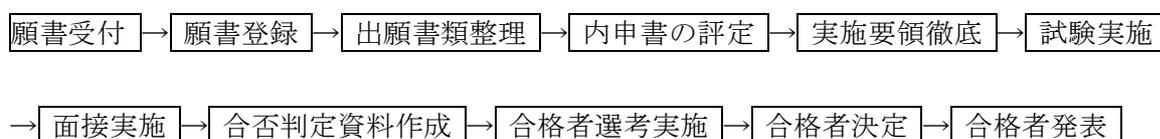
(資料 4-2-①-2)

「金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて」

金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて

1 この取扱いは、金沢工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 16 条の規定に基づき入学試験及び合格者選考に必要な事項について定める。

2 入学試験に係る業務は、次の手順をもって実施される。



3 入学試験は、別表 1 の金沢工業高等専門学校入学試験運営組織をもって実施される。

(1) 入試本部は、校長が長となり入学試験に関する業務全般を統括する。

(2) 校長は、入学試験を適正に実施するため、入試本部に教務主事を責任者とする入試運営委員会を設置する。

(3) 入試運営委員会は、入学試験を円滑に運営するため次の業務を行う。

イ 願書の受付け、整理

ロ 入試問題の作成及び確認

ハ 入試実施のための会場設営及び運営資料の作成

ニ 筆記及び面接試験の実施

ホ 試験の採点及び確認

ヘ 合否判定資料の作成及び確認

ト 合格者の選考

(4) 入試運営委員会は、合格者の選考結果をとりまとめ、校長に提出する。

4 校長は、入試運営委員会より提出された選考結果について、学務会議に諮ったうえで合格者を決定し、発表する。

5 推薦入学試験の不合格者が、引き続き一般入学試験の受験を希望するときは、一般入学試験の出願手続を行うことなく受験できることとする。この場合、当該受験者の受験料は免除する。

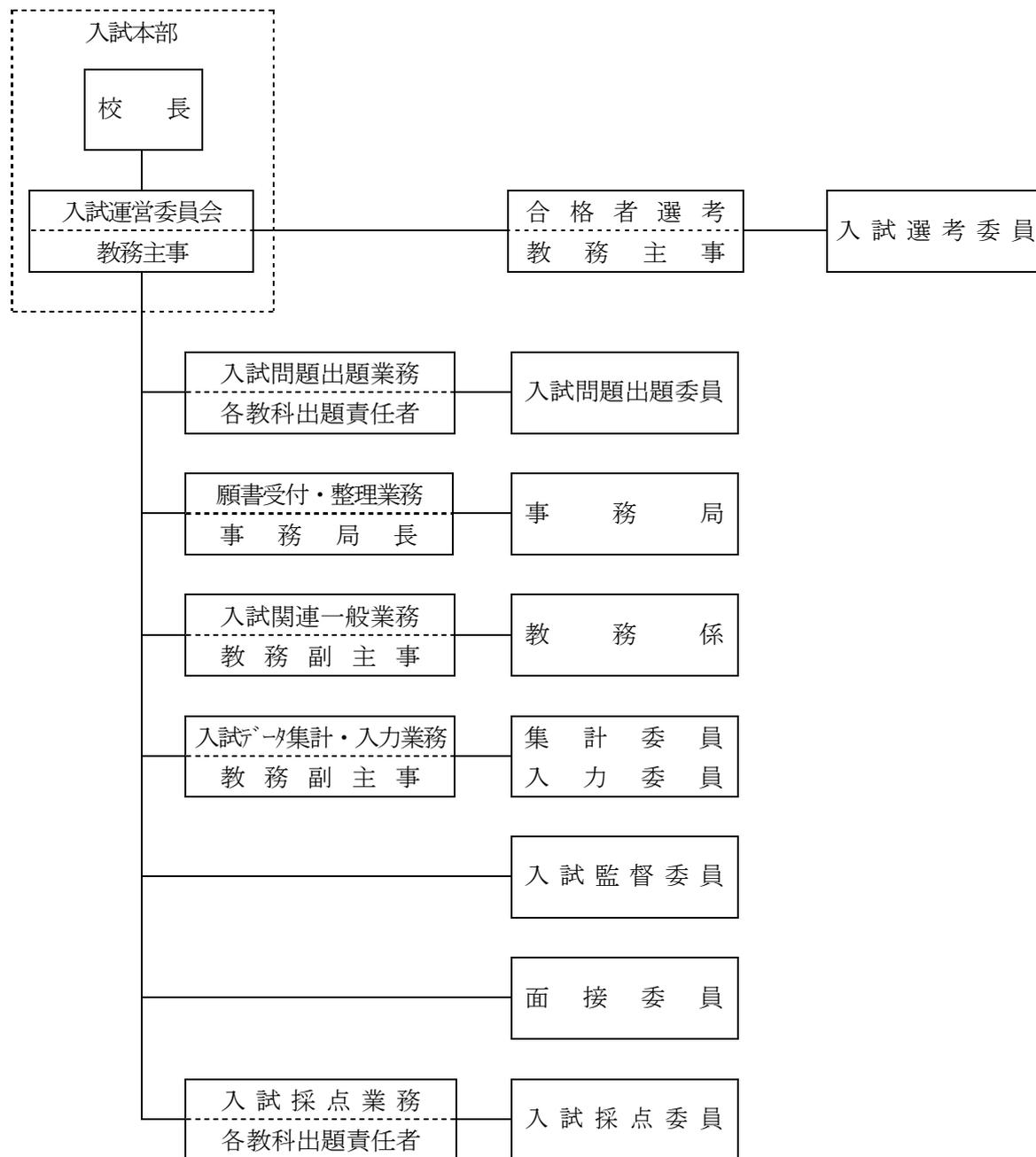
附 則

この取扱いは、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 95)

別表 1

金沢工業高等専門学校入学試験運営組織図



(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 96)

観点4-2-② アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の教育等に共感し、自己実現の意欲をもって入学した学生にとって、本校の教育が満足できるものとなっているかが最も重要な視点であると考えています。昨年実施したアンケートの結果において、新入生の約80%、在學生においては約50%が「満足」を示しており、改善が必要であると認識しています。(資料4-2-②-1「新入生アンケート調査結果」)、(資料4-2-②-2「KTC総合アンケート調査結果」)
- ・しかし、在學生の満足度の減少は、入学試験制度上の問題に関与しているとは考えていません。その理由は、新入生を対象としたアンケート調査では、入学前と入学後の短期間による本校のイメージについての確認となり、本校の雰囲気や共感性は高くても言えます。在學生は、授業内容のレベルが上がることや、学生生活上でのあらゆる問題に直面する中において、残念にも満足度の評価が減少しているものと認識しています。
- ・退学者の中で、不本意入学による進路変更はごく少数に留まっており、その理由の大半は、家庭の事情や、成績不良によるものです。また、成績不良者に対しては、担任と各教科担当者が連携をとり、個別指導を行うことでその改善に努めています。

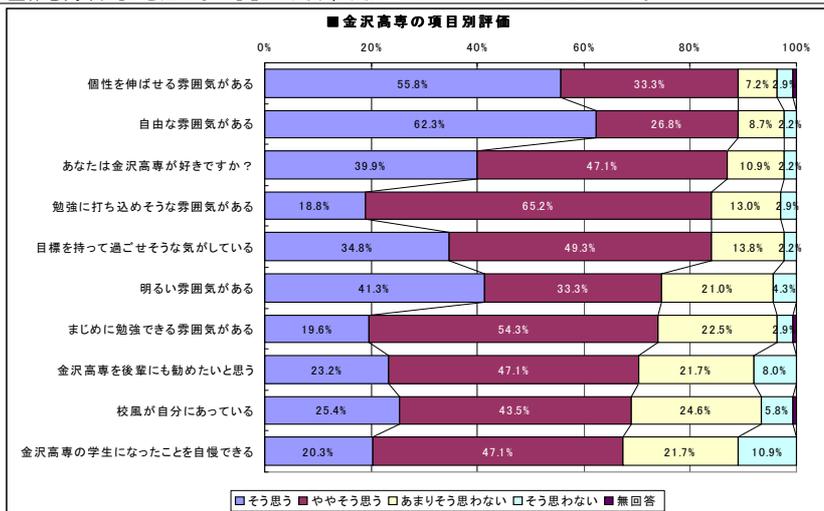
(分析結果とその根拠理由)

- ・KTC総合アンケート調査の結果、在學生の満足度は50%です。不満足な理由を検証すれば、勉強がきつい、勉強がわからないがその理由の大半を占めています。
- ・学生に目標を持たせ、意欲を触発する教育実践に一層の努力を払い、教育改善を進めてまいります。その第一歩として、学生満足度が高学年において低下する原因が、入学時に描いていた学生自身の目標あるいは夢が高学年まで持続できていないことにあると考え、平成17年度からキャリアデザイン教育の導入を図りました。また、学生の意欲を触発する取り組みの一つとして、1日一感動運動を平成17年度から実施することとしました。
- ・最も多感な時期にある学生に対して、退学者の問題は、本校において重要な事項であると考えています。常に退学理由の検証を行うことで改善を図っており、今後も継続して努力していく所存です。
- ・入試の検証については、学生満足度を基本としたいと考えていますが、学力の追跡調査等の導入も今後の検討すべき課題と考えています。

(資料 4-2-②-1)

「新入生アンケート結果」

- 金沢高専の雰囲気などに関して聞いたものを、「そう思う」と「ややそう思う」の合計値でソートしたものが下記のグラフとなる。
- まず、全体では「あまりそう思わない」「そう思わない」は合計しても4割未満であり、雰囲気や高専の評価はマイナスではないことが分かる。
- 雰囲気では「個性を伸ばせる雰囲気がある」「自由な雰囲気がある」といった点であり、両者ともに9割程度の学生がそう感じていた。また、「勉強に打ち込みそうな雰囲気」に関しては「ややそう思う」が多かったものの84.0%がそう感じていた。
- 雰囲気以外では、「金沢高専が好き」という意見が87.0%であり、「目的を持って過ごせそうな気がする」は84.1%であった。
- 逆に評価が低めだったのは「金沢高専の学生になったことを自慢できる」「校風が自分にあっている」「金沢高専を先輩にも勧めたい」といった「学校に対する共感」といった部分である。しかし、この「学校に対する共感」の部分についても6割以上は「そう思う」「ややそう思う」と感じており、決して評価が低いわけではなかった。ただし、「学校に対する共感」を上げていくことが、学校に愛着を持つ学生を育て、学校全体を良くすることにつながるものであり、今後注目していくべき点だと思われる。



(出典 「平成16年度 KTC新入生アンケート調査結果」 P. 17)

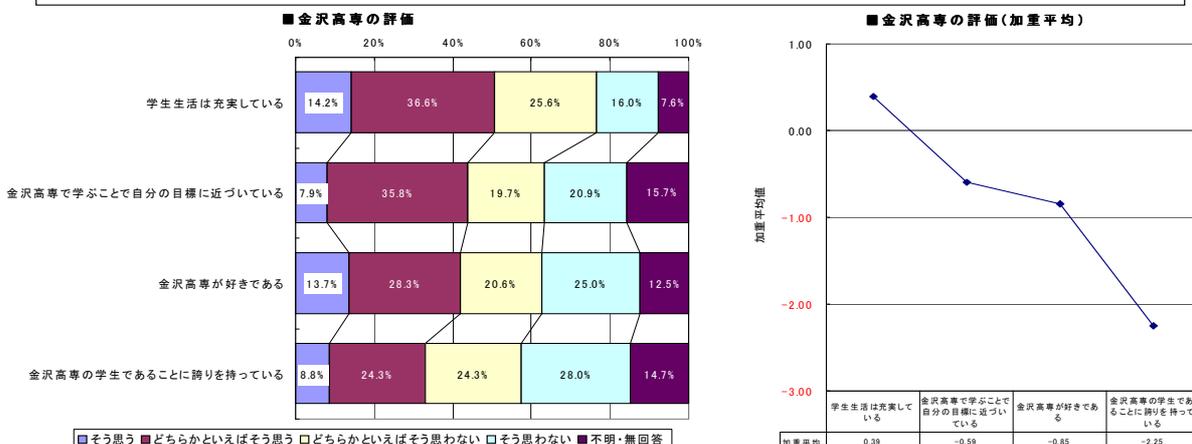
(資料 4-2-②-2)

「KTC総合アンケート調査結果」

<2-1> 金沢高専の満足度

全体傾向

- まず、学生生活の全体的な満足度を見るために「金沢高専に対する評価」を見たところ、残念ながら肯定的な意見よりも否定的な意見が多く見られる結果となった。
- 「学生生活の充実」は最も満足度に近い指標であり、他の分析でも使っているが、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると50.8%と約半数が学生生活が充実していると感じていることが分かった。
- しかし、残りの3指標である「自分の目標に近づいている」「金沢高専が好きである」「誇りを持っている」の3点に関しては肯定的な意見は半数に満たなかった。「不明・無回答」を除くと肯定的な意見が半数に達するものもあるが、結果としては危機感を持つべき内容だと言える。
- 加重平均を見ると明らかであるが、「学生生活の充実」はわずかにプラスとなっているものの、その他の項目はマイナスとなっていた。詳細は後述するが、昨年度の結果よりも全体的に良い方向に向かってきているものの、半数以上が否定的な意見を持っているという点はしっかりと受け止めるべきだと言える。



※平成15年度は在学生と卒業生を合わせて全体としたため、平成15年度の報告書と単純比較はできない。

(出典 「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」 P. 11)

観点 4-3-① 実入学者が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていないか。
また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点にかかる状況)

- ・新設された国際コミュニケーション情報工学科が3年続けて定員割れの状況にあります。(資料4-3-①-1「入学試験の状況」、(資料4-3-①-2「編入学試験の状況」)

その原因は当該学科の内容及び目標が十分中学校側に伝わっていない点にあると考え、別刷のパンフレット「SPEAK UP」を作成し、中学校を中心に周知する努力を行っています。今後も努力を継続し、中学校側の理解を促していきたいと考えています。

- ・平成16年度から、ネイティブスピーカーの英語教員を中心に、小中学校への「出前授業」を行い、本校の英語教育と国際コミュニケーション情報工学科をアピールする機会を増やしています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・結果的に定員割れであることは努力不足であるとの評価になります。本校における学生募集が、中学校での説明会や学校見学会・体験入学等、人的活動を中心とすることから、広報的な展開による幅広さに欠けるものとなっています。特に、平成15年4月に設置された国際コミュニケーション情報工学科においては、蓄積された知名度がないことから、十分な志願者が得られず苦慮しているところです。今後は、根気強く募集活動を行う中で、新設学科の内容及び目標を積極的に広報することで志願者の確保を果たし、本校の教育に共感する入学者の確保に努めたいと考えています。

(資料 4-3-①-1)

「入学試験の状況 (準学士課程)」

平成13年度入試

()数は推薦選考

項目・年度	募集人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		合格率		入学定員 超過率	備考
			()		()		()		()		()		
電気工学科	90	109	(74)	109	(74)	90	(65)	78	(65)	82.5	(87.8)	0.86	
機械工学科	45	62	(41)	62	(41)	49	(38)	39	(38)	79.0	(92.6)	0.86	
合 計	135	171	(115)	171	(115)	139	(103)	117	(103)	81.2	(89.5)	0.86	

平成14年度入試

()数は推薦選考

項目・年度	募集人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		合格率		入学定員 超過率	備考
			()		()		()		()		()		
電気工学科	90	131	(71)	131	(71)	112	(65)	87	(64)	85.4	(91.5)	0.96	
機械工学科	45	79	(51)	79	(51)	56	(37)	48	(37)	70.8	(72.5)	1.06	
合 計	135	210	(122)	210	(122)	168	(102)	135	(101)	80.0	(83.6)	1.00	

平成15年度入試

()数は推薦選考

項目・年度	募集人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		合格率		入学定員 超過率	備考
			()		()		()		()		()		
電気情報工学科	45	78	(40)	78	(40)	71	(38)	53	(38)	91.0	(95.0)	1.17	第二志望以下 の学科 合格10名
機械工学科	45	88	(51)	88	(51)	65	(47)	55	(47)	73.8	(92.1)	1.22	
国際コミュニケーション 情報工学科	45	47	(23)	47	(23)	43	(23)	34	(23)	92.4	(100)	0.75	第二志望以下 の学科 合格10名
合 計	135	213	(114)	213	(114)	179	(108)	142	(108)	84.0	(94.7)	1.05	

平成16年度入試

()数は推薦選考

項目・年度	募集人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		合格率		入学定員 超過率	備考
			()		()		()		()		()		
電気情報工学科	45	71	(34)	71	(34)	68	(32)	50	(32)	95.7	(94.1)	1.11	
機械工学科	45	76	(37)	76	(37)	64	(35)	53	(35)	84.2	(94.5)	1.17	
国際コミュニケーション 情報工学科	45	54	(34)	54	(34)	50	(31)	37	(31)	92.5	(91.1)	0.82	第二志望以下 の学科の 入学者6名
合 計	135	201	(105)	201	(105)	182	(98)	140	(98)	90.5	(93.3)	1.03	

平成17年度入試

()数は推薦選考

項目・年度	募集人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		合格率		入学定員 超過率	備考
			()		()		()		()		()		
電気情報工学科	45	65	(31)	65	(31)	61	(29)	46	(29)	93.8	(93.5)	1.02	第二志望以下 の学科の 入学者2名
機械工学科	45	75	(32)	75	(32)	65	(25)	49	(25)	86.6	(78.1)	1.08	
国際コミュニケーション 情報工学科	45	43	(21)	43	(21)	40	(23)	33	(23)	93.0	(109.50)	0.73	第二志望以下 の学科の 入学者3名
合 計	135	183	(84)	183	(84)	166	(77)	128	(77)	87.3	(91.6)	0.94	

(資料 4 - 3 - ① - 2)

「編入学試験の状況 (進学士課程)」

平成13年度入試

(単位: 人)

		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	合格率	備 考
推薦試験	電気工学科	—	受験者なし					
	機械工学科	—						
	計	—						

平成14年度入試

(単位: 人)

		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	合格率	備 考
推薦試験	電気工学科	—	0	0	0	0	0	(工業高校出身)
	機械工学科	—	1	1	1	1	100	
	計	—	1	1	1	1	100	

平成15年度入試

(単位: 人)

		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	合格率	備 考
推薦試験	電気工学科	—	1	1	1	1	100	(工業高校出身)
	機械工学科	—	0	0	0	0	0	
	国際コミュニケーション 情報工学科	—	0	0	0	0	0	
	計	—	1	1	1	1	100	

平成16年度入試

(単位: 人)

		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	合格率	備 考
推薦試験	電気工学科	—	1	1	1	0	100	(工業高校出身)
	機械工学科	—	0	0	0	0	0	
	国際コミュニケーション 情報工学科	—	0	0	0	0	0	
	計	—	1	1	1	0	100	

平成17年度入試

(単位: 人)

		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	合格率	備 考
推薦試験	電気工学科	—	2	2	0	0	0	(工業高校出身)
	機械工学科	—	1	1	1	1	100	
	国際コミュニケーション 情報工学科	—	0	0	0	0	0	
	計	—	3	3	1	1	33.3	

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・本校の教育内容や教育目標が中学校側に十分浸透しており、新設学科を除く他の2学科は、安定した志願状況にあると考えています。

(改善を要する点)

- ・定員割れの状況にある新設学科の知名度を高める必要があります。
- ・学生満足度調査の精度を高め、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜の改善に役立てる必要があります。

(3) 基準4の評価の概要

アドミッション・ポリシーとして、募集要項に出願資格や選考方法を明記しているほか、「教育の実践目標」を明確に定め、「本校の教育に共感し、自己実現の意欲を継続できる人材」を求める姿勢が示されています。これは、「入学試験の面接に係る申合せ」に明記され、教職員に周知されており、受験生募集のための教職員による中学校訪問説明や、受験を希望する中学生が当校へ体験入学する際に説明することにより、社会に公表されています。

入学者選抜試験は一般学力選抜と推薦選抜があり、それぞれ基礎学力試験と面接を実施しています。面接における留意事項や質問例等を「入学試験の面接に係る申合せ」で詳細に定め、本人の志望動機等を確認するなど、アドミッション・ポリシーに沿って適切な方法で実施されるように工夫されています。アドミッション・ポリシーに沿った学生受入が実際に行われているかどうかの検証については、アンケート調査の精度の向上や学力の追跡調査等の努力を重ねる必要があります。

機械工学科及び電気情報工学科の2学科については、入学定員の管理が適正に行われていますが、平成15年度に新設された国際コミュニケーション情報工学科で、3年間入学定員を充足していない状況にあります。このことから、広報誌「SPEAK UP」の作成・配布や、小中学校への出前授業の実施などの対策を行っていますが、活動の効果が顕著に現れるまでには至っていません。

以上のとおり、アドミッション・ポリシーの策定状況、入学者選抜の状況、及び実入学者数と入学定員との比較状況を総合的に判断すれば、今後さらなる努力が必要であると考えています。

基準5. 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの自己評価

(準学士課程)

観点5-1-① 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育実践目標として、金沢工大学園の施設や組織、また関係教職員との有機的な連携のもとに、教育研究活動の充実発展を期しております。
- ・本校の教育体系は、(資料5-1-①-1「金沢高専の教育体系図」)の通り、縦軸(時間)と横軸(学園との連携)のスパイラル構造で教育を実践しています。縦軸の教育とは、「創造実験」を支柱とした一般教育から専門教育の連結を強化し『創造性』を醸成する仕組みであり、横軸の教育とは、他者との「コミュニケーション能力」や「自己実現力」を学年ごとに高め『人間力』を醸成する仕組みです。また、具体的なカリキュラムの全体像は、(資料5-1-①-2「金沢高専のカリキュラム全体像」)のとおり、創造実験をハンズオン教育の支柱として、一般教育と専門教育が強固に連結する教育として編成することで、本校の教育実践目標を達成しようとするものです。(資料5-1-①-3)
- ・一般教科や各学科の授業内容は、校長との面談や学科長、教科主任との協議を通して、各科目担当者間で情報共有されています。また、各科目担当者は、本校の教育実践目標の趣旨に沿って授業計画を作成し授業が行われています。
- ・本校の教育実践目標等を学生と共有するために、「学生便覧」が作成されております。
- ・本校の教育実践目標を達成するために、各学科の課程編成が行われており、各授業の内容が整備されていると認識しています。(資料5-1-①-4)、(資料5-1-①-5)、(資料5-1-①-6)

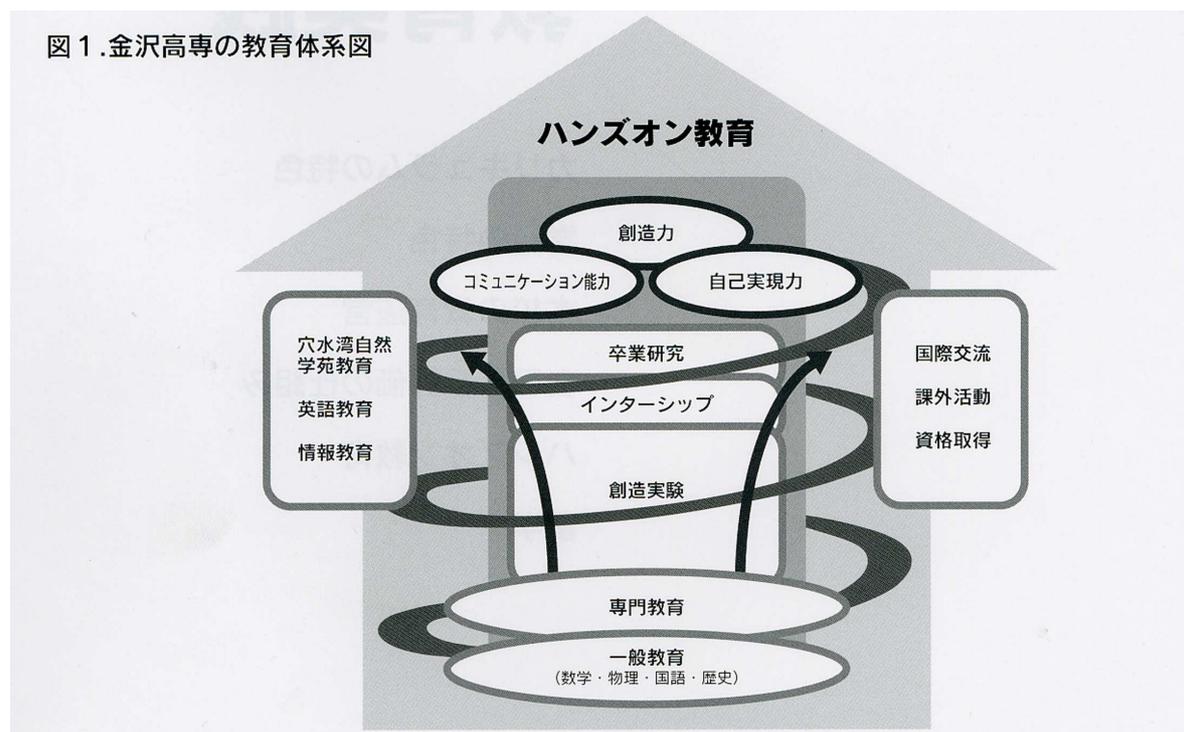
(資料 5-1-①-1)

「金沢高専の教育体系図」

(1) カリキュラムの基本設計

本校の教育体系は、図 1 に示す通り、縦軸（時間）と横軸（学園との連携）のスパイラル構造で教育を実践しています。縦軸の教育とは、「創造実験」を主柱とした一般教育から専門教育の連結を高め『創造性』を醸成する仕組みであり、横軸の教育とは、他者との「コミュニケーション能力」や「自己実現力」を学年ごとに高め『人間力』を醸成する仕組みです。

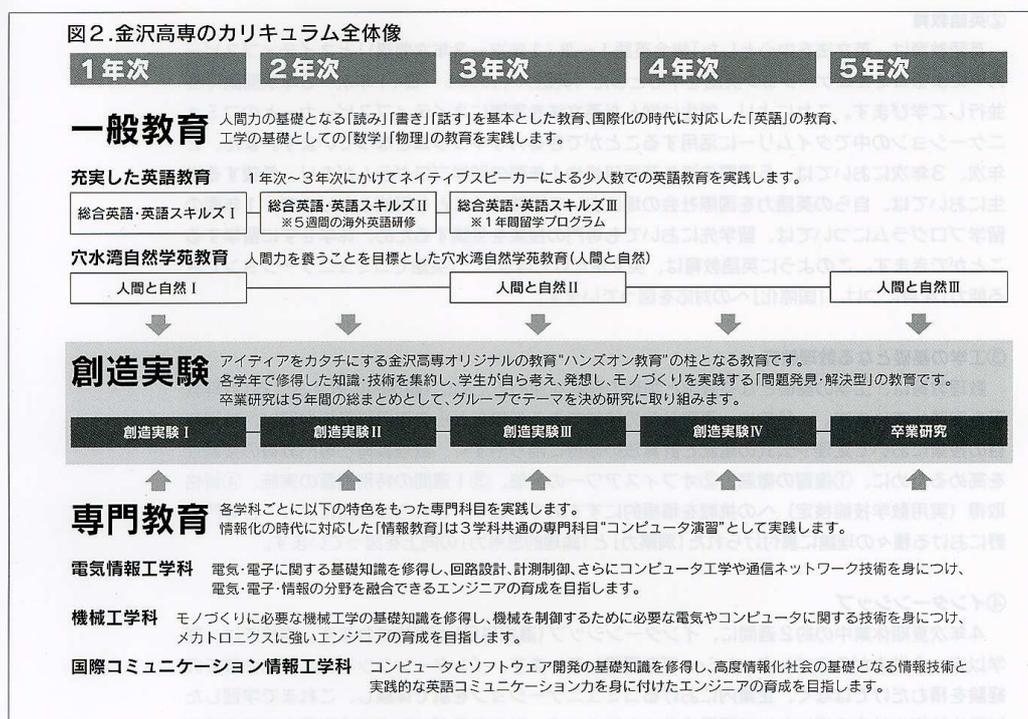
図 1. 金沢高専の教育体系図



(出典 「学生便覧 2005」 P. 10 抜粋)

(資料 5-1-①-2)

「金沢高専のカリキュラム全体像」



また、具体的なカリキュラムの全体像は、図に示す「金沢高専のカリキュラム全体像」のとおり、創造実験をハンズオン教育の支柱として、一般教育と専門教育を「楔形の教育」として編成することで、本校の教育実践目標を達成しようとするものです。

一般教育においては、人間力の基礎である「読み」「書き」「話す」を基本とする教育に力点を置き、さらには21世紀が国際化の時代であるとの認識から「英語」の教育に力を注いでいます。また、エンジニアの基盤として、工学の基礎である「数学」と「物理」の基礎力の充実を目指しています。さらに、「人間形成」を教育の根本理念とする本校は、「穴水湾自然学苑教育」を人間教育の軸となる科目として必須化し、各教育と共に海洋活動やグループ活動など、寝食を共にする合宿教育において「人間力の涵養と醸成」に努めています。

専門教育においては、創造実験を5年間一貫教育の柱とする体系を構築しています。各分野における専門科目の知識がなぜ必要なのか。また、どのように活かすことができるのかを自ら考えることが重要であると考えます。各創造実験では、「体験するモノづくり」をテーマとして、学生自らの気付きを促し、学習意欲の増進に繋げるべく取組を進めています。そのため、各専門科目の配置も可能なかぎり創造実験との関連を重視した配置とすることで、各学科の「専門基礎知識の定着」と「創造性の醸成」を目指しています。また、各学科の専門分野については、産業界のニーズを捉え、学生に求められる基礎的能力や知識が学べるように努めています。

創造実験は、5年間学び続けるハンズオン教育の柱の科目であり、知識・技術の修得はもちろん、学生が自ら考え、発想し「モノづくり」を体験することで問題提起・解決型のエンジニアの育成を目指しています。1年次は学科共通で、2年次から徐々に学科の専門教育と関連させながら知識の統合化を図ります。5年次は、高等教育の集大成を図るべく卒業研究として、「能力の総合化」を実践しています。

(出典 「学生便覧 2005」 PP.10～11 抜粋)

(資料 5-1-①-3)

(2) 教育実践の特色**1. 穴水湾自然学苑教育**

穴水湾自然学苑において開講される「人間と自然Ⅰ～Ⅲ（1年次、3年次、5年次開講）」は、本校の教育実践目標を達成する上で最も重要となる人間形成を具現化する科目として位置づけられています。この科目は、豊かな自然環境の下、学生と教員が寝食を共にし、①思いやる心を育み倫理観を養うこと、②チームワークの大切さを知りリーダーシップを発揮できること、③日本人としての自覚を深めることを教育目標としています。この実現に向けて、海洋活動、グループ討議、校長講話、科長講話、歴史講話、奉仕活動、クラスミーティング、穴水湾自然学苑での生活、等の活動を2泊3日（1年次）または3泊4日（3、5年次）の研修スケジュールの中で実践し、学生同士、教員と学生との間で、充実した人間的ふれあいを実現し「人間力」を身につけていきます。

2. 英語教育

英語教育は、英文法を中心とした「総合英語Ⅰ～Ⅲ（1年次～3年次開講）」とネイティブスピーカーによるコミュニケーション英語を中心とした「英語スキルズⅠ～Ⅲ（1年次～3年次開講）」を並行して学びます。これにより、学生は学んだ英文法を実際にネイティブスピーカーとのコミュニケーションの中でタイムリーに活用することができるカリキュラムとなっています。また、2年次、3年次においては、5週間の海外英語研修や1年間の留学プログラムがあり、希望する学生においては、自らの英語力を国際社会の場において実践することも可能となります。1年間の留学プログラムについては、留学先においても専門の授業を受講するため、休学せずに留学することができます。このように英語教育は、英文法だけではなく、「英語でコミュニケーションできる能力」を身につけ、「国際化」への対応を図っています。

3. 工学の基礎となる数理教育

数理教育は、工学の基礎となる数学と物理の理解を深めるために「論理的に考えさせる」数理教育を実践しています。一般的に、高専教育の特徴である低学年からの専門科目の学習は、数理科目の授業において定理や公式の暗記と計算法の修得に陥りやすく、数理教育と専門教育の接続性を高めるために、①復習の徹底、②オフィスアワーの実施、③1週間の特別補習の実施、④資格取得（実用数学技能検定）への挑戦を積極的にすすめています。これらの取組により、各専門分野における種々の理論に裏付けられた「洞察力」と「論理的思考力」の向上を図っています。

4. インターンシップ

4年次夏期休業中の約2週間に、インターンシップ（選択科目）が実施されます。本校では、開学以来、全学生がこのインターンシップを受講しています。インターンシップは、単に企業での経験を積むだけではなく、企業内におけるコミュニケーションを肌で体験し、これまで学習した知識や技術を社会の場において活用することによって、学生自身がこれまでの学習を自己点検すると共に、残りの学生生活において、何を目標に学習するのかを「自ら考える」ことを大切にしており、新たな学習計画を立てる上で重要な位置づけとなっています。特に、5年次の「卒業研究」の準備教育として、インターンシップ終了後には、本校で報告会を行い、学生諸君の更なる「自己啓発」の動機付けとなっています。

5. 卒業研究

卒業研究は、学生がこれまで身に付けてきた力を発揮する集大成の科目となっています。卒業研究で学生が取り組むテーマは、実際のモノづくりに力点をおいたものが多く、企業において実際に取り組むレベルのテーマも含まれます。学生は、これらのテーマに取り組むことにより、これまで学んだ知識・技術・経験を活かして、モノやシステムの製作・開発を行います。また、これら一連のプロセスを、最終的に研究論文としてまとめ、第三者にプレゼンテーションします。このように、卒業研究では、モノづくりやシステム開発を意識して取り組むことによって、企業が必要とする「実践的な力」を身につけることができると共に、進学においては高い意識をもって、さらに深く専門分野を「学ぶ姿勢」が身につきます。

(出典 「学生便覧 2005」 PP. 11～12 抜粋)

(資料 5-1-①-4)

(1) 電気情報工学科

①学習・教育目標

本学科では、電気・電子に関する基礎知識を習得し、回路設計、計測制御、さらにコンピュータ工学や通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子・情報の分野を融合できるエンジニアの育成を目指します。



本学科では、電気回路 I～II、電気磁気学 I～II（いずれも 2 年次～3 年次にかけて開講）において電気と磁気の関係を理解した上で、電気回路設計における必要な知識を身につけます。これらの知識では、創造実験での演習において重要な知識となり、学生は、専門教育で学んだ知識を創造実験で活用することが求められます。また、4 年次～5 年次にかけては、半導体工学の基礎を学びダイオード、トランジスタ等の仕組みを理解すると共に、電子回路 I～II（4 年次～5 年次にかけて開講）にて電子回路設計に必要な知識を身につけていきます。これらの科目で身につけた知識も、創造実験において重要となります。このように本学科の専門科目は、創造実験と密接な関係にあり、学生は、これまでの学習で得た知識をモノづくりの場において活用するというスタイルを身につけることができます。その他、4 年次から 5 年次にかけて、情報工学に関する専門分野、電気工学と関連のある材料工学、制御工学などの専門分野をさらに掘り下げて学習していきます。

②創造実験

創造実験 I～IV（1 年次～4 年次にかけて開講）は、まず、電気・電子におけるさまざまな現象を計測することで、その現象の概略を理解すると共に、各種機器、計測機器の取扱いを身につけます。また、計測した値を活用し、これらを制御する技術を身につけることで、電気・電子・情報の融合のコア技術となる制御技術を身につけていきます。創造実験の中で取り扱うテーマは、

単純なもの（電気・電子の回路）から、複雑なもの（パワーエレクトロニクス、ネットワークを介した制御技術等）へとステップアップします。複雑なテーマになるにつれ学生は、これまで専門科目において身につけた回路設計技術やプログラミング技術などをはじめ、創造実験の中で身につけた計測・制御の技術を総合的に活用することが求められます。

このように、本学科の創造実験は、ハード（回路設計技術）、ソフト（制御システム）の両面から、身につけた技術を応用し、電気システムの設計プロセスを、段階を経て学習することで、電気系エンジニアに必要な創造力を養うことができます。さらに、学生に応じて、これら一連のプロセスを数名の学生によるチームを編成し取り組むことで、リーダーシップやチームワークを肌で体験し修得することができます。さらに、取り組んだ内容をレポートとしてまとめあげる力や、教員に対してプレゼンテーションを行うことで、第三者に対して情報を魅力的に伝えるコミュニケーション能力を身につけることができます。

③情報教育の特色

本学科の情報教育は、エンジニアとして必要な情報リテラシーの修得をベースに、制御に必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。創造実験においても重要な要素となる、プログラミング技術は、コンピュータ演習Ⅰ～Ⅳ（1年次～4年次にかけて開講）を通して習得します。この科目では、まずVB（Visual Basic）を用いて、プログラムの流れを視覚的に作成することで、制御プログラムを作成する上で重要となるアルゴリズムへの理解を深めていきます。さらに、アセンブラ言語やC言語を中心として、制御に必要なプログラミング技術の基礎を修得します。

④情報取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上、また課外における学習の動機付けを行う取り組みとして、資格取得を推奨しています。この資格取得チャレンジへの足がかりとなる科目が工学演習Ⅰ～Ⅱ（3年次～4年次にかけて開講）です。この科目は、電気工学に関する基礎的な内容を、第三種電気主任技術者試験で用いられる演習問題等を用いて学習します。また、情報システム（2年次に開講）においては、情報技術検定2級や基本情報技術者試験のハードウェア関連における内容を学習します。このように、本学科では、授業の中においても、電気・電子、情報、の技術を融合できるエンジニアとして、それぞれの側面から資格取得が実社会において評価されることを意識付け、学生の学習への積極的なサポートをしています。

（出典 「学生便覧 2005」 PP. 13～14 抜粋）

(資料 5-1-①-5)

(2) 機械工学科

①学習・教育目標

本学科では、モノづくりに必要な機械工学の基礎知識を習得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエンジニアの養成を目指します。



本学科では、メカトロニクスのベースとなる、電気、機械、情報の各専門分野の科目によって構成されます。電気の分野においては、電気基礎(2年次開講)で、直流回路、電気と磁気、交流回路といった基本的な電気現象を理解します。機械の分野においては、機械システム基礎、機械システム応用(1年次~2年次にかけて開講)において、機械材料、力学といった側面から機械工学の基礎を修得します。また、機械製図Ⅰ~Ⅱ(1年次~2年次にかけて開講)において、機械製図に関する規格を理解して、図面を正しく読み、設計できる能力を身につけ、機械設計製図の基礎的な技術を修得します。機械設計演習(4年次に開講)では、機械を設計し、図面を製作する際の具体的なプロセスを修得します。情報の分野においては先に述べたとおりです。このように、これらの専門科目によって、身につけられた知識・技術は、創造実験における演習において重要な知識・技術となり、学生は、専門科目で学んだ知識を創造実験において活用することが求められます。その他、4年次から5年次にかけて、機械工学に関する専門の分野をさらに掘り下げて学習していきます。

②創造実験

創造実験Ⅰ~Ⅳ(1年次~4年次にかけて開講)は、まず、物理や電気の分野における現象をテーマとした実験を通じて、その仕組みを理解すると共に、モノづくりのベースとなる加工技術の修得を行います。これらを踏まえて、機械技術(構造系の設計・製作)、電気・電子技術(回路機構

の設計・製作)、情報技術(制御系の設計・製作)といった、メカトロニクスのベースとなる基礎技術を修得します。この技術の修得において、学生は、専門科目で身につけた、回路設計技術やプログラミング技術、さらには、機械工学の基礎知識を用いながら学ぶことが求められます。これらのプロセスを経て、これまで身につけてきた技術を総合的に活用するテーマとして、学生はロボットの製作を行います。ロボットの製作にあたっては、学生の自由な発想が盛り込めるように課題を設計し(校内案内ロボットの製作等)これまで身につけてきた技術の総合化と想像力を養う工夫が盛り込まれています。また、ロボットを製作する過程において、必要性、システム要求、システム設計・製図、模型の制作、加工、制御実験、プレゼンテーション、報告書の作成といった、一連の流れを網羅することで、企業においても実践されているモノづくりの基礎的な流れを身につけることができます。ロボットの製作にあたっては、数名の学生によるチームを編成し取り組むことで、リーダーシップやチームワークを肌で体験し修得することができます。さらに、取り組んだ内容をレポートとしてまとめあげる力や、教員に対してプレゼンテーションを行うことで、第三者に対して情報を魅力的に伝えるコミュニケーション能力を身につけることができます。

③情報教育の特色

本学科の情報教育は、エンジニアとして必要な情報リテラシーの修得と共に、制御に必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。具体的には、情報処理(1年次)、コンピュータ演習(2年次)を通してC言語を用いたプログラム作成方法の基礎を修得します。また、創造実験においても重要な要素となる制御においては、マイコン制御(3年次開講)によって、アセンブラ基礎を中心としたプログラミング技術を修得します。

④資格取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上、また課外における学習の動機付けを行う取り組みとして、資格取得を推奨しています。具体的には、3級機械設計技術者の資格試験を推奨しており、機械システム基礎、機械システム応用、機械製図、工業力学、材料力学、機械設計演習などの機械関連の専門科目を通して学習することで、資格取得に必要な知識を得ることができます。このように、本学科では、授業の中においても、機械システム系のエンジニアとして、資格取得が実社会において評価されることを意識付け、学生の学習における積極的な行動をサポートしています。

(出典 「学生便覧 2005」 PP. 15～16 抜粋)

(資料 5-1-①-6)

(3) 国際コミュニケーション情報工学科

① 学習・教育目標

本学科では、コンピュータとソフトウェア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の基盤となる情報技術と実践的な英語コミュニケーション力を身につけたエンジニアの育成を目指します。



② 情報教育の特色

本学科の情報教育は、ソフトウェア開発に必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。コンピュータ演習ⅡからⅣでは、C言語を中心にアルゴリズムの理解とプログラミングの基礎を修得し、簡単な処理を行うプログラムの作成から段階を経て高度な処理を行うプログラムを作成する力まで身につけます。情報工学演習Ⅰ、Ⅱ（4年次～5年次にかけて開講）では、それまでに学習してきたプログラミング技術や情報技術の基礎を踏まえて、具体的にソフトウェア開発の流れに沿った演習を少人数のグループ単位に分かれて行います。この科目の演習の中には、基本的なプログラミングはもとより、ネットワーク、データベースといった要素を盛り込んだソフトウェア開発を体験します。その上で、ソフトウェア工学（5年次）において、ソフトウェア開発の知識・技術の総合的なまとめを行います。4年次から5年次にかけては並行して、マルチメディア、通信ネットワーク、データベースなどの科目が開講されます。これらの科目は学生にとって、システム開発の具体的な流れを身につけるだけではなく、より深い情報技術に関する知識を意欲的に学習するための重要な位置付けにあります。

③ 英語教育の特色

また、本校では、2年次・3年次において5週間の海外英語研修や1年間の留学プログラムがあり、希望する学生は、自らの英語力を国際社会の場において実践することができます。1年間

の留学プログラムでは、留学先において専門の授業を受講するため、休学する必要がありません。なお、留学を希望しない学生に対しては、3年次に英語総合技術Ⅰにおいて海外留学先に準じた授業がなされます。また、4年次以降開講される、英語発表技法、ビジネス英語では、英語におけるコミュニケーションの場を日常生活から、ビジネス社会の場へとステップアップさせ、国際社会で通用する英語によるプレゼンテーション技能やビジネス社会における英語の活用について学習します。このように本学科の英語教育は、日常における英会話だけではなく、ビジネスにおいてもコミュニケーションを図るレベルを身につけることができる教育を実践しています。

④ 創造実験

創造実験Ⅰ～Ⅳ(1年次～4年次にかけて開講)では、低学年(1～2年)においてはモノづくりを通して工学の楽しさを体験し、上級学年(3～4年)では楽しさを引き継ぎつつ、創造力を育成していきます。低学年でのテーマには、簡単なアニメーションの作成、パーソナルコンピュータの組み立て等があり、学生がこれを楽しむと同時に、完成体験を通じて自己の力に自信をつけることも目的としています。上級学年では、制御プログラム作成をテーマとして、基礎となる個々の単純な要素について学び、その要素を組み合わせることによってより複雑な機能を発揮するプログラムを作成するプロセスを体験します。これにより、基礎から積み上げて創り上げていく堅実な創造性を養います。一方、コンテンツ作成のテーマを通じて、自由な発想に基づく創造を体験し、自由な発想による創造性を引き出します。

⑤ 資格取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上、課外における学習の動機付けを行う取組として、資格取得を推奨しています。この資格取得チャレンジへの足がかりとなる科目が情報処理Ⅰ～Ⅲ(1年次～3年次にかけて開講)です。この科目は、情報技術検定、基礎情報技術者試験など各資格試験の内容を十分に取り込んだものになっています。一方、最近多くの企業において英語力を測るものさしとしてTOEICが使われています。国際英語コミュニケーションⅠ・Ⅱでは、TOEIC受験のための英語力を身につけることができます。このように、本学科では、情報教育、英語教育の側面から資格取得が実社会において評価されることを学生に意識付け、積極的に学習をサポートしています。

(出典 「学生便覧 2005」 PP. 17～18 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の目的とする「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」に向けた教育課程として、一般教育においては各学年を通じて技術者としての基礎的素養の向上を目指した科目の配置が行われていると考えています。また専門教育においても、企業訪問等から収集した社会的ニーズに基づき学科の目標に合致した教科目の配置が行われていると考えています。
- ・一部の学科目においては、学生の満足度の低いものがありました。このことは、教育課程編成の趣旨が学生に伝わらないことによるものであり、科目担当者の教室運営や授業方法等に工夫や改善の必要が求められるものです。本校では、すでに校長や学科長、教科主任が科目担当者と面談し、改善への第一歩を踏み出しています。今後も教員相互の連携の中で、学生の授業満足度の向上を目指していきたいと考えています。

観点5-1-② 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる）に配慮しているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は平成16年4月よりニュージーランドのオタゴ・ポリテクニクとの単位互換による留学制度を実施し、平成16年度は24名の学生が1か年間留学し、すべての学生が単位を修得しました。(資料5-1-②-1「協定書」：訪問調査時閲覧資料)、(資料5-1-②-2「合意書」：訪問調査時閲覧資料)
- ・インターンシップは、「校外実習」として4年次の夏期休業期間を利用しており、教員が実習期間中に企業を訪問し、企業担当者や学生と面談して状況把握に努めております。企業からは、社会人としてのマナーに関する事前準備が不足しているとの指摘もあり、現在、改善に向けて検討を進めているところです。
- ・学力が不足する学生に対し、授業時間外や夏期休業中に補習授業を実施しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・ニュージーランドのオタゴ・ポリテクニクとの単位互換による留学制度は、本校とオタゴ・ポリテクニクが協同でカリキュラム開発したもので、ニュージーランド政府による高等教育のプログラム認定を受ける等綿密な協力関係による適切な体制が構築されていると考えています。(資料5-1-②-3「金沢工業高等専門学校外国留学に関する規程」)、(資料5-1-②-4「オタゴ・ポリテクニク留学について」)、(資料5-1-②-5「国際交流高専委員会規程」)
- ・インターンシップは、「校外実習」として選択科目2単位を認定しています。
- ・学力が不足する学生に対する補習授業や個別指導の体制は、校長の指導の元を実施されており、教員の負担が大きい点を除けば充実した体制が確立していると考えています。

(資料 5-1-②-3)

「金沢工業高等専門学校外国留学に関する規程」

金沢工業高等専門学校外国留学に関する規程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 26 条の規定に基づき、金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生が、休学することなく外国の大学等に留学することについて必要な事項を定める。

(定 義)

第 2 条 学則第 26 条第 1 項中に掲げる「外国の大学」とは、本校と留学生受入れに関する協力協定を締結するオタゴ・ポリテクニクをいう。

(留学の要件)

第 3 条 留学が認められる者は、第 3 学年への進級見込者であって、国際交流高専委員会が定める別表第 1 の選考基準を満たすものでなければならない。

(留学の申出)

第 4 条 前条の要件を満たし、留学を希望する者は、学科長の承認を経て、所定の留学願いを校長に提出しなければならない。

(留学者の決定)

第 5 条 留学者は、留学希望者のうちから、学務会議の議を経て校長が決定する。

(学 費)

第 6 条 校長から留学の許可を受けた者については、学則第 30 条第 2 項の規定により、当該留学期間に相当する月の授業料は、2 分の 1 相当額を減額するものとし、施設設備費は免除する。
2 留学する大学等において必要な授業料等については、本人負担とする。

(終了手続)

第 7 条 留学を終了し帰国した学生は、速やかに所定の留学終了届に履修期間及び成績が明記された単位取得証明書を添付し、校長に提出しなければならない。

(取得単位の取扱)

第 8 条 留学において履修した授業科目について修得した単位は、学則第 11 条第 3 項の規定に基づき、学務会議の議を経て、本校において履修した授業科目について修得した単位として認定する。
2 前項により認定することができる単位数は、学則第 10 条及び第 11 条第 1 項により本校において認定した単位数と合わせて 30 単位を超えることはできない。

附 則

- 1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から改正施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 90～91)

別表第1 オタゴ・ポリテクニク留学選考基準

選 考 基 準

- (1) オタゴ・ポリテクニクで開講されるCEE(Certificate in English and Engineering)プログラムを修了できる見込みがあると認められる者。
- (2) 本校の3年次教育課程において定められた取得単位数について、オタゴ・ポリテクニクで取得し認定される単位数では不足する単位を本校において十分修得できると認められる者。
- (3) 留学期間において、ニュージーランドの法律及びオタゴ・ポリテクニクの規則を遵守できると認められる者。
- (4) 留学修了後、本校の4年次学生として修学を継続する意志があり、留学において得た貴重な学習経験や生活体験を、自己の将来に十分活かすことができると認められる者。
- (5) 日頃から心身ともに自己管理を心がけていると認められる者。
- (6) 留学の内定から出発までの準備や研修などに真面目に取り組む意識があると認められる者。
- (7) 留学の内定から留学修了にわたる期間を通して、学習及び生活態度における向上心の維持、継続が可能と認められる者。
- (8) 留学期間中に課される月例レポートの提出及び定期的な状況報告等が適切にできると認められる者。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 90～91)

(資料 5-1-②-4)

「オタゴ・ポリテクニク留学について」

オタゴ・ポリテクニク留学について

留学期間

第3学年の4月下旬から翌年の3月中旬。

留学内容

本校の教育の一環として、提携校であるニュージーランドのオタゴ・ポリテクニクで、英語および工学を学ぶ留学プログラムを実施します。本校とオタゴ・ポリテクニクが共同で作成したカリキュラムにより、英語のみならず、数学、物理や演習・実験を含む工学科目も学びます。

その他に、英語の授業を通してニュージーランドの歴史と文化を学び、また異文化への理解を深めます。

特長

従来休学を余儀なくされてきた長期留学とは違い、本留学プログラムでは休学することなく留学ができます。

留学期間中は全員ニュージーランドの家庭にホームステイし、自立心を養います。

本留学プログラム修了後は、取得単位を本校3年次の単位として認定します。

定員

最小人数12名で、最大30名まで。

選抜対象

本校の第2学年に在籍し、第3学年に進級見込みの者で、オタゴ・ポリテクニクへの留学を強く希望するもの。

選抜方法

- 英語、数学、物理の基礎学力テスト
- 留学目標についての作文(日本語)
- 日頃の学習や生活態度に関する担任教員による評価
- 学科長と英語教員による面接

以上の結果をもって校長が総合的に選抜する。

(出典 「学生便覧 2005」 P.100)

(資料 5-1-②-5)

「国際交流高専委員会規程」

国際交流高専委員会規程

(目的)

第1条 国際交流高専委員会(以下「本委員会」という)は、国際交流委員会の小委員会として金沢工業高等専門学校の国際交流に関する活動について審議する。

(委員の構成)

第2条 本委員会の構成は、校長を委員長とし、教務主事、研究主事、高専事務局長、国際交流副室長並びに校長が指名した教職員とする。ただし、必要に応じて構成員以外の出席を求めることができる。

2 本委員会は、教務主事が総括委員となる。

(審議事項)

第3条 本委員会は、次の事項について審議する。

(1)教育・研究に関する国際交流プログラムの企画・立案に関する事項

(2)教育・研究に関する国際交流プログラム(交換留学プログラム)の円滑な運営を行うに必要な事項

(3)その他、国際交流委員会から諮問を受けた事項

(招集及び運営)

第4条 本委員会は、委員長が招集し、総括委員が議長となり運営のとりまとめを行う。

(事務担当)

第5条 本委員会の事務は、高専事務局と企画部国際交流室が担当する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 58)

観点5-2-① 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮が考えられる)

(観点にかかる状況)

- ・本校の授業は、講義と演習が組み合わされる授業運営の工夫が行われ、授業科目の目標を実現するための努力が図られています。特に、英語教育やハンズオン教育の柱である創造実験は少人数制により実施されており、効果的であると認識しています。
- ・数学科目の一部でグラフ電卓を活用した教育を実施しています。
- ・各学科ともに共通して、低学年から情報リテラシー教育にコンピュータを活用しています。
- ・芸術科目においてはCG（コンピュータグラフィックス）を活用した教育を行っています。
- ・国際コミュニケーション情報工学科においては、英語教育と情報教育の融合を目指す取り組みを行っています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校では、教育実践目標を実現するために、講義のみの科目は極めて少なく、学生との対話を重視する科目や、小テストを定期的実施し、これまでの理解力を確認しながら授業を実施するもの、さらに問題提起解決型授業を行うことで、教育目的に即した授業を実現していると考えています。

(資料5-2-①-1「創造実験Ⅰの学習支援計画書(シラバス)」)

- ・教員の日常的な努力の中で、「わかりやすい授業」の工夫が行われていると考えています。また、数学科目や芸術科目、英語教育においては特色ある教育実践が行われていると認識しています。
- ・学力が不足する学生に対する補習授業や個別指導が日常的に行われる等、教員と学生とのコミュニケーションの緊密さによって、学習意欲の増進を目指す取り組みが行われていると考えています。

(資料 5-2-①-1)

「創造実験 I の学習支援計画書(シラバス)」

平成17年度 学習支援計画書

科目名		クラス	
創造実験 I		1年全(電気情報工学科)	
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	2	1・2・3	石黒泰治・村本 紘・宮西章・作宮和泉・原 孝美 金光 学・天日三知夫
科目概要			
身近な物理現象、あるいは工学の基礎に関する実験やモノづくりを通して、物理や工学の基礎概念を理解するとともに、学力の充実を図る。また、モノづくりやアニメーション制作の楽しさを体験するとともに、科学や工学の不思議に触れ、自然界の法則や工学への関心を高める。			
教科書		参考書(LCの図書等を含む)	
①「創造実験 I」宮西章他, 金沢工業高等専門学校		①「新編 物理 I」三浦 登 他, 東京書籍 ②「超図解 Flash MX for Windows」工藤雅俊, エクスメディア ③「お絵かきツール Wordの使い方」	
授業方法			
①週2時間続き授業とする。テーマは全部で6テーマが準備されており、1つのテーマにつき5週間かけて授業を行う。 ・テーマ1, 2 担当者: 宮西、作宮、原 ・テーマ3, 4 担当者: 金光、天日 ・テーマ5 担当者: 石黒 ・テーマ6 担当者: 村本			
②「基礎数学Ⅱ」, 「物理学Ⅰ」, 「物理学Ⅱ」との連携を図る。			
評価方法			
評価項目	%	・各学期評価: 実施2テーマの平均評価 ※但し, 1テーマでも 50 点未満の場合は成績不良とする。 その際の評価は最も低い点数とする。 ・学年評価: 6テーマの平均評価 ※但し, 1テーマでも 50 点未満の場合は単位を認定しない。 その際の評価は最も低い点数とする。	
作品及び報告書	60		
宿題	15		
学習態度	15		
出席状況	10		
合計	100		
到達目標または行動目標			
第1学期	①モノづくりに関心と興味を抱き、モノづくりに取り組む前向きな姿勢と集中力を身につける。 ②頭で考えたイメージを実際の形に表現できる。 ③データの合理的な処理法やグラフで結果を表現する方法、レポートの書き方を身につける。 ④誤差の概念を理解し、有効数字が判断できる。 ⑤力、モーメント、速度、加速度などのSI単位を使うことができる。		
第2学期	⑥体験を通して、質量、力、モーメントの概念を具体的に捉えることができ、理解が深まる。 ⑦体験を通して、仕事、仕事率、速度、加速度の概念を具体的に捉えることができ、理解が深まる。 ⑧電磁力について理解できる($f = Bli$ 、フレミングの左手の法則)。 ⑨電磁力の回転力への利用について理解し、回転し続けるための問題点について理解できる。 ⑩整流子の働きについて理解できる。 ⑪磁気反発力、吸引力を利用したモーターについて理解できる。		
第3学期	①アニメーション制作に関心と興味を抱き、パソコンに取り組む前向きな姿勢と集中力を身につける。 ②共鳴(共振)を利用して、音波の波長や振動数が求められる原理がわかる。 ③波動はエネルギーの伝達現象であることを理解する。 ④波に特有な現象を観察や測定をし、波動への理解が深まる。 ⑤楽器の出す音は、弦や気柱が固有振動数を持っていることと深く関係していることを理解する。 ⑥機械的共振、電氣的共振、地震波などの波動・振動現象への理解が深まる。 ⑦ばねの弾性力とたわみの関係(フックの法則)を捉え、ばねの性質に関する概念を身につける。 ⑧力は合成・分解ができることの理解が深まる。 ⑨周期と振動数の関係を捉え、単振動現象に関する概念を身につける。		

(出典 「平成17年度学習支援計画書」 抜粋)

観点 5-2-② 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は毎年度「学習支援計画書」(シラバス)を作成し、学生及び教職員に配付しています。この中には「科目概要」、「授業方法」、「評価基準」、「授業明細」が記載されており、各学科目の授業担当者が自身の授業計画に基づき作成しています。(資料 5-2-②-1)
- ・科目担当者が作成した「学習支援計画書」(シラバス)は、学科長及び教科主任に提出します。学科長及び教科主任は、教育内容と成績評価の方法等を確認し、不都合がある場合は、面談を通して書き直しを指示します。「学習支援計画書」(シラバス)は、学科長及び教科主任の確認の後、教務係の教員が時間割やオフィスアワーの再確認を行い、事務局で取り纏めが行われています。
- ・本校では、これを学生との「約束」と位置付け、教員と学生双方に「学習支援計画書」(シラバス)の遵守を求めています。
- ・「学習支援計画書」(シラバス)は、学年の始めの授業でそれぞれ学生に配付されます。
- ・また、各授業始めの時間に、「学習支援計画書」(シラバス)に基づいて授業内容と学習目標の確認、成績評価の方法等が確認されます。しかしながら、シラバスの活用が十分に行われてきたとは認識しておりません。学生の立場で観れば、授業の最初に見れば事済む状態であり、この状態の改善を図る必要があると考えています。そこで、平成17年度からシラバスを学習への動機付けを図るための「学習支援計画書」(シラバス)に転換を図り、その充実を目指すこととしました。
- ・教員は、学科長が開催する学科会議や教科主任が開催する教科会議において、授業の進捗確認を図り、「学習支援計画書」(シラバス)の記載内容との整合性を確保し、学生の学習に不都合が出ないように努力しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・過去5年間の「学習支援計画書」(シラバス)に記載された内容を比較した時、徐々に学生の立場に立った内容に改善されてきたと考えています。平成17年度からは、学生との「約束」の位置付けから、さらに学習支援計画書へと展開を図り、学生の自主的学習に配慮した内容への充実を目指します。
- ・学習支援計画書は、「科目概要」、「授業方法」、「評価方法」、「到達目標または行動目標」、「授業明細」、「他科目との関連」、「資格試験との関連」、「受講上の注意」、「教員の居場所・オフィスアワー」、「教員からのコメント」の項目を設定し、統一した様式による記載を各教員に求め利用のしやすさを目指すこととしています。(資料 5-2-②-1)
- ・これまでシラバスが活用されているとは認識していません。今後「学習支援計画書」(シラバス)への転換を図る中で学生に活用されるものにしてまいります。

(資料5-2-②-1)

「学習支援計画書(シラバス)」

平成17年度 学習支援計画書

科目名			クラス
総合英語Ⅱ			電気情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	3	1・2・3	向井 守
科目概要			
<p>平明な文章で書かれた英文をより速くより多く読んで英語の読解力を養うことを目的とする。また多くの英語を読むことで単語力の増強をも図ることに努める。またそれぞれのパッセージの内容を読んで世界の社会、科学、習慣そして人々に対して興味と理解を深めていく。また不定詞、動名詞、関係詞、仮定法、そして話法の文法学習も一年に引き続いて行う。</p>			
教科書		参考書(LCの図書等を含む)	
①「Password 1」 Linda Butler, Longman		①「高校総合英語FOREST」 石黒昭博, 桐原書店 ②「ジーニアス英和辞典」 小西支七・南出康也, 大修館	
授業方法			
<p>読解は黙読で把握した情報を概要把握のためのQs&Asよりクラスで発表し、その情報をつなぎ合わせ全体の意味を把握していく。その後、さらに細かく理解するため内容理解のための練習問題を行なう。最後に単語の学習と英文内容の要約を進めていく。文法は、いかに文法が実際の文章作成に役立つかを説明する。その後十分な練習を重ねていく。</p>			
評価方法			
評価項目	%	定期試験では、授業で学習した英文の理解と単語の習得状況を測定するものである。また文法の習得状況も測定する。	
定期試験	50		
要約等の提出	20		
授業での発表	20		
授業態度・出席状況	10		
合計	100		
到達目標または行動目標			
第1学期	①教科書の英文を限られた時間内で読み、そこからできる限りの情報がつかみ取れるようになる。 ②日本語を極力介さず、授業内で行うQs&Asの作業より英文の全体的流れが把握できるようになる。 ③学習した単語を使って自分で文章が作れるようになる。		
第2学期	①教科書の英文を限られた時間内で読み、そこからできる限りの情報がつかみ取れるようになる。 ②日本語を極力介さず、授業内で行うQs&Asの作業より英文の全体的流れが把握できるようになる。 ③学習した単語を使って自分で文章が作れるようになる。		
第3学期	①教科書の英文を限られた時間内で読み、そこからできる限りの情報がつかみ取れるようになる。 ②日本語を極力介さず、授業内で行うQs&Asの作業より英文の全体的流れが把握できるようになる。 ③学習した単語を使って自分で文章が作れるようになる。		

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」 抜粋)

第1学期 授業明細				
週	項目	内容	予習・復習・宿題・その他	時間(分)
1	Chapter 1 A Student and a Dancer	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP2-3)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
2	Chapter 1 A Student and a Dancer	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP3-6)	要約をノートに書き出す	30
3	Chapter 2 Making a Dream Come True	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP9-10)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
4	Chapter 2 Making a Dream Come True	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP10-13)	要約をノートに書き出す	30
5	Chapter 3 A Long-Distance Runner	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP16-17)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
6	Chapter 3 A Long-Distance Runner	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP17-20)	要約をノートに書き出す	30
7	Chapter 5 Antarctica	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP34-35)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
8	Chapter 5 Antarctica	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP35-38)	要約をノートに書き出す	30
9	不定詞	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法 ・SVO+to不定詞 ・不定詞の意味所の主語 ・使役動詞、知覚動詞を使った表現 	不定詞に関する練習問題プリント	40
10	動名詞	<ul style="list-style-type: none"> ・主語、補語、目的語、前置詞の目的語となる動名詞 ・不定詞のみ、あるいは動名詞のみを目的語にする動詞 ・両方をとる動詞 	動名詞に関する練習問題プリント	40

第2学期 授業明細				
週	項目	内容	予習・復習・宿題・その他	時間(分)
1	Chapter 8 Mount Fuji	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP54-55)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
2	Chapter 8 Mount Fuji	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP55-58)	要約をノートに書き出す	30
3	Chapter 9 Your Sense of Taste	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP66-67)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
4	Chapter 9 Your Sense of Taste	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP67-70)	要約をノートに書き出す	30
5	Chapter 11 Blood	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP80-81)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」 抜粋)

6	Chapter 11 Blood	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP81-84)	要約をノートに書き出す	30
7	Chapter 14 From Play to Work	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP106-107)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
8	Chapter 14 From Play to Work	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP107-110)	要約をノートに書き出す	30
9	関係詞 I	・基本的用法 ・継続用法 ・複合関係詞	関係詞の練習問題プリント	40
10	関係詞 II	・関係副詞 ・その他の用法	関係詞の練習問題プリント	40

第3学期 授業明細				
週	項目	内容	予習・復習・宿題・その他	時間(分)
1	Chapter 15 Listening for the Truth	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP114-116)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
2	Chapter 15 Listening for the Truth	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP115-118)	要約をノートに書き出す	30
3	Chapter 17 Song Kran	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP140-141)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
4	Chapter 17 Song Kran	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP141-144)	要約をノートに書き出す	30
5	Chapter 20 Graduations	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP161-163)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
6	Chapter 20 Graduations	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP162-165)	要約をノートに書き出す	30
7	Chapter 21 Comfort Food	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP173-175)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
8	Chapter 21 Comfort Food	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP175-178)	要約をノートに書き出す	30
9	仮定法	・ifを使った仮定法 ・wishやas ifの後の仮定法 ・未来のことを表す仮定法	仮定法の練習問題プリント	40
10	話法	直接話法と間接話法	話法の練習問題プリント	40

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」 抜粋)

他科目との関連	
当授業の前提となる科目	当授業を前提とする科目
①総合英語 I	①総合英語Ⅲ ②英語スキルズⅢ
資格試験との関連	
①実用英語技能検定試験準2級：1次試験筆記「短文の語句空所補充問題」「会話文の文空所補充問題」「語句整序問題」に関連している。	
受講上の注意	
①わからない単語があっても気にせず、ある程度のスピードで英文を読む習慣をつけること。 ②読んだ英文の中にある情報をメモする習慣をつけること。	
教員の居場所・オフィスアワー	教員からのコメント
31・103室 月曜～金曜 16時～17時 土曜 10時～12時 上記以外の時間でもいつでも受け付けます。もしくは予約を してください。	この授業を通して英語を少しでも速く多く読む技術を身に付けることを願っている。

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」 抜粋)

観点 5-2-③ 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校が実施している「ハンズオン教育」の柱となる創造実験は、モノづくりに対する興味を引き出し、創意工夫の重要性を認識させる等の創造性を育む教育であると考えています。また、4年次に実施している校外実習をインターンシップとして、学生に企業現場を体験させる重要な機会として活用しています。（資料 5-2-③-1 「校外実習（インターンシップ）の受入企業数」）、（資料 5-2-③-2 「インターンシップ参加者数」）、（資料 5-2-③-3 「校外実習（インターンシップ先）」）

（資料 5-2-③-1）

「校外実習（インターンシップ）の受入企業数」

		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	計
(7月～8月実施)	県内企業	52	51	55	57	56	48	319
	県外企業	32	27	28	23	23	25	158
	合計	84	78	83	80	79	73	477

(資料5-2-③-2)

「インターンシップ参加者数」

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
インターンシップ参加 学 生 数	県内	98	90	100	95	84
	県外	29	29	32	29	26
	小計	127	119	132	124	110
7/1現在の在籍数		139	123	134	137	118
5/1現在の休学者数		0	0	0	11	5
参加対象者数		139	123	134	126	113
参加割合		91%	97%	99%	98%	97%

(注記.平成15年度の休学者の11名及び平成16年度の休学者の5名のうち4名は留学によるものです)

(資料5-2-③-3)

「平成16年度 校外実習(インターンシップ)先」

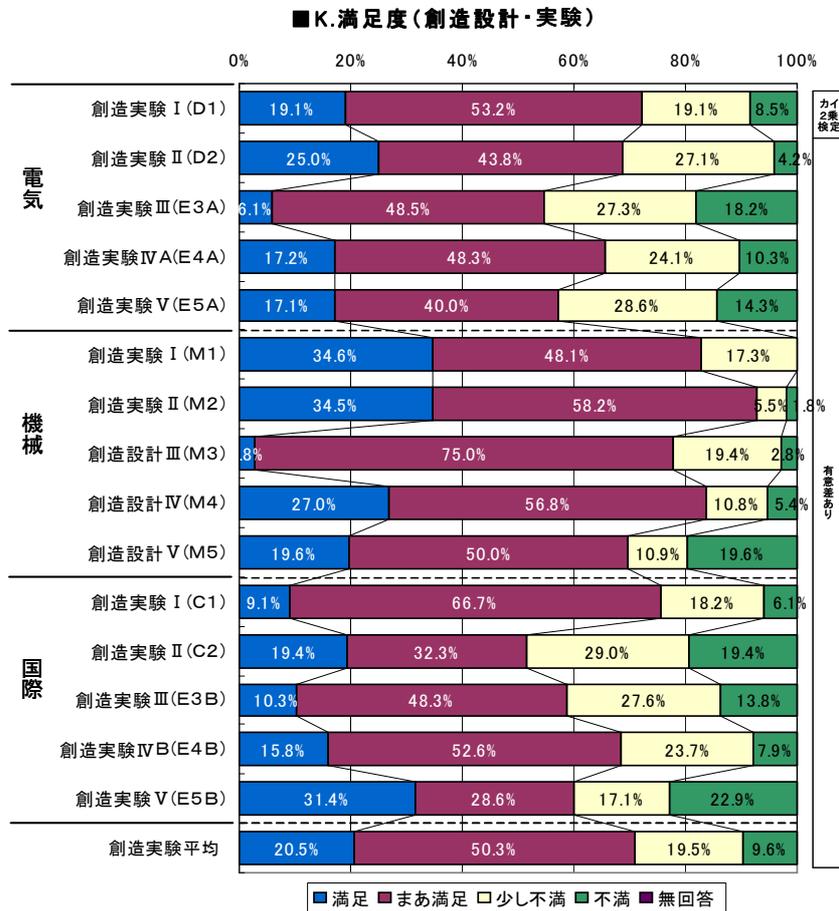
石川県内の実習先			県外の実習先		
	企業名		企業名		
1	㈱ウイルコーポレーション	25	㈱朝日電機製作所	1	中越産業株式会社
2	㈱でんけん	26	㈱別川製作所	2	タカラ産業㈱ 高岡工場
3	㈱石野製作所	27	大京㈱	3	㈱イムラ封筒
4	㈱トランテックス	28	㈱中本鉄工	4	東燃ゼネラル石油㈱
5	アール・ビー・コントロールズ㈱	29	ソニーケミカル㈱ 根上事業所	5	㈱日研工作所
6	㈱根上工作所	30	富士通サポート・サービス㈱	6	グローリー商事㈱
7	北陸通信工業㈱	31	シーエスエヌ㈱	7	東レ㈱ 滋賀事業所
8	米沢電気工事㈱	32	高松機械工業㈱	8	鐘淵化学工業㈱ 滋賀工場
9	小松電子㈱	33	玉田工業㈱	9	ユニチカ㈱
10	㈱金沢総合研究所	34	㈱金田鉄工所	10	小島プレス工業㈱
11	かがつう㈱	35	㈱三光製作所	11	富士フイルムメディカル㈱
12	北陸電力㈱	36	㈱白山機工	12	スパイシーソフト㈱
13	ユアサ電源システム㈱	37	浅井鉄工㈱	13	NECテレネットワークス㈱
14	㈱NTTドコモ北陸	38	㈱イセキ北陸	14	㈱ネットマークス
15	㈱クエストエンジニアリング	39	㈱村谷機械製作所	15	三菱化学エンジニアリング㈱
16	㈱シーピーユー	40	アムズ㈱	16	㈱ルネサンステクノロジー
17	大同工業㈱	41	㈱イコマ・メカニカル	17	㈱安川電機
18	中村留精密工業㈱	42	長野ポンプ㈱	18	㈱ベン 相模原工場
19	㈱BBS金明	43	㈱馬場鉄工所	19	アロカ㈱
20	日本放送協会 金沢放送局	44	山一精工㈱	20	㈱アルファシステムズ
21	発紡電機㈱	45	明治乳業㈱ 北陸工場	21	㈱日産ディーゼル技術研究所
22	㈱北陸計器工業	46	オリエンタルチエン工業㈱	22	㈱前川製作所
23	若松梱包運輸倉庫㈱	47	㈱ジー・テック	23	三菱電機ビルテクノサービス㈱
24	㈱ヨネモリ	48	澁谷工業㈱	24	富士電機システムズ㈱
				25	㈱沖電気カスタマアドテック

(分析結果とその根拠理由)

- ・入学者のほとんどが「モノづくり」に興味はあっても、経験がない状況であると言えます。1年次からの創造実験において「モノづくり」に取り組む学生の真剣な姿と、授業アンケートの結果は、この科目の重要性と必要性を示すものと考えています。(資料5-2-③-4「創造実験の授業アンケート調査結果」)
- ・また、校外実習についても、人間的な成長に繋がっていると実感できます。一方で、受け入れ企業の負担も大きく、平成15年度以降の入学生に対するインターンシップの実施について事前と事後の教育のあり方の検討を進めています。(資料5-2-③-5「校外実習の授業アンケート調査結果」)

(資料 5-2-③-4)

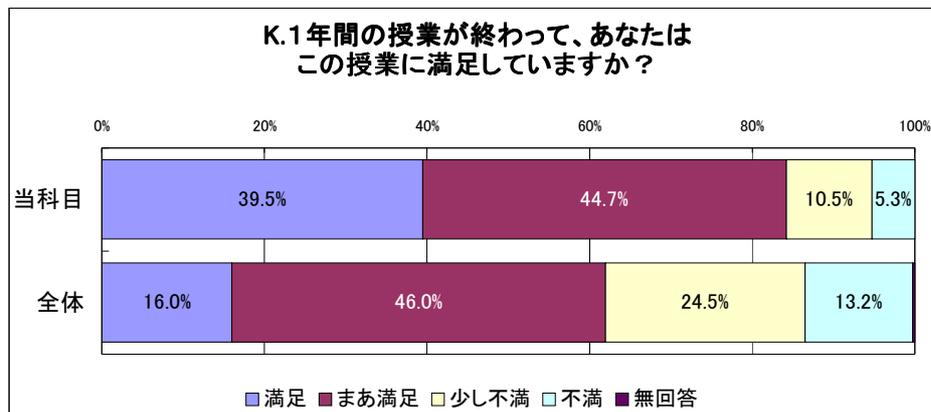
「創造実験の授業アンケート調査結果」



(出典 「平成 16 年度 KTC 授業アンケート調査結果」 P. 38)

(資料 5-2-③-5)

「校外実習の授業アンケート調査結果」



(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 P. 413)

観点5-3-① 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校では、成績評価基準や進級及び卒業認定基準を明確に定め、「学生便覧」及び「学習支援計画書（シラバス）」に明記し全学生に配付しています。また、この内容の説明も入学式後のオリエンテーションや保護者への説明会で説明し、理解を求めています。(資料5-3-①-1)、(資料5-3-①-2)
- ・学習支援計画書（シラバス）には、定期試験や宿題・演習課題、出席・学習態度など、科目毎の評価基準の割合が明示されています。授業担当教員は、学生に最初の授業で科目のガイダンスを行い、成績評価の割合やオフィスアワーについて説明しています。また、授業担当教員は、定期試験の解答用紙を学生に返却し、正答の解説と点数配分の説明を行っています。
- ・本校では、個々の教員が担当した教科の成績を学習支援計画書（シラバス）の成績評価基準に基づいて評価しています。教員が作成した成績票は教務係を通じてクラス担任に提出され、成績が集計されます。
- ・クラス担任は、クラスの学生の成績集計を確認し、教務委員会に報告します。クラス担任は、学生からの成績の問い合わせに応じ、疑問等がある場合は教務係を通して科目担当教員に確認します。
- ・単位認定・進級・卒業認定は、教務委員会が作成した資料に基づき、学務会議（進級判定会議）で審議されています。
- ・学務会議（進級判定会議）の審議結果は、全教員が出席する教員会議に報告され、承認を得ています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・成績評価の厳正化が社会から強く求められています。こうした社会的状況を学生及び保護者が十分認識する必要があると考えています。日頃から授業を進める中で学生に指導を行い、学生の努力を促すように努めており、各教員の評価が適切に行われていると考えています。
- ・保護者会において、本校の成績評価のあり方の説明を行い、理解を促しています。また、個別に学生の成績状況等を説明し、保護者を通じて学生に周知されていると認識しています。
- ・クラス担任は、各教科の成績集計に携わることで学生個々の修学状況全般を把握し、学生からの問い合わせに対応する仕組みを有しています。
- ・成績評価、単位認定、進級・卒業認定は、教科担当教員、クラス担任、教務委員会の確認を得て資料が作成され、学務会議で最終確認が行われ、さらに教員会議に報告され、承認を得る一連の手続きに基づいて適切に実施されていると考えています。

(資料 5-3-①-1)

「金沢工業高等専門学校学習指導に関する実施規程」

金沢工業高等専門学校学習指導に関する実施規程

第1章 総 則

第1条 この実施規程は、本校学則第10条に基づいて定めるものとする。

第2章 授 業

第2条 始業の合図により出席簿を持って教室に行き、学生一同の起立・敬礼ののち出席の調査をする。

第3条 終業の合図により、始業時と同じく敬礼ののち解散させる。

第4条 欠課者が多数あるときでも授業を行う。また、終業時刻前には解散させない。

第5条 授業中は、教室内の秩序・維持につとめ、服装・態度についても注意を与え、はなはだしく悪い場合には学級担任に連絡する。

第6条 授業時間割の変更は、教務の指示により掲示する。無断で休講や変更はしない。

第3章 出欠取扱

第7条 出席簿には、欠課は／、遅刻は○、早退は△と記入する。誤記は×にて訂正する。

第8条 始業時刻よりあとに入室する場合を遅刻、終業時刻前に退室する場合を早退とする。

第9条 学級担任は、出席簿に欠席及び欠課についての理由を記入する。

第10条 忌引き及び伝染病による出席停止、又は下記の各号に該当するものは、出席簿にそれぞれ「忌・伝・公」などを記入する。下記の各号に該当して欠席欠課する場合は、出席扱いとする。

- (1) 公用によるもの
- (2) 天災及び交通機関の事故によるもの
- (3) 資格試験・就職試験の受験によるもの
- (4) 公認対外活動によるもの
- (5) 兄弟・姉妹の結婚、父母、兄弟・姉妹の祭日によるもの

第11条 出欠の状況は、定期試験の成績とともに提出する。

第4章 試 験

第12条 試験は定期試験、追試験、再試験、単位追認試験とする。

第13条 定期試験は、各学期末に行う。

第14条 追試験は、やむを得ない事由によって定期試験を受けることのできなかった者に行う。

第15条 再試験は、定期試験の評価が不合格であった者について行うことがある。

第16条 単位追認試験は、単位を取得できなかった科目について行う。

第17条 故意に試験を受けなかったと認められる者、又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者は、その科目の試験の成績は零点とする。

第 18 条 試験中、不正行為をしたものは、その時間以後の受験を停止させ、当該試験期間中の全科目の試験の成績は零点とする。

第 5 章 成績評価

第 19 条 学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況を総合して行う。

第 20 条 学業成績は、100 点法をもって評価する。

第 21 条 前条の評価は、次の区分により評定する。

評 点	100～80	79～60	59～50	49～0
評 定	5 (優)	4 (良)	3 (可)	2 (不可)

第 22 条 学年の学業成績は、評定をもって指導要録に記載する。

2 成績証明書等は、原則として評定によって表示する。

第 23 条 単位追認試験を受けて単位を取得した科目の評価は、50 点とする。

第 24 条 学業成績は、各学期末に各科目ごとに評価する。

第 25 条 各科目の担当教員は、定められた授業時間数(1 単位あたり 30 単位時間)の 5 分の 4 以上出席している者について、その科目を履修したものと認め、学業成績を評価する。

第 26 条 校長は、各学期末成績が 50 点以上の科目について、学年末にその科目を習得したものと認定する。

第 6 章 進 級

第 27 条 校長は、次の各号のすべてに該当する者について、その学年の課程を修了したことを認定する。

- (1) 平素学生の本分を全うし、かつ勉学に精励したものと認められること
- (2) その学年中の欠席日数が、出席すべき日数の 5 分の 1 未満であること
- (3) 学則に定める学年の科目をすべて履修していること
- (4) 学則に定める学年の科目をすべて修得していること
- (5) 特別活動の結果が良好であること

第 28 条 学則に定める学年の科目をすべて修得できなかった者について、修得できなかった科目が 3 科目以下で、また、その単位数の合計が 8 単位以下であるとき、校長はその学年の課程を修了したものと扱う。

第 29 条 第 1 学年から第 4 学年までについて、その学年の課程の修了又は修了扱いの認定を受けた者は、上位の学年に進級させる。

第 30 条 原級に留められた者は、その学年の定められた科目をすべて再履修しなければならない。

第 31 条 修了扱いの認定を受けて進級した者は、修得できなかった科目について単位追認試験を受けなければならない。

第 32 条 修得できなかった科目については、現に在籍する学年の定める科目とみなす。

第 33 条 同一学年の再履修は、1 回を超えてはならない。ただし、長期休学により再履修できなかったときは、この限りではない。

第 34 条 学年の課程の修了及び修了扱いの認定は、校長が教員会議にはかかって行う。

第7章 卒業

第35条 卒業の認定は、第5学年の課程の修了又は修了扱いの認定を受けた者について行う。

第36条 卒業の認定は、校長が教員会議にはかっている。

第8章 表彰

第37条 学則による表彰は次のとおりとする。

- (1) 進級及び卒業の際、皆勤、精勤の者を賞する
- (2) 学校生活が模範的であり、学業成績が優秀である者を賞する
- (3) 本校教育の振興に功績があったと認められる者を賞する

附 則

- 1 本実施規程に必要な内規は、別に定める。
- 2 本規程は、昭和37年4月1日から実施する。
- 3 本規程は、昭和47年4月1日から実施する。
- 4 本実施規程は、昭和56年4月1日から実施する。
- 5 本実施規程は、平成元年4月1日から実施する。
- 6 本実施規程は、平成4年4月1日から実施する。

(備考)

慶弔による出席扱い

- 兄弟・姉妹の結婚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1日
- 父母、兄弟・姉妹の祭日・・・・・・・・・・・・・・・・ 1日
- 忌引き「父母」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7日
- 忌引き「祖父母、兄弟・姉妹」・・・・・・・・・・・・ 3日
- 忌引き「伯叔父母、従兄弟・従姉妹、その他の家族」・・・ 1日

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 87～89)

(資料 5 - 3 - ① - 2)

授業について

授業時間

授業は各学年ごとに編成されている授業時間割に従い、学級ごとに週単位で行われます。

●授業時間

時限	時間帯
シヨートホーム	8:40～8:50
第1限	9:00～9:45
第2限	9:55～10:40
第3限	10:50～11:35
昼 食	
第4限	12:15～13:00
第5限	13:10～13:55
第6限	14:05～14:50
第7限	15:00～15:45
第8限	15:55～16:40

授業時間割の変更

授業時間割に変更があるときは、その都度伝達します。

欠席・欠課の届け

単位を修得するためには、授業に出席することが前提となります。やむを得ない事情で欠席する場合でも、定められた授業時間数の5分の1を超えて欠席した場合は単位が与えられません。始業時刻より後に入室する者は遅刻、終業時刻前に退室するものは早退とします。欠席、遅刻をする場合は、必ず8時～8時40分の間に学校(076)248-1080へ保護者が電話で届け出るようにしてください。

出席扱い

下記に該当する、欠席、欠課は出席扱いとなりますので、担任に申し出てください。なお、法定伝染病については、校長が出席を停止させることがあります。

慶弔による出席扱い

兄弟・姉妹の結婚	1日
父母、兄弟・姉妹の法要	1日
父母の忌引	7日
祖父母、兄弟・姉妹の忌引	3日
伯叔父母、従兄弟・従姉妹その他の家族の忌引	1日

その他の理由による出席扱い

公用によるもの
天災及び交通機関の事故によるもの
国家試験・就職試験の受験によるもの
公認対外活動によるもの

試験について

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するための資料として試験が行われます。試験の種類には各学期末に行われる定期試験の他、再試験、追試験及び単位追認試験があります。

定期試験

本年度の定期試験日程は、次のとおりです。

第1学期定期試験 6月24日から6月29日まで

第2学期定期試験 11月15日から11月19日まで

第3学期定期試験 2月24日から3月1日まで

なお、その学期の学校納入金を納めていない者は定期試験を受けることができません。また、試験中不正行為をした者は、その時間以後の受験ができなくなり、当該試験期間中の全科目の試験の成績が零点となります。

再試験

再試験は、定期試験終了後、成績評価が不合格であった者について実施することがあります。

追試験

追試験は、病気欠席や部活動による対外試合など、やむを得ない事由によって定期試験を受けることができなかった者に対して実施します。

単位追認試験

単位追認試験は、学年の課程修了が認められた者で、単位を修得できなかった科目について行います。

成績について

単位認定と成績評価

学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況及び出席状況を総合し、シラバスの評価基準に従って行います。学業成績は、各学期末に各科目ごとに、それぞれの科目の担当教員が、定められた授業時間数(1単位あたり30単位時間)の5分の4以上出席している者について、その科目を履修したものと認め評価します。そして学年末成績の評価が50点以上の科目について、校長が、その科目を修得したものと認定します。

学業成績は100点法で評価され、50点以上を合格とします。この評価は次の区分により評定され、指導要録、及び成績証明書等に記載されます。単位追認試験を受けて修得した科目の評価は50点とします。

評点	100～80	79～60	59～50	49～0
評定	5 (優)	4 (良)	3 (可)	2 (不可)

なお、故意に試験を受けなかった場合、または懲戒処分のため試験を受けることができなかった場合には、その科目の試験の成績を零点とします。

成績通知

成績通知票は各定期試験後に保護者あてに直接郵送します。また、成績等で懇談の必要のある場合は、保護者に来校願うことがあります。

(出典 「学生便覧 2005」 PP.95～97)

進級について

進級の条件

- 平素学生の本分を全うし、かつ勉学に精励したものと認められること。
 - その年度中の各科目に定められた授業時間数の5分の4以上出席していること。
 - 学則に定める学年の最低修得単位を修得していること。
 - 学則に定める特別活動の単位を修得していること。
- 以上の条件をすべて満たしている者については、第1学年から第4学年までは、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年に進級できます。
- ただし、学則に定める学年の最低修得単位を修得できなかった者については、未修得科目数が3科目以下で、かつその単位の合計が8単位以下である場合、次学年への進級と認めます。なお、未修得科目は、進級した学年の年度中に単位追認試験等により、単位の追認を受けなければなりません。したがって、前学年の科目が未修得である限りは、次学年への進級は認められません。
- 進級できなくて、原級に留められた者は、その学年の定められた科目のすべてを再履修しなければなりません。

転科

第1学年の修了時に限り、転科を希望する学生に対して、受け入れ学科に余裕がある場合のみ、成績等を考慮して転科を許可することがあります。

在学の制限

同一学年の再履修は、1回を超えてはなりません。

卒業について

卒業

卒業は、平素学生の本分を全うし、かつ第5学年の課程を修了したと認められた者について、校長が決定します。卒業を認められた者には、準学士(工学)の称号が付与されます。卒業を認められない者は、第5学年の定められた科目をすべて再履修しなければなりません。

就職と進学

5年間の専門教育を身につけた卒業生の進路は、大きく開かれています。

就職率は毎年100%です。
さまざまな分野で実践的エンジニアとして活躍する本校卒業生に対する企業の評価は非常に高く、多くの卒業生が大手企業に就職しています。
さらに高度な勉学を志す人は、推薦あるいは一般試験を受けて金沢工業大学、または国公立・私立大学の3年次に編入できます。

各学生の進路については進路指導委員会が中心となり、4年次の進路希望調査を始めとして、進路説明会、学級担任と保護者の懇談会、個人面接等、一人ひとりと親身に話し合い、1年間をかけてきめ細やかな指導をしています。

観点5-4-① 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校における「特別活動」は、各学年で30時間以上実施し、授業では得られない面を補い、学生の人間性・社会性を養います。クラス担任(資料5-4-①-1「クラス担任一覧」)は、週1回の「特別活動」においてテーマ(例えば、本校近隣の清掃作業など)を定めて人間力の養成を図る取り組みを進めています。また、クラス担任は、毎朝授業開始前に10分間のショートホームを行うことで学生の状況把握にも努めています。
- ・平成17年度から1年生の「特別活動」において、キャリアデザイン教育を実施することとしています。2年生以降については、平成18年度からの実施としています。(資料5-4-①-2「特別活動におけるキャリアデザイン」)
- ・クラス担任制度として、1クラスに正・副担任を配置し、どちらか1名をベテランの教員としています。明確な役割分担は決めていませんが、日々学生とのコミュニケーションを図り、協議して職務を遂行しています。また、学年ごとに学年主任を置き、学科・学年を超えたコミュニケーションを図る仕組みとしてクラス担任会議を有しています。ちなみに、学科長は副担任として配置されています。これらの取り組みにより、学生の状況を的確に把握すると共に、クラス担任としての資質とレベル向上を教員間の連携と協力から図っています。

(資料5-4-①-1)

「クラス担任一覧」

学 科 名	学年クラス等 (* : 学年主任)	クラス担任		所属学科	職名
		上段 : 担任	下段 : 副担任		
電気情報工学科	1年 *	大 慶 清	一般科目		教授
		香 林 利 男	電気情報工学科		教授
	2年 *	直 江 伸 至	電気情報工学科		教授
		佐 伯 昭 彦	一般科目		助教授
	3年 *	下 谷 俊 昭	電気情報工学科		教授
		土 地 邦 生	電気情報工学科		講師
電 気 工 学 科	4年A	南 出 章 幸	電気情報工学科		助教授
		表 義 憲	電気情報工学科		教授
	4年B	川 崎 順 治	国際コミュニケーション情報工学科		助教授
		榊 原 東 一 郎	国際コミュニケーション情報工学科		教授
	5年A	石 黒 泰 治	電気情報工学科		講師
		林 孝 広	電気情報工学科		助教授
	5年B	田 村 景 明	国際コミュニケーション情報工学科		教授
		中 川 秀 敏	国際コミュニケーション情報工学科		助教授
機 械 工 学 科	1年	大 崎 富 雄	一般科目		助教授
		天 日 三 知 夫	機械工学科		教授
	2年	村 田 俊 也	一般科目		助教授
		古 屋 栄 彦	機械工学科		助教授
	3年	堀 隆 一	機械工学科		教授
		山 田 弘 文	機械工学科		教授
	4年 *	杉 森 勝	機械工学科		教授
		青 木 敏 彦	一般科目		教授
	5年 *	松 井 洋	機械工学科		教授
		金 光 学	機械工学科		教授
国際コミュニケーション 情報工学科	1年	原 孝 美	一般科目		助教授
		今 澤 明 男	国際コミュニケーション情報工学科		教授
	2年	坂 倉 忠 和	国際コミュニケーション情報工学科		講師
		中 沢 政 幸	国際コミュニケーション情報工学科		助教授
	3年	村 本 紘	国際コミュニケーション情報工学科		教授
半 田 敬	一般科目		教授		

(資料5-4-①-2)

「特別活動におけるキャリアデザイン」

平成17年4月1日

特別活動における“キャリアデザイン”

	テーマ	授業内容	課題
第1学年	キャリアデザインを行い、目標を設定する。	1. 「キャリアデザインの奨励」講演：自己開発センター長 本年度11/25(金・7限)、予備日12/2(金・7限) 2. 自己分析を行う。 本年度12/16(金・7限) 3. 将来目標を設定する。 本年度1/13(金・7限) 4. 目標達成への道筋を考える。 本年度1/27(金・7限) 5. 他者との意見交換を通じ、自身の考えを深める。 本年度2/3(金・7限)、予備日2/10(金・7限) 1～5について、次年度以降は1学期に実施する。 6. 目標に対する自己点検・自己評価。 次年度より2月に実施する。	1. ミニツペーパーの提出(教員が学生の理解度を把握するための用紙)。 2. 「自分は何者か?」「好きなこと嫌いなこと」等、分析シートの作成する(数分間で思いつづものを数多く挙げる)。キャリアデザインシートⅠ「自己分析」を作成する。 3. キャリアデザインシートⅡ「将来目標」を作成する。 4. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」を作成する。次年度以降は「在学中の目標」に「今年度の目標」を含める。キャリアデザインシートⅣ「まとめ」を作成。 5. キャリアデザインシートⅠ～Ⅳを修正する。 6. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートを綴ったキャリアデザインノート(1年)を提出する。
第2学年	「自立/自律」とは何かを理解し、行動に表す。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 2. 「自立/自律について考える」講話。5月 3. 「コミュニケーション能力について考える」講話。6月 4. 「技術者になるということの意味」講話。11月 5. 心理テスト(性格検査)の実施。12月 6. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 2. 「自立/自律」をテーマとした作文を書く。 3. 「国際化・情報化」、「思いやりの心」などをテーマとする作文を書く。 4. 「やりがい」、「目標とする技術者像」などをテーマとする作文を書く。 5. キャリアデザインシートⅠ「自己分析」に検査結果を記述する。 6. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートや作文を綴ったキャリアデザインノート(2年)を提出する。
第3学年	社会的責任と役割を自覚する。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 2. 「技術者倫理について考える」講話。11月 3. 「仕事と人生、フリーターやニート」講話。12月 4. ヒーローに学ぶ(ProjectXのビデオ上映或いは卒業生による講演)。1月 5. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 2. 「技術者倫理」に関する情報を収集し、自身の意見を添えたレポートを作成する。 3. 「職業観」に関する自身の意見を、キャリアデザインⅣ「まとめ」に記述する。 4. 高い目標に粘り強く挑んだ人の人生観や職業観を、自身の人生観・職業観に照らし、気づいたことがらをキャリアデザインⅣ「まとめ」に記述する。 5. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートやレポートを綴ったキャリアデザインノート(3年)を提出する。

特別活動における“キャリアデザイン”

	テーマ	授業内容	課題
第4学年	自分を活かして生きていく道を選ぶ。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 <進路指導主事講話 進路に関する予定など> 2. マナー講習会。6月 3. 「インターンシップの目的について」講話。6月 <インターンシップ 実施および報告会の開催> <就職特別講座、進学特別講座 9月～2月> <「企業が求める人材」講話。(学科長)> 4. キャリアデザインシートⅠ「自己分析」、Ⅱ「将来目標」の作成。11月 <個別面談> <就職・進学先の調査(各自が課外で行う)> 5. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」、Ⅴ「自己アピール」の作成。1月 6. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 2. 講習会后、各自で練習する。 3. インターンシップ調査書(希望業種の選定)、事前レポート作成 <インターンシップ報告書、礼状作成、報告会発表資料の作成> <就職試験や編入学試験に関する演習> <「企業が求める人材」に関する感想文作成> 4. 自己の適性や可能性をキャリアデザインシートⅠに記述する。希望する業種・職種や編入したい学科への志望動機をキャリアデザインシートⅡに記述する。 <個別面談を通じ進路先を絞る> <企業・大学に関する情報収集ノート作成> 5. 5年生で行いたい研究分野とその理由についてキャリアデザインⅢに記述する。キャリアデザインシートⅤ「自己アピール」および履歴書・自己紹介書を作成する。 6. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートやレポートを綴ったキャリアデザインノート(4年)を提出する。
第5学年	5年間を総括し、将来を展望する。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 <就職・進学試験直前対策> <就職・進学に関するアドバイス> <就職試験・編入学試験、試験結果の報告> 2. 「社会で壁にぶつかったときの対応と生涯学習について」講話。10月 3. 「人生の節目でキャリアデザインを行う」講話。11月 4. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 <面接練習> <受験先に対応した自己アピールシート、履歴書(志望動機)の作成> <入社試験内容報告書の作成> 2. 聴講ノートを作成する。 3. 新生活(就職・大学生生活)に関する目標の設定をキャリアデザインシートⅡ「将来目標」に記述する。 4. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。また、高専時代を総括し「総括シート」を作成する。 ※ 総括シートやキャリアデザインシートを綴ったキャリアデザインノート(5年)を提出する。

第2学年～第5学年に関しては平成18年度より実施予定。
 < >は、「特別活動」以外の時間に行われるものです。

- ・穴水湾自然学苑教育（人間と自然Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）には、クラス担任、副担任が同行し、学生と共に活動する中で、相互の信頼関係の醸成に努めています。（資料5-4-①-3）
- ・今年度から全学生が毎日自身が感動した出来事や実施した善い行いをレポートにまとめ担任に提出しています。内容は学生自身の価値観によってさまざまであることは当然ですが、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションの重要なツールとして生かされると考えています。（資料5-4-①-4 『心の教育』について）

（分析結果とその根拠理由）

- ・本校の目標である「人間力の養成」には、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションが不可欠の要素であると考えています。1日一感動運動の充実を図り、人間の素養の涵養に努めます。
- ・クラス担任を中心とする特別活動やショートホームによって人間の素養の涵養に努めています。
- ・穴水湾自然学苑教育は本校の特色ある教育として、人間の素養の涵養に努めています。

（資料5-4-①-3）

「穴水湾自然学苑教育」

穴水湾自然学苑教育

科目「人間と自然」

研修目標

豊かな自然の中で学生同士あるいは学生と教員が寝食を共にし、お互いの信頼関係を深めるとともに、規律ある生活やグループ活動を通し、思いやりと感謝の心を育み、倫理観を養い、チームワークやリーダーシップの大切さを学ぶ。また、生活関連行事等を通じ、日本人としての自覚を深める。

第1学年

団体生活を通じ、挨拶や時間を守り協力し合うことがいかに重要か理解するとともに、グループ活動によりチームワークの大切さを体験し、仲間づくりのきっかけを得る。また、生活関連行事等を通じ、日本人としての自覚を深める。

第3学年

グループ活動を通し、自然への理解を深め、チームワークやリーダーシップを発揮するとともに自己の限界に挑戦する。また、団体生活や奉仕活動を通じ、思いやりの心を養いマナー等を体得するとともに、歴史講話等により日本人としての自覚を深める。

第5学年

新たな旅立ちを前にして自らの生き方を考えるとともに、グループ活動等を通して、自ら判断・行動し、自らを律し得る実践力を高める。また、グループ討議等により日本人としての自覚を深める。

穴水湾自然学苑

〒927-0025 石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘 TEL.0768-52-1279

（出典 「学生便覧 2005」 P.73）

平成17年度第1学年研修日程

	4月4日(月)	4月5日(火)	4月6日(水)
9	8:40 学校集合・出席確認 8:50 学校出発	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食
10		9:00 海洋活動 (カッター漕艇) (港湾見学) (ロープ・ワーク)	9:00 科長講話
11	11:00 穴水湾自然学苑到着		10:00 研修レポート作成
12	11:20 入苑式 健康調査・校歌練習 12:00 昼食	12:00 昼食(~13:00)	11:10 感謝の清掃 11:35 点検 11:50 退苑式 12:00 昼食
13	13:00 オリエンテーション	13:20 海洋活動 (カッター漕艇) (港湾見学) (ロープ・ワーク) (カッター・レース)	12:50 穴水湾自然学苑出発
14	13:40 海洋活動説明		
15	14:40 校長講話		15:00 学校到着 解散
16	15:40 室長・艇長ガイダンス		
17	タへの集い 入浴(~19:10)	16:40 タへの集い 入浴(~19:10)	
18	18:00 夕食(~19:00)	18:00 夕食(~19:00)	
19			
20	19:30 クラスミーティング (自己紹介) (学生生活ガイダンス)	19:30 学年ミーティング (校歌練習) (仲間づくりの集い)	
21			
22			
23	22:50 点呼・点検 23:00 消灯	22:50 点呼・点検 23:00 消灯	

(出典 「学生便覧 2005」 P.74)

平成 17 年度第 3 学年研修日程

	7月19日(火)	7月20日(水)	7月21日(木)	7月22日(金)
		6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食	6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食	6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食
9	8:40学校集合・出席確認 8:50学校出発	9:00 海洋活動 (帆走)	9:00 海洋活動 (遠漕)	8:50 奉仕活動
10		陸上野外活動 (ウォーキング)		
11	11:00穴水湾自然学苑到着 11:20入苑式 健康調査			10:20 研修レポート作成
12	12:00昼食	12:00 昼食(~13:00)	昼食	11:20感謝の清掃 11:40点検 11:50退苑式 12:00 昼食
13	13:00 オリエンテーション	13:20 海洋活動 (帆走)		12:50穴水湾自然学苑出発
14	13:30 校長講話	陸上野外活動 (ウォーキング)		
15	14:40 海洋活動等説明			15:00学校到着 解散
16	15:40 室長・艇長ガイダンス			
17	夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	
18	18:00夕食(~19:00)	18:00夕食(~19:00)	18:00夕食(~19:00)	
19				
20	19:30 歴史講話	19:30 クラスミーティング	19:30 グループ活動 (遠漕反省会)	
21				
22				
23	22:50点呼・点検 23:00消灯	22:50点呼・点検 23:00消灯	22:50点呼・点検 23:00消灯	

(出典 「学生便覧 2005」 P. 75)

平成17年度第5学年研修日程

	7月12日(火)	7月13日(水)	7月14日(木)	7月15日(金)
		6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食	6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食	6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食
9	8:40学校集合・出席確認 8:50学校出発	9:00 海洋活動 (帆走)	9:00 海洋活動 (帆走)	8:50 グループ討議発表
10				10:20 研修レポート作成
11	11:00穴水湾自然学苑到着 11:20入苑式 健康調査			11:20感謝の清掃 11:40点検 11:50卒苑式
12	12:00昼食	12:00 昼食(~13:00)	12:00 昼食(~13:00)	12:00昼食
13	13:00 オリエンテーション 13:30 校長講話	13:20 海洋活動 (帆走)	13:20 海洋活動 (帆走)	12:50穴水湾自然学苑出発
14				
15	14:40 海洋活動説明			15:00学校到着 解散
16	15:40 室長・艇長ガイダンス			
17	16:40夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	
18	18:00夕食(~19:00)	18:00夕食(~19:00)	18:00夕食(~19:00)	
19				
20	19:30 グループ討議説明 19:55 グループ長ガイダンス 20:20 グループ討議(1)	19:30 グループ討議(2)	19:30 グループ討議(3)	
21				
22				
23	22:50点呼・点検 23:00消灯	22:50点呼・点検 23:00消灯	22:50点呼・点検 23:00消灯	

(出典 「学生便覧 2005」 P. 76)

(資料5-4-①-4)

『心の教育』について

「心の教育」について

1 日一感動運動への取組

平成17年4月

金沢工業高等専門学校
校長 堀岡雅清

1. 取組の経緯

本校は、平成9年から「心の教育」として毎年各学年単位で、近隣の道路、公園の清掃奉仕活動を実施してまいりました。現在、その回数は40回に及んでおり、地域の皆様にも知られているところです。

近年、若者の「心の問題」が社会問題化されており、本校では平成16年11月より「1日一感動運動」への取組を試行し、概ね期待していた効果の道筋を見出すことが出来たので、平成17年4月より全校学生への展開を図ることに致しました。

2. 1日一感動運動とは

1日一感動運動とは、毎日の学生生活を充実させるために、1日に少なくとも一回の感動を体験する、あるいは善いことを実行し、それを所定の用紙に記録し継続するものです。

この取組の趣旨は、本校学生の「知性、感性、徳性」の涵養を目的とし、感謝と奉仕の心を育むことを目指しています。さらに、本学園の建学綱領の最上位に掲げてある「人間形成」を図る具体の取組の一つであり、本学園の信条(KIT-IDEALS)を意識付けるものとして取り組んでいます。

(出典 小冊子「心の教育について」抜粋)

観点 5-4-② 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点にかかる状況)

- 生活指導面においては、クラス担任がこれを担当します。一方、学則上問題となる行為が認められた時は、学生主事及び厚生補導委員会において対処することとしています。また、課外活動については、すべての部活動の顧問を教員が担当し、活性化に努力しています。こうした教員の積極的な係わりにより人間教育の充実を目指しています。(資料 5-4-②-1 「部活動の支援体制」)
- 部活動の顧問は、原則として主副の 2 名の教員を置いています。その割り当ては、校長が学生主事の協力のもと、可能な限り当該の部に興味・関心・経験のある教員を選んでいます。本人の内諾を得た後、学務会議を経て決定されます。
- クラブ活動のコーチについては、学生の希望にもとづいて配置しています。
- 採用方針としては、本校の理念や目標を理解し、学生を大切に指導してくれる人材を選んでいます。コーチには、週あたり 3 回程度の指導をお願いしています。

(資料 5-4-②-1)

「部活動の支援体制」

部	顧問 (*は主任)	監督	コーチ
陸上競技部	金光 学		
バレーボール部	半田 敬*・佐藤 守		
バスケットボール部	大慶 清		
ソフトテニス部	松井 洋*・大崎富雄		
テニス部	堀 隆一*・氏家亮子		丸田豊司
野球部 (上級生)	村本 紘	粟 正治	
野球部 (下級生)	土地邦生*・中沢政幸	西野雅昭	
サッカー部	佐伯昭彦*・下谷俊昭		熊谷健吾・高木由典
卓球部	南出章幸*・表 義憲		
バドミントン部	作宮和泉*・今澤明男		前田正志
水泳部	川崎順治*・中川秀敏		
剣道部	村田俊也		
柔道部	杉森 勝*・青木敏彦		
ラグビー部	香林利男		
スキー部	榑原東一郎*・大原しのぶ		池田彰二
吹奏楽部	壽時 廣*・坂倉忠和・山田弘文		米森信夫
放送・無線部	林 孝広		
電子計算機部	田村景明		
写真部	天日三知夫*・直江伸至		
美術部	陳 ウイ		
ハンズオン部	古屋栄彦		
将棋部	石黒泰治		大井茂一
華道講座	原 孝美		金田恍幽

(分析結果とその根拠理由)

- 教員と学生が授業以外の活動の場で触れ合うことは、教員にとっては学生の違う側面を発見し、学生にとっても教員の違う側面を見ることのできる大切な機会であると考えています。教室を離れて学生と教員が話し合う場を持つことに繋がっている課外活動における部活動の顧問制度は、適切な取り組みであると考えています。(資料 5-4-②-2 「部活動の実績」)
- クラス担任は、毎朝実施するショートホームにおいて学生の状況把握に努めています。生活の乱れは、遅刻や欠席に繋がることが多く、保護者との連携による適切な対応に努めています。

(資料5-4-②-2)

「部活動の実績」

平成11 年度	<p>◇第34回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・剣道(男子)：優勝 ・バスケットボール(男子)：優勝 ・水泳(男子総合成績)：2位 ・バドミントン(男子)：2位 ・ソフトテニス(男子)：2位 ・剣道(女子)：2位 [個人の部] ・剣道(男子)：優勝、3位 ・剣道(女子)：2位 ・ソフトテニス(男子)：優勝 ・柔道・90kg超級：3位 ・水泳(男子)：400m自由形(優勝)、800m自由形(優勝)、200mバタフライ(2位)、200m自由形(2位)、400m自由形(2位)、400mメドレーリレー(2位)、400mリレー(3位)、100mバタフライ(3位)、200m個人メドレー(3位)、200m自由形(3位)、800m自由形(3位) ◇第34回全国高専体育大会 [個人の部] ・剣道(男子)：3位 ・水泳(男子)：800m自由形(10位)</p>
平成12 年度	<p>◇第35回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子)：優勝 ・剣道(男子)：優勝 ・ソフトテニス(男子)：2位 ・バレーボール(男子)：3位 ・水泳(男子)：3位 ・卓球(男子)：3位 ・剣道(男子)：優勝、2位、3位 [個人の部] ・ソフトテニス(個人)：2位 ・バレーボール：優秀選手賞 ・水泳(男子個人)：200mバタフライ(優勝)、800m自由形(優勝)、200m個人メドレー(2位)、200mバタフライ(2位)、 ◇第35回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：2位 ・剣道(男子個人)：2位</p>
平成13 年度	<p>◇第36回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・バスケットボール(男子)：優勝 ・剣道(男子)：優勝 ・ソフトテニス(男子)：優勝 ・水泳(男子)：3位 [個人の部] ・剣道(男子)：優勝、2位 ・ソフトテニス(男子)：2位 ・卓球(男子)：3位 ・陸上(男子)：1500m(3位) ・水泳(男子)：200mバタフライ(優勝)、200mバタフライ(2位)、100m背泳ぎ(3位)、200m個人メドレー(3位) ◇第36回全国高専体育大会 ・バスケットボール(男子団体)：3位</p>
平成14 年度	<p>◇第37回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・剣道(男子)：優勝 ・バスケットボール(男子)：2位 ・ソフトテニス(男子)：2位 [個人の部] ・剣道(男子)：優勝、2位、3位 ・水泳(男子)：200mメドレー(2位)、200mバタフライ(2位)、200mメドレー(3位) ◇第37回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：3位</p>
平成15 年度	<p>◇第38回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・剣道(男子)：優勝 ・バスケットボール(男子)：優勝 ・ソフトテニス(男子)：2位 ・バドミントン(男子)：3位 [個人の部] ・剣道(男子)：優勝、3位 ・剣道(女子)：2位 ・ソフトテニス(男子)：2位 ・水泳(男子)：50m自由形(優勝)、100m自由形(2位)、男子400mメドレーリレー(3位)、200m背泳ぎ(3位) ◇第38回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：2位</p>
平成16 年度	<p>◇第39回北陸地区高専体育大会 [団体の部] ・剣道(男子)：優勝 ・バスケットボール(男子)：優勝 ・サッカー(男子)：3位 [個人の部] ・剣道(男子)：優勝、2位、3位 ・水泳(男子)：100mバタフライ(優勝)、200mバタフライ(優勝) ◇第39回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：3位 ◇石川県冬季国体予選 ・スキー(男子)：アルペン(6位) ◇第40回全国将棋選手権大会石川県大会 ・団体3位 ・個人：3位</p>

(専攻科課程)

該当ありません。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 教員と学生間のコミュニケーションが非常に緊密に行われていると認識しています。
- ・ 本校の教育実践目標の具現化を図るために、体系化した教育課程の編成、教育目的に即した授業形態、人間力の養成等に教職員が一丸となって取り組んでいます。

(改善を要する点)

- ・ 教員の負担が大きいことにありますが、教員としての「使命」と認識し、教職員間の協力体制の充実によって乗り越えていきたいと考えています。

(3) 基準5の自己評価の概要

授業科目は、学年ごとに教育実践目標にあわせ適切に配置され、内容も体系的に整備されていると考えています。特に、「創造実験」とそれに続く「卒業研究」を1～5年次までカリキュラムに組み込み、工夫したものとしています。授業の内容は、教育実践目標を達成するために計画されており、全体として教育課程編成の趣旨に沿ったものと考えています。また、これまで学生の活用が十分ではないとの認識から、学習支援計画書(シラバス)への転換を図り、シラバスの充実を目指しています。

各授業科目において必要に応じて講義と演習を組み合わせているほか、英語教育や創造教育における少人数教育が実施され、各授業科目の授業形態がその目標を十分実現できるように工夫しています。また、情報機器の利用など、教育内容に応じて学生の授業への意欲の増進を図る工夫を行っています。創造性を育む教育方法としては、「創造実験」(「ハンズオン教育」)が一般科目と専門科目の連携を図りつつ低学年から体系的に構成されており、4年次に行うインターンシップは、ほとんどの学生が参加し、企業現場を経験する場として活用されています。

規程(資料5-3-①-1「学習指導に関する実施規程」)が定められ、成績評価や進級、卒業認定に関する基準として、その内容が学生便覧に掲載されているとともに、各科目の成績評価方法は学習支援計画書(シラバス)に明記されています。これらは、年度はじめのオリエンテーションなどで説明し、学生に周知されています。単位認定、進級、卒業認定は基準に従って学務会議で審議されており、成績評価は学習支援計画書(シラバス)に記載された評価方法に従って、適切に実施されています。

教育目標の一つである「人間力の養成」のため、特別活動は1～5年次に毎週1回行われています。本校の特色ある教育として、「穴水湾自然学苑教育」が実施されており、教育課程内の学科目として、人間の素養の涵養がなされるよう配慮しています。また、学生の生活面での指導はクラス担任が、課外活動面での指導はクラブ担当顧問教員が中心になって行っており、これらの指導を通して、人間の素養の涵養を図る努力がなされています。

以上のとおり、教育課程の編成状況、その内容及び水準、授業形態、学習指導法等、及び成績評価や卒業認定等の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準6. 教育の成果

(1) 観点ごとの自己評価

観点6-1-① 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は、学生の満足度を計るべく「KTC総合アンケート調査」を平成15年から実施しています。達成度と満足度には大きな違いがありますが、教育の質の向上を目指す第一歩として、在校生、卒業生、教職員、企業の方々の本校教育全般の満足度を調査し、改善に結びつけようとするものです。
- ・5年生に対するアンケート項目として「社会で求められる人材像」に関する項目を設けています。これは本校が目指す「技術者像」を構成する能力や資質を21項目に分けて質問したものです。学生自身は、非常に低い水準での自己評価でありました。反面、教員からの学生評価は、全体的に見て高く、達成度評価としては、整合性のない不十分な状況にあると考えています。(資料6-1-①-1)
- ・在校生には「KTC授業アンケート調査」(資料6-1-①-2)も実施しています。本校の教育課程を構成する各学科目が適切に実施され機能することが、本校の教育目的の達成には不可欠です。アンケート結果に基づいて各教員の授業改善を進めています。
- ・1年生を対象にキャリアデザイン教育を平成17年度から実施します。本校の学生の多くは、自らの目標を持つことが重要であることは理解できても、現実に目標に向かって努力し、達成の喜びを得る経験は十分とは言えないと考えています。平成18年度から2～5年生で実施するなど今後キャリアデザイン教育の充実を図り、達成感に基づく満足度の向上を目指す中で、達成度評価に結びつけていきたいと考えています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・厳密な意味での達成度評価が行えていないと認識しており、今後継続した努力が必要であると考えています。
- ・「KTC総合アンケート調査結果」の中で5年生と教員に対するアンケート結果の「人材の能力に関するまとめ」では、教員と学生の間意識のずれが見られます。卒業を間近に控え、社会に巣立つことへの不安も大きいものがあると感じています。達成感に基づく自信を持たせる等、さらなる努力が必要であると考えています。(資料6-1-①-3)
- ・達成度評価の前提には、教職員と学生の目標に関するベクトルの一致が重要です。本校の目標とする「心豊かな人材像」「創造性あふれるエンジニア像」に対する明確なイメージをキャリアデザイン教育の充実の中で形成してまいりたいと考えています。

(資料 6 - 1 - ① - 1)

「社会で求められる人材像」

[5 年 生]

■ 社会で求められる「人材像」についてお聞きします。

(11) 下記に挙げた「社会で求められる能力」に関して、あなた自身は現段階で各々の項目をどの程度満たしていると思いますか？

	満たしている	やや満たしている	あまり満たしていない	満たしていない
1. 広く情報を収集する能力	1	2	3	4
2. 収集された情報を整理する能力	1	2	3	4
3. 物事を理論的に考える能力	1	2	3	4
4. ひとつの事柄を様々な視点から捉える能力	1	2	3	4
5. 課題解決のための仮説を構築する能力	1	2	3	4
6. 課題解決のため自ら行動を起こせる自律性	1	2	3	4
7. 周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力	1	2	3	4
8. 自分の意見を分かりやすくまとめ表現できる能力	1	2	3	4
9. 目的に向かってグループをまとめるリーダーシップ能力	1	2	3	4
10. 相手の立場になって考えられる思いやりの心	1	2	3	4
11. 新しい知識・技術に興味をもつ知的好奇心	1	2	3	4
12. 常に新たなものに挑戦する活力	1	2	3	4
13. ねばり強く努力を続ける勤勉さ	1	2	3	4
14. 周囲に対する謙実さ	1	2	3	4
15. 社会人としての基本的な常識	1	2	3	4
16. 技術者として社会に対する責任を自覚する能力	1	2	3	4
17. 自らの専門分野に関しての基礎的な知識や技術	1	2	3	4
18. 社会で役立つ実践的・応用的な知識や技術	1	2	3	4
19. 外国語（英語）の読み書きなどの国際的なコミュニケーション能力	1	2	3	4
20. パソコンやインターネットを使いこなす能力	1	2	3	4
21. 自分自身で将来のキャリアプランを考え、自己実現を目指す姿勢	1	2	3	4

[教 職 員]

■ 社会で求められる「人材像」についてお聞きします。

(3) 一般的な新入社員は、社会からどのような能力が求められていると思いますか？また、本校の卒業生が卒業時点で各々の項目をどの程度満たしていると思いますか？

	社会が新入社員に求める能力				卒業生（卒業時点）			
	求められている	少し求められている	あまり求められていない	求められていない	満たしている	少し満たしていない	あまり満たしていない	満たしていない
1. 広く情報を収集する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 収集された情報を整理する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 物事を理論的に考える能力	1	2	3	4	1	2	3	4
4. ひとつの事柄を様々な視点から捉える能力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 課題解決のための仮説を構築する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. 課題解決のため自ら行動を起こせる自律性	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 周囲と共同し共創していけるコミュニケーション能力	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 自分の意見を分かりやすくまとめ表現できる能力	1	2	3	4	1	2	3	4
9. 目的に向かってグループをまとめるリーダーシップ能力	1	2	3	4	1	2	3	4
10. 相手の立場になって考えられる思いやりの心	1	2	3	4	1	2	3	4
11. 新しい知識・技術に興味をもつ知的好奇心	1	2	3	4	1	2	3	4
12. 常に新たなものに挑戦する活力	1	2	3	4	1	2	3	4
13. ねばり強く努力を続ける勤勉さ	1	2	3	4	1	2	3	4
14. 周囲に対する謙実さ	1	2	3	4	1	2	3	4
15. 社会人としての基本的な常識	1	2	3	4	1	2	3	4
16. 技術者として社会に対する責任を自覚する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
17. 自らの専門分野に関しての基礎的な知識や技術	1	2	3	4	1	2	3	4
18. 社会で役立つ実践的・応用的な知識や技術	1	2	3	4	1	2	3	4
19. 外国語（英語）の読み書きなどの国際的なコミュニケーション能力	1	2	3	4	1	2	3	4
20. パソコンやインターネットを使いこなす能力	1	2	3	4	1	2	3	4
21. 自分自身で将来のキャリアプランを考え、自己実現を目指す姿勢	1	2	3	4	1	2	3	4

(4) 上記以外に、本校学生が身につけたら良いと思われる能力（または資格）はありますか？また、その理由はどのようなものですか？

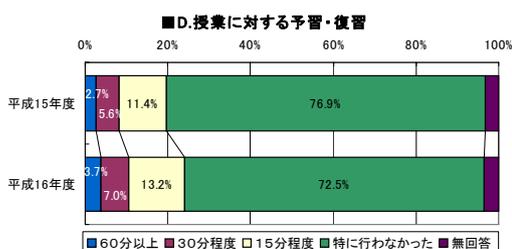
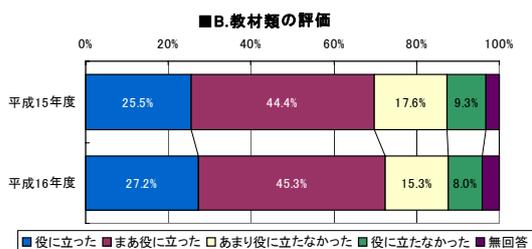
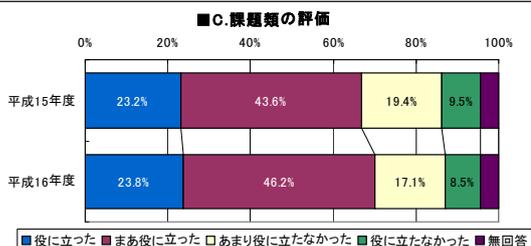
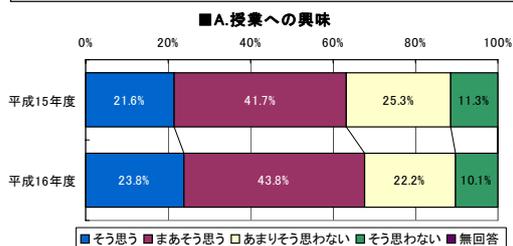
(資料 6-1-①-2)

「授業アンケート調査結果」

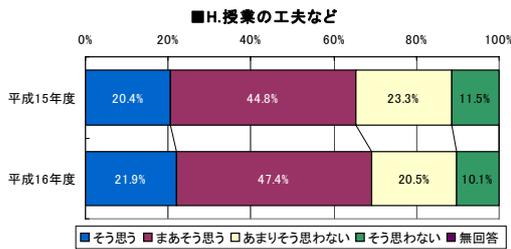
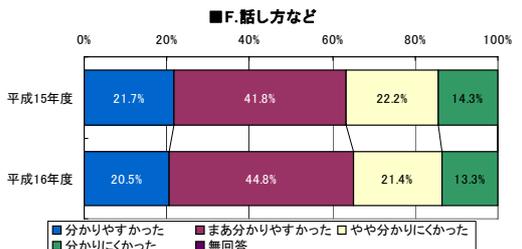
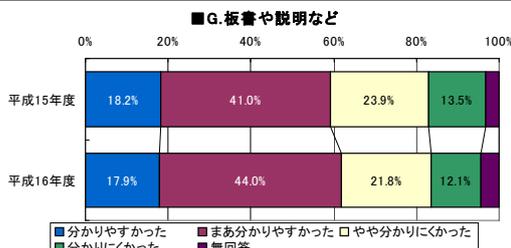
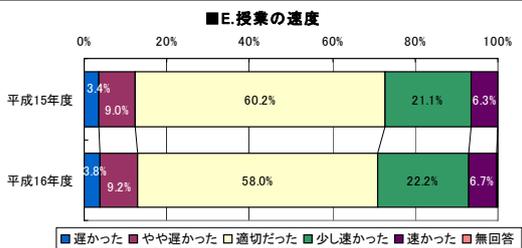
<3> 基本的集計

1) 全設問の単純集計 (昨年度との比較)

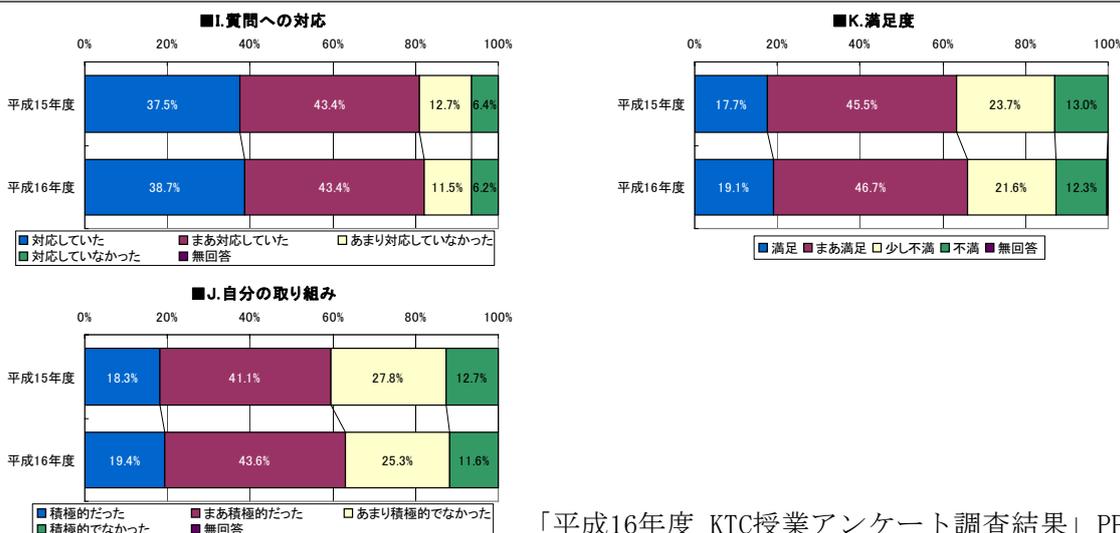
- 個別の項目に関して昨年度との比較を行いながら単純集計を確認した。
- 「授業への興味」に関しては、23.8%が「そう思う」、43.8%が「まあそう思う」であり、合わせて67.6%が授業に興味を持っていると回答していた。そして平成15年度(以下、H15)と比較すると、興味の度合いは4.3ポイント増加していることが確認できた。
- 「教材類の評価」は27.2%が「役に立った」、45.3%が「まあ役に立った」と回答しており、全体では72.5%が役に立ったと感じていた。また、H15との比較では、役に立ったと感じている回答が2.6ポイント増加していた。
- 「課題類の評価」も高く、「役に立った」が23.8%、「まあ役に立った」が46.2%であり、合わせて70.0%が役に立ったと感じていた。H15との比較では「役に立った」はあまり変わらなかったが、「まあ役に立った」を含めると3.2ポイント増加しており、評価は良くなっていた。
- 各々の「授業に対する予習・復習」の時間は、「60分以上」が3.7%、「30分程度」が7.0%、「15分程度」が13.2%で、「特に行わなかった」は72.5%であった。H15との比較を見ると時間は増加しており、「特に行わなかった」は4.4ポイント減少していた。



- 「授業の速度」に対する評価は、「遅かった」「やや遅かった」を合わせると13.0%、「速かった」「少し速かった」を合わせると28.9%であり、学生は授業の速度を少し速く感じているようであった。そして、H15と比較すると遅めに感じている回答は0.6ポイント増加し、速めと感じている回答は1.5ポイント増加していた。
- 「話し方など」では「分かりやすかった」が20.5%、「まあ分かりやすかった」が44.8%であり、合わせて65.3%は分かりやすいと感じていた。そして、H15との比較では「分かりやすかった」はわずかに減少したが、トータルとしては話し方は分かりやすくなっているようであった。
- 「板書や説明など」に関しては「分かりやすかった」が17.9%、「まあ分かりやすかった」が44.0%であり、合わせて61.9%が分かりやすいと感じていた。H15との比較では「まあ分かりやすかった」が3ポイント増加しており、トータルで見ても分かりやすくなっているようであった。
- 「授業の工夫など」に関しては、21.9%が工夫していると感じており、「まあそう思う」と合わせると69.3%は授業が工夫されていると感じていた。また、H15との比較では、工夫していると感じている意見は4.1ポイント増加していた。



- 教員の授業中、授業後の「質問への対応」に関しては、38.7%が丁寧に対応していたと回答しており、「まあ対応していた」と合わせると82.1%は教員の対応に満足していると感じていた。また、H15と比較すると対応の評価は良くなっていることが分かった。
- 「自分の取り組み(授業に対して積極的に取り組んでいたか)」に関しては、19.4%が「積極的だった」、43.6%が「まあ積極的だった」と回答しており、全体の63.0%は積極的に取り組んでいた。H15との比較では「積極的だった」「まあ積極的だった」の両者ともに増加しており、H15より積極性が増していることが確認できた。
- 授業に対する「満足度」では、「満足」が19.1%、「まあ満足度」が46.7%であり、全体の65.8%が満足していることが分かった。H15との比較では、「満足」が1.4ポイント増加し、「まあ満足」も1.2ポイント増加しており、全体では満足しているという回答が2.6ポイント増加していた。
- また、不満に関して見ると、「不満」という意見は前年度とあまり変わらず、一定数の不満を感じている層がいることが分かった。そして、「少し不満」が昨年度より2.1ポイント減少していることから、前年に少し不満を感じていた層がまあ満足という意見に変わったことが考えられる。



「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 PP. 5～7)

(資料 6 - 1 - ① - 3)

「人材の能力に関するまとめ」

人材の能力に関するまとめ

学生自身は「知的好奇心」「誠実さ」「思いやりの心」があり、「国際的コミュニケーション能力」「実践的な力」が欠けていると感じている。

- 上記の通り、学生自身の自己評価では「知的好奇心」「誠実さ」「思いやりの心」の3点に関しては比較的信頼を持っているようであった。
- 自信を持っていない面は多かったが、「国際的なコミュニケーション能力」「実践的・応用的な技術や知識」「専門分野の知識や技術」「リーダーシップ」「自己実現を目指す姿勢」などが欠けていると感じていた。

社会ニーズから考えると「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」が足りない。

- 教員の「社会が求める能力」と「卒業時点の学生の能力」を比較すると、現在の卒業生には「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」などが不足していると感じていた。
- 逆に、「パソコンやインターネット活用能力」は充分であり、「英語などのコミュニケーション能力」「誠実さ」「思いやりの心」など対人関係能力も備えていると考えている。

KTCの学生に対する教員の評価は高く、「パソコンやインターネット活用能力」は非常に高いと考えている。

- 5年生の現在の自己評価と比べると、教員の卒業生評価は非常に高く、KTCの卒業生に自信を持っていることがうかがえた。
- 特に「パソコンやインターネット活用能力」の評価は突出しており、次いで「誠実さ」「共同共創できるコミュニケーション能力」「思いやりの心」「英語などのコミュニケーション能力」など、対人関係能力にもっと自信を持つべきだと感じていた。

教員の学生能力評価は昨年度と差は少ないが、「英語などのコミュニケーション能力」は上がっていると感じていた。

- 教員評価で昨年度より向上したのは、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「専門分野の知識や技術」「理論的な思考能力」などであり、これらには学科再編なども影響しているのではないかと考えられた。
- 逆に評価が下がったのは「自律性」「意見を分かりやすくまとめる能力」「様々な視点から捉える能力」といった点であった。



<人材の能力に関するまとめ>

- 昨年度と同様に教員の学生評価は全体的に高く、教員はKTC卒業生に誇りを持っており、もっと自信を持つべきだと考えているように思われた。
- 様々な側面から見てKTC卒業生の【強み】【弱み】はある程度明確になってきている。【強み】はKTCが教育の特徴としている「パソコンやインターネット活用能力」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」といったものや、「誠実さ」「思いやりの心」「共同共創できるコミュニケーション能力」といった対人関係に関するものであった。逆に【弱み】は「様々な視点から捉える能力」「仮説構築能力」「自律性」「理論的思考能力」といった、ものの考え方に関する点であった。
- 上記のように、現在の学生の姿はおぼろげに見えてきており、それに対する対応策も順次、出てくるものと思われる。そして、それらの対応策を実施しながら、3年後に予定している企業調査など、外部から卒業生を見た際に、どのようにデータが変化しているのかに着目していくべきだと思う。

(出典 「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」 P. 92)

観点 6-1-② 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校の教育実践目標や各学科の目標に基づく学力や資質、能力の評価は、各学科目における評価の積み重ねによって表わされます。このため、各学科目担当教員は、評価基準を各々工夫し単に定期試験による成績だけでなく、授業態度や提出レポート等も含む総合的な評価を行っています。また、各学科目担当教員は、自らの評価基準について学生に周知徹底を図っています。従って、成績不良によって進級できなかつたり、退学者がいることは、止むを得ないと考えています。
- ・進級が危ぶまれる学生に対しては、担任が中心となって修学指導を行っています。さらに、学期毎に成績不良科目の補習指導や再試験などを行っています。それでも留年生が出ることは、成績評価を厳格に行うため止むを得ないと認識しています。
- ・平成16年度の退学理由の内訳は、次の通りでした。
〔進路変更（大学進学・就職等）19名、成績不良5名、経済的理由1名、病気・負傷2名〕
- ・資格取得や夢考房活動、海外留学等、学生の自己実現を目指す自発的な活動こそが、最も人間性を豊かにし、創造性につながると考えています。これらは、未だ十分とはいえませんが、学生の自主的な取り組みの中で成果が表れてきたと考えています。（資料6-1-②-1「主な資格取得状況」、（資料6-1-②-2「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」、（資料6-1-②-3「海外留学状況」）
- ・卒業研究（創造実験Ⅴ）は、学生がこれまで身に付けてきた力を発揮する集大成の科目として、学科ごとに発表会を開催し、学生のプレゼンテーションによる活発な質疑が行われます。これにより、学生の教育成果の水準が保持できていると考えています。また、提出されたすべての卒業論文は製本され、ライブラリーセンターに保管されることによって後輩達の参考に供されています。
- ・毎年数人の学生が卒業研究の成果を電気或いは機械の関連学会等で発表しています。（資料6-1-②-4「学生の学会発表数」）

(資料 6-1-②-1)

「主な資格取得状況」

資格名	種別	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		合格者	合格者	合格者	合格者	合格者
危険物取扱者	乙種1類	6	3	3	2	0
	乙2	5	2	2	2	5
	乙3	5	3	2	2	3
	乙4	17	8	8	14	5
	乙5	4	4	4	3	1
	乙6	3	6	4	0	2
消防設備士	丙種	5	5	10	9	6
	甲4	0	0	1	0	0
	乙4	0	0	0	1	0
ボイラー技士	乙7	0	0	0	1	1
電気主任技術者	2級	4	2	2	0	0
	第3種	0	0	2	2	0
電気工事士	第3種科目合格	0	11	14	8	12
	第2種	14	12	28	21	19
工事担任者	デジタル3種	0	2	0	0	0
	総合種	0	0	1	0	0
ラジオ・音響技能検定	3級	4	2	0	1	1
	4級	4	1	2	2	0
特殊無線技士	陸上1級	0	0	0	1	0
	航空	2	0	0	0	0
情報処理技術者	基本情報(2種)	2	0	5	2	4
	初級シスアド	1	2	0	1	1
デジタル技術検定	2級(情報)	2	0	2	2	0
	3級	5	5	4	1	0
	4級	5	2	2	0	0
画像情報技能検定	CG2級	0	0	1	1	0
	CG3級	0	9	5	5	4
	画像処理2級	0	0	1	0	0
	画像処理3級	1	2	0	0	2
	マルチメディア2級	0	1	1	1	0
	マルチメディア3級	5	4	4	6	2
火薬類保安責任者	甲種取扱	1	0	0	0	0
機械設計技術者	3級	0	5	10	5	6
	2級	2	4	1	2	6
実用英語技能検定	準2級	3	9	12	4	13
	3級	3	1	1	4	5
工業英語検定	3級	1	1	1	0	1
	4級	0	4	5	8	6
漢字能力検定	2級	0	0	2	1	0
	準2級	3	7	3	6	12
	3級	5	3	10	6	13
	4級	2				0
日本語文章能力検定	2級	0	0	0	0	1
	準2級	2	0	2	1	12
	3級	17	3	10	14	10
	4級	21	18	15	22	0
実用数学技能検定	2級	0	0	1	0	1
	準2級	4	2	13	12	9
ハ ^ソ ナルコンピュータ 利用技術認定	3級	27	5	29	19	13
	2級	0	0	1	0	1
	3級	0	1	0	1	15
CAD利用技術者	4級	8	4	12	2	
	2級	1	0	0	0	0
秘書技能検定	2級	3	2	1	0	4
	3級	9	3	0	5	4
カラーコピーネーター検定	2級	0	0	0	1	1
	3級	6	0	4	3	1
情報技術検定(高専対象)	1級	1	6	4	1	8
	2級	12	27	8	33	38
	3級	8	6	31	38	63
ガス溶接技能者		16	18	19	11	2
MOUS	Excel一般	1				
電気取扱業務安全衛生特別教育		85	41	23	34	47
合計		335	256	326	321	360

(資料 6-1-②-2)

「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」

年度 プロジェクト名	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	総計
ロボット	15	11	21	34	21	22	124
RoboCup				2	3	0	5
ソーラーカー					2	3	5
ソーラーボート				3	1	1	5
風力発電					1	1	2
総計	15	11	21	39	28	27	141

(資料 6-1-②-3)

「海外留学状況」

海外英語研修(短期)

年度	期間	留学先	参加者数():女子学生内数
平成11年度	7月1日～8月5日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 27(5)人 機械工学科 3年生 6人 機械工学科 4年生 1人 計34(5)人
平成12年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 28(8)人 電気工学科 4年生 2人 機械工学科 3年生 13人 計43(8)人
平成13年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 26(4)人 機械工学科 3年生 14人 計40(4)人
平成14年度	6月30日～8月18日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 30(5)人 機械工学科 3年生 15(1)人 計45(6)人
平成15年度	6月30日～8月18日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 26(4)人 機械工学科 3年生 8人 計34(4)人
平成16年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 22人 機械工学科 2年生 6人 機械工学科 3年生 8人 電気情報工学科 2年生 14(1)人 国際コミュニケーション情報工学科 2年生 9(4)人 計59(5)人
平成17年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気情報工学科 2年生 13(1)人 機械工学科 2年生 7(1)人 国際コミュニケーション情報工学科 2年生 16(2)人 計36(4)人

海外留学(期間:4月上旬から翌年3月下旬)

年度	留学先	参加者数():女子学生内数
平成11年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 2人 機械工学科 4年修了生 1人 計 3人
平成12年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 4人 機械工学科 4年修了生 2人 機械工学科 5年修了生 2(1)人 計 8(1)人
平成13年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 5年修了生 2(2)人 機械工学科 5年修了生 1人 計 3(2)人
平成14年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 1人 電気工学科 5年修了生 3人 計 4人
平成15年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 1人 計 1人
平成16年度	(ニュージーランド) オタコ・ホリテクニク	電気工学科 3年修了生 8(1)人 機械工学科 3年修了生 3人 機械工学科 4年修了生 1人 計 12(1)人
	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年修了生 2人 機械工学科 5年修了生 1人 計 3人
平成16年度	(ニュージーランド) オタコ・ホリテクニク	電気工学科 2年修了生 16(1)人 電気工学科 3年修了生 2(1)人 電気工学科 4年修了生 1(1)人 機械工学科 2年修了生 8(2)人 計 27(5)人
	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年修了生 1人 計 1人
平成17年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年修了生 1人 計 1人
	(ニュージーランド) オタコ・ホリテクニク	電気情報工学科 2年修了生 6人 機械工学科 2年修了生 1人 国際コミュニケーション情報工学科 2年修了生 15(5)人 電気工学科 5年修了生 1人 計 23(5)人

(資料6-1-②-4)

「学生の学会発表数」

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	総計
電気系学会	7	15	3	4	20	49
機械系学会	0	0	0	0	10	10
計	7	15	3	4	30	59

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 厳しい成績評価の中で、毎年複数の留年生や退学者が出ることは残念なことです。一方で卒業生の就職や進学の様子は、評価基準の適切性を証明するものと考えています。(資料6-1-②-5「在学生の状況」、(資料6-1-②-6「休学者の状況」、(資料6-1-②-7「退学者の状況」、(資料6-1-②-8「留年生の状況」)
- ・ 資格取得や夢考房活動、海外での短期・長期留学等、学生の自発的学習意欲と活動による様々な取り組みも徐々に活性化しており、今後、より一層の進展を目指します。

(資料 6-1-②-5)

「在学生の状況(準学士課程)」 5月1日現在

平成12年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	101	12	113	98	10	108	77	11	88	80	12	92	79	13	92	435	58	493
機械工学科	55	1	56	46	0	46	43	0	43	46	1	47	46	1	47	236	3	239
合 計	156	13	169	144	10	154	120	11	131	126	13	139	125	14	139	671	61	732

平成13年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	76	6	82	94	11	105	95	9	104	72	9	81	75	11	86	412	46	458
機械工学科	39	0	39	52	1	53	46	0	46	42	0	42	46	1	47	225	2	227
合 計	115	6	121	146	12	158	141	9	150	114	9	123	121	12	133	637	48	685

平成14年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	82	7	89	74	6	80	88	10	98	86	8	94	68	9	77	398	40	438
機械工学科	46	2	48	37	0	37	54	1	55	41	0	41	40	0	40	218	3	221
合 計	128	9	137	111	6	117	142	11	153	127	8	135	108	9	117	616	43	659

平成15年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	0	1	1	79	6	85	73	6	79	79	8	87	87	6	93	318	27	345
機械工学科	54	1	55	45	2	47	36	0	36	51	1	52	39	0	39	225	4	229
電気情報工学科	53	1	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	53	1	54
国際コミュニケーション 情報工学科	27	7	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	7	34
合 計	134	10	144	124	8	132	109	6	115	130	9	139	126	6	132	623	39	662

平成16年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	0	1	1	3	0	3	76	6	82	73	7	80	68	7	75	220	21	241
機械工学科	53	0	53	54	1	55	44	2	46	40	0	40	47	1	48	238	4	242
電気情報工学科	49	1	50	51	1	52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	2	102
国際コミュニケーション 情報工学科	30	8	38	27	7	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	57	15	72
合 計	132	10	142	135	9	144	120	8	128	113	7	120	115	8	123	615	42	657

平成 17 年度

	1 学年			2 学年			3 学年			4 学年			5 学年			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気工学科	-	-	-	2	0	2	1	0	1	72	6	78	66	7	73	141	13	154
機械工学科	49	0	49	53	1	54	54	1	55	41	2	43	36	0	36	233	4	237
電気情報工学科	47	1	48	46	1	47	48	1	49	-	-	-	-	-	-	141	3	144
国際コミュニケーション 情報工学科	26	8	34	28	7	35	25	7	32	-	-	-	-	-	-	79	22	101
合 計	122	9	131	129	9	138	128	9	137	113	8	121	102	7	109	594	42	636

(資料6-1-②-6)

「休学者の状況(準学士課程)」

平成12年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率(%)															
電気工学科	113	0	0	108	0	0	88	0	0	92	1	1.1	92	4	4.3	493	5	1
機械工学科	56	0	0	46	0	0	43	0	0	47	0	0	47	2	4.3	239	2	0.8
合計	169	0	0	154	0	0	131	0	0	139	1	0.7	139	6	4.3	732	7	1

平成13年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率(%)															
電気工学科	82	1	1.2	105	0	0	104	0	0	81	0	0	86	0	0	458	1	0.2
機械工学科	39	0	0	53	0	0	46	0	0	42	0	0	47	1	2.1	227	1	0.4
合計	121	1	0.8	158	0	0	150	0	0	123	0	0	133	1	0.8	685	2	0.3

平成14年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率(%)															
電気工学科	89	1	1.1	80	0	0	98	0	0	94	1	1.1	77	1	1.3	438	3	0.7
機械工学科	48	0	0	37	0	0	55	0	0	41	0	0	40	0	0	221	0	0
合計	137	1	0.7	117	0	0	153	0	0	135	1	0.7	117	1	0.9	659	3	0.5

平成15年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率(%)															
電気工学科	1	1	100	85	2	2.4	79	1	1.3	87	8	9.2	93	1	1.1	345	13	3.8
電気情報工学科	54	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	-	-
機械工学科	55	0	0	47	0	0	36	0	0	52	3	5.8	39	1	2.6	229	4	1.7
国際コミュニケーション情報工学科	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	0	0
合計	144	1	0.7	132	2	1.5	115	1	0.9	139	11	8.0	132	2	1.5	662	17	2.6

平成16年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	休学者	率(%)															
電気工学科	1	0	0	3	0	0	82	1	1.2	80	5	6.3	75	1	1.3	241	7	2.9
電気情報工学科	50	2	4	52	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	5	4.9
機械工学科	53	0	0	55	0	0	46	0	0	40	0	0	48	0	0	242	0	0
国際コミュニケーション情報工学科	38	2	5.2	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	2	2.8
合計	142	4	2.8	144	3	2.0	128	1	0.83	120	5	4.2	123	1	0.8	657	14	2.1

(資料6-1-②-7)

「退学者の状況(準学士課程)」

平成12年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率(%)															
電気工学科	113	5	4.4	108	4	3.7	88	7	8	92	9	9.8	92	0	0	493	25	5.1
機械工学科	56	3	5.4	46	1	2.2	43	2	4.7	47	1	2.1	47	0	0	239	7	2.9
合計	169	8	4.7	154	5	3.2	131	9	6.9	139	10	7.2	139	0	0	732	32	4.4

平成13年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率(%)															
電気工学科	82	2	2.4	105	4	3.8	104	10	9.6	81	3	3.7	86	0	0	458	19	4.1
機械工学科	39	0	0	53	0	0	46	5	10.9	42	1	2.4	47	1	2.1	227	7	3.1
合計	121	2	1.7	158	4	2.5	150	15	10	123	4	3.3	133	1	0.8	685	26	3.8

平成14年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率(%)															
電気工学科	89	4	4.5	80	2	2.5	98	10	10.2	94	3	3.2	77	0	0	438	19	4.3
機械工学科	48	1	2.1	37	3	8.1	55	4	7.3	41	1	2.4	40	0	0	221	9	4.1
合計	137	5	3.6	117	5	4.3	153	14	9.2	135	4	3	117	0	0	659	28	4.2

平成15年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率(%)															
電気工学科	1	0	0	85	2	2.4	79	6	7.6	87	4	4.6	93	0	0	345	12	3.5
電気情報工学科	54	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	0	0
機械工学科	55	0	0	47	1	2.1	36	0	0	52	1	0	39	1	2.6	229	3	1.3
国際コミュニケーション 情報工学科	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	0	0
合計	144	0	0	132	3	2.3	115	6	5.2	139	5	3.6	132	1	0.8	662	15	2.3

平成16年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	退学者	率(%)															
電気工学科	1	0	0	3	0	0	82	6	7.3	80	4	5.0	75	0	0	241	10	4.1
電気情報工学科	50	2	4.0	52	4	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	6	5.9
機械工学科	53	0	0	55	0	0	46	4	8.7	40	3	7.5	48	1	2.1	242	8	3.3
国際コミュニケーション 情報工学科	38	3	7.9	34	1	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	4	5.6
合計	142	5	3.5	144	5	3.5	128	10	7.8	120	7	5.8	123	1	0.8	657	28	4.3

(資料6-1-②-8)

「留年者の状況(準学士課程)」

平成12年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気工学科	113	2	1.8	108	4	3.7	88	1	1.1	92	1	1.1	92	0	0	493	8	1.6
機械工学科	56	3	5.4	46	0	0	43	0	0	47	1	2.1	47	0	0	239	4	1.7
合計	169	5	0.3	154	4	2.6	131	1	0.8	139	2	1.4	139	0	0	732	12	1.6

平成13年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気工学科	82	4	4.9	105	1	1	104	1	1	81	1	1.2	86	0	0	458	7	1.5
機械工学科	39	0	0	53	0	0	46	0	0	42	1	2.4	47	0	0	227	1	0.4
合計	121	4	3.3	158	1	0.6	150	1	0.7	123	2	1.6	133	0	0	685	8	1.2

平成14年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気工学科	89	2	2.2	80	3	2.4	98	0	0	94	1	1.1	77	0	0	438	6	1.4
機械工学科	48	0	0	37	0	0	55	2	3.6	41	1	2.4	40	0	0	221	3	1.4
合計	137	2	1.5	117	3	2.6	153	2	1.3	135	2	1.5	117	0	0	659	9	1.4

平成15年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気工学科	1	1	100	85	2	2.4	79	2	2.5	87	0	0	93	0	0	345	5	1.4
電気情報工学科	54	1	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	1	1.9
機械工学科	55	0	0	47	0	0	36	0	0	52	1	1.9	39	0	0	229	1	0.4
国際コミュニケーション 情報工学科	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	0	0
合計	144	2	1.4	132	2	1.5	115	2	1.7	139	1	0.7	132	0	0	662	7	1.1

平成16年度

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			計		
	在学者	留年者	率(%)															
電気工学科	1	1	100	3	0	0	82	2	2.4	80	9	11.3	75	1	1.3	241	13	5.4
電気情報工学科	50	1	2	52	3	5.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	102	4	3.9
機械工学科	53	0	0	55	0	0	46	0	0	40	4	10	48	1	2.1	242	5	2.1
国際コミュニケーション 情報工学科	38	1	2.6	34	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	1	1.4
合計	142	3	2.1	144	3	2.1	128	2	1.6	120	13	10.8	123	2	1.6	657	23	3.5

観点6-1-③ 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点にかかる状況）

・就職や進学に関しては、学生の希望が十分に満たされるよう努力し、成果が得られているものと認識しています。

・平成15年度に実施した企業や卒業生に対するアンケート調査の結果は、本校の教育実践を肯定的に評価してくれていると認識しています。（6-1-③-1「KTC総合アンケート調査結果」）

（分析結果とその根拠理由）

・就職率は毎年100%を達成し、進学希望者も金沢工業大学を始めとする進学希望先へ進学が果たされてきた状況にあり、教育の成果は上がっていると考えています。

（6-1-③-2「卒業後の進路の状況」）、（6-1-③-3「就職状況（職業別）」）、（6-1-③-4「就職状況（産業別）」）、（6-1-③-5「進路先一覧」）、（6-1-③-6「進学状況（進学者数）」）、（6-1-③-7「進学状況（進学先）」）

・本校卒業生の就職先企業が、多年にわたり継続して卒業生を採用してくれている実績は、本校の教育の成果の一面であると考えています。

(6-1-③-1)

「KTC総合アンケート調査結果」

詳細データ

<2-1> 金沢高専の満足度

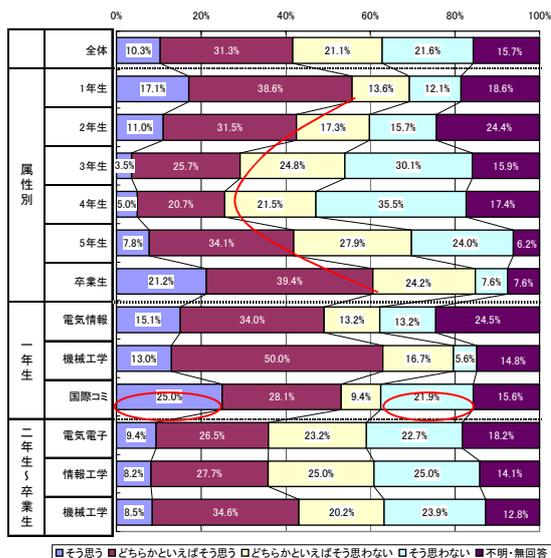
? 目標に関して

- 目標に関しては学年の半ばで見失う傾向が見られた。1年生の段階では過半数が目標に近づいていると感じているが、4年生ではその割合は3割に減少し、5年生で4割に復活している。
- 学科では、1年生の「国際コミ」は肯定的と非肯定的な意見の二極化がみられる。また、「機械工学」は肯定的な意見が多かった。
- 2年生以降では学科による差は少なかったが、「機械工学」が少し肯定的であった。

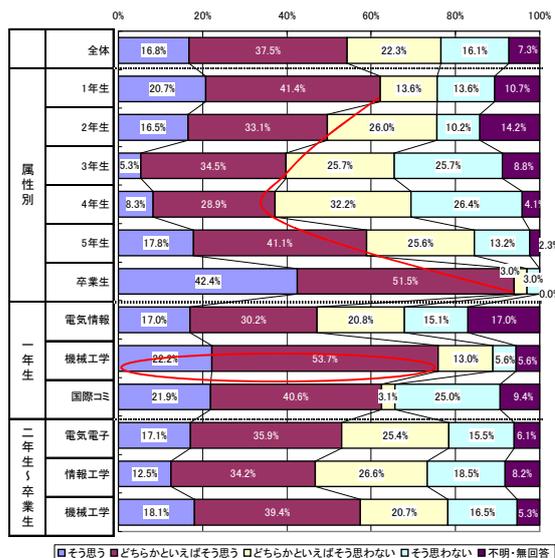
? 学生生活の充実に関して

- 学生生活の充実度に関して1年生と卒業生の充実度が高く、学年の半ばである4年生で最低になることが確認でき、中だるみのようなものがあるように考えられる。
- 卒業生で学生生活が充実していたという肯定的意見は93.9%であった。
- 学科ではやはり1年生の「機械工学」が充実していたと回答していた。そして、2年生以降では学科による差が小さいものの、「機械工学」が充実度が高いという傾向が確認できる。

■金沢高専で学ぶことで自分の目標に近づいている



■学生生活は充実している



※「最底」は属性の中で加重平均値を比較したもので、「あまりそう思わない」「そう思わない」のマイナス分があるため、「そう思う」「まあそう思う」の合計からみた結果とは異なる。以下同様。

詳細データ

<2-1> 金沢高専の満足度

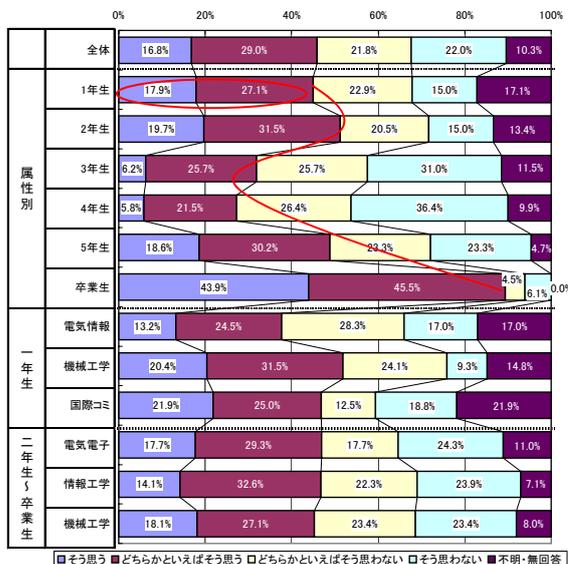
? 金沢高専への愛着に関して

- 金沢高専への愛着に関しては1年生がやや低めであった。そして、2年生と5年生、卒業生が高めであり、半ばである3年生と4年生が低いというものであり、他の項目と同じ傾向が見られた。
- やはり、3年生と4年生に何らかの動きがあるといえる。
- 学科では、1年生においてでも差はあまり大きくないが、「機械工学」が高めであった。

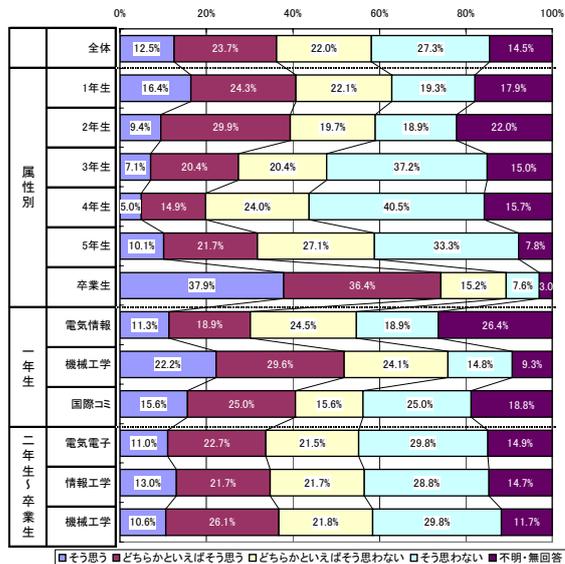
? 金沢高専の学生であることの誇りにに関して

- 誇りに関しても他と同じ傾向があった。1年生は愛着は弱かったものの誇りは充分に持っていた。そして、やはり3年生、4年生が誇りを持っておらず、4年生では「そう思わない」が40.5%と非常に多かった。
- 学科では、ここでも1年生の「機械工学」が強く誇りを持っていることが確認できたが、1年生でも「電気情報」は2年生以降よりも弱いことが分かる。
- 2年生以降では、ほとんど差がなかったといって良いものと思われる。

■金沢高専が好きである



■金沢高専の学生であることに誇りを持っている



(出典 「平成15年度 KTC総合アンケート調査結果」 PP. 11~12)

(6-1-③-2)

「卒業後の進路の状況（準学士課程）」

平成12年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男			女	計
電気工学科	75	13	88	48	9	57	48	9	57	別紙	100	25	4	29	25	4	29	100	73	13	86	2	0	2	0	0	0	0
機械工学科	44	1	45	23	1	24	23	1	24		100	21	0	21	21	0	21	100	44	1	45	0	0	0	0	0	0	0
計	119	14	133	71	10	81	71	10	81		100	46	4	50	46	4	50	100	117	14	131	2	0	2	0	0	0	0

平成13年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男			女	計
電気工学科	75	11	86	44	10	54	44	10	54	別紙	100	29	1	30	29	1	30	100	73	11	84	2	0	2	0	0	0	0
機械工学科	45	1	46	32	1	33	32	1	33		100	12	0	12	12	0	12	100	44	1	45	1	0	1	0	0	0	0
計	120	12	132	76	11	87	76	11	87		100	41	1	42	41	1	42	100	117	12	129	3	0	3	0	0	0	0

平成14年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男			女	計
電気工学科	67	9	76	38	7	45	38	7	45	別紙	100	29	2	31	29	2	31	100	67	9	76	0	0	0	0	0	0	0
機械工学科	40	0	40	27	0	27	27	0	27		100	13	0	13	13	0	13	100	40	0	40	0	0	0	0	0	0	0
計	107	9	116	65	7	72	65	7	72		100	42	2	44	42	2	44	100	107	9	116	0	0	0	0	0	0	0

平成15年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男			女	計
電気工学科	86	6	92	59	3	62	59	3	62	別紙	100	27	3	30	27	3	30	100	86	6	92	0	0	0	0	0	0	0
機械工学科	37	0	37	25	0	25	25	0	25		100	12	0	12	12	0	12	100	37	0	37	0	0	0	0	0	0	0
計	123	6	129	84	3	87	84	3	87		100	39	3	42	39	3	42	100	123	6	129	0	0	0	0	0	0	0

平成16年度卒業生

	卒業生数			就 職						進 学						就職進学者数			左記以外の者			死亡・不詳の者			進路未決定率			
				希望者数			就職者数			就職者内訳	就職率	希望者数			進学者数											進学率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男			女	計
電気工学科	68	6	74	40	5	45	40	5	45	別紙	100	25	0	25	25	0	25	100	65	5	70	3	1	4	0	0	0	0
機械工学科	46	1	47	29	0	29	29	0	29		100	15	1	16	15	1	16	100	44	1	45	2	0	2	0	0	0	0
計	114	7	121	69	5	74	69	5	74		100	40	1	41	40	1	41	100	109	6	115	5	1	6	0	0	0	0

(資料6-1-③-3)

「就職状況(職業別)」

		職業別就職者数									合計
		専門的・技術的職業従事者	管理的職業	事務従事者	販売従事者	サービス職業	保安職業	運輸・通信	生産・労務作業者・工程	左記以外	
平成11年度	電気工学科	37		1	5	11		1		1	56
	機械工学科	20			4	3					27
	計	57	0	1	9	14	0	1	0	1	83
平成12年度	電気工学科	47		2	3			3		2	57
	機械工学科	21			2					1	24
	計	68	0	2	5	0	0	3	0	3	81
平成13年度	電気工学科	50			2			2			54
	機械工学科	26			5			1		1	33
	計	76	0	0	7	0	0	3	0	1	87
平成14年度	電気工学科	40			4			1			45
	機械工学科	22			3			1		1	27
	計	62	0	0	7	0	0	2	0	1	72
平成15年度	電気工学科	54				6				2	62
	機械工学科	21				2				2	25
	計	75	0	0	0	8	0	0	0	4	87
平成16年度	電気工学科	38			3	1		2		1	45
	機械工学科	27			1			1			29
	計	65	0	0	4	1	0	3	0	1	74

(資料6-1-③-4)

「就職状況(産業別)」

		産業別就職者数													合計	
		農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸・通信業	卸売・小売業	飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業		公務
平成11年度	電気工学科					10	25	1	1	5	1	1	11	1		56
	機械工学科					1	19			4			3			27
	計	0	0	0	0	11	44	1	1	9	1	1	14	1	0	83
平成12年度	電気工学科					3	27	1	3	3			16	2	2	57
	機械工学科					1	19			2			1		1	24
	計	0	0	0	0	4	46	1	3	5	0	0	17	2	3	81
平成13年度	電気工学科					7	26	1	2	2			16			54
	機械工学科					3	21		1	5			2	1		33
	計	0	0	0	0	10	47	1	3	7	0	0	18	1	0	87
平成14年度	電気工学科					2	23	1	2	4			13			45
	機械工学科					3	16		1	3			3	1		27
	計	0	0	0	0	5	39	1	3	7	0	0	16	1	0	72
平成15年度	電気工学科					4	26		7	7			15	2	1	62
	機械工学科			1		1	16		1	3			2	1		25
	計	0	0	1	0	5	42	0	8	10	0	0	17	3	1	87
平成16年度	電気工学科				3	19		10	3				9	1		45
	機械工学科				1	21			1				6			29
	計				4	40		10	4				15	1		74

(資料 6-1-③-5)

「進路先一覧」

平成 16 年度進路先一覧

学 科	在 籍 者		進 学 者		就 職 者			自 営・その他	求 人 会 社 数	求 人 数	求 人 倍 率
	卒 業 者 数	留 学 者 等	希 望 者 数	合 格 者 数	希 望 者 数	内 定 者 数	内 定 率 (%)				
電 気 工 学 科	74	1	26	25	45	45	100.0	3	360	655	14.6
機 械 工 学 科	47	0	16	16	29	29	100.0	2		336	11.6
総 計	121	1	42	41	74	74	100.0	5		991	13.4

業 種	会 社 名
建 設	※日立ビルシステム、富士電機システムズ、ホクシン工業、ヨネモリ
食 料 品・飲 料・飼 料 ・ た ば こ 製 造	寿がきや食品、パールライス石川、明治乳業、山崎製パン
鉄 鋼・非 鉄 金 属 製 造 ・ 金 属 製 品 製 造	共和工業所、三光製作所、ダイワ、東洋製罐
一 般 機 械 器 具 製 造	浅井鉄工、稲本製作所、コマツエンジニアリング、※澁谷工業、鈴木鉄工、 ダイキン工業、※ディー・エヌ・ケー、長津工業、中村留精密工業、 日本オーチス・エレベータ、日本自動ドア、※根上工作所、村谷機械製作所
電 気・情 報 通 信 機 械 器 具 製 造	アールビーコントロールズ、アイ・オー・データ機器、朝日電機製作所、 西南電機製作所、大日製作所
輸 送 用 機 械 器 具 製 造	小島プレス工業、日産ディーゼル技術研究所、本田技研工業 パナソニックオートモーティブシステムズ社
精 密 機 械 器 具 製 造	浅野歯車工作所
そ の 他 製 造	アルバックテクノ、任天堂
情 報 通 信	アルファシステムズ、かがつうシステム、京装コンピュータ、シーエスエヌ、 シーピーユー、中日新聞北陸本社、ネクストウエア、ユニアデックス
運 輸	東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道
卸 売	キャノンシステムアンドサポート、北国建機販売、横山商会
小 売	北菱
公 務 員	自衛隊
その他のサービス	UP BEAT homme、NECフィールドイング、 沖電気カスタマアドテック、総合警備保障、※ダイテックス、テクノパワー、 テクモ、トスマク・アイ、ドアメンテナンス、ヒップ、 富士通サポートアンドサービス、三菱電機システムサービス、 三菱電機ビルテクノサービス、リコーテクノシステムズ
進 学	金沢工業大学(32名)、豊橋技術科学大学、富山大学、福井大学 金沢学院大学、金城大学短期大学部(2名) トヨタ名古屋整備専門学校

(株)省略 ※印の会社には2名以上が就職

(出典 「第39回卒業生名簿(平成17年度3月15日卒業)」抜粋)

(資料6-1-③-6)

「進学状況(進学者数)」

平成12年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	23	4	27	2	0	2	25	4	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
機械工学科	20	0	20	0	0	0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	1	0	1	21
計	43	4	47	2	0	2	45	4	49	0	0	0	0	0	0	1	0	1	50

平成13年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	25	1	26	1	0	1	26	1	27	0	0	0	0	0	0	3	0	3	30
機械工学科	10	0	10	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	2	0	2	12
計	35	1	36	1	0	1	36	1	37	0	0	0	0	0	0	5	0	5	42

平成14年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	23	1	24	0	1	1	23	2	25	0	0	0	1	0	1	5	0	5	31
機械工学科	11	0	11	1	0	1	12	0	12	0	0	0	0	0	0	1	0	1	13
計	34	1	35	1	1	2	35	2	37	0	0	0	1	0	1	6	0	6	44

平成15年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	23	2	25	2	0	2	25	2	27	0	0	0	0	0	0	2	1	3	30
機械工学科	10	0	10	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0	2	0	2	12
計	33	2	35	2	0	2	35	2	37	0	0	0	0	0	0	4	1	5	42

平成16年度卒業生

	大学編入学者数									大学1年次入学			高専専攻科入学			その他			進学者計
	3年次編入			2年次編入			計			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計										
電気工学科	20	0	20	4	0	4	24	0	24	1	0	1	0	0	0	0	0	0	25
機械工学科	10	1	11	2	0	2	12	1	13	1	0	1	0	0	0	2	0	2	16
計	30	1	31	6	0	6	36	1	37	2	0	2	0	0	0	2	0	2	41

(資料6-1-③-7)

「進学状況(進学先)」

編入学先大学(学部)	平成11年度 卒業生	平成12年度 卒業生	平成13年度 卒業生	平成14年度 卒業生	平成15年度 卒業生	平成16年度 卒業生
金沢工業大学(工学部)	16	30	21	26	27	32
長岡技術科学大学(工学部)	3	3	3	2	2	
豊橋技術科学大学(工学部)	2	1	2	1		1
新潟大学(工学部)	1	1		1		
富山大学(工学部)	2	1	3	1	2	1
金沢大学(工学部)	1	1	1	1	1	
福井大学(工学部)	1	3	2	1		1
高知工科大学(工学部)	1					
中部大学(工学部)	2	2				
福井工業大学(工学部)	2					
大同工業大学(工学部)	1					
金沢学院大学(経営情報学部)	1			2	1	1
信州大学(工学部)		1				
三重大学(工学部)		1				
北海道工業大学(工学部)		1				
米国ニューヨーク大学(工学部)		1				
東京農工大学(工学部)			1		1	
日本大学(理工学部)			1			
関西大学(総合情報学部)				1		
日本福祉大学(社会福祉学部)				1		
大手前大学(社会文化学部)					1	
米国セント・マイケルズ大学	2	3	3		1	
石川工業高等専門学校専攻科				1		
南九州大学(環境造園学部)					1	
オタゴ・ポリテクニク						1
合 計	35	49	37	38	37	37

観点6-1-④ 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点にかかる状況)

- ・学生自身による学習達成度評価は、現在行えていません。各科目の成績は、学習支援計画書(シラバス)の評価基準(定期試験、課題、学習態度等)によって決められており、学生は学期ごとの成績によって自己の学習に対する取り組みの評価を確認することができます。
- ・学生の達成度評価の前提には、目標の理解と共有が必要です。教員は、授業アンケート結果や教育成果発表会での情報交換、自己点検自己評価書による校長との面談などを踏まえて、「教育改善への取組と今年度の目標」を作成しています。これにより各教員が担当する学科目の到達目標や行動目標が定められています。
- ・教員は、授業アンケート結果報告会や教育成果発表会による教員間の情報交換を通して、教育の目標に関する理解と合意形成を進めています。
- ・授業アンケートは、AからQの質問項目を設定し、うちAからKは、全学科目一律の質問内容としています。LからQは、各科目独自の設定を教科目担当者が設定できることとしています。
- ・一部の学科目において授業アンケートのLからQの中に達成度を把握する項目を設けていますが、十分機能するに至っていないと認識しています。(資料6-1-④-4「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・本校の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、優秀な成果を修めた学生等に対して推薦し表彰・褒賞を行っています。(資料6-1-④-1「金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程」、(資料6-1-④-2「校長表彰・褒賞者の一覧」)
- ・成績優秀者に対する特待生制度を設け、奨学金を給付しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・一部の学科目において、学生の満足度が低い結果であったことは、本校の意図する「わかりやすい授業の実践」や「学習意欲の触発への取組」が不十分であったと考えています。(資料6-1-④-3「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・授業アンケートのLからQの項目は、現在のところ「何々が理解できたか」が主な質問内容です。今後、平成17年度から「学習支援計画書(シラバス)」に記載される到達目標や行動目標に沿った項目の設定に改めていく中で「何ができるようになったか」を問える達成度評価に繋げてまいります。(資料6-1-④-4「KTC授業アンケート調査結果」)
- ・学生は学期ごとの成績や表彰・褒賞等を通じて、自己の学習に対する達成度を把握できていると考えています。
- ・今後キャリアデザイン教育の充実を図り、学生がKIT-IDEALSに基づく自己実現の目標を持つことを進める中で、現行の満足度評価から達成度評価への転換を目指しています。

(資料 6 - 1 - ④ - 1)

「金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程」

金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程

第 1 条 本校の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、優秀な成果を修めた本校学生に対し校長表彰又は校長褒賞を行う。

第 2 条 前条の表彰又は褒賞を受ける学生（以下「表彰・褒賞学生」という。）は、別表に掲げる項目の一つに該当する者から選ばれるものとする。

第 3 条 表彰・褒賞学生は、本校教職員の推薦により、校長が決定する。推薦者は、所定の推薦書を提出するものとする。

第 4 条 表彰・褒賞学生には、校長が表彰状又は褒状を授与する。

第 5 条 表彰・褒賞を行う方式、時期等については、校長がその都度定める。

附 則

この規程は、昭和 61 年 4 月 1 日より施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 103～104)

別表 校長 表彰・褒賞学生

表彰名称	基準
優等賞	総合成績で優れた成績を収めた者
資格試験合格	資格試験合格者 表彰・褒賞基準参照
競技会入賞	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞基準参照
コンテスト入賞	
1カ年間皆勤賞	1カ年間皆勤の者
部活動1カ年間皆勤賞	部活動1カ年間皆勤の者
部活動1カ年間精勤賞	部活動1カ年間精勤の者
貢献賞	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞基準参照
功労賞	功労賞基準参照
部活動5カ年間皆勤賞	4年生までの活動日数総計が560日以上で、5年生前期までの欠席日数が3日以内の者。または、4年生までの活動日数総計が480日以上で、5年生前期まで皆勤の者。
部活動5カ年間精勤賞	4年生までの活動日数総計が560日以上で、5年生前期までの欠席日数が10日以内の者。または、4年生までの活動日数総計が480日以上で、5年生前期までの欠席日数が3日以内の者。
5カ年間皆勤賞	欠課合計時間数が6.5時間までで、SH欠課時間数が授業日数(終業式・卒業式を除く)×0.2を超えない者。
5カ年間精勤賞	欠課合計時間数が27.5時間までで、SH欠課時間数が授業日数(終業式・卒業式を除く)×0.2を超えない者。

褒賞名称	基準
優秀科目賞	科目において優れた成績を収めた者
資格試験合格	資格試験合格者 表彰・褒賞基準参照
競技会入賞	競技会、コンテスト入賞者、その他の課外活動 表彰・褒賞基準参照
コンテスト入賞	
貢献賞	
功労賞	功労賞基準参照

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 103～104)

(資料6-1-④-2)

「校長表彰・褒賞者の一覧」

(単位：人数)

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期											
皆勤、 精勤賞	1年		50		56		33		48		45		43
	2年		29		54		48		32		37		55
	3年		17		40		42		42		23		29
	4年		23		17		37		28		39		22
	5年		38		41		42		82		67		61
	計		157		208		202		232		211		210

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期											
優等賞	1年		6		6		6		6		6		6
	2年		6		6		6		6		6		6
	3年		6		6		6		6		6		6
	4年		6		6		6		6		6		6
	5年		12		12		12		12		12		12
	計		36		36		36		36		36		36

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期											
優秀科目賞	1年		23		39		38		42		54		72
	2年		46		39		60		54		84		60
	3年		39		39		59		47		45		53
	4年		52		36		53		38		52		72
	5年		32		21		31		32		25		59
	計		192		174		241		213		260		316

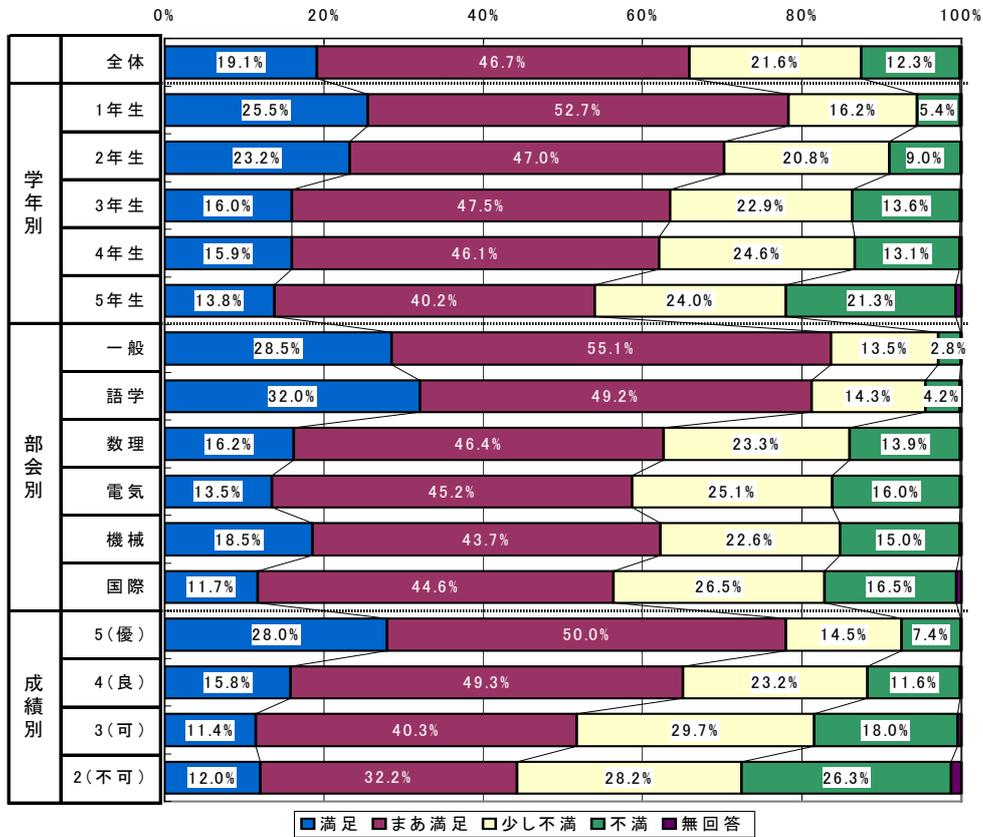
	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
資格取得者	1年	3	19	1	24	7	10	8	18	0	2	23	28
	2年	24	22	11	29	14	13	24	10	15	21	13	46
	3年	10	23	22	29	20	26	34	10	26	9	8	25
	4年	15	23	8	20	16	3	27	20	34	10	32	29
	5年	6	3	7	1	12	8	15	10	26	2	16	7
	計	58	90	49	103	69	60	108	68	101	44	92	135

	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		
	前期	後期											
課外活動	1年	15	4	7	5	5	6	1	15	9	16	13	4
	2年	19	3	9	10	21	10	6	11	10	8	13	19
	3年	13	3	19	11	12	4	12	16	3	3	17	15
	4年	34	5	8	8	18	5	10	12	14	5	5	13
	5年	18	26	24	29	21	25	14	34	18	24	20	21
	計	99	41	67	63	77	50	43	88	54	56	68	72

(資料 6-1-④-3)

「1年間の授業が終わった後の授業の満足について」

■ K.満足度



7) 基本的集計のまとめ

全体の67.6%は授業に興味を持ち、63.0%は積極的に授業に取り組んでいる。そして、65.8%は授業に満足していた。

- 学生の授業への取り組みは「興味を持っている」「積極的に取り組んでいる」が共に6割程度、「満足している」も6割程度であり、過半数は比較的充実しているようであるが、4割は何らかの不満を持っている。
- 教材や課題に対しても6~7割は役に立ったと評価しており、板書や説明、話し方、授業の工夫など、授業の進め方についても6~7割が満足していた。
- そして、教員は質問にはキチンと対応しており、8割が良い評価をしていた。

評定別に比較すると授業評価は完全に評定順になり、成績の良い層は授業の評価も高く、満足度も高い。

- 全ての項目に評定との相関関係が見られ、成績の良い層ほど授業に興味を持ち、積極的に取り組んでいる。そして、授業の進め方に対する評価も高く、満足度も高いという傾向にある。
- 「可」と「不可」の間の差は大きくなく、両者の差が少ないことが確認できた。満足度を見ると両者共にマイナスであり、授業への興味、自分の取り組み姿勢が低い点が目立った。
- そして、評定が良い層ほど授業が速いと感じていた。

学年別比較では、学年が上がるほど全ての評価が下がっており、満足度では1年生と5年生で24.2ポイントの差があった。

- 学年別の比較では、1年生の評価が最も高く、2年生になると少し低下し、3年生と4年生が同程度、そして、5年生で大きく低下する傾向が見られた。
- 満足度では1年生は78.2%が満足していたが、5年生では54.0%と、24.2ポイントの大きな差があった。
- また、加重平均で唯一マイナスとなったのは5年生の「自分の取り組み」であり、5年生では積極的に授業に取り組んでいるという回答が半数に達していなかった。

満足度別に見ると、満足度の高い層は全体的に評価が高いが、満足度が低い層は授業の進め方への不満が大きい。

- 満足度別に見ると、当然ながら満足度の高い層は他の項目の評価も高く、ほとんどの項目で満点に近いスコアであった。
- 満足度の高い層は「自分の取り組み」も「授業の教材や進め方」も全体的に高スコアであったが、満足度が低くなると授業への興味や積極性が下がり、内容に関しても話し方や板書や説明、授業の工夫への評価が下がる傾向が見られた。
- そして、不満を持っている層ほど授業の速度を速く感じており、予習・復習に充てる時間も少なかった。

部会別に比較すると、「一般」と「語学」が全体的に高めであり、満足度は上記に次いで「機械」「数理」「電気」「国際」という順。

- 「一般」と「語学」の評価が非常に高く、「一般」では「授業での話し方など」の評価が高い点が目立っており、「語学」「一般」ともに「授業への興味」が目立っていた。
- この「授業への興味」がどのように形成されるのかは今後のポイントになるものと思われる。
- 「一般」「語学」に次いで「数理」が続き、専門の3部会は低めの評価であった。
- 満足度は「一般」「語学」「機械」「数理」「電気」「国際」という順であった。

(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 PP. 21~22)

(資料 6-1-④-4)

「KTC授業アンケート調査結果」

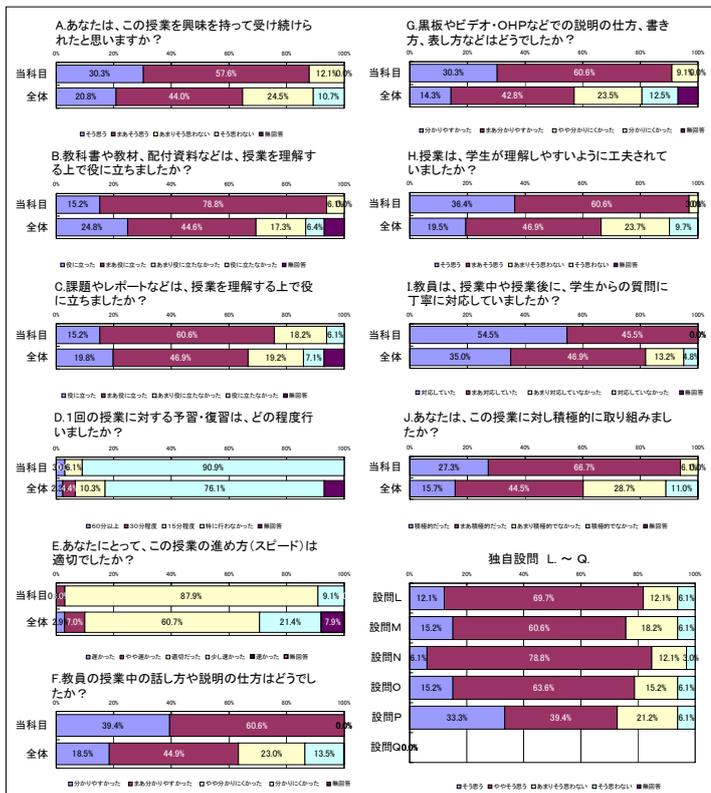
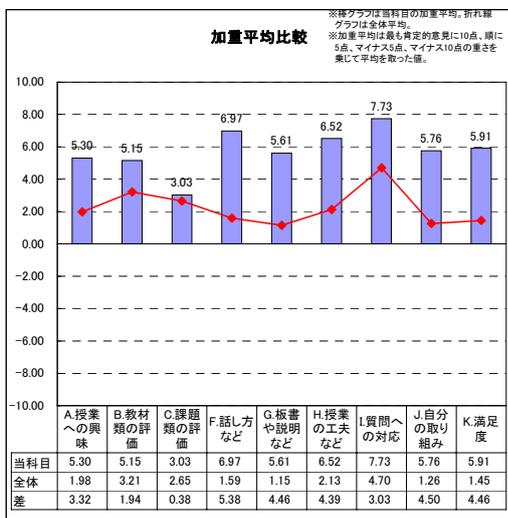
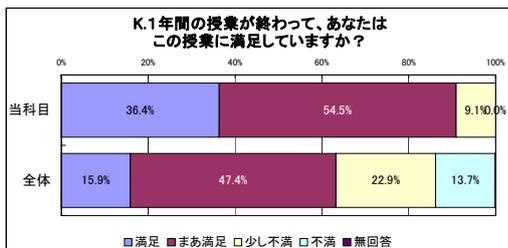
金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(1/2)

設問	選 択 肢				回答数・% 無回答	回答総数	標準偏差・加重平均
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない			
A. あなたは、この授業を興味を持って受け続けられたと思いますか？	10 (30.3%)	19 (57.6%)	4 (12.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.635 5.30
B. 教科書や教材、配付資料などは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	5 (15.2%)	26 (78.8%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.459 5.15
C. 課題やレポートなどは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	5 (15.2%)	20 (60.6%)	6 (18.2%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.755 3.03
D. 1回の授業に対する予習・復習は、どの程度行いましたか？	1 (3.0%)	0 (0.0%)	2 (6.1%)	30 (90.9%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.566
E. あなたにとって、この授業の進め方(スピード)は適切でしたか？	0 (0.0%)	1 (3.0%)	29 (87.9%)	3 (9.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.348
F. 教員の授業中の話し方や説明の仕方はどうでしたか？	13 (39.4%)	20 (60.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.496 6.97
G. 黒板やビデオ・OHPなどの説明の仕方、書き方、表し方などはどうでしたか？	10 (30.3%)	20 (60.6%)	3 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.600 5.61
H. 授業は、学生が理解しやすいように工夫されていましたか？	12 (36.4%)	20 (60.6%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.540 6.52
I. 教員は、授業中や授業後に、学生からの質問に丁寧に対応していましたか？	18 (54.5%)	15 (45.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.506 7.73
J. あなたは、この授業に対し積極的に取り組みましたか？	9 (27.3%)	22 (66.7%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.545 5.76
K. 1年間の授業が終わって、あなたはこの授業に満足していますか？	12 (36.4%)	18 (54.5%)	3 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.626 5.91
L. 英語の質問に答えることが出来るようになったと思いますか？	4 (12.1%)	23 (69.7%)	4 (12.1%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.696 3.48
M. 語彙が以前よりついたと思いますか？	5 (15.2%)	20 (60.6%)	6 (18.2%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.755 3.03
N. 英文を日本語を通さずこどもでも理解することが出来るようになったと思いますか？	2 (6.1%)	26 (78.8%)	4 (12.1%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.545 3.64
O. 以前より英語が難しいという気持ちになったと思いますか？	5 (15.2%)	21 (63.6%)	5 (15.2%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.740 3.33
P. 今後の英語学習に対する興味が深まったと思いますか？	11 (33.3%)	13 (39.4%)	7 (21.2%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.901 3.64
Q. 未設定							

※「標準偏差」は値が小さいほど回答の偏りが少ないと考えられています。 ※「加重平均」は「そう思う」に1点、「まあそう思う」に2点、「あまりそう思わない」に3点、「そう思わない」に4点の重さをつけて平均を取った値であり、大きいほど肯定的な意見が多いことを表します。

金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(2/2)

科目コード 91207 英語Ⅲ



(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 PP. 250～251)

(資料 6 - 1 - ④ - 4)

「KTC授業アンケート調査結果」

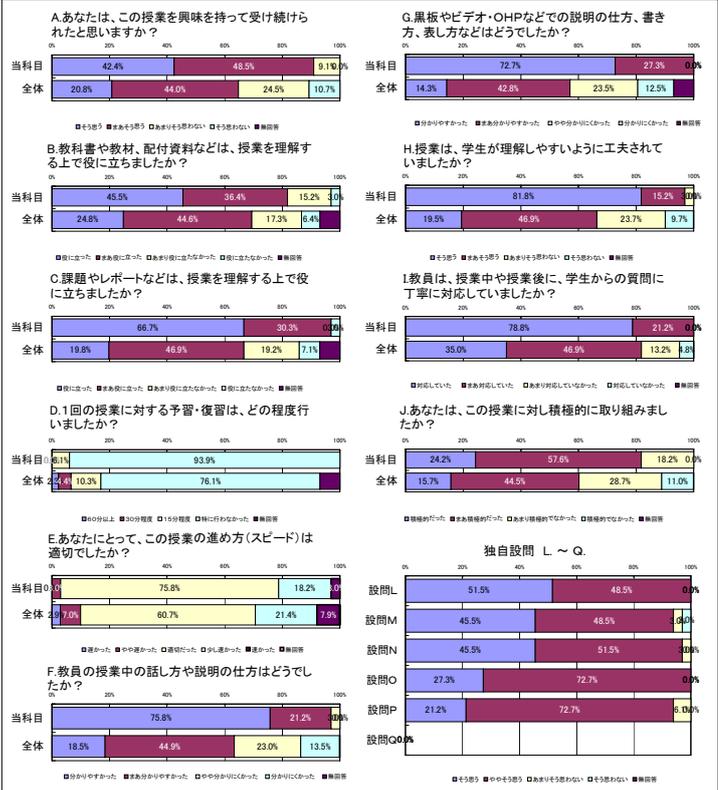
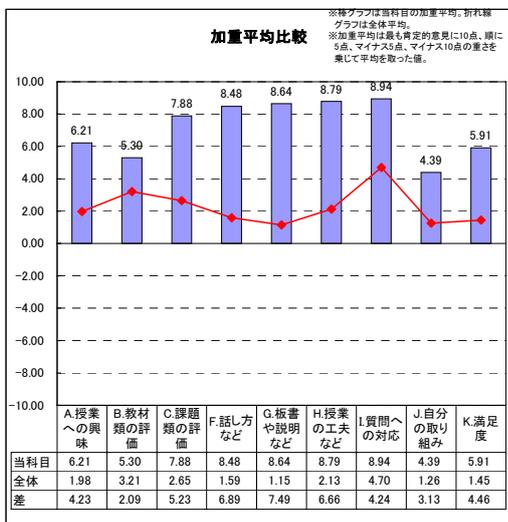
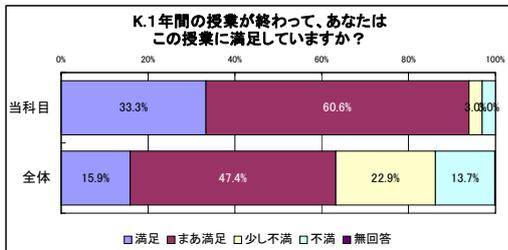
金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(1/2)

設問	選 択 肢					回答総数	標準偏差・加重平均
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答		
A. あなたは、この授業を興味を持って受け続けられたと思いますか？	14 (42.4%)	16 (48.5%)	3 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.645 6.21
B. 教科書や教材、配付資料などは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	15 (45.5%)	12 (36.4%)	5 (15.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.830 5.30
C. 課題やレポートなどは、授業を理解する上で役に立ちましたか？	22 (66.7%)	10 (30.3%)	0 (0.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.659 7.88
D. 1回の授業に対する予習・復習は、どの程度行いましたか？	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.1%)	31 (93.9%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.242 —
E. あなたにとって、この授業の進め方(スピード)は適切でしたか？	0 (0.0%)	1 (3.0%)	25 (75.8%)	6 (18.2%)	1 (3.0%)	33 (100.0%)	0.545 —
F. 教員の授業中の話し方や説明の仕方はどうでしたか？	25 (75.8%)	7 (21.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.517 8.48
G. 黒板やビデオ・OHPなどでの説明の仕方、書き方、表し方などはどうでしたか？	24 (72.7%)	9 (27.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.452 8.64
H. 授業は、学生が理解しやすいように工夫されていましたか？	27 (81.8%)	5 (15.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.485 8.79
I. 教員は、授業中や授業後に、学生からの質問に丁寧に対応していましたか？	26 (78.8%)	7 (21.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.415 8.94
J. あなたは、この授業に対し積極的に取り組めましたか？	8 (24.2%)	19 (57.6%)	6 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.659 4.39
K. 1年間の授業が終わって、あなたはこの授業に満足していますか？	11 (33.3%)	20 (60.6%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.663 5.91
L. 材料に生ずるストレスの求め方が理解できましたか？	17 (51.5%)	16 (48.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.508 7.88
M. 材料に生ずるひずみの求め方が理解できましたか？	15 (45.5%)	16 (48.5%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.699 6.52
N. フックの法則が理解できましたか？	15 (45.5%)	17 (51.5%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.561 6.97
O. 引張、圧縮、せん断の強度の求め方が理解できましたか？	9 (27.3%)	24 (72.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.452 6.36
P. 初等材料力学の基礎が身につきましたか？	7 (21.2%)	24 (72.7%)	1 (3.0%)	2 (6.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	0.508 5.45
Q. 未設定	0	0	0	0	0	0	—

*1標準偏差は値が少ないほど回答の幅が狭く意見がまとまっていることを表します。*加重平均は「そう思う」役に立ったなどの肯定的意見に10点、満足に5点、最も否定的な意見にマイナス10点の重さをつけて平均を取った値であり、大きいほど肯定的意見が多いことを表します。

金沢工業高等専門学校 平成16年度授業アンケート 3年生科目別集計表(2/2)

科目コード 95077 材料力学 I



(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 PP. 300~301)

観点 6-1-⑤ 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取り組みを実施しているか。またその結果から判断して教育の成果や効果が上がっているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校では、これまで進路指導委員会の担当教員が中心となり各企業を訪問し、人事担当者や卒業生からの聞き取りによって情報を収集しています。また、平成15年度に進路先及び過去5か年間の卒業生に対してアンケートを実施しています。これらの結果は、校長に報告され、学務会議において発表される等、情報の共有に努めています。

（分析結果とその根拠理由）

- ・人事担当者や卒業生からの聞き取りでは、一部の卒業生に企業内の人間関係に不満を持ち早期に退職するなどの問題が見受けられますが、おおむね良好な勤務実績を示しています。また、アンケートの分析結果では、「人間性豊かなエンジニア育成」「礼儀やマナーを大切にせる教育」を約6割の企業ができていると評価する等、本校の教育成果が得られていると考えています。（資料6-1-⑤-1）

（資料6-1-⑤-1）

「企業等からの意見聴取」

<7-1> 企業からの評価に関して

? 企業からの評価のまとめ

<p style="text-align: center;">「人間性豊かなエンジニアの育成」や「礼儀やマナーを大切にせる教育」はできている</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 金沢高専の教育に関して、「不明・無回答」が多かったものの、「人間性豊かなエンジニア育成」「礼儀やマナーを大切にせる教育」は6割程度の企業ができていますと評価していた。 □ また、「モノづくりを中核にした教育」「資格取得への挑戦意欲を育む教育」は5割程度の企業ができていますと評価していた。 	<p style="text-align: center;">校外実習を受け入れている企業の2割は校外実習が活かされていないと感じている</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 今回の回答企業で校外実習を受け入れているのは全体の53.8%であったが、そこに「学生が校外実習を有効に活用しているか」という質問をしたところ、62.9%は「はい」であったが、20.0%は「いいえ」という回答であった。 □ 校外実習を受け入れている企業の2割が校外実習を有効と感じていないというのは大きな問題であり、今後改善すべきポイントであろう。
<p style="text-align: center;">「英語教育と国際交流をポイントとした教育」はできていないと評価されていた</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 金沢高専の教育に対する評価で最も低い評価を受けていたのは「英語教育と国際交流をポイントとした教育」であり、できているという回答は9.2%であった。 □ 学生の授業評価では「国際交流活動」と「英語」の評価は非常に高く、学校としても力を入れている部分であるが、企業の評価は厳しいものであった。 	



<今後、企業対応で気を付けるべきポイント>

- 現在の金沢高専の教育に関する評価は比較的高く、自由記述を見ても大きな問題は見られなかった。卒業生の能力評価においても、卒業生自身や教職員の評価よりも高い評価を受けていた。
- 「英語と国際交流をポイントとした教育」に関しての評価はそれほど高くなかったが、「英語と国際交流」という教育において企業と金沢高専の期待する点異なる可能性もあり、今後はこのベクトルを合わせる努力が必要になると思われる。
- 校外実習を受け入れている企業の2割が校外実習が活かされていないと感じている。協力をしていただいているにもかかわらずこの評価は非常に厳しいものであると受け止め、今後は校外実習の内容の見直しなども考えていくべきではないかと思われる。

（出典 「平成15年度 KTC総合アンケート調査結果」 P. 71）

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・KTC授業アンケートやKTC総合アンケートによって学生や企業、卒業生から直接的な評価が得られる仕組みが確立されています。
- ・クラス担任、部活顧問、科目担当等複数の教員が立場を異にして学生の声を聞く体制が確立されています。
- ・進路指導委員会の担当教員が毎年企業を訪問し、企業担当者との間に聞き取りによる情報の収集ができる人間関係が確立されています。
- ・校長と教員が「教育の抱負及び実施に関する報告書」を基に面談し、さらに教育成果発表会によって教育方法等の改善について協議するなど、情報を共有する仕組みを確立しています。

(改善を要する点)

- ・KTC授業アンケートやKTC総合アンケートによる分析結果等を基に、教育成果の向上に役立つ仕組みをさらに構築する必要があると考えています。
- ・学生による学習達成度評価ができておらず、現行の満足度評価を達成度評価に転換するべく努力を行ってまいります。

(3) 基準6の自己評価の概要

単位取得、進級・卒業の状況、就職・進学状況、資格取得の状況、卒業論文の内容・水準から判断して、教育の実績や効果が上がっていると考えています。本校では学生による学習達成度評価を行っていませんが、授業満足度評価が行われており、その結果によれば、おおむね高い満足度を示しています。しかしながら、一般科目に比して専門科目で満足度が低下する傾向を示しています。また学生の授業評価に対応する授業内容や方法の改善、学生の意欲喚起に係る方策などは、まだ具体的な成果が得られるまでには至っていないと認識しています。一方で、学生の就職先や企業実習先、過去5年間の卒業生などに対するアンケートを実施し、卒業生が在学時に身につけた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取り組みを行ったところ、その評価に基づけば教育の効果が上がっていると考えられます。

しかしこの評価は、卒業生が卒業後自身の努力によって獲得した学力や資質、能力の源泉を本校における教育の成果に置いてくれていることにあると考えられます。本校とすれば、これに安住することなく、本校教育の充実に向けてさらなる努力が必要です。

以上のとおり、本校で教授した教育の成果や効果を総合的に判断すれば、今後さらなる継続した努力が必要であると考えています。

基準7. 学生支援等

(1) 観点ごとの自己評価

観点7-1-① 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点にかかる状況)

- 各学期初めにクラス担任が、クラス毎に学生便覧を使用して、学生生活上の事柄を中心にガイダンスを実施してきました。平成17年度から全学生を対象に2年生～5年生は、第1学期授業開始の3日間をオリエンテーションの期間とし、ガイダンスを行っています。また1年生は、穴水研修(人間と自然I)において、校長講話と担任ガイダンスを行っています。帰校後、主事ガイダンス、LCガイダンス等を行っています。(資料7-1-①-1「オリエンテーション日程」)
- 各学科目の最初の授業では、科目担当者から学習上のガイダンスも実施しています。こうしたガイダンスにおいて不明な点や疑問点は、直接担当教員に質問して解決したり、クラス担任を通じて解決を図る等の対応が行われています。
- 学生に周知する内容は、学務会議で決定したうえで学生係がクラス担任連絡会議の中でクラス担任全員に説明し共有化が図られ、さらには必要に応じて資料が作成される等、ガイダンスの内容の統一性に留意しています。
- 各学科目が始まる最初の授業では、担当教員が学習支援計画書(シラバス)に基づき、科目概要・目標や授業方法、アドバイス、成績評価基準、質問時間(オフィスアワー)について、学生に説明しています。
- 学生の修学上の相談は、クラス担任が受けることになっています。一方、部活顧問や科目担当者が相談を受けることもあり、その場合も必ずクラス担任に通知されることになっています。クラス担任は、正副2名の教員が受け持ち、学生の立場に立って助言を行うように努めています。これまでの相談内容として「授業が良く理解できない」や、「資格取得にチャレンジしたい」また「一部の先生や友人とうまくいかない」等があります。先の二つについては、随時質問を受け付ける体制(オフィスアワー)や、補習授業、特別講座等を実施しています。また、教員や友人とのコミュニケーションの問題に関しては「スクールカウンセラー」によるカウンセリングによって対応しています。
- 学生の自主的学習等の推進には、保護者の理解と協力が必要です。全ての保護者に対して配付している学校だより「専(もはら)」(年3回発行)には、本校の教育研究の近況報告と共に、学生の自主的な活動内容を紹介しています。
- 本校では、保護者及び教職員で組織する「育友会」を設けています。育友会では、保護者に向けた学校見学会を開催しており、その中に、学生の「穴水湾自然学苑教育」を体験してもらうプログラムを行っています。このプログラムでは、学生達が通常行う研修の一端を体験していただき保護者からの直接的な評価を受け、本校教育の理解をいただく努力を行っています。(資料7-1-①-2「見学会のご案内」、(資料7-1-①-3「保護者からの評価」)

(分析結果とその根拠理由)

- クラス担任があらゆる相談窓口としての機能を持っています。クラス担任は、校長、教務主事、学生主事、学科長と日常的に情報交換を行っており、学生一人ひとりの状況を把握し、関係教員との情報共有に努めています。こうした取り組みによってガイダンスによる学生への情報提供は、適切に機能していると考えています。
- 学習意欲の触発を教育の実践目標の一つとしている本校において、学生の学習上の相談は最も重要

な「キッカケ」と位置付けられます。本校は、校長自ら率先して早朝学習と称する個別の補習授業を実施する等、学生の学習意欲に応える個別指導や特別講座の開設が行われており、学生の相談に積極的に対応しています。

(資料7-1-①-1)

「オリエンテーション日程」

4月2日(土)

	1	2	3
1年	対面式・始業式	平成一六年度後期 表彰褒賞	ホーム・ルーム① クラス写真撮影
D2			
M2			
C2			
D3			
M3			
C3			
E4A			
E4B			
M4			
E5A			
E5B			
M5			

4月4日(月)

	1	2	3
1年	穴水研修(1/3)		
D2	ホーム・ルーム②	安全教育 I	
M2	ホーム・ルーム②	安全教育 I	
C2	ホーム・ルーム②	安全教育 I	
D3	ホーム・ルーム②	生活ガイダンス	
M3	ホーム・ルーム②		
C3	ホーム・ルーム②		
E4A	生活ガイダンス	ホーム・ルーム②	
E4B		ホーム・ルーム②	
M4		ホーム・ルーム②	
E5A	健康診断	ホーム・ルーム②	安全教育 I
E5B	ホーム・ルーム②	健康診断	安全教育 I
M5	健康診断	ホーム・ルーム②	安全教育 I

<担当者・実施場所>

- 校長講話 : 校長 (2&3年:合同講義室)
(4&5年:5・101室)
- 修学ガイダンス : 教務主事(合同講義室)
生活ガイダンス : 学生主事(合同講義室)
進路ガイダンス : 進路指導主事(合同講義室)
- ホームルーム①②③ : 学級担任・副担任(教室)
- 健康診断 : 学級担任・副担任(時間・場所の詳細は別途連絡予定)
安全教育 I : 各学年・各学科の創造実験担当責任者(教室)
安全教育 II : 2&3年・各学科の創造実験担当責任者
(D:49号館、M:26号館、C:49号館)

4月5日(火)

	1	2	3	4	5	6	
1年	穴水研修(2/3)						
D2	健康診断	修学 ガイダンス	安全教育 II				
M2	健康診断		安全教育 II				
C2	安全教育 II		健康診断				
D3	修学 ガイダンス	安全教育 I	健康診断				
M3		健康診断	安全教育 I				
C3		健康診断	安全教育 I				
E4A					安全教育 I	健康診断	
E4B					健康診断	安全教育 I	
M4					健康診断	安全教育 I	
E5A			創造実験V ガイダンス (合同講義室)		生活 ガイダ ンス	修学 ガイダ ンス	進路 ガイダ ンス
E5B							
M5							

4月6日(水)

	1	2	3
1年	穴水研修(3/3)		
D2	生活 ガイダンス	校長講話	ホーム・ルーム ③
M2			ホーム・ルーム ③
C2			ホーム・ルーム ③
D3	安全教育 II	校長講話	ホーム・ルーム ③
M3	安全教育 II		ホーム・ルーム ③
C3	安全教育 II		ホーム・ルーム ③
E4A	校長講話	ホーム・ルーム ③	修学 ガイダンス
E4B		ホーム・ルーム ③	
M4		ホーム・ルーム ③	
E5A	校長講話	ホーム・ルーム ③	
E5B		ホーム・ルーム ③	
M5		ホーム・ルーム ③	

<ホーム・ルーム概要>

- ホーム・ルーム① 連絡事項 他
 ・1年:穴水研修について
 ・2年以上:ガイダンス実施概要
- ホーム・ルーム② クラスガイダンス
 ・時間割発表
 ・教科書購入チェック
- ホーム・ルーム③ 校長講話より
 ・一日一感動(一善)

<定期健診の予定>

- 定期健康診断 4月4日(月) 5年生 (24.110室)
 4月5日(火) 2~4年生 (24.110室)
 5月9日(月) 1年生
- 心臓検診 4月11日(月) 1年生 (会議室)
 2年生以上は、経過観察者のみ
- 歯科検診 5月12日(木) (会議室)
 5月19日(木) (会議室)
 5月26日(木) (会議室)
- 聴力検査 4月11日(月) 1・3・5年生 (会議室)

(資料 7-1-①-2)

「見学会のご案内」

平成 17 年 4 月 28 日

保 護 者 各 位

金沢工業高等専門学校
育友会長 五十嵐誠一
校 長 堀岡 雅清

金沢高専学校見学会と穴水湾自然学苑見学会
について (ご案内)

拝啓 新緑の候、皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は本校の教育に対しご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本校は、人間教育に最も力点を置きながら、21 世紀を担うエンジニアとして創造型の人材を育むため、ハンズオン(モノ創り)教育、コンピューター教育など個性的、尖端的な教育を実施しております。従来保護者の方々には、これら教育に効果を発揮する教育施設・設備の充実ぶり等をご覧頂くため、保護者対象の学校見学会を開催し、多くの方々のご参加を頂きました。

つきましては、本年も別紙実施要項のように保護者を対象とする「金沢高専学校見学会」を開催いたします。ぜひ皆さま方のご参加を頂きたくご案内申し上げます。

さらに、本校には人間教育の象徴であり、全学年が参加する「人間と自然」をテーマとしたユニークな「穴水湾自然学苑研修」があります。

1 年生は、本校入学直後 2 泊 3 日の「穴水湾自然学苑研修」で高専生活のスタートを切ったところであり、多くの学生は「大変良かった。また行きたい。」などと感想を述べております。

例年保護者の方々に、この合宿研修の場である穴水湾自然学苑を見学、学生達の研修の一端を体験していただき大変好評であります。本年も 1 年～5 年生全保護者を対象に「穴水湾自然学苑見学会」を実施致します。なお、実施要項は別紙のとおりです。

丘の上の学苑からは能登半島国定公園の穴水湾が一望でき、カッター体験やバーベキュー、本校カウンセラー当田修久氏の講演など盛りたくさんのプログラムで、保護者の方々同志、また本校教員との交流を深めるよい機会でもあります。ぜひご参加下さいませようご案内申し上げます。

金沢工業高等専門学校

(資料7-1-①-3)

「保護者からの評価」

金沢工業高等専門学校

校長先生はじめ教職員の皆様方

先日は、金沢高専学校見学会と穴水湾自然学苑見学会に参加させていただきまして、大変充実したすばらしい時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございます。この度の機会に、改めて、学校の整った設備や、校長先生はじめ教職員の皆様方の高専教育へのお考えをお聞きすることができ、深く感銘いたしました。4月の入学以来、息子が目を輝かせ、毎日生き生きと学校に通い、そして、「高専に入学させてもらって、本当に嬉しい」と語る気持ちが、とても良く理解できるようになりました。以前より「高専は学生の才能を伸ばす環境が整っている」と聞いてはおりましたが、「環境が整っている」とは、物質的、設備的に恵まれた環境が用意されているというだけではなく、先生方が、やる気のある学生の気持ちや才能を、少しでも高く引き上げ、伸び伸びと成長させようとサポートして下さる精神面での環境が、非常に整っているのだと感じました。まさに、ハード面とソフト面の両面において、学生のやる気を、より高く押し上げて下さる、そんな環境が整っているのです。また、受験のための勉強とは違った一貫した精神教育、この面でも、親として非常に嬉しく有難く感じています。「規律」「思いやり」「日本人の心」こうした人としての基本的な土台があつてこそ、十分な知識や経験を身に着けたとき、胸を張って社会に出て行けるのだと思います。モノづくりの過程に於いては、自分を個として研究や勉強を深めることも大切ですが、穴水での研修体験では、友人との共同生活や海上活動を通じて、協調性の大切さも痛感できるという、バランスのとれた教育の場が用意されていることも、一泊二日の見学会を通じて強く感じました。そして、校長先生が熱く語られた「感動」を形にする教育。物事を素直に受け止め、心豊かでなければ、感動は生まれません。斜に構え、ひねくれた心で見たのでは、感動は生まれません。新しく始まった取り組み「一日一感動」。忙しく過ぎていく学生生活の中で、心のアンテナをピンと張って、いつでも、素直に、心豊かに、敏感に、感動をキャッチできるように準備している、そんな高専生がますます増えていくことは、感受性豊かなエンジニアの育成には、まさにぴったりだと思えます。

思えば、息子が中学生だったころ、部屋中に電池やモーター、配線や工具が溢れ、受験勉強そっちのけで、ラジコンのソーラーカーを作りはじめたときには、どうしたものかと頭を抱えたものでした。電気が好きだ、研究がしたい、夢を形にしたい、モノが作りたい、目を輝かせて語る息子の姿に、担任の先生が、高専の存在を教えて下さいました。そして、出かけた高専の学校見学会で目にしたのは、まさに、息子の夢を形にしたような学校でした。それまで「どうしようもない」と決め付けていた息子の居場所が、この高専になら、在るような気がしたのです。今、息子は、工大生と一緒に、ソーラーカープロジェクトの一員として、遅くまで夢考房で、充実した時間を過ごしています。まさに、本物のソーラーカーを作る夢のような環境にあつて、嬉しくて仕方ありません。もちろん、電気情報工

学科での授業や、クラスメイトと過ごす時間も、有意義に楽しんでいるようです。中でも、学食で食べる食事が楽しみようで、お弁当を持たせようとする私の言葉を却下した上で、いかに、学食の食事やパンが安くて美味しいかを力説。ある日には、学食のパンを買って帰ってきてくれて「美味しいから、食べてみて」とのこと。「焼き立ては、もっと美味しいんだけど」と自慢げに話す嬉しいような顔を見ていると、高専生活を満喫している息子が羨ましくさえ感じられます。

まだまだ、息子も、私も、高専の魅力の入り口に立ったばかりです。これから、ますます、たくさんの魅力に出会って、たくさんの感動を覚え、たくさん勉強して、貪欲に吸収していきたいと思います。今回の見学会を通じて、あらゆる面で、素晴らしい舞台が準備されていることを知りました。その舞台で、どれだけ活躍できるかは、本人の努力次第です。「やればできる」校長先生のお言葉のように、私たち親も息子を信じて、応援して、息子と共に成長できればと思っています。5年間の長い高専生活には、様々な出来事が待ち受けているでしょうが、どうか、よろしくご指導下さいますようお願いいたします。

この度は、本当にありがとうございました。

2005.05.25 1年生 保護者

観点7-1-② 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され効果的に利用されているか。

（観点にかかる状況）

- ・授業時間外の各教室やコンピュータ演習室、マルチメディア演習室およびラウンジは自由に利用することができます。学生は、試験勉強、レポート作成など学習の場として、また学生間のコミュニケーションの場として有効に活用しています。さらに、金沢工業大学との教育支援に係わる共用施設は、学生の自主的な学習やキャンパス生活の場として効果的に利用されています。

[共用施設]・ライブラリーセンター（図書館）	少人数での英語教育の授業にゼミ室を利用、図書館・放課後の自学自習に利用 卒業研究論文の閲覧と研究活動に利用 情報検索ガイダンス（利用者教育）
（マルチメディア考房）	コンピュータによる創作活動の場として利用
・工学設計教育センター（夢考房）	機械実習用施設として利用 モノづくりの活動施設として利用
（スポーツ考房）	トレーニング・体力増進・健康管理施設として利用
・自己開発センター	資格取得教育の支援、資格の相談や講習会に利用
・穴水湾自然学苑	「人間と自然」教育に利用
・天池自然学苑	部活動に利用
・池の平セミナーハウス	部活動に利用
・扇が丘診療所	健康診断や内科的疾患治療等に利用
・工学基礎教育センター	数理教育の支援
・情報処理サービスセンター	情報教育の支援
・食堂・購買	

(分析結果とその根拠理由)

- ・学園が運営する共用施設では、本校学生の利用は積極的であり、学生の満足度も高く、また、これら施設の職員も、本校の教育の実践目標を共有しており、学生の立場に立った組織運営が行われていると認識しています。(資料7-1-②-1「各施設・設備の整備状況」、(資料7-1-②-2「ライブラリーセンター入館者数」、(資料7-1-②-3「工学設計教育センター夢考房26利用者数」、(資料7-1-②-4「夢考房ライセンス取得者数」)

(資料7-1-②-1)

「各施設・設備の整備状況」

用途別室名	室数	座席数	パソコン台数	利用可能時間
高専ラウンジ		38		平日、土・日曜日 22時まで
コンピュータ演習室	2	122	122	平日 18時まで
ライブラリーセンター	150	1,715	79	平日 22時、土・日曜日 17時まで
夢考房	5		8	平日 21時、土・日曜日 17時まで
スポーツ考房・体育館				平日 20時30分、土曜日17時まで
自己開発センター	3	8		平日 17時、土曜日13時まで
穴水湾自然学苑		174		
天池自然学苑	20			
食堂・購買	3	630		平日 15時まで(売店17時まで)
				土曜日13時15分(売店14時まで)

(資料 7-1-②-2)

「ライブラリーセンター入館者数」

単位(人)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
高 専	42,648	38,481	36,516	49,344	44,367
大 学	331,265	320,030	377,210	418,375	392,930
大 学 院	10,633	9,848	10,627	9,610	8,837
合 計	384,546	368,359	424,353	477,329	446,134

(資料 7-1-②-3)

「工学設計教育センター夢考房 26 利用者数」

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
4月	53	36	34	57	59
5月	54	52	105	160	87
6月	85	41	36	61	47
7月	157	71	112	110	147
8月	102	89	107	82	192
9月	200	153	307	277	410
10月	236	123	207	166	386
11月	117	134	67	106	202
12月	89	158	142	315	325
1月	120	185	229	139	189
2月	102	235	261	197	270
3月	26	8	60	82	77
合計	1,341	1,285	1,667	1,752	2,391

(資料 7-1-②-4)

「夢考房ライセンス取得者数」

講習名	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	計
NCフライス盤	0	3	2	1	0	1	7
テクニカルガイド	172	160	57	50	90	58	587
フライス盤	49	65	41	50	47	20	272
ボール盤	53	58	46	49	53	16	275
安全講習(※)	165	180					345
旋盤	49	50	53	52	55	20	279
電気	4	26	3	19	13	16	81
板金	58	60	47	47	53	53	318
平面研削盤	0	3	3	0	1	0	7
木工	46	61	43	55	56	65	326
溶接	45	65	43	52	52	50	307
総計	641	731	338	375	420	299	2,804

※夢考房での安全講習会は平成12年で終了

観点7-1-③ 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる）が適切に把握されているか。

（観点にかかる状況）

- ・ 学生に対する学習支援の取り組みの多くは学園の教育支援機構の各センターの協力を得て実施されています。各センターの支援に対するニーズは、KTC総合アンケートや各センターが独自に実施するアンケート等により把握されていると認識しています。（資料7-1-③-1「利用者アンケート」）
- ・ 資格取得や外国留学、補習授業、さらには課外活動等の本校が実施する学習支援活動に関する学生の意見については、KTC総合アンケートや日常的な教職員との意見交換を通じて把握されていると認識しています。（資料7-1-③-2「資格取得に関するアンケート」）、（資料7-1-③-3「英語の授業に関するアンケート」）

（分析結果とその根拠理由）

- ・ KTC総合アンケートの分析結果に基づけば、学生からは現行の支援内容に対する苦情や要望は特にないと認識しています。
- ・ 学習支援に関する学生の新たなニーズは、KTC総合アンケートにおける学生の自由記述や教職員との意見交換を通じて見出す努力を行っています。（資料7-1-③-4「金沢高専に関するアンケート」）

（資料7-1-③-1）
「利用者アンケート」

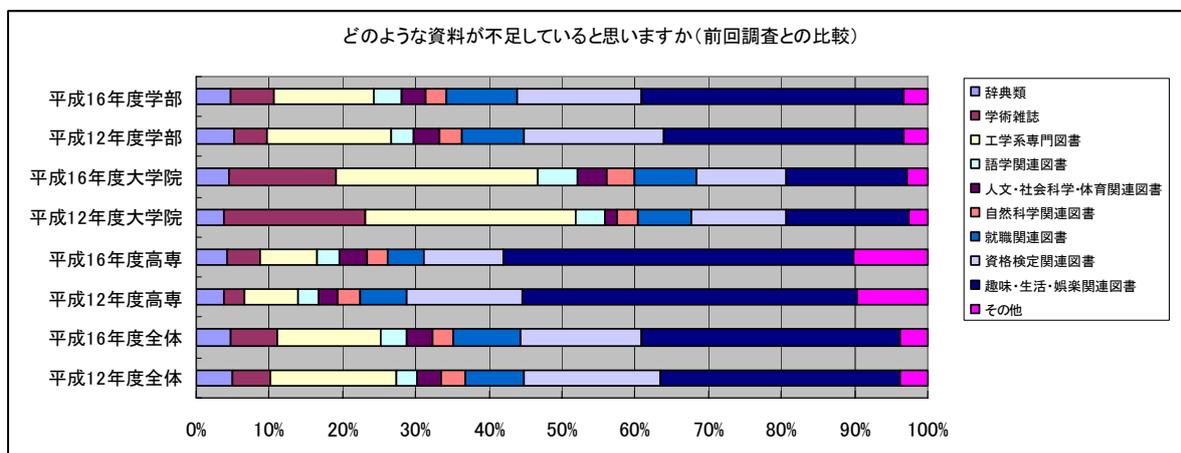
積極的な図書購入要求に期待

設問6 LCでは、どのような資料が不足していると思いますか。

LCを一層‘自分の本棚’として活用してもらうため、不足していると感じる資料を指摘してもらった。その結果は、(図16)に示すとおりである。

全体的に不足していると指摘された上位は、「趣味・生活・娯楽関連図書」「資格検定関連図書」「工学系専門図書」である。

平成12年度のアンケート調査結果を踏まえ、平成13年度以降、資格検定関連図書の充実を図ったものの、結果としてまだ不足していると感じられているようである。資格や検定に関する参考書や問題集は、「平成〇〇年度版」と毎年出版されるものが多い。このため、資料の充実にも努めてもすぐに古いという印象を持たれやすいのではないかと、と思われる。

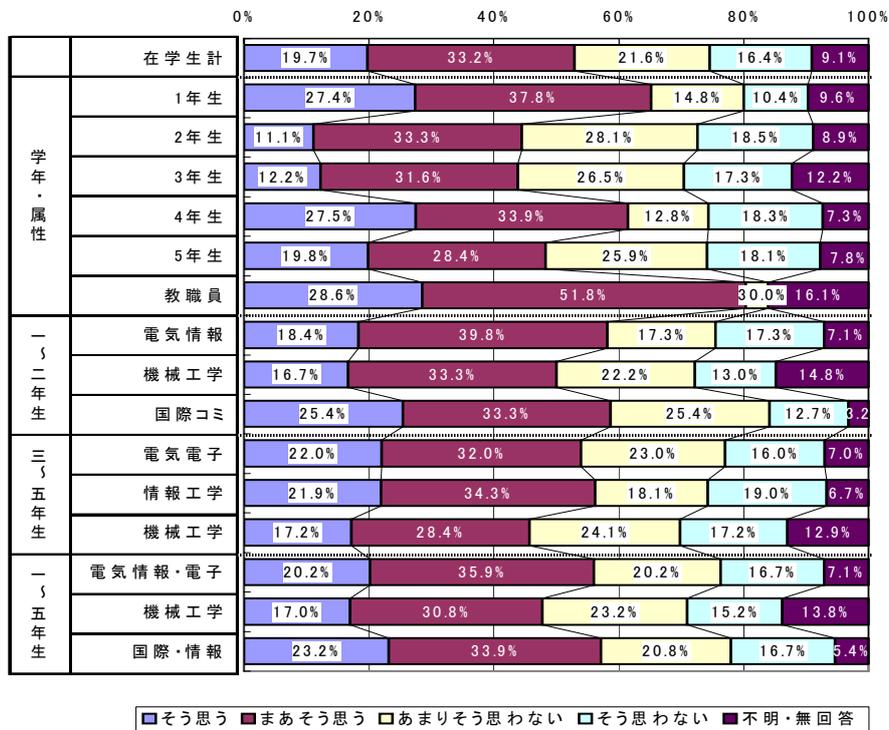


(出典 「旦月会」 平成17年3月号 P.50)

(資料7-1-③-2)

「資格取得に関するアンケート」

■ 資格取得のためのサポートには満足している

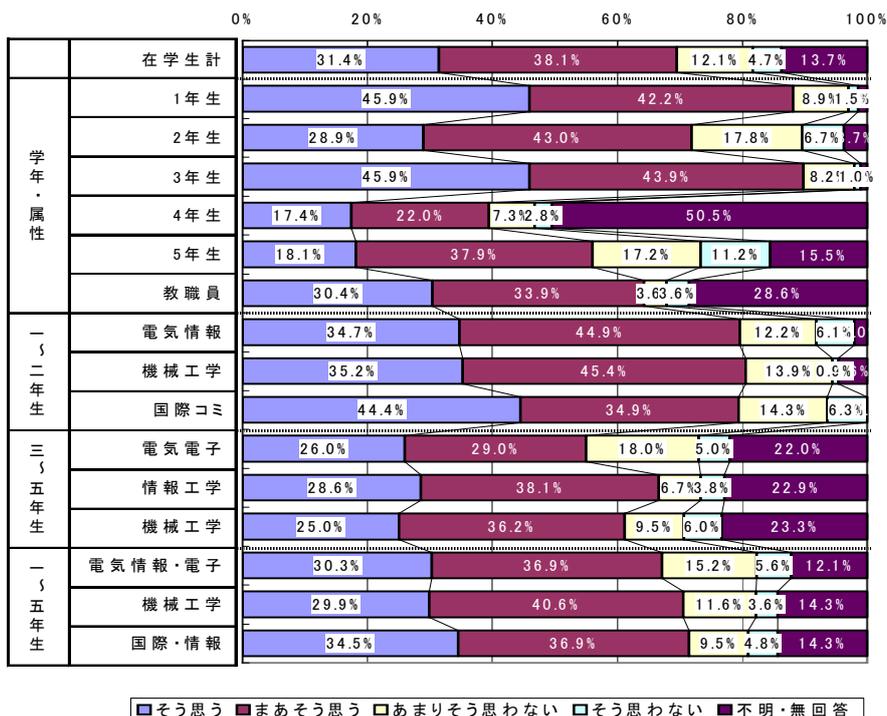


(出典 「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」 P. 28)

(資料7-1-③-3)

「英語の授業に関するアンケート」

■ 英語の授業内容には満足している



(出典 「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」 P. 26)

(資料7-1-③-4)

「金沢高専に関するアンケート」

■ その他、金沢高専に関して

(10) その他、金沢高専についての評価をお聞きます。各質問に対して、当てはまる回答を1つ選んで○をつけてください。

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
1. 金沢高専で学ぶことで自分の目標に近づいている	1	2	3	4	5
2. 学生生活は充実している	1	2	3	4	5
3. 金沢高専が好きである	1	2	3	4	5
4. 金沢高専の学生であることに誇りを持っている	1	2	3	4	5

(11) その他、金沢高専で気になっている点や改善して欲しいと思っている点などがあれば、下に自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

(出典「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」P.114)

観点7-1-④ 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点にかかる状況)

- ・資格取得のための特別講座を開講し支援しています。(資料7-1-④-1「資格試験講座開設状況・受講者数」) また、その他適時に学生の要求に応じて補講も行っております。
- ・外国留学については英語科教員によるガイダンスや特別講座等の支援を行い、積極的に推進しています。本校の特色として単位互換により在学のままで留学できる制度を発足させ、より一層の充実を目指すこととしています。
- ・外国留学プログラムの実施ならびに全ての支援は、金沢高専の国際交流委員会と同委員会より指示を受けた英語科が主体となって行っています。国際交流委員会では、留学先のオタゴ・ポリテクニクでの学習内容、留学規定、留学参加者の選抜から出発までの準備内容、留学中の諸注意などの全ての実施に関わる事をこの委員会で討議し決定しています。英語科は、国際交流委員会の指示を受けて実務的作業を行っています。

また、留学先ではニュージーランド在住の日本人女性を採用し、学生の日常生活や学習の問題点などに対応しています。

(資料7-1-④-1)

「資格試験講座開設状況・受講者数」

講習会名	コース名	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	総計	
危険物取扱者(乙種各類)		37	23	15				75	
二級ボイラー技士	(認定)	46	8	3	4	16	2	79	
	(筆記)		1	2				3	
第三種電気主任技術者	(理論)		2					2	
	(機械)	1			6	3	3	13	
	(電力)							0	
	(法規)					10		10	
第三種電気主任技術者	直前	(理論)							
		(機械)							
		(電力)		1		1			2
		(法規)		1		1			2
第二種電気工事士	(筆記)	18	32	12	37	51	17	167	
	(技能)	10	20	10	30	27	19	116	
基本情報技術者 (第二種情報処理技術者)	直前	2	1					3	
システムアドミニストレータ	直前	2				1		3	
実用英語検定	準1級							0	
	2級		1					1	
	準2級								
	3級								
日本語文章能力検定	2級								
	準2級								
	3級	8	8					16	
	4級	8	39	18	20	28	15	128	
実用数学技能検定	2級	2	2					4	
	準2級				25			25	
	3級	71	20	6	20	7		124	
日商簿記検定	3級		3					3	
ガス溶接技能者(認定講習)		37	31	48	27	23	4	170	
電気取扱業務安全衛生特別教育(認定講習)			88	42	24	34	47	235	
照明コンサルタント			3					3	
宅地建物取引主任者							1	1	
Word/Excel	一般								
合計		242	284	156	195	200	108	1,185	

(分析結果とその根拠理由)

- ・資格取得については、現在行っている特別講座の充実を図り、継続して支援することで成果が得られるものと考えています。(資料7-1-④-2)
- ・外国留学に関しては、希望者が多く苦慮している所です。学生の安全を考え留学先の選定には特に留意しております。単位互換によるニュージーランド留学については、本校職員として2名を現地採用し、万全を期す体制のもと実施しており、米国の短期英語研修には英語科の教員が4名程度引率者として同行しています。(資料7-1-④-3「海外留学状況」)

(資料7-1-④-2)

「自己開発センター利用案内 (資格試験日程表)」

17年度資格試験スケジュール

年月	資格	試験日	学内願書受付期間	備考
5月	国家公務員Ⅰ種 ●一次試験	1日(日)	3月初旬～4月上旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	工事担任者(第1回) ●アナログ/デジタル/総合	22日(日)	2月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	危険物取扱者(第1回) ●甲種/乙種/丙種	29日(日)	4月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	工業英語能力検定(第1回) ●2級～4級	29日(日)	4月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	日本漢字能力検定(第1回) ●2級～3級	4日(土)	4月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	★第二種電気工事士 ●筆記試験	5日(日) 技能/7月24日(日)	3/9(水)～4/5(火)	高専事務局で受付 学内で受験可能
	ラジオ・音響技能検定(第1回) ●2級～4級	12日(日)	4月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	日商簿記検定(第1回) ●1級～3級	12日(日)	4月中旬～下旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	実用英語技能検定(第1回) ●2級/準2級	12日(日) 二次/7月10日(日)	4月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	情報技術検定 ●1級～3級	18日(土)(予定)	5月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
6月	★国家公務員Ⅱ種 ●一次試験	19日(日)	3月初旬～4月中旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	CAD利用技術者(第1回) ●2級	19日(日)	3/15(火)～5/1(日)	各自インターネットで申込み
	カラーコーディネーター ●2級/3級	19日(日)	4月中旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	★日本語文章能力検定(第1回) ●2級～4級	19日(日)	4月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	秘書技能検定(第1回) ●準1級/2級/3級	19日(日)	4月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	特殊無線技士(第1回) ●陸上/航空/海上	25日(土)、26日(日)	4月上旬	自己開発センターのみで受付
	ドイツ語技能検定(第1回) ●3級/4級	26日(日)	4月上旬～5月中旬	PEPAで願書配布
	中国語検定(第1回) ●2級～準4級	26日(日)	4月上旬～5月上旬	PEPAで願書配布
	CG検定/マルチメディア検定/画像処理検定(第1回) ●2級/3級	26日(日)	4月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	デジタル技術検定(第1回) ●2級～4級	26日(日)	5月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
7月	インターネット検定(第1回) ●シングル/ダブル/トリプル	3日(日)	4月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	★2級ボイラー技士 ●認定講習会(実技講習)	4日(月)～6日(水) (予定)	6月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	電気通信主任技術者(第1回) ●伝送交換/線路	10日(日)	4月上旬～下旬	自己開発センターのみで受付
	福祉環境コーディネーター(第1回) ●2級/3級	10日(日)	4月下旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	パーソナルコンピュータ利用技術認定(第1回) ●3級/4級	10日(日)	5月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	★実用数学技能検定(第1回) ●準1級～3級	16日(土)	5月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	陸上無線技術士(第1回) ●1級/2級	26日(火)～29日(金)	5月中旬	自己開発センターのみで受付
	第一、二種電気主任技術者 ●一次試験	20日(土) 二次/11月20日(日)	5月中旬～6月初旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	★第三種電気主任技術者	21日(日)	5月中旬～6月初旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	消防設備士(第1回) ●甲種/乙種	21日(日) 27日(土)・28日(日)	6月下旬	高専事務局・自己開発センターで受付
8月	火薬類保安責任者(取扱/製造) ●甲種/乙種/丙種	28日(日)	6月下旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	家電製品エンジニア・アドバイザー	25日(日)(予定)	6月中旬 願書予約が必要	自己開発センターのみで受付
9月	公害防止管理者 ●騒音/粉塵/大気/ダイオキシン	25日(日)	7月上旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	第一種電気工事士 ●筆記試験	2日(日) 二次/10月1日(金)、12月4日(日)	7月上旬～下旬	高専事務局・自己開発センターで受付
10月	公害防止管理者 ●主任管理者/振動/水質他	2日(日)	7月上旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	技術士補 ●技術士一次試験	10日(祝)	5月中旬 願書予約が必要	自己開発センターのみで受付
	特殊無線技士(第2回) ●陸上/航空/海上	12日(水)、13日(木)	6月下旬	自己開発センターのみで受付
	★情報処理技術者(第1回) ●ソフトウェア開発/基本情報/シスアド他	16日(日)	7月中旬	高専事務局・自己開発センターで受付
	★宅地建物取引主任者	16日(日)(予定)	7月上旬	自己開発センターのみで受付

(出典 「学生便覧 2005」 P.80)

「自己開発センター利用案内（資格試験日程表）」

資格取得について／本校には資格取得に有利という大きなメリットがあります。情報処理技術者、電気工事士などさまざまな資格を持っていると、実社会に出たときに非常にプラスになります。本校ではこれらの資格の中で、第二種電気主任技術者、第二級陸上無線技術士(2年以上)、工事担任者の認定校となっているため、本校の授業の中で、認定基準に規定する科目の単位取得により、申請でこれらの資格の取得ならびに試験科目の免除ができます。

なお、本校では多くの学生が資格取得できるように、自己開発センターが特別に講習会を開いています。

(※実施にあたり一部変更がある場合がある H17.3.7現在)

年 月	資格	試験日	学内願書受付期間	備考
平成17年	実用英語技能検定(第2回) ●一次試験 2級/準2級	16日(日) 二次/11月13日(日)	9月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	日本語文章能力検定(第2回) ●2級~4級	23日(日)	9月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	日本漢字能力検定(第2回) ●2級~3級	29日(土)	9月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	F E 試験(第1回)	30日(日)	5月上旬	自己開発センターのみで受付
	危険物取扱者(第2回) ●甲種/乙種/丙種	30日(日)	9月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	★実用数学技能検定(第2回) ●準1級~3級	6日(日)	9月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	ラジオ・音響技能検定(第2回) ●1級~4級	13日(日)	9月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	秘書技能検定(第2回) ●準1級~3級	13日(日)	9月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	施行技術者 ●電気工事/建築	13日(日) (予定)	6月下旬	自己開発センターのみで受付
	CAD利用技術者(第2回) ●1級/2級	20日(日)	8/16(火)~10/2(日)	各自インターネットで申込み
	日商簿記検定 ●1級~3級	20日(日)	9月下旬~10月上旬	高専事務局・ 自己開発センターで受付
	工業英語能力検定(第2回) ●1級~4級	20日(日)	10月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	ドイツ語技能検定(第2回) ●1級~4級	23日(日)	9月上旬~10月上旬	PEPAで受付
	工事担任者(第2回) ●アナログ/デジタル/総合	27日(日)	6月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	中国語検定(第2回) ●1級~準4級	27日(日)	9月上旬~10月上旬	PEPAで願書配布
	福祉住環境コーディネーター(第2回) ●2級/3級	27日(日)	9月中旬	高専事務局・ 能力開発センターで受付
	機械設計技術者 ●3級	27日(日)	9月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	CGクリエイター/CGエンジニア/マルチメディア(第2回) ●2級/3級	27日(日)	9月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	デジタル技術者検定(第2回) ●1級~4級	27日(日)	10月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	平成18年	パーソナルコンピュータ利用技術認定(第2回) ●1級~4級	4日(日)	10月上旬
カラーコーディネーター(第2回) ●1級~3級		4日(日)	10月上旬	高専事務局・ 自己開発センターで受付
インターネット検定(第2回) ●シングル/ダブル/トリプル		4日(日)	10月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
施工技術者 ●土木/管工事/造園		18日(日) (予定)	9月上旬	自己開発センターのみで受付
★ガス溶接技能者 ●認定講習生		上旬~下旬	11月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
情報技術検定 ●1級~3級		14日(土) (予定)	11月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
電気通信主任技術者 ●伝送交換/線路		22日(日)	10月上旬~下旬	自己開発センターのみで受付
陸上無線技術士(第2回) ●1級/2級		26日(水)~29日(日)	10月下旬~11月上旬	自己開発センターのみで受付
日本漢字能力検定(第3回) ●2級~3級		28日(土)	12月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
工業英語能力検定(第3回) ●3級/4級		28日(土)	12月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
平成18年	実用英語技能検定(第3回) ●2級/準2級	29日(日) 二次/2月26日(日)	11月下旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	日本語文章能力検定(第3回) ●2級~4級	5日(日)	12月上旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	秘書技能検定(第3回) ●2級/3級	5日(日)	12月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	特殊無線技士(第3回) ●陸上/航空/海上	15日(水)、16日(木)	12月上旬	自己開発センターのみで受付
	実用数学技能検定(第3回) ●準1級~3級	18日(土)	12月中旬	高専事務局で受付 学内で受験可能
	危険物取扱者(第3回) ●乙種	19日(日)	12月中旬	高専事務局・ 自己開発センターで受付
	消防設備士(第2回) ●甲種/乙種	25日(土)、26日(日)	12月中旬	高専事務局・ 自己開発センターで受付
	日商簿記検定(第3回) ●2級/3級	26日(日)	H.18 1月中旬	高専事務局・ 自己開発センターで受付
	家電製品エンジニア・アドバイザー	12日(日) (予定)	12月中旬 願書予約が必要	自己開発センターのみで受付
	F E 試験(第2回)	16日(日) (予定)	10月下旬	高専事務局・ 自己開発センターで受付
★情報処理技術者(第2回) ●ソフトウェア開発/基本情報/シスアド他	16日(日) (予定)	H.18 1月中旬	高専事務局・ 自己開発センターで受付	

※TOEICは能力開発センターで随時受付、試験は1、3、5、6、7、9、10、11月に実施

★マークのついた資格試験は講習会を開催予定

(出典 「学生便覧 2005」 P.81)

(資料7-1-④-3)

「海外留学状況」

海外英語研修(短期)

年 度	期 間	留 学 先	参 加 者 数 ():女子学生内数
平成11年度	7月1日～8月5日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 27(5)人 機械工学科 3年生 6人 機械工学科 4年生 1人 計34(5)人
平成12年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 28(8)人 電気工学科 4年生 2人 機械工学科 3年生 13人 計43(8)人
平成13年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 26(4)人 機械工学科 3年生 14人 計40(4)人
平成14年度	6月30日～8月18日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 30(5)人 機械工学科 3年生 15(1)人 計45(6)人
平成15年度	6月30日～8月18日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 26(4)人 機械工学科 3年生 8人 計34(4)人
平成16年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年生 22人 機械工学科 2年生 6人 機械工学科 3年生 8人 電気情報工学科 2年生 14(1)人 国際コミュニケーション情報工学科 2年生 9(4)人 計59(5)人
平成17年度	6月30日～8月4日	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気情報工学科 2年生 13(1)人 機械工学科 2年生 7(1)人 国際コミュニケーション情報工学科 2年生 16(2)人 計36(4)人

海外留学(期間:4月上旬から翌年3月下旬)

年 度	留 学 先	参 加 者 数 ():女子学生内数
平成11年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 2人 機械工学科 4年修了生 1人 計 3人
平成12年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 4人 機械工学科 4年修了生 2人 機械工学科 5年修了生 2(1)人 計 8(1)人
平成13年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 5年修了生 2(2)人 機械工学科 5年修了生 1人 計 3(2)人
平成14年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 1人 電気工学科 5年修了生 3人 計 4人
平成15年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 4年修了生 1人 計 1人
	(ニュージージーランド) オタゴ・ホリテクニク	電気工学科 3年修了生 8(1)人 機械工学科 3年修了生 3人 機械工学科 4年修了生 1人 計 12(1)人
平成16年度	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年修了生 2人 機械工学科 5年修了生 1人 計 3人
	(ニュージージーランド) オタゴ・ホリテクニク	電気工学科 2年修了生 16(1)人 電気工学科 3年修了生 2(1)人 電気工学科 4年修了生 1(1)人 機械工学科 2年修了生 8(2)人 計 27(5)人
	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年修了生 1人 計 1人
平成17年度	(ニュージージーランド) オタゴ・ホリテクニク	電気情報工学科 2年修了生 6人 機械工学科 2年修了生 1人 国際コミュニケーション情報工学科 2年修了生 15(5)人 電気工学科 5年修了生 1人 計 23(5)人
	(アメリカ) セント・マイケルス大学	電気工学科 3年修了生 1人 計 1人

観点7-1-⑤ 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害を持つ学生等が考えられる）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校には現在4年次クラスに1名の編入学生が在籍しています。工業高等学校出身者であり、専門科目には違和感なく溶け込める状況にあります。数理科目においては必要に応じて個別指導を実施することで対応することとしています。

（分析結果とその根拠理由）

- ・編入学生が1名と少数であることから十分に目が行き届いた状況の中で、適切な対応ができると考えています。また当人の学習における満足度も高いと認識しています。

観点7-1-⑥ 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

（観点にかかる状況）

- ・課外活動に関しては、3年生まで全員が部活動に参加することを義務付けており、各部には教員が顧問を担当しています。部活動のコーチは、本校の非常勤職員としての身分で採用された者が当たるなど、支援体制の充実に努力しています。各種コンテストへの参加を希望する学生が増えてきたことから、「プロジェクト」活動として担当教員が活動の支援を行っています。
- ・学生会には、学内に学生会室を置き、学生主事が活動の助言や支援を行っています。（資料7-1-⑥-1）
- ・本校には、クラブハウスがあります。全ての部活動に居室が提供できているわけではありませんが、有効に利用されていると認識しています。（資料7-1-⑥-2「部活動について」）

（分析結果とその根拠理由）

- ・本校の課外活動は、人間力養成の一翼を担う重要な位置付けにあります。そのため、支援体制の充実に、大きな努力を払っています。こうした努力の成果として、いくつかの部活動やプロジェクト活動において、一定の成績が収められているものと考えています。（資料7-1-⑥-3「部活動一覧」）、（資料7-1-⑥-4「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」）、（資料7-1-⑥-5「プロジェクト活動成果」）

(資料 7 - 1 - ⑥ - 1)

「金沢工業高等専門学校学生会会則」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 学 生 会 会 則

第 1 章 総 則

第 1 条 本会は金沢工業高等専門学校学生会と称する。

第 2 条 本会は学校の指導のもとに学生が自発的な活動を行い、それを通して自治的精神の向上を図り、人格を陶冶し、高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

第 3 条 本会は金沢工業高等専門学校の全学生をもって構成する。

第 2 章 役 員

第 4 条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 副会長 2 名
- (3) 書記 2 名
- (4) 会計 2 名
- (5) 監査委員 3 名

第 5 条 役員は会員中より選挙によって選出される。

第 6 条 役員の任期は 1 年とし毎年 10 月 16 日に始まり翌年の 10 月 15 日に終わる。ただし、補充された役員の任期は前任者の残任期間とする。なお、役員は任期が満了しても次期役員が就任するまではその任務を続けなければならない。

第 7 条 役員(ただし監査委員を除く。)は学生会議会員の 3 分の 2 以上の要求があれば辞職しなければならない。

第 8 条 役員は病気又はその他の理由により職務を執行できないときは辞職しなければならない。

第 9 条 役員に欠員が生じた場合には 2 週間以内に、補欠選挙を行わなければならない。

第 10 条 会長は本会を代表し会務を総理する。ただし、校外の他の団体と関連ある場合には学生主事の指導承認を受けなければならない。

第 11 条 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。

第 12 条 書記は議会の書記を兼任し、記録書類の整備保管に当たり、その庶務的業務を取り扱う。

第 13 条 会計は本会の会計に関する事務を取り扱い、本校の学生主事との連絡のもとに本会の財務管理に当たり、出納については本校の事務局長に委任する。

第 3 章 学生会議会

第 14 条 学生会議会(以下「議会」という)は本会の最高議決機関であり、議員、役員各委員会委員長をもってこれを組織する。ただし議決権は議員のみに与えられる。

第 15 条 議員は各学級より選出された学級委員 2 名が兼任する。任期は半年とし、前期は 4 月 1 日に始まり同年の 10 月 15 日に終わる。また、後期は 10 月 16 日に始まり翌年の 3 月 31 日に終わる。

第 16 条 議員は議会で行った演説、討論又は表決について議会外で責任を問われない。

第 17 条 各部の部長、主務は必要に応じて議会に出席することができる。ただし、発言権のみを有するものとする。

第 18 条 定例議会は毎年 5 月と 11 月に開く。議会の招集は議長がこれを行う。

第 19 条 臨時議会は次の場合に開かなければならない。議長がこれを招集する。

- (1) 執行委員会において必要と認めたとき。
- (2) 総議員の 3 分の 2 以上の要求があったとき。

第 20 条 議会の必要定数は総議員の 3 分の 2 以上とする。

第 21 条 議会の議事は出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第 22 条 議会の招集期日、場所、議題は 3 日以前に公示しなくてはならない。ただし、臨時議会の場合にはこの限りではない。

第 23 条 議長は議員の互選によって選出され副議長は議長が指名する。

第 24 条 議長、副議長の任期は第 15 条の規定を準用する。

第4章 執行委員会

第25条 執行委員会は本会の最高の執行機関である。

第26条 執行委員会は第4条で規定された役員(ただし監査委員を除く)と学級、文化、体育、公安、特教、部活動の各専門委員会の委員長をもって組織する。

第27条 執行委員会は本会に必要な事項の原案を作り議会に提出する。

第28条 執行委員会は議会の決議事項を執行する。

第5章 専門委員会

第29条 本会に執行委員会の職務を補佐するために、次の専門委員会を設置する。

- (1) 学級委員会
- (2) 文化委員会
- (3) 体育委員会
- (4) 公安委員会
- (5) 特教委員会
- (6) 部委員会

第30条 学級委員会は学級委員によって組織し、学生会の運営に協力する。

第31条 文化委員会は文化委員によって組織し、文化的行事の運営に協力する。

第32条 体育委員会は体育委員によって組織し、体育的行事の運営に協力する。

第33条 公安委員会は公安委員によって組織し、学生主事との連絡のもとに校紀校風の刷新向上にあたる。

第34条 特教委員会は特教委員によって組織し、学校行事の運営に協力する。

第35条 部委員会は各部の部長によって組織し、各部の健全な活動向上にあたる。

第36条 各専門委員会に委員の互選により選任された委員長1名、副委員長1名を置く。

第37条 その他必要に応じ議会の承認を得て特別専門委員会を設けることができる。

第6章 部

第38条 本会には会員の健全な趣味、豊富な教養、強健な体力を養うとともに集団協力の態度を培うために部を置く。

第39条 部には部長、主務を置く。

第40条 部の新設、合併及び廃部は部委員会で協議議決した後、議会で協議可決し、校長の承認を得て決定する。

第41条 本会は会員の同好者をもって構成する同好会の新設を部委員会の議決、議会の承認と校長の決定により認めるものとする。

第7章 監査委員会

第42条 監査委員会は本会の監査機関である。

第43条 監査委員会は3名の監査委員をもって組織する。

第8章 選挙管理委員会

第44条 選挙管理委員会は各学級から2名ずつ選出された学級委員をもって組織し役員の選挙の管理に当たる。

第45条 選挙管理委員会は委員の互選によって選出された委員長、副委員長各1名を置く。

第9章 会計

第46条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

第47条 本会の経費は会費、寄付金、その他をもってこれに当てる。

第48条 本会の予算、決算は議会の承認を受けるものとする。

第10章 校長の権限

第49条 校長は本会の最高顧問として本会の議決が学校行政や学生指導に障害を及ぼし、また校長の法的責任を侵すと認めるときは、これを拒否することができる。

第11章 顧問

第50条 本会には校長によって任命された学生会顧問教員を置く。

第51条 部には校長によって任命された部顧問教員を置かなければならない。

第12章 改正

第52条 会則の改正は議会の総議員の3分の2以上の賛成で議決され、校長の承認を得て施行される。

(出典 「学生便覧 2005」 PP.109～111)

(資料 7-1-⑥-2)

「部活動について」

部活動について

部活動の意義と活動のすすめ

正課の授業による人間形成は意義あるものだが、一方部活動は教室では得ることが出来ない大切な一面を有し、大きな教育的効果が期待できます。

部活動は、自主的な集団活動により、心身ともに健全な学生を育成する極めて重要な教育活動です。学級や学年の枠を越え、しかも縦・横の人間関係の体験、部員としてリーダーとしての体験、また指導教員の人間性に触れてゆくことによって、全人格形成を目指すことができ、一層充実した学生生活にすることができます。

以上の意義により、本校では部活動をおおいに奨励し、特に1、2、3年生においては全員が部活動に参加するよう指導しています。

活動の活性化と部の所属について

部活動は、自主的、自律的な精神に満ちた人間形成の場であり、運動部では試合、練習試合を多くすることによって、また、文化部では、展示会、発表会を催したり、コンテストなどに出場することによって活動を活性化できます。

しかし、部活動は集団活動であるので、部員数が部の存続に直接影響を与えます。1つの部に部員が集中しすぎたり、逆に少なくとも活動に支障をきたしますので、この弊害を解消するため、新入生の部の所属については、新入生に所属したい部の希望をとり、顧問教員の要望も考慮して決定しています。

部活動に関する行事

全国高等専門学校体育大会(全国高等専門学校体育大会東海・北陸地区代表決定戦、北陸地区高等専門学校体育大会)

高専教育の一環として、学生にひろくスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健康な学生を育成することを目的に、毎年8月に行われています。

全国を8地区のブロックに分け、8地区からの代表が全国大会に出場することになっています。

本校は東海・北陸地区のブロックに所属しており、この代表権を得るための北陸地区高等専門学校体育大会が、富山、富山商船、石川、福井、本校の各高専が参加して、毎年7月に行われています。

全国高等学校体育大会(石川県高等学校体育大会)

1、2、3年生の運動部員は高等学校体育大会への参加が可能であり、多くの部が春と秋の大会に出場しています。

文化部の発表と吹奏楽部定期演奏会

毎年10月、高専祭において各文化部の発表が行われています。吹奏楽部は野々市町文化会館(フォルテ)において演奏会を行い、学校内外に日ごろの練習の成果を発表しています。

(出典 「学生便覧 2005」 P.101)

(資料7-1-⑥-3)

「部活動一覧」

運動部		文化部
1) 陸上競技部	9) 卓球部	1) 吹奏楽部
2) バレーボール部	10) バドミントン部	2) 放送・無線部
3) バスケットボール部	11) 水泳部	3) 電子計算機部
4) ソフトテニス部	12) 剣道部	4) 写真部
5) テニス部	13) 柔道部	5) 美術部
6) 野球部 (上級生)	14) ラグビー部	6) ハンズオン部
7) 野球部 (下級生)	15) スキー部	7) 将棋部
8) サッカー部		

(資料7-1-⑥-4)

「夢考房プロジェクト参加者数一覧表」

年度 プロジェクト名	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	総計
ロボット	15	11	21	34	21	22	124
RoboCup				2	3	0	5
ソーラーカー					2	3	5
ソーラーボート				3	1	1	5
風力発電					1	1	2
総計	15	11	21	39	28	27	141

(資料7-1-⑥-5)

「プロジェクト活動成果」

年度	ソーラーカー (夢考房プロジェクト)	RoboCup (夢考房プロジェクト)	プロコン (プロジェクト)	ロボコン (プロジェクト)
平成11年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーカーレース鈴鹿'99 総合3位 ・ワールドソーラーカーラリーin大潟 総合10位 ・1999 World Solar Challenge (オーストラリア) 総合5位 (日本勢2位) 	<ul style="list-style-type: none"> ・RoboCup プロジェクト発足 ・人口知能学会 AI チャレンジ研究会 参加 ・福井 FAN99 に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全国高専第10回プログラミングコンテスト 課題部門：審査委員特別賞「アイデア賞」 「九谷の給付法～達達給付人～」 課題部門：取組賞 「おたあめアシスタント」 競技部門：取組賞 「シグナー・ピースくはつづけ君」 	
平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーカーレース鈴鹿 2000 総合4位 ・全日本学生ソーラーカーチャンピオンシップ 優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボティクス・メカトロニクス 講演会'00～参加 ・RoboCup JAPAN-OPEN2000 決勝リーグ進出 4位 ・RoboCup World championships (世界大会) リーク6位 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全国高専第11回プログラミングコンテスト 課題部門：取組賞 「フラワーオリエンテーリング」 コンテツ部門：審査委員特別賞 「ワールドJAPAN神イカグジュネーション」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2000 東海北陸地区大会 参加 「姫乃岩龍大巻武士 (きののぼりてんとむし)」 「Heaven's day」
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・全日本ソーラーカーチャンピオンシップ 優勝 ・2001 World Solar Challenge (オーストラリア) 総合9位 (日本勢2位) 	<ul style="list-style-type: none"> ・RoboCup Japan Open 2001 in Fukuoka 予選4位 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全国高専第12回プログラミングコンテスト 課題部門：審査委員特別賞 「Beach Cleaning System～思い 世のなごさ～」 コンテツ部門：審査委員特別賞 「家具夜姫～家具配置支援システム～」 コンテツ部門：取組賞 「カラオケしゅわわ～」 競技部門：特別賞 「電話簿の苦悩～Effort of CyberGrandpa～」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2001 東海北陸地区大会 ベスト4：「フィッシャーズ」 ベスト8：「風来坊」
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーカーレース鈴鹿 2002 総合第4位 ・全日本ソーラーカーチャンピオンシップ 3位 	<ul style="list-style-type: none"> ・Robocup Japan Open 春キャンプ参加 ・Robocup 世界大会 決勝リーグに進出し準優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全国高専第13回プログラミングコンテスト 課題部門：優秀賞 「しゃぼんだま～昔の自分～Forever Memories～」 自由部門：取組賞「俳句 Love」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2002 東海北陸地区大会 技術賞：Bチーム粒々 (ツブツブ) 辛苦
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーカーレース鈴鹿 2003 総合9位 ・全日本ソーラーカーチャンピオンシップ 3位 	<ul style="list-style-type: none"> ・Robocup Japan Open 2003 in Niigata 優勝 ・Robocup 2003 Padova 準優勝 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全国高専第14回プログラミングコンテスト 課題部門：優秀賞・学生交流企画賞 「オのチェリー～RESURRECTION～」 競技部門：「ズワイガニ」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2003 東海北陸地区大会 特別賞受賞 (全国大会へ)：「サシウス」 ◇アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2003 全国大会 2回戦敗退：「サシウス」
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラーカーレース鈴鹿 2004 総合4位 ・三重知事賞受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・Robocup Japan Open 2004 in Osaka 準優勝 ・Robocup 2004 Lisbon 準優勝 (高専生参加なし) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全国高専第15回プログラミングコンテスト 競技部門：「記憶のかげら」 	<ul style="list-style-type: none"> ◇アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト2004 東海北陸地区大会 特別賞：Bチーム「MARK WALKER」

観点7-2-① 学生の生活や経済面に係る指導、相談、助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点にかかる状況)

- ・学生の生活に係わる指導や相談は、クラス担任及び学生主事、学生係が担当し、経済面に係る相談や助言は事務局長が担当しています。特に、生活面において、早期の対応が必要な事もあり、毎日、学生の出欠状況を把握し、欠席者については、当日中に理由を保護者に確認しています。
- ・女子学生に対しては、本校の女性教員を相談窓口とする仕組みを作り、学生に周知しています。
(資料7-2-①-1「性差別防止委員会規則」)
- ・キャンパス・ハラスメントに係わる相談については、キャンパス・ハラスメント防止委員会で対応しています。(資料7-2-①-2「キャンパス・ハラスメントについて」)、(資料7-2-①-3「金沢工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」)
- ・学生にはガイダンスで学生便覧の記載内容を説明し、学生生活における悩みや不安については、相談窓口の「心の相談室」での対応を伝えています。
- ・教職員には、「アカデミック・ハラスメント防止のヒント」、「セクシュアル・ハラスメント防止に向けて」を配付しています。
- ・本校には、スクールカウンセラーがおり、必要に応じて相談できる体制が整備されており、学生の立場を理解して対応するよう努力しています。(資料7-2-①-4「カウンセリングの取扱い要項」)
- ・本校には診療所があり、専門の医師や看護師による学生の健康管理に努めています。(資料7-2-①-5「キャンパス内での診療」)
- ・経済面については、社団法人日本学生支援機構(旧 日本育英会)や県の奨学制度の利用を助言する等の対応を行っています。また経済的理由に対する対応とは異なりますが、特待生制度に基づく奨学金の給付を行っています。(資料7-2-①-6「奨学制度の利用」)、(資料7-2-①-7「金沢工業高等専門学校特待生規程」)、(資料7-2-①-8「高専の特待生に関する細則」)

(分析結果とその根拠理由)

- ・学生の生活や経済面での相談には、常に保護者との連携が必要であり、毎年5月と12月に開催される育友会において、保護者との面談を行うことで連携を図っています。また、必要に応じて、その都度保護者と個別に面談を行う等、学生の問題解決に努力しています。こうした取り組みは、保護者との高い信頼関係に繋がり、機能していると考えています。
- ・学生の健康やハラスメント等に対する体制は、整備されていると考えます。

(資料7-2-①-1)

「性差別防止委員会規則」

性差別防止委員会規則

(目的)

第1条 本学園が定める「性差別の防止に関する指針」の適切なる運用を計るため、本委員会を置く。

(委員会)

第2条 委員会の委員は、理事長が任命する。

2 委員長は理事長が任命する。

3 委員長は委員会の業務を統括し委員会を代表する。

4 委員会は委員長が必要に応じて招集する。

5 委員長において必要ある時は、委員数名による小委員会を置くことができる。

(委員会業務)

第3条 委員会は次の事項について審議し、性差別防止の推進並びに性差別に関する調査を行う。

(1) 性差別防止に関する広報活動

(2) 相談窓口に関する事項

(3) 性差別の相談・苦情に関する調査

(4) その他委員会において必要な性差別防止に関する事項

(調査)

第4条 前条第3項による調査は、委員長が指名する委員数名による小委員会が行う。

2 委員長は必要に応じて相談者の精神的な保護を目的にカウンセラーを立ち合わせる等の措置を講ずることができる。

(守秘義務)

第5条 委員は前条による調査によって知り得た個人の情報を他に洩らしてはならない。

(連携)

第6条 相談・苦情に対応する場合、委員長は関連部署と密接に連携し、関係者の保護等必要な措置を講ずる。

(報告)

第7条 委員長は第4条の調査結果を速やかに人事委員長並びに学長又は校長に報告し、その措置を求めることとする。

(事務)

第8条 委員会の事務は学生相談室(カウンセリングセンター)が行う。

附 則

1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 26)

(資料 7-2-①-2)

「キャンパス・ハラスメントについて」

キャンパス・ハラスメントについて

教育や研究、業務における教職員や学生の不適切な発言・行動で、精神面を含めて、された側の勉学や研究に支障を生じたり、その環境を悪化させることを、「キャンパス・ハラスメント」と言います。性差別や性的嫌悪感が元になるいわゆるセクシャル・ハラスメント、教育・研究に関連して生じるアカデミック・ハラスメントと呼ばれるものもこれに含まれます。単位の認定や成績評価、あるいは研究指導、就職の斡旋などにおいて、地位を利用するなどして相手に不利益や逆に不当な利益を与える対価型と、勉学や研究開発を悪化させる発言や行動をする環境型とがあります。

【対価型】

例えば…

- 個人的な欲求から、学生の利益または不利益を感じさせるような状況で性的なことを要求する。
- 学生に、本来の範囲を超えて勉学や研究を強要したり、不必要に相手を拘束する。
- 指導に従わない学生に暴言や暴力的な行為、意図的な無視をする。
- ことさらに威圧的に権威的、威嚇的な言動(電話やメールを含む)を行う。

【環境型】

例えば…

- 学生の気持ちに反し、プライベートについての質問や発言をする。
- 学生の個人的能力や身体的機能、性指向などへ配慮を欠いた発言をする。
- 特定の学生を傷つける発言をしたり、故意に噂を流す。
- 性の商品化を助長するような絵や写真を見せたりする。
- 教室や研究室で不必要に学生の身体に触る。
- 性的または下品な冗談を言ったり、性的な服従を迫る。

これって、キャンパスハラスメント？

ケース① 講義中に先生が、いかがわしい冗談をいった。

周囲に合わせて笑っていたとしても、内心で嫌悪している場合は、キャンパス・ハラスメントに当たります。また、「部活でメンバーが必要以上に身体に触ってくる」などの、学生同士の間で発生するケースも含まれます。

ケース② 研究室の先生に飲酒やお酒のお酌を強要された。

不快に思っているが研究への影響などを考え強く拒否できない被害者に、立場が上の者が権限や地位を利用してハラスメントを行う例。隣の席へ座るよう強要したり、無理やりカラオケのデュエットを強いる場合も含まれます。

ケース③ 「男は家庭を背負う立場。しっかり勉強しろ」と言われた。

学問研究や、教育の立場においての誤った観点による性差別発言や行動である、「アカデミック・ハラスメント」の典型といわれるケースです。これは男性・女性どちらからでも、また同性間であっても対象になります。

ケース④ 教授の指示に従わなかったら以後、助言してくれない。

指導に従わない学生に対しての意図的な無視や暴言もハラスメントにあたります。学生にことさらに威圧的、権威的な言動をとったり、暴力的な行為、相手の人格もしくは身体を傷つける行為に至るケースも含まれます。

ケース⑤ ゼミ中に私生活のことをしつこく尋ねられた。

相手の意に反し、もしくは同意なしにプライバシーについての質問や発言をする。一見、気づきにくい例かもしれませんが、これもハラスメントになります。特定の相手を誹謗・中傷したり、風評を流すことも含んでいます。

ひとりで悩まないこと。それが解決の近道です。

もしあなたが、学生生活を送るうえで、誰かの言動を「ハラスメントだ」と感じたら、その気持を言葉と態度ではっきり伝えてください。そして「ノー」と言えなくても、決してひとりで悩みを抱え込まないでください。金沢高専には専属のカウンセラーがいます。あなたの悩みを親身に聞き、解決するための方法をいっしょに考えていきます。

あなたが安心して学べる環境をつくるために。

自分ひとりで相談するのは不安。そんな時は親しい友人といっしょに相談しても、第3者や代理人でも大丈夫です。相談員はあなたのプライバシーをしっかり守り、相談員以外への情報提供が必要な場合は、必ずあなたの承諾を得たうえでそれを行います。相談だけで解決しない場合は、必要な調停や措置をとり、安心して学べる環境を取り戻します。

※相談場所や相談日等の詳細については、P.105「心の相談室」を見てください。

(出典 「学生便覧 2005」 PP.106～107)

(資料7-2-①-3)

「金沢工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程」

金沢工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、性差別の防止に関する指針に則り、金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)における教職員のセクシュアル・ハラスメントに対する認識を深め、その防止等を図るとともに、教育の場としての本校に相応しいコミュニケーションができる快適なキャンパス・ライフづくりを目指し、学生の能力が十分に発揮できる環境を整えることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、「キャンパス・ハラスメント」とは、次に掲げる行為をいう。

(1) 教職員の立場や権力の濫用に起因することで、学生に就学上の利益又は不利益に影響を与えること。

(2) 言動、掲示等により不快な念を抱かせるような環境を作為すること。

(キャンパス・ハラスメント防止委員会)

第3条 本校にキャンパス・ハラスメントの苦情相談への対応並びに防止等を図るため、キャンパス・ハラスメント防止委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会の任務)

第4条 委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

(1) 校長から付託されたキャンパス・ハラスメントに関する事項の調査及び検討

(2) キャンパス・ハラスメントの防止に関する啓発

(3) キャンパス・ハラスメントに関する相談員等からの報告の事実調査

(4) キャンパス・ハラスメントの再発防止にかかる改善策の立案及び実施の検討

(5) その他キャンパス・ハラスメントに関する重要な事項の検討

(委員会の構成)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

(1) 教務主事

(2) 学生主事

(3) 進路指導主事

(4) 研究主事

(5) 事務局長

(6) その他校長が必要と認める教職員

(委員会の運営)

第6条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、予め委員長が指名した者が議長の職務を代行する。

4 委員長は、委員会の結果を取りまとめて、速やかに校長に報告しなければならない。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(相談員)

第7条 本校にキャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談に対応する相談員及びカウンセラーを置く。

2 相談員の数は5名程度とし、委員会の推薦により、校長が指名する。

3 相談員の半数程度は女性とする。

4 相談員の任期は2年とし、再任を妨げない。

5 委員と相談員は、兼務することができる。

(相談員及びカウンセラーの任務)

第8条 相談員及びカウンセラーの任務は、次に掲げる事項とする。

(1) 苦情相談に関して指導及び助言をすること。

(2) 苦情相談の内容について委員会に報告すること。

(守秘義務)

第9条 この規程に関わる委員、相談員等は、職務遂行に当たって、当事者及び関係者の名誉並びにプライバシー等の人権を侵害しないよう配慮しなければならない。

2 キャンパス・ハラスメントに関する業務に従事した者は、その職務上知り得た情報を他に漏らしてはならない。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.76)

(資料 7-2-①-4)

「カウンセリングの取扱い要項」

心の相談室

学生の皆さんが、日常生活をおくる上で、いろいろな悩み、不安、困ったことなどが生じたとき、本校では「心の相談室」を設け、専門のカウンセラーの先生が相談に応じています。自分一人でよくよせずに、気軽に相談してほしい。相談内容については、固く秘密を守ります。

心の相談室の場所
31・109室（本校校舎1階ロビーつき当たり左の部屋）

相談日
月曜日……午後2時～午後5時
木曜日……午後2時～午後5時

相談担当者
カウンセラー 富田修久

申し込み方法

- 直接「心の相談室」に申し込んでください。
- 緊急に相談したい場合や相談員が不在のときは、事務廊窓口においてください。
- 電話での相談もできます。076-294-6592(直通)
- 電子メール(E-mail)により予約や相談ができます。パソコン室内の端末を利用してください。
E-mail:kokoro@eagle.kanazawa-tc.ac.jp

(出典 「学生便覧 2005」 P.105)

(資料 7-2-①-5)

「キャンパス内での診療」



扇が丘診療所
22号館1階



初めての独り暮らしで体調を崩したり、風邪をひいたり、おなかの調子が悪いときなど、学内で気軽に診療が受けられる。もちろん薬も提供している。
また、症状により他の病院へ紹介も行っている。とにかく体の調子が思わしくなかったら、我慢せずに気軽に相談してほしい。

診療を受ける時に必要なもの

- 学生証
- 健康保険被保険者証(遠隔地被保険者証)

診療科

内科

診療時間

曜日	午前・午後	時間	診療科
月曜日	午前	9:00～11:30	循環器内科
	午後	13:30～16:00	内分泌内科
火曜日	午前	9:00～11:30	循環器内科
	午後	13:30～16:00	内分泌内科
水曜日	午前	9:00～11:30	内分泌内科
	午後	13:30～16:00	循環器内科
木曜日	午前	8:30～11:00	循環器内科
金曜日	午前	8:30～11:30	放射線科・循環器内科
土曜日	午前	9:00～11:30	循環器内科

気軽に利用できる
 キャンパス内の、
 本格的な診療所。

(出典 「学生便覧 2005」 P.147)

(資料7-2-①-6)

「奨学制度の利用(12月現在)」

平成12年度

日本育英会				石川県				富山県			
学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)
1	6	31,000	186,000	1	3	17,000	51,000	1	1	17,000	17,000
2	8	31,000	248,000	2	4	17,000	68,000	2			
3	14	30,000	420,000	3	12	16,000	192,000	3			
4	11 6	48,000 46,000	528,000 276,000	4	10	40,000	400,000	4	1	40,000	40,000
5	2	53,000	106,000	5	8	40,000	320,000	5			
合計	47		1,764,000	合計	37		1,031,000	合計	2		57,000

平成13年度

日本育英会				石川県				富山県			
学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)
1	2 1	32,000 35,000	64,000 35,000	1	6	18,000	108,000	1			
2	7	31,000	217,000	2	3	17,000	51,000	2	1	17,000	17,000
3	12	31,000	372,000	3	7	17,000	119,000	3			
4	14 10	48,000 48,000	672,000 480,000	4	11	41,000	451,000	4			
5	1	46,000	46,000	5	10	40,000	400,000	5			
合計	47		1,886,000	合計	37		1,129,000	合計	1		17,000

平成14年度

日本育英会				石川県				富山県			
学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)
1	7 2	32,000 32,000	224,000 64,000	1	6	18,000	108,000	1			
2	1	35,000	35,000	2	6	18,000	108,000	2			
3	9	31,000	279,000	3	6	17,000	102,000	3	1	17,000	17,000
4	12	49,000	588,000	4	8	41,000	328,000	4			
5	12	48,000	576,000	5	10	41,000	410,000	5			
合計	43		1,766,000	合計	36		1,056,000	合計	1		17,000

平成15年度

日本育英会				石川県				富山県			
学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)
1	7 1	32,000 35,000	224,000 35,000	1	4	18,000	72,000	1			
2	9	32,000	288,000	2	8	18,000	144,000	2			
3	1 2 2	31,000 32,000 35,000	31,000 64,000 70,000	3	7	18,000	126,000	3			
4	12	49,000	588,000	4	9	43,000	387,000	4	1	40,000	40,000
5	1 12 1	48,000 49,000 50,000	48,000 588,000 50,000	5	10	41,000	410,000	5			
合計	48		1,986,000	合計	38		1,139,000	合計	1		40,000

平成16年度

日本学生支援機構				石川県				富山県			
学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)	学年	人数 (名)	月額	月額合計 (円)
1	8	32,000	256,000	1	3	18,000	54,000	1			
2	8 1	32,000 35,000	256,000 35,000	2	4	18,000	72,000	2			
3	10	32,000	320,000	3	9	18,000	162,000	3			
4	1 3 2	49,000 50,000 52,000	49,000 150,000 104,000	4	10	43,000	430,000	4			
5	12	49,000	588,000	5	9	43,000	387,000	5	1	40,000	40,000
合計	45		1,758,000	合計	35		1,105,000	合計	1		40,000

(資料 7-2-①-7)

「金沢工業高等専門学校特待生規程」

金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 特 待 生 規 程

第 1 条 特待生は金沢工業高等専門学校(以下「高専」という)の学生にして、学業優秀・品行方正・身体強健である者の中から選抜してこれを決定する。

第 2 条 特待生には奨学金を与える。

2 奨学金の金額については、細則において定める。

第 3 条 特待生としての取扱いを受ける期間は 1 年とする。ただし、再審査の上、引き続き特待生となることができる。

2 この制度は日本学生支援機構奨学金制度などとは別途に実施するもので、特待生が他の奨学生であることを妨げない。

第 4 条 奨学金予算額については、理事長において決定し、理事長より校長にその目録が授与される。

第 5 条 特待生の決定は 5 月下旬までに、校長がこれを行う。

2 特待生は各年次初めにおいて、別に定める選考基準によってその適否を決定する。

第 6 条 前条各項の決定は理事会にこれを報告しなければならない。

第 7 条 特待生には校長が特待生証書を交付し、その保証人又は保護者に通知する。

第 8 条 特待生が次の各号のいずれかに該当すると認められた場合は、直ちにその資格を取り消すものとする。

(1) 学則に違反し又は学生としての本分に反する行為があつた場合。

(2) その他特待生として不適當であると認められた場合。

第 9 条 特待生が第 8 条の理由により、資格が取り消されたときは、既に受けたその年度の奨学金を返還しなければならない。

第 10 条 本規程の実施について必要な事項は、高専の特待生に関する細則において別に定める。

附 則

1 この規程は昭和 51 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規程は昭和 59 年 4 月 1 日から改訂施行する。

3 この規程は昭和 59 年 6 月 1 日から改訂施行する。

4 この規程は昭和 63 年 4 月 1 日から改訂施行する。

5 平成 15 年 4 月 1 日、従来の特待生規程を題名、内容ともに改正し、即日施行する。

6 この規程は平成 16 年 4 月 1 日から改訂施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 101)

(資料 7 - 2 - ① - 8)

「高専の特待生に関する細則」

高 専 の 特 待 生 に 関 す る 細 則

第 1 条 この細則は、金沢工業高等専門学校特待生規程(以下「規程」という。)第 10 条に基づいて、その実施に関する必要な事項を定める。

第 2 条 規程第 1 条に定める特待生は次の条件を満たさなければならない。

- (1) 1 学年に在学する者は、中学校における学習評価が優れ、かつ入学試験において上位 10 分の 1 以内の成績であること。
- (2) 2 学年以上に在学する者は、学則に定める履修単位をすべて修得し、かつ修得した科目数の 4 分の 3 以上の評価が 5 であること。
- (3) 特別教育活動において優れていること。
- (4) 校長が上記(3)に準ずると、特に認めるもの。
- (5) 在学中において、学則 38 条により懲戒処分を受けたことが無いこと。
- (6) 在学期間が 5 年を超えないこと。
- (7) 学校医師の診断により引き続き修学ができること。

第 3 条 規程第 2 条により特待生に支給する奨学金は次のとおりとし、原則として、本学納入金に充当する。

- (1) 第 1 種当該年度授業料の全額相当額
- (2) 第 2 種当該年度授業料の半額相当額

第 4 条 教務主事は学年初めに、第 2 条に定める特待生の候補者を特待生選考委員会に報告する。

第 5 条 報告された候補者について、特待生選考委員会の審議を得て校長が特待生を決定する。

第 6 条 特待生選考委員会は、副校長、教務主事、学生主事、電気情報工学科長、機械工学科長、並びに国際コミュニケーション情報工学科長で構成する。

2 委員会は、副校長が招集し、かつこれを主宰する。

第 7 条 特待生の決定については、これを校内に公示する。

2 特待生は、公示後 10 日以内に受諾の手続をしなければならない。

第 8 条 特待生は、次の各号の場合には速やかに届け出なければならない。

- (1) 休学、転科又は退学
- (2) 本人及び保護者の身分についての変更

第 9 条 特待生に関する事務は、高専事務局で取り扱う。

附 則

- 1 この細則は、昭和 59 年 4 月 1 日より施行する。
- 2 この細則は、昭和 63 年 4 月 1 日より改正施行する。
- 3 この細則は、平成 15 年 4 月 1 日より改正施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 102)

観点7-2-② 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害を持つ学生等が考えられる）がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

該当ありません。

観点7-2-③ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

該当ありません。

観点7-2-④ 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校は、校長の指導のもと、進路指導主事を中心に全校的な指導体制を構築しています。進路指導主事は進路指導委員会のメンバーを中心に
 - ・進路に関する学生ガイダンスの実施
 - ・進路に関する保護者との連絡調整（資料7-2-④-1「保護者等への進路指導状況」）
 - ・企業訪問による就職開拓及び情報収集（資料7-2-④-2「企業訪問（県外）訪問件数」）
 - ・就職に関する個別の学生指導
 - ・企業からの学校訪問の対応（資料7-2-④-3「石川県内の主な企業訪問先」）
 - ・進学希望者に対する受験指導
 - ・4年生対象の就職特別講座を実施（資料7-2-④-4「就職特別講座日程」）
- を行っています。また、指導内容に応じて、全教職員の協力が得られる体制を整備しています。

（分析結果とその根拠理由）

- ・本校における就職及び進学の達成率は過去5か年100%を維持しています。このことは、学生自身の努力の結果であると共に本校の進路指導体制が適切に機能している結果であると考えています。

（資料7-2-④-1）

「保護者等への進路指導状況」

年度	進路懇談会		進路説明会		育友会総会		地区別懇談会	
	開催日	出席人数	開催日	出席人数	開催日	出席人数	開催日	出席人数
平成11年度	4月24日	106名	9月4日	114名	5月29日	245名	12月4日（小松）	459名
							12月5日（金沢）	
平成12年度	4月22日	95名	9月2日	118名	5月20日	221名	12月9日（小松）	524名
							12月10、16日（金沢）	
平成13年度	4月21日	133名	9月1日	133名	5月19日	227名	12月8日（小松）	486名
							12月9、15日（金沢）	
平成14年度	4月20日	102名	9月7日	109名	5月18日	203名	12月7日（小松）	465名
							12月8、14日（金沢）	
平成15年度	4月12日	107名	9月6日	126名	5月10日	215名	12月6日（小松）	463名
							12月7、13日（金沢）	
平成16年度	4月10日	5年 122名	9月4日	96名	5月15日	232名	12月4日（小松）	453名
		4年 115名					12月5、11日（金沢）	

注：16年度「進路懇談会」を「進路ガイダンス」に変更。対象は学生。

(資料7-2-④-2)

「企業訪問 (県外) 訪問件数」

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
企業訪問件数 (県外企業)	90	71	53	50	50	56
*2月~3月 各社1回訪問						

(資料7-2-④-3)

「平成16年度 石川県内の主な企業訪問先」

・アール・ビー・コントロールズ(株)	・(株)でんけん
・浅井鉄工(株)	・(株)トランテックス
・(株)朝日電機製作所	・長野ポンプ(株)
・アムズ(株)	・中村留精密工業(株)
・(株)イコマ・メカニカル	・(株)中本鉄工
・(株)石野製作所	・日本放送協会 金沢放送局
・(株)イセキ北陸	・(株)根上工作所
・(株)ウイルコーポレーション	・(株)白山機工
・(株)NTTドコモ北陸	・発紘電機(株)
・オリエンタルチエン工業(株)	・(株)馬場鉄工所
・かがつうシステム(株)	・(株)BBS金明
・(株)金田鉄工所	・富士通サポート・サービス(株)
・(株)クエストエンジニアリング	・(株)別川製作所
・小松電子(株)	・(株)北陸計器工業
・(株)三光製作所	・北陸電力(株)
・(株)ジー・テック	・北陸通信工業(株)
・シーエスエヌ(株)	・(株)村谷機械製作所
・(株)シーピーユー	・明治乳業(株) 北陸工場
・澁谷工業(株)	・山一精工(株)
・(株)ソニーケミカル 根上事業所	・ユアサ電源システム(株)
・(株)大京	・米沢電気工業(株)
・大同工業(株)	・(株)ヨネモリ
・高松機械工業(株)	・若松梱包運輸倉庫(株)
・玉田工業(株)	計47社 *訪問は必要に応じて随時行う

(資料7-2-④-4)

「就職特別講座日程」

教室掲示 (E4A E4B M4)

平成16年度4年生

就職特別講座日程

H16.9.13

- ・就職問題集とSPI問題集等と筆記用具、ノートを持参すること。
- ・日程は原則、土曜日(平成16年9月~平成17年2月)
- ・原則として合同講義室に集合のこと。

進路指導主事

回数	日時	内容	担当	1限	2限	3限	
1	9月24日 金曜放課後8限	主事ガイダンス	合同講義室	進学特別講座も同日程と同時間			
2	10月1日 金曜放課後7限	就職ビデオ	合同講義室				第3回目以降は原則として合同講
回数	日付	内容	担当	1限	2限	3限	
3	10月30日	就職ビデオ	作宮	求人票について	履歴書について		
4	11月27日	志望動機について	表	香林	作文指導	作文指導	
5	12月18日	就職ビデオ	作宮	能力試験B.I	能力試験B.I		
6	1月22日	就職ビデオ	作宮	履歴書書き方	履歴書書き方		
7	1月29日	面接指導	向井	作文指導	作文指導		
8	2月5日	適性検査について	表	面接指導	面接指導		
9	2月12日	履歴書について	田村	作文指導	作文指導		
10	2月19日	面接指導	向井	能力試験B.II	能力試験B.II		
11	3月3日	主事ガイダンス	表	面接指導について	志望動機について		13:10~15:45

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・本校のクラス担任制は学生ガイダンス、修学指導、学生の自主的活動、生活面、進路指導に至る学生生活全般に渡って行き届いた指導を可能としています。
- ・本校の学生には、金沢工業大学との共用施設（教育支援組織）を利用することによって、充実した教育環境が提供されています。
- ・就職・進学率100%は、多年にわたる努力の成果として評価できると考えています。
- ・外国留学希望学生が増加している現状は、本校の英語教育および支援体制の成果と考えています。

(改善を要する点)

- ・学習支援に関する学生の新たなニーズに関する調査が十分ではありません。今後学生に対する聞き取り調査を実施する等で対応していきます。

(3) 基準7の自己評価の概要

学生に対する学習を進めるためのガイダンスは、クラス担任や授業科目担当教員を中心として行う体制が整備されており、学生に周知する内容等の共通化を図るなど、適切に実施されています。学生に対する自主的学習を進めるための相談・助言体制としては、「学習支援計画書」(シラバス)にオフィスアワーの設定がなされていますが、それ以外の時間であっても随時、クラス担任を中心として、授業科目担当教員、部活動顧問などが相談・助言に応じているほか、補習授業、特別講座も実施し、機能しています。学生の自主的学習環境及びキャンパス生活環境については、高専ラウンジ、コンピュータ演習室などの本校の専有施設のほか、ライブラリーセンター、マルチメディア考房、工学設計教育センター（夢考房）などの大学との共用施設があり、充実した環境が整備されていると考えています。各種の資格試験受験のための特別講座の開講や、外国留学のための国際交流高専委員会および英語教員による支援などの支援体制が機能しています。特に、学生が休学せずに留学できる単位互換による留学制度は本校の特色と考えられます。このほか、編入学生に対しては、個別指導を行うなどの学習支援が行われています。学生の組織的活動については、3年生までの全学生の部活動参加、教員の積極的な部活動顧問担当のほかに、学外コーチの参加など、支援体制の整備に努力しており、機能しています。

学生の生活面に関しては、クラス担任や学生主事、学生係が担当となり指導・相談・助言を行っており、カウンセラーを配置した心の相談室の設置や、さらには、保護者と年2回の懇談など、指導・相談・助言体制が整備されており、機能しています。経済面での相談・助言は事務局が担当する体制が整備されており、機能しています。進路指導体制については、進路指導主事を中心に整備されており、進路に関する学生ガイダンス、企業訪問による就職開拓及び情報収集、就職に関する個別の学生指導、企業からの学校訪問の対応、進学希望者に対する受験指導、保護者等への進路指導などを、きめ細かく実施しており、機能しています。

以上のとおり、学習支援体制、課外活動に対する支援体制、及び生活や経済面並びに就職等に関する支援体制を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準 8. 施設・設備

(1) 観点ごとの自己評価

観点 8-1-① 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる）が整備され、有効に活用されているか。

(観点にかかる状況)

- 本校の校舎内には、教室、研究室、実験・実習室、コンピュータ演習室等が整備され、別棟に創造実験用の演習室が整備されています。また、金沢工業大学との共用施設として、運動場、体育館、図書館、語学学習用の教室、機械実習施設、合宿研修施設等が整備されており、本校の教育に必要な教育環境が提供されています。(資料 8-1-①-1 「施設・設備の整備状況」)

(分析結果とその根拠理由)

- 高等専門学校設置基準を上回る校地、校舎が整備されることは当然であります。本校の施設、設備は教育課程の実現に十分なものであると認識しています。また大学との共用施設の利用によって、より一層充実した内容の教育を可能としていると考えています。(資料 8-1-①-2)
- 本校の施設・設備及び大学との共用施設は、有効に利用されていると認識しています。

(資料 8-1-①-1)

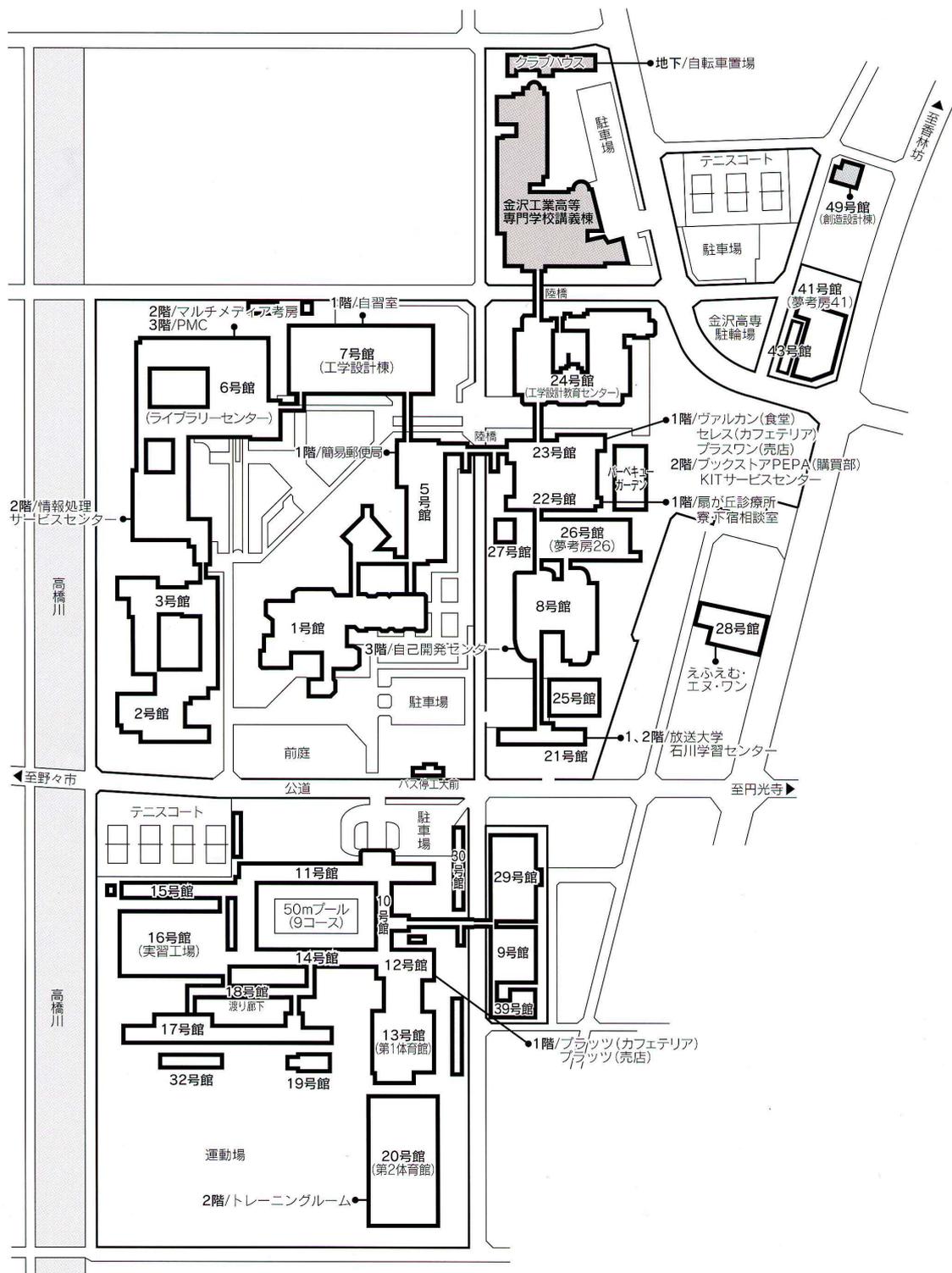
「施設・設備の整備状況 (部屋数・面積、収容者数、パソコン等の数)」

室番	教室名	面積(m ²)	収容人数	パソコン数	室番	教室名	面積(m ²)	収容人数	パソコン数
講義棟 [31号館] 1階					講義棟 [31号館] 3階				
31-101	会議室	95.0	51		31-301	合同講義室	250.0	206	
31-102	学生会室	48.0	12	5	31-306	音楽室	92.0	50	
31-103	教員室	84.5	10		31-307	教室 (C3)	92.0	32	
31-104	教員室	84.5	9		31-308	教室 (M3)	92.0	55	
31-105	事務室	65.9	5		31-309	教室 (D3)	92.0	50	
	休養室	78.3	1		31-310	教室 (C2)	92.0	35	
31-106	校長室	66.2	1		31-311	教室 (M2)	92.0	54	
31-109	心の相談室 (カウンセラー室)	15.0	2	1	31-312	教室 (D2)	95.0	49	
31-114	電気応用実験室	57.5	18	18	31-314	光学実験室	23.0		
	薄膜実験室	23.0	9	11	31-316	コンピュータ演習室	161.2	60	62
31-115	電気応用実験室	69.0	20		31-317	マルチメディア演習室	96.0	58	60
31-117	多目的実験室 I	138.0	60	25	講義棟 [31号館] 4階				
31-118	電気機械実験室	69.0	15	3	31-401	教室 (M5)	95.0	36	
31-119	電気機械実験室	69.0	5	2	31-402	教室 (E5B)	92.0	40	
31-123	材料実験室	46.1	15	3	31-403	教室 (E5A)	92.0	33	
31-124	材料実験室	69.1	13		31-404	教室 (M4)	92.0	43	
31-125	内燃機関・流体実験室	56.0	14	1	31-405	教室 (E4B)	92.0	40	
	エロージョン実験室	13.0	3		31-406	教室 (E4A)	95.0	38	
31-126	内燃機関・流体実験室	69.0	15	2	創造設計棟 [49号館] 1階				
31-127	機械工作実験室	69.0	12	3	49-101	創造設計教室	23.28	10	
31-128	機械工作実験室	69.0	16		49-102	事務室	10.93	2	
					49-103	工作室	28.50	10	
講義棟 [31号館] 2階					創造設計棟 [49号館] 2階				
31-201	ギャラリー (談話室)	115.0	40		49-201				
31-202	教室 (C1)	95.0	34		49-202	創造設計教室	72.90	60	
31-203	教室 (M1)	92.0	49		49-203				
31-204	教室 (D1)	95.0	48		創造設計棟 [49号館] 3階				
31-206	計測制御工学・情報伝送実験室	69.0	15	7	49-301	創造設計教室	72.90	60	
31-207	計測制御工学・情報伝送実験室	69.0	6	10	高専設置基準 校地面積 6,750.00m ² 専用校地面積 11,871.83m ² 高専設置基準 校舎面積 8,429.74m ² 専用校舎面積 8,884.63m ²				
31-208	情報処理演習室	46.0	6	4					
31-209	情報処理演習室	69.0	17	9					
31-210	シミュレーション工学・システム工学実験室	69.0	50	6					
31-211	シミュレーション工学・システム工学実験室	69.0							
31-212	多目的実験室 II	138.0	60						
31-214	暗室	11.5	5						
31-218	実験室	46.0	18						
31-219	製図室	194.0	60						

(資料 8 - 1 - ① - 2)

「校舎配置図」

校舎配置図



(出典 「学生便覧2005」 P. 152)

観点 8-1-② 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の情報教育は、主に2教室あるコンピュータ演習室及びマルチメディア演習室（ネットワーク接続コンピュータ122台）と多目的実験室（無線LAN可能コンピュータ25台）を使って適切な時間割配分による円滑な授業を行っています。コンピュータ演習室は、授業以外の時間は毎日18時まで開放しています。また、大学との共有施設であるライブラリーセンターや夢考房のネットワーク接続コンピュータも利用することが可能で、放課後も自由に学べる環境が整備されています。
- ・本校の情報ネットワーク環境の運営は、教育支援機構の情報処理サービスセンターが行っています。本校は、情報処理サービスセンターから、コンピュータ演習室、多目的実験室などの情報設備や、ソフトウェアの導入、メンテナンス、セキュリティ管理や教育内容の実施に関するアドバイス、さらには技術的な支援を受けています。
- ・学生のニーズは多様であり、高度な要求に基づく高度な機器に関しては、マルチメディア考房の機器を利用する等の対応によってその要求に応える仕組みを持っています。
- ・情報セキュリティについては、インターネットからのウィルス等の侵入を防ぐため例外のない完全一方通行のファイアウォール設置とログ解析、ならびにインターネットとの接続部分に設置したウィルスフィルタリングと、個々のパソコンに導入されたウィルス対策ソフトにより、情報セキュリティ対策が講じられています。これは、高専のみならず大学と共通の「セキュリティポリシー」（資料8-1-②-1）のなかで運営されています。また、ウィルスに関する最新情報は、情報処理サービスセンターからホームページなどで全学生及び教職員に告知しています。さらに、情報処理サービスセンターにおいてネットワークのトラフィックを確認しており、接続異常が疑われる場合は高専パソコン室担当教員に連絡されることになっています。

また、パソコン及びネットワークの利用にあたっては、情報処理サービスセンターが定めるネットワーク利用規範にそった運用を行っています。たとえば、パソコン室の学生によるメール交換に関しては室内に限定しています。これは、情報リテラシー教育と情報倫理教育を平行して実践していく過程において、低学年の学生がネチケットを理解しないまま、外部へ情報発信することを防ぐためであります。インターネットへの送受信を行うためのユーザーIDの取得については、センターが実施する、情報倫理教育コースの修了が義務づけられています。なお、学生に対する本校のセキュリティポリシーの周知徹底について、現在では、各学科の授業の中（電気情報工学科：「情報工学」、機械工学科：「情報処理」、国際コミュニケーション情報工学科：「情報処理Ⅰ」）において指導していると共に、一部の学科においては、ショートホーム等においても再度指導しています。その他にも、全学生に対して配付している学生便覧や、全学生が閲覧可能な情報処理サービスセンターのホームページからも情報発信しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の特色の一つである情報教育に必要な体制は、現時点において本校の要求に基づいて整備できていると考えています。一方、ますます高度化する情報環境に対応するため、来年度から新入生全員にノートパソコンを貸与する制度を導入し、情報教育の一層の充実を図ります。

(資料 8-1-②-1)

「学校法人金沢工業大学の情報セキュリティポリシー」

学校法人金沢工業大学の情報セキュリティポリシー

1. 基本指針

学校法人金沢工業大学(以下「本法人」という。)では、設置する金沢工業大学並びに金沢工業高等専門学校の教育研究及び管理運営にかかる諸業務において、システム化、ネットワーク化による教育システムや修学支援システムなど、多岐にわたる情報システムを構築している。その結果、所有する教育、研究、管理運営業務などに利用される諸情報の安全性の確保が本法人の健全な経営を維持していくうえでの重要な課題になってきている。また、学内外の研究者、教育者、その他関係者との学内ネットワークやインターネットを介した情報交換においても、ネットワークの国際的レベルの安全性や高い信頼性が求められるようになってきた。このため本法人では、情報資産を保護し、情報セキュリティの管理を的確に遂行するため、情報セキュリティポリシーを定めるものとする。

また、本セキュリティポリシーは、1980年に採択されたOECDプライバシー・ガイドライン8原則のうち、情報の正確性、完全性、最新性を求めた「データ内容の原則」、目的外の使用の制限を求めた「利用制限の原則」、そして、情報の紛失、破壊、修正、開示等の危険に対する安全保護措置を求めた「安全保護の原則」に照らして策定するものとする。

2. セキュリティポリシーの適用範囲と対象

本セキュリティポリシーの適用範囲は、本法人が有する教育研究及び学校運営に係わる情報資産（ハードウェア、ソフトウェア、データ、情報、ネットワーク及びこれらに関連する施設、設備、ドキュメント、保存媒体等）であり、適用対象者はこれらの情報資産を取り扱う次のものとする。

- (1) 本学の理事
- (2) 本学の教職員
- (3) 本学の学部生、大学院生、高専生、研究生、聴講生
- (4) 本学の教職員と共同して教育研究を行う者
- (5) 情報セキュリティ責任者が適当と認めた者
- (6) 非常勤教職員
- (7) (1)～(6)の他、派遣社員、委託先業務従事者など、雇用形態、職位、勤務場所を問わず、本学の情報システムを使用する者

3. セキュリティポリシーの管理体制

本セキュリティポリシーは、情報セキュリティ責任者（以下「CISO : Chief Information Security Officer」という。）のもとで策定し運用するものとする。

また、本学の運営環境やシステム利用環境の変化、情報技術の進展などに伴い、必要に応じてCISOを長とする情報セキュリティ委員会（以下「セキュリティ委員会」という。）を設置する場合がある。

セキュリティ委員会が設置された場合の構成員は次のとおりとする。

- (1) 情報セキュリティ責任者（CISO）
- (2) 個人情報管理責任者
- (3) 情報システム部門責任者
- (4) 情報システム部門技術者
- (5) 情報資産管理者の代表

4. セキュリティ管理責任

- (1) 情報資産管理者の責務

各部局が保有する情報資産の管理を行うため、各部局に情報資産管理者を置く。情報資産管理者は、その管理対象となる情報資産の保護に関し、本セキュリティポリシーの定めに則って管理がなされているかを継続的に監視し、違反行為を発見したときは、改善を施すと共にC I S Oに報告する義務と責任を負う。

(2) 情報資産利用者の責務

情報資産の利用者（以下「利用者」という。）は、当該所属部局及び利用する業務に係る情報資産の利用権限に応じて、本セキュリティポリシーを遵守する義務と責任を負う。

5. コンピュータネットワーク利用規範

本学では、正規の利用者に対して、ネットワークならびにサーバーコンピュータへのアクセスを保証し安定した運用を行うために、利用者が遵守すべき行動の基準（規範）を次のように定めている。

また、利用者には、ネットワークを使用する際のすべての行為に対して責任を負うとともに、情報セキュリティ関連法規や規則の遵守を義務づけている。

- (1) 虚偽に利用者IDを申請したり、不正に他人の利用者IDを使用してはならない。
- (2) 自分の利用者IDを他人に使用させてはならない。
- (3) システム資源を大量に消費することにより他の利用者の正常な使用を妨害したり、コンピュータシステムの正常な運用を妨げるような行為により、他の利用者に迷惑又は損害を与えてはならない。（求められていないゴミメールやチェーンレターの送信を禁止する。また、故意にコンピュータシステムを混乱させる行為や有害なプログラムの持ち込みを禁止する。）
- (4) 営利、非営利を問わず、商用を目的とした利用をしてはならない。
- (5) 他人のプライバシーを侵害したり、他人を誹謗中傷してはならない。
- (6) 嫌がらせや、公序良俗に反する行為、その他脅迫的行為をしてはならない。
- (7) 著作権の対象になっているものに対して、著作権者の許可や正規のライセンスなしにこれを侵害してはならない。

さらに、学内ネットワークや情報システムの安全性を確保するため次の遵守事項を定めている。

- (1) 学内ネットワークは、教育研究及び設置する学校の運營業務以外の目的に使用してはならない。
- (2) 学内ネットワークに、コンピュータやネットワーク機器を接続しようとする者は、必要なネットワーク接続手続きを行わなければならない。
- (3) 学内ネットワークに、コンピュータを接続しようとする者は、ウィルスの感染を防止する対策を講じなければならない。
- (4) ウィルスに感染した場合、あるいは感染の疑いがある場合は、直ちにネットワークから切り離し感染の拡大を防止しなければならない。

一方、学内ネットワークや情報システムの安全性を確保するため、次の措置を講じるものとする。

- (1) 悪意ある者からの学内ネットワークに対する攻撃やウィルスの侵入を防御するため、ネットワークの出入口で、FireWall によるパケットフィルタリングやメールサーバーによるウィルス検知を行う。
- (2) 個人情報などの重要な情報へのアクセスにあたっては、情報の登録時や参照時の認証やアクセス制御ならびに暗号化などの対策を施し、安全性と信頼性を確立するものとする。

6. 一般的な遵守事項

本法人の情報資産を保護するために、適用対象者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 学外への持ち出しの制限

情報の漏洩、改ざんを防止する観点から、情報資産が記憶されたコンピュータ機器や記憶媒体を学外へ持ち出ししてはならない。

(2) 情報資産の複製の制限

情報の正確性、完全性、最新性を求めた「データ内容の原則」から、情報システム部門が管理する情報資産が収納されたサーバーシステムからのデータの複製をしてはならない。なお、業務運営上の必然性により、やむを得ず複製が必要な場合は、C I S Oの事前承認を必要とする。

(3) 守秘義務

公共の利益を優先する必要があると判断される場合、及び業務遂行上必要と認められる場合を除き、業務遂行に際して知り得た情報及び技術を、第三者に開示、提供、漏洩してはならない。

また、個人のプライバシーに関する情報を取り扱う場合は、その保護に留意すると共に、事故が発生しないように対策を講じなければならない。

(4) 知的財産権の保護

本法人が保有する知的財産権を保護し、また、第三者が保有する知的財産権を侵害してはならない。

(5) 事故、障害の報告義務

事故及び障害を発見したとき、或いは発生が予測されるときは、各部局の情報資産管理者等に速やかに報告し、その損害を最小限に抑制する行動をとらなければならない。

(6) 外部委託時のセキュリティ管理

情報資産に関わる業務を外部に委託する場合は、外部委託業者と交わす契約書に、問題が発生した場合に責任の所在が明確になる項目や、本法人の情報セキュリティポリシーが遵守されなかった場合の対応に係わる項目などを明記するなど、情報資産の外部への漏洩を防止するための措置を講じなければならない。

(7) 情報セキュリティ関連法規や規則の遵守義務

個人情報の保護に関する法律をはじめ、不正アクセス行為の禁止等に関する法律、特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律（通称プロバイダ責任法）、電子署名認証法、電子帳簿保存法、著作権法および刑法ならびに今後制定される情報セキュリティ関連法規等を遵守しなければならない。

7. 情報セキュリティに係わる禁止行為

次に掲げる情報セキュリティを脅かす行為は、いかなる場合も行ってはならない。また、利用者は、悪意を持ってこれらの行為を行う者が存在することを認識し、被害に遭わないように各々が予防措置を講ずるなど、十分な注意を払うことが求められる。

(1) 不正アクセス

他人の利用者 ID とパスワードを用いて、正当な所有者の許可なくネットワーク・サーバや情報システムに不正にアクセスし、情報の盗聴、窃盗、漏洩、改ざん、破壊、消失等を行う。

(2) 不正侵入

セキュリティ・ホール（システムの欠陥）やサーバの不適切な設定を突いて、管理者権限を奪いシステムに不正にアクセスし、Web ページの書き換えや情報の漏洩、改ざん、破壊等を行う。

(3) 不正攻撃

悪意を持った者によるポート攻撃などにより、ネットワークや情報システムへの運用妨害を行い、異常停止に至らしめる。

(4) スпам・メールの送信

受信を希望していない者に不要なメールを大量に送りつけ、混乱を引き起こす。

(5) メール爆弾の送信

大量のメールや大容量の添付ファイルを一度に特定のメール・サーバや個人に対して送信し、混乱を引き起こしたり運用妨害を行う。

(6) なりすまし

他人の利用者IDとパスワードを用いて、正当な所有者に成り代わってネットワーク・サーバや情報システムからのサービスを受けたり、情報の窃盗、洩えい、改ざんを行う。

(7) 盗聴

ネットワーク上を流れるパスワード情報やメールの内容などを盗聴し、情報の窃盗、漏洩を行う。

(8) 盗難

盗難や置き忘れられたコンピュータや記憶媒体から、情報の窃盗・漏洩を行う。

(9) DoS (サービス不能) 攻撃 (DoS:Denial of Service)

意図的に大量のパケットを送り付けて、特定のサービスやコンピュータおよびネットワークを一時的あるいは継続的に使用不能にさせる。

(10) コンピュータ・ウィルスの配信

不正プログラムを広く配信することにより、データの破壊、消失やコンピュータを機能不全に陥れる行為で、拡散により多くのコンピュータに被害を及ぼす。

(11) その他

倫理観、道徳観の欠如による機密情報の漏洩や窃盗、迷惑メールの発信や掲示板へのいたずら書き、著作権違反や肖像権の侵害、人権侵害やプライバシー侵害などの行為。

8. 事故発生時の報告義務

本セキュリティポリシーに基づく適切な情報セキュリティ管理を行っていても、不測の事故や障害などの発生に加え、様々な攻撃にさらされることが予想される。このような不測事態発生時には、C I S Oに対して速やかに報告するものとする。

9. 遵守義務と罰則

本セキュリティポリシーは、適用範囲で規定したすべての者にその遵守を義務づける。また、本セキュリティポリシーの違反者には罰則を科すことがある。

さらに、セキュリティポリシー適用対象者が、本法人の情報セキュリティシステムに重大な影響を与える行為、個人のプライバシー侵害に該当する行為、資産損失を招くような悪質な行為等を行ったと認められる場合には、就業規則や学則等に則った処分を科すことがある。

また、不測事態の発生により社会的信用の失墜が避けられない場合は、C I S Oの判断により、その改善措置がとられるまでの間、例外措置を設定することを妨げない。

10. 他の規則等との関係

学術情報ネットワークに係る部分は、国立情報学研究所の「SINET (Science Information NETwork) の利用に関する規則」が優先的に適用されるものとする。

11. セキュリティポリシーの開示

本学の情報資産を使用するすべての者に対して本セキュリティポリシーを周知するため、ホームページを通じて開示するものとする。

12. 適用時期

このセキュリティポリシーは、平成 17 年 3 月 22 日に制定し、平成 17 年 4 月 1 日施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 49～53)

観点 8-2-① 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校では金沢工業大学との共用施設であるライブラリーセンターに図書、学術雑誌、視聴覚資料等が整備されています。また、教科目に対応した参考図書をはじめ、資格検定テキスト等を配架しています。ライブラリーセンターにはサブジェクトライブラリアン（SL）の制度があり、本校教員も必ずSLに就任し、各学科に対応したライブラリーセンターの運営に参画することとなっています。
- ・LC2階フロアの「教科書コーナー」には、学習内容を再確認できるように高専5年間の教科書及び学習支援計画書（シラバス）に表記されている参考書を排架し、整備しています。その他、英語教育を支援するため、イクステンシブ・リーディング教材としての「ペンギンリーダーズ等」を揃え、「高専英語図書コーナー」を設置しています。
- ・LCの積極的な活用を推進する取り組みとして、館内には資料検索端末（全ての端末に操作マニュアルを配置）を設置し、学生が、自ら必要とする図書をピンポイントに探し出すことを可能としています。専門分野の図書は、機械工学、電気工学、情報工学など、本校の学科において扱う専門領域を配慮した形で排架されており、本校の学生にとって利用しやすい環境を構築しています。
- ・サブジェクトライブラリアン（SL）制度とは、大学の各専門分野を代表する教員と本校の代表教員から成るチームが、大学及び高専における学習支援プログラムの企画立案を行うと共に、学生に対して充実した学習支援を行うものです。基本的役割については、以下のとおりです。

(1) 主題（専門分野）情報専門家としての役割

(2) LCの企画スタッフとしての役割

(3) 教員、学部生、院生、高専生等に対する、LCを用いた情報入手や研究、教育上の情報利用の啓蒙

(4) SLとLCスタッフ(Library Staff:LS)との協力によるLC所蔵の研究情報、教育情報の性格や質の評価および向上とその入手方法や適切な情報サービスの在り方に関する企画検討

こうしたSLの役割によって、本校とライブラリーセンターの連携が図られ、先に述べたような正課・課外における学生に対する充実した学習支援を提供しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校が必要とする図書、学術雑誌、視聴覚資料については必要な量及び内容の整備がなされていると考えます。またその利用や新たな購入に関する要求に対しても適切に対応がなされ活用されていると考えています。(資料8-2-①-1「図書、学術雑誌、視聴覚資料等の内容・冊子等のデータ」)
- ・図書の貸出冊数は年々減少傾向にあります。(資料8-2-①-2「本校学生の図書、視聴覚資料等の利用実績」)これは、最近の学生の読書離れの傾向も原因の一つと考えられますが、新入生に対するLC利用者教育体制の弱体化が大きな要因と考えられます。LC利用者教育については、自学自習の観点から大きな課題であり、サブジェクトライブラリアンを中心に、十分な対応が必要と認識しております。大学においては、授業（「修学基礎I」）の中において、教育支援機構の各センターの利用を通じた自学自習を推奨する取り組みを既に実施しており、これらの取り組みを参考に、今後本校においても、取り入れていく必要があると認識しています。

(資料 8-2-①-1)

「図書、学術雑誌、視聴覚資料等の内容・冊子等のデータ」

区 分		冊数、種類又は点数		左のうち外国書の冊数又は種類		備 考	
		専用	共用	専用	共用		
一般科目	人文・社会・自然	22,116	0	931	0		
	外国語関係	英語関係	1,054	0	621	0	
		その他	149	0	32	0	
	保健体育関係	480	0	27	0		
一般関係図書合計		23,799	0	1,611	0		
専門科目関係	国際コミュニケーション情報工学科	2,895	0	271	0		
	電気情報工学科	5,128	0	379	0		
	機械工学科	2,445	0	274	0		
	専門共通	4,247	0	420	0		
専門科目関係合計		14,715	0	1,344	0		
学術雑誌	国際コミュニケーション情報工学科	19	0	1	0		
	電気情報工学科	31	0	0	0		
	機械工学科	36	0	0	0		
	一般共通	55	0	1	0		
合計		141	0	2	0		
視聴覚資料	国際コミュニケーション情報工学科		39				
	電気情報工学科		51				
	機械工学科		28				
	一般共通		352				
合計			470				

(資料 8-2-①-2)

「本校学生の図書、視聴覚資料等の利用実績」

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
図書貸出し冊数	2,003	2,302	1,313	1,041	835
A V I S (視聴覚資料) 利用数	370	84	183	125	56

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・本校では金沢工業大学との共用施設（教育支援組織）の利用によって優れた情報環境や図書及び学術雑誌等の利用が可能となっています。

(改善を要する点)

- ・情報教育の一層の進展を図るためには、全学生がパソコンを保有し、日常的に利用できる高度な情報ネットワーク環境を整備する必要があると考えています。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の校舎内には、教室、研究室、実験・実習室、コンピュータ演習室等が、別棟には、創造実験用の演習室がそれぞれ整備されているほか、併設大学と共用する運動場、体育館、語学学習用の教室、ライブラリーセンター（図書館）、機械実習施設、合宿研修施設等が整備されており、有効に活用されていると考えています。情報ネットワークについては、コンピュータ演習室、マルチメディア演習室、多目的実験室 I（無線LAN）、各研究室・実験室等に学内ネットワークを整備しており、授業や課外において有効に活用されています。また、情報セキュリティに関しては併設大学と共通のセキュリティポリシーの下に運営されており、学生に対する情報リテラシー教育と情報倫理教育を実施しています。

ライブラリーセンター（図書館）は、併設大学と共用する多くの図書、学術雑誌、視聴覚資料等が整備され、充実したものになっているとともに、本校の学生に対して専用の英語図書コーナーが設けられるなど、学生は活用していると認識しています。

以上のとおり、施設、設備の整備・活用状況、及び図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料の整備状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準 9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの自己評価

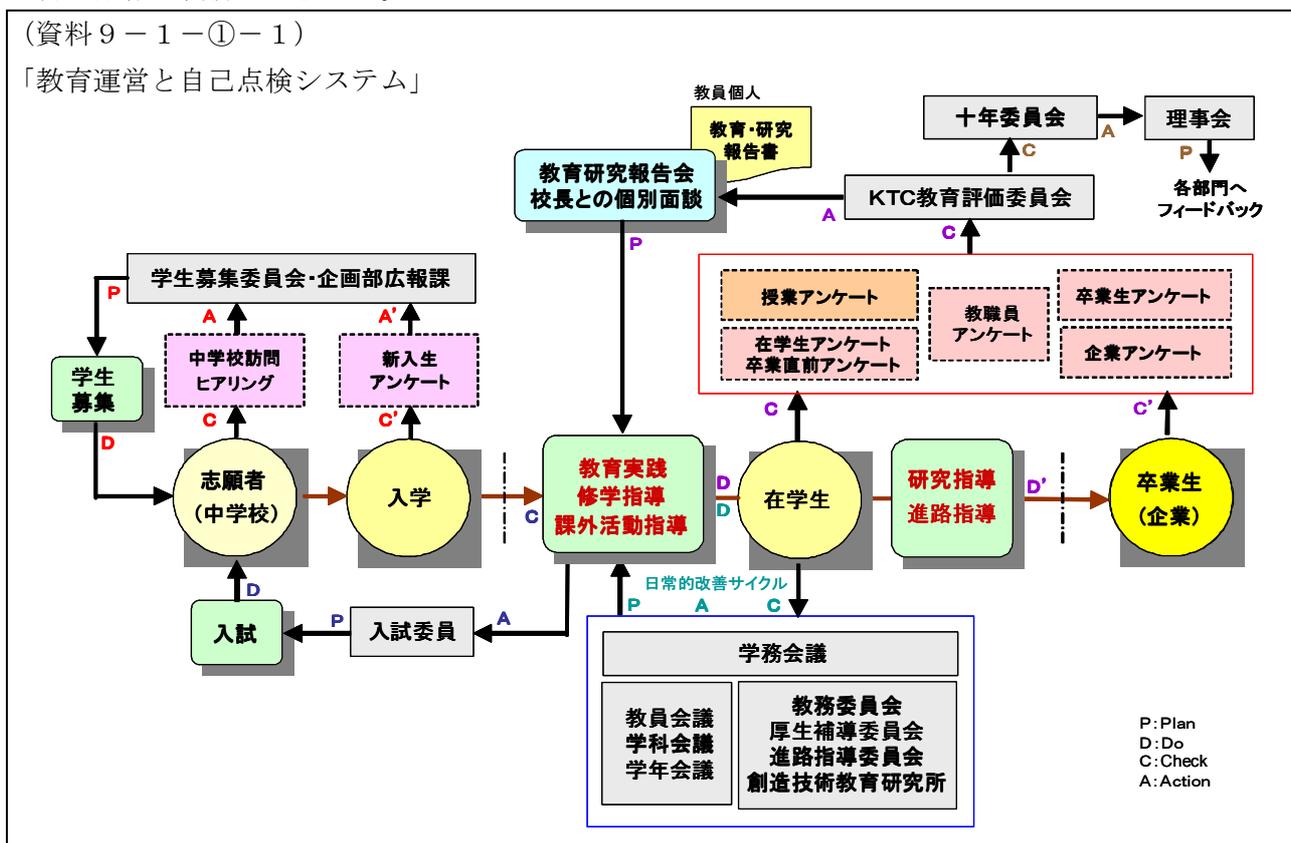
観点 9-1-① 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は「KTC教育評価委員会」を組織し、教育の自己点検評価を実施しています。当委員会は、学園理事会の諮問機関である「十年委員会」の専門委員会に位置付けされており、校長が「十年委員会」に出席し、当委員会の活動に基づいて本校の教育・研究の状況及び計画等を報告しています。KTC教育評価委員会は、学務会議メンバーを中心に構成され、KTC総合アンケート及びKTC授業アンケートを実施し、評価し、その改善について検討を行う役割を担っています。(資料9-1-①-1「教育運営と自己点検システム」)
- ・各教員は、年度末に1年間の教育・研究活動について自己点検評価し、その報告書「教育の抱負及び実施に関する報告書」(資料9-1-①-2)を校長に提出しています。校長は、報告書を受けて個別面談を行い、各教員の活動状況全般を確認すると共に、次年度の改善目標について合意形成を図り、高専の教育実践目標の具現化を推進しています。
- ・さらに、平成16年度から、教員は、教育の実践目標を念頭に置いた自己点検評価を行うための「教育改善への取組と今年度の目標」(資料9-1-①-3)を作成し、授業運営の観点から昨年度の実績とその評価および反省の上に立って今年度の授業改善に取り組んでいます。
- ・校長に提出された「教育の抱負及び実施に関する報告書」、「教育改善への取組と今年度の目標」は製本され全教員に配布されています。
- ・平成16年から教育の実態を示すデータとして、各教員に教材や試験問題等授業の実態を証明する資料の保存を義務付けました。

(資料 9-1-①-1)

「教育運営と自己点検システム」



(資料 9-1-①-2)

「教育の抱負及び実施に関する報告書 (自己点検自己評価)」

平成 16 年度教育の抱負及び実施に関する報告書(自己点検自己評価書)

電気情報工学科 教授 直江 伸至

平成 16 年度の目標, 改善事項	実施結果
<p>1. 全般 教育・研究活動を通して本校学生の意欲を向上させる。 幅広い教育を行い、「生きる力」を持った学生の育成に貢献する。</p> <p>2. 教科教育 (1) 送配電工学 昨年度は、全範囲に亘って要点および問題を提示した資料を配布した。学生諸君には好評であったので引き続き、<u>内容を精選したものを学生に提供し理解度を向上させる。</u> 本年度は、<u>資料の練習問題に、電験第 3 種のもの</u>を追加して取り入れ、<u>電験第 3 種の問題が容易に解けるようにし、その後、レベルの高い問題を提示することで理解が容易になるばかりでなく、電験第 3 種の合格に近づける。</u>また、<u>最近、環境やエネルギー問題は重要である。このことを踏まえて、環境やエネルギー問題の話題を提供し、学生とディスカッションすることで学生の環境やエネルギー問題に対する判断力つけさせる。</u> 本科目は、数式による表現が多いため、学生の理解が容易でない箇所があった。本年度は、<u>まず概要を理解させ、その後、数式による表現で授業を展開する。</u> 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値を 53.2%(そう思うと+まあそう思う)から 60%に上昇させる。</p> <p>(2) 電気回路Ⅲ 電気工学の全体像を学生諸君に理解してもらうため、<u>基本的な事項の理解および他科目との連携を意識して授業を行い、学生の理解を容易にする。</u> 本年度は、<u>電気関係の話題を提供し、意識付けを行いたい。学期に一課題についてレポート(リレーレポートと呼称する)を通して議論する。</u>例えば、「<u>停電は何故起こるか</u>」などの話題を提供し、その回答を教員または他の学生とのやり取りで、<u>その原因や解決策を模索する過程で、電気回路に興味をもたせるようにする。</u>電気工学に興味を持てば、<u>その後の授業が展開しやすくなるために実施する。</u> 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値を 71%(そう思うと+まあそう思う)から 80%に上昇させる。</p>	<p>1. 全般 所期の目的は果たしたと考える。</p> <p>2. 教科教育 (1) 送配電工学 昨年度使用した配布プリントの改善と新規内容を追加し、学生に配布した。教材や配布資料が有益かとのアンケート結果では約 80%の学生が肯定的な回答を得ている。従って、学生は配布資料に満足していることになる。 電験 3 種の過去の問題を提示したが、学生自身に興味を引くことができなかつた。また、環境やエネルギー問題についても同様である。 数式表現を最小限にして概要からの説明を始めたが、学生の興味を引くことはできなかつた。 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値は昨年より下がり 36.1%となつた。アンケート結果より分析すると、資料や説明の仕方は 80%以上の学生が肯定している。授業の満足度も 53%であることから、教科に対する動機付けや興味の点で工夫が必要である。今後は、意義や概念を中心に授業を進める予定である。</p> <p>(2) 電気回路Ⅲ シラバスに明記されている基本的な事柄については全範囲講述できた。しかし、三相交流回路について理解が十分でない点がある。 リレーレポートは1回のみで終了してしまつた。当方に余裕が無かつたためである。 学生による授業評価項目「授業の興味」の評価値は昨年とほぼ同じ値であつた。来年度は本科目を担当しない。</p>

(出典 「平成16年度 教育の抱負及び実施に関する報告書」 P. 73)

(資料 9-1-①-3)

「教育改善への取組と今年度の目標」

教育改善への取組と今年度の目標 (平成 17 年度)

所 属	職員番号	職 名	氏 名	作成年月日
国際コミュニケーション情報工学科	81020	教授	今澤 明男	平成 17 年 4 月 30 日

1. 平成 17 年度 担当科目と担当クラスについて

番号	担当科目名 (コマ数)	担当クラス	学期	受講学生数	特記事項
1	創造実験 V (6)	E 5 A・B	1 2 3	4	
2	システム工学 (2)	E 5 A・B	1 2 3	4 7	
3	ソフトウェア工学 (2)	E 5 B	1 2 3	4 0	
4	電気磁気学 I (b) (1)	E 4 A・B		2 4	
5	情報処理 III (4)	C 3	1 2 3	1 7	
6	情報処理 I (a) (2)	C 1	1 2 3	3 4	
7	情報処理 I (b) (2)	C 1	1 2 3	3 4	
8					
9					
10					

2. 現在の校務分担を記入してください (各委員会の委員、クラス担任・副担、クラブ顧問など)。

番号	校務名	いつから	番号	校務名	いつから
1	国際コミュニケーション情報工学科長	H15.4.1	1 1	学園安全委員会委員	H16.4.1
2	学級副担任 (C 1)	H15.4.1	1 2	体験入学委員	H15.4.1
3	教務委員会委員	H16.4.1	1 3	進路指導部会委員	H16.4.1
4	情報教育部委員長	H16.4.1	1 4	校外実習部会委員	H16.4.1
5	K T C 教育評価委員会委員	H15.4.1	1 5		
6	国際交流委員会委員	H15.4.1	1 6		
7	穴水湾自然学苑研修部会委員	H15.4.1	1 7		
8	広報委員	H16.4.1	1 8		
9	資格指導部会委員	H15.4.1	1 9		
10	バドミントン部顧問	H16.4.1	2 0		

3. 学外活動について (名称と内容)

日本経営工学科北陸支部運営委員：支部活動の立案・計画・実施
 金沢市新製品・デザイン開発促進事業選考委員：金沢市内企業を対象とする新製品・デザイン開発促進事業の対象企業選定・進捗評価・助言・結果の評価

注) この報告書は、各自の 1 年間の計画書として毎年 4 月に作成します。作成後、校長に提出し、校長のコメントを得た後、各自が保管します。なお、校長との面談にも使用します。

(出典 「平成17年度 教育改善への取組と今年度の目標」 P. 82)

「教育改善への取組と今年度の目標」

4. 「わかりやすい授業」の実施に創意工夫している教育方法（教案の作り方、実験するなど授業の展開の仕方、教育機器の使い方、ノートの取らせ方、予習・復習への動機付け、小テストの実施など）について具体的に記入してください。

①授業内容への関心の喚起（「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅲ」）：コンピュータの歴史や教員の学生時代のコンピュータ学習のエピソードなどを講義に挿入し、学生の関心を喚起する。／②練習による基礎力の充実（「情報処理Ⅰ」）：毎授業時に講義内容を理解するための演習を実施しているが、さらに同じ内容の宿題を配布し翌週提出させる。これにより学習内容の定着を図るとともに、結果から学生の理解度を把握する。／③レジュメの配布と授業内容の明確化（全担当科目）：毎回の授業内容をA3版1ページ（場合によって2ページ）のレジュメにまとめて学生に配布し、これにより要点を明確にする。／④図解（全担当科目）：抽象的になりやすい内容を図解し、学生の理解を促進する。

5. 授業改善を図るために、今年度の重点目標とその達成のための取組を具体的に記入してください。

本年度は新規担当科目が2科目5コマ（「情報処理Ⅲ：C3対象」「電気磁気学Ⅰb：E4の昨年度N2留学者対象」）あり、これを充実したものにすることが本年度の最重要課題である。具体的には、①エピソード挿入による授業内容への関心の喚起／②レジュメの作成と授業内容の明確化／③抽象的になりやすい内容の図解化等による学生の理解の促進／④演習ならびに課題の充実による基礎力の育成があげられる。また「電気磁気学Ⅰ(b)」では、対象が留学経験者であることから、英文教材により学生の興味を喚起するとともに、技術英語に関する力も育成する。

6. 学生の自学自習の習慣付けや学習意欲の向上を図るために実施されている取組を記入してください。

①原則として毎週の授業の最初に「予習テスト」を行う。予習すべき内容と重要点は前の週の授業の最後に伝える（「ソフトウェア工学」）。／②資格試験の受験を奨励し、講座を開講している（低学年における「情報技術検定試験」、上級学年における「基本情報処理技術者」試験）。／③主要な資格試験の実際の問題を授業で取り上げ、学生に資格取得へ向けての自信と関心をもたせる。

7. 「心豊かな、創造性にあふれたエンジニアを育成する」ために、授業や課外活動、学生指導等において注力されている点について記入してください。

①情報技術に秀でた学生は、往々にして技術的興味だけに囚われ、自らの社会性を伸ばす努力を怠る傾向がある。そこで、エンジニアが作り上げるものは「作品」ではなく「製品」であり、エンジニアは顧客あるいは社会の代理人としてその技術を活かす立場にあることを理解させ、社会性の大切さを納得させるよう努力している。／②ソフトウェア開発の分野で重要視されている「構造化」の考えは、幅広い分野の創造活動に適用可能であると考え、この考えを学生に浸透させるよう努力している。

8. 前年度の授業アンケートや総合アンケートに基づいて、今年度、特に留意される事項を記入してください。

- (1) 5年次科目「システム工学」「ソフトウェア工学」において、授業満足度を一昨年レベルに引き戻すため、学生が消化不良にならないよう講義・演習をコントロールする。
- (2) 清掃活動などを通じて担当クラスならびに学科の学生との接触をより多くする。

9. 授業を進める上でライブラリーセンター、夢考房などの施設利用に関してご意見を聞かせてください。

夏休みの宿題として専門科目に関するサイドリーディングを計画中。

10. 自由意見（ご提案やご要望など）

①現在、各教室にOHPが配備されているが、ノート型パソコンの普及に鑑み、各教室分（15台）程度の小型プロジェクターを教員室に配備してはどうか。／②忙しい中で多数の科目の授業準備、演習・宿題の採点等をしなければならない立場としては、突如の会議は致命的であり、本校では当日突然会議が開催されるということが多すぎる。会議は原則1週間前に通知し、止むを得ない場合も3日前までに通知するとの申し合わせを行ってはどうか。さらに3日以内に会議を開催する場合は理由・原因を明示し、議事録に記録すれば、校務の運営改善・効率化へつながるのではないかと。

11. 校長コメント

平成16年度の授業アンケートでは満足度が高い（約90%）。これは普段からの授業改善への努力の賜であり評価したい。学科で取り組む資格教育については、基本情報技術者試験4名（目標5名）などよい結果を得た。平成17年度は、予習テストなどユニークな授業を継続し、また授業アンケートに基づく改善への取り組みが奏功することを期待している。プロジェクターの配備当についてのご提案については早速検討したい。会議の案内は、特別の場合を除いて1週間前までに通知することとしたい。

金沢工業高等専門学校

(分析結果とその根拠理由)

- ・「KTC教育評価委員会」は、本校の各部門の責任教員によって構成され、評価と改善が一体的に行われる体制が構築されています。また、KTC教育評価委員会は、学園の十年委員会の専門委員会としての役割を担っており、第三者による評価を行う機能を持っています。
- ・本校が準備した統一したファイルに各科目担当者は授業の試験問題等を適切に保存しています。

観点 9-1-② 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる）が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は、授業や学習環境等についての授業アンケートや学生の満足度を調査する総合アンケートを実施しています。(資料 9-1-②-1「KTC授業アンケート調査結果」)(資料 9-1-②-2「KTC総合アンケート調査結果」) これらアンケート結果は、全教職員に公開されており、各教員が授業改善に活かしています。また、授業アンケートの中で、学生満足度の低い一部の教科目には、学科長等の責任教員が中心となって組織的な改善の取り組みを進めています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・学生アンケートの導入時期が平成15年度からのため、その内容や改善のための取り組み方法に不十分な点があると認識しています。しかしながら、アンケート結果の公開による各教員の反応が非常に前向きであり、その改善に対する真剣な姿が見受けられます。各教員は、授業を振り返り改善を図るために「教育改善への取組と今年度の目標」を作成し、授業品質の向上に努めています。

(資料 9-1-②-1)

「授業アンケート」

授業アンケートは授業の改善を目的に実施するもので、成績評価とは一切関係がありません。

選択式の設問は、該当する回答の番号を右側の枠内に丁寧に記入してください。

科目番号 92091

「上級英語 I」に関する授業アンケート

学籍番号

- A. あなたは、この授業に興味を持って受け続けられたと思いますか？
 1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- B. 教科書や教材、配付資料などは、授業を理解する上で役に立ちましたか？
 1.役に立った 2. まあ役に立った 3. あまり役に立たなかった 4.役に立たなかった
- C. 課題やレポートなどは、授業を理解する上で役に立ちましたか？
 1.役に立った 2. まあ役に立った 3. あまり役に立たなかった 4.役に立たなかった
- D. 1回の授業に対する予習・復習は、どの程度行いましたか？
 1. 60分以上 2. 30分程度 3. 15分程度 4. 特に行わなかった
- E. あなたにとって、この授業の進め方(スピード)は適切でしたか？
 1. 遅かった 2. やや遅かった 3. 適切だった 4. 少し速かった 5. 速かった
- F. 教員の授業中の話し方や説明の仕方はどうでしたか？
 1. 分かりやすかった 2. まあ分かりやすかった 3. やや分かりにくかった 4. 分かりにくかった
- G. 黒板やビデオ・OHPなどでの説明の仕方、書き方、表し方などはどうでしたか？
 1. 分かりやすかった 2. まあ分かりやすかった 3. やや分かりにくかった 4. 分かりにくかった
- H. 授業は、学生が理解しやすいように工夫されていましたか？
 1. そう思う 2. まあそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- I. 教員は、授業中や授業後に、学生からの質問に丁寧に対応していましたか？
 1. 対応していた 2. まあ対応していた 3. あまり対応していなかった 4. 対応していなかった
- J. あなたは、この授業に対し積極的に取り組みましたか？
 1. 積極的だった 2. まあ積極的だった 3. あまり積極的でなかった 4. 積極的でなかった
- K. 1年間の授業が終わって、あなたはこの授業に満足していますか？
 1. 満足 2. まあ満足 3. 少し不満 4. 不満
- L. 授業内でのアクティビティー(ゲーム)が学習事項を理解するのに役に立ったと思いますか？
 1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- M. ハンズオンプロジェクトは楽しかった(興味深かった)と思いますか？
 1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- N. 授業以外で英語を聞いたり、または話したりする機会があったと思いますか？
 1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- O. 英語のOSをよく使ったと思いますか？
 1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- P. 後輩にこの授業をすすめると思いますか？
 1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

---キリトリ(上下を別々に提出してください)---

科目番号 92091

「上級英語 I」に関する授業アンケート

1. 授業の進め方や内容に関して、気になった点や、もっとこうしてもらった方が良かったと思われる点を記入してください。

2. その他、この授業や教員に対する要望や意見などがあれば、自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

＜14＞調査票見本

(資料 9 - 1 - ② - 2)

「授業に関して アンケート」

無記名式アンケート

KTC総合アンケート 3年生対象

2005年

金沢高専をより良くするため、皆さんの意見をお聞かせください。

回答の方法について

- 回答は、全てこの用紙に直接記入してください。
- 選択式の質問は、該当する選択枝の番号を○で囲んでください。
- 記述式の質問は、指定の枠内に具体的に記入してください。
- 回答が終わりましたら、学生代表者が回収して、**高専事務局窓口**に送達されている「回収箱」に入れてください。
- お問い合わせ：企画部CS室 1号館1階 1-109室 koho@kanazawa-it.ac.jp

■ はじめに、あなた自身のことに関してお聞きします。

(1) 所属する学科はどこですか？ 当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 電気工学科（電気電子コース）	2. 電気工学科（情報コース）	3. 機械工学科
-------------------	-----------------	----------

■ 授業に関して

(2) 「授業」に関しての評価をお聞きします。各質問に対して、「そう思う」～「そう思わない」「わからない・あてはまらない」から当てはまるものを選んで1つに○をつけてください。

	1	2	3	4	5
1. 専門分野の授業内容には満足している					
2. 数学の授業内容には満足している					
3. 漢語の授業内容には満足している					
4. 数学・英語以外の、一般科目の授業内容には満足している (国語、歴史、地理、倫理、化学、保健体育など)					
5. ハンズオン（モノづくりやプログラミング）教育には満足している					
6. 穴水湾自然学苑での研修には満足している					
7. 資格取得のためのサポートには満足している					
8. ショートホームルームは役立っている					
9. 短期交流活動には満足している (シンガポール理工学院との交流、ホームステイ、留学、修学旅行)					

(3) 「授業」で気になっている点や改善して欲しいと思っている点などがあれば、下に自由に記入してください。

■ 先生に関して

(4) 「先生」に関しての評価をお聞きします。各質問に対して、当てはまる回答を1つ選んで○をつけてください。

	1	2	3	4	5
1. 人間的に尊敬できる先生					
2. 学生を尊敬的にさせる先生					
3. 授業への取り組みが熱心な先生					
4. 課外活動への取り組みが熱心な先生					
5. 研究への取り組みが熱心な先生					
6. 私語への対応など、授業に集中できるような指導をする先生					
7. 開始のチャームから終了のチャームまで、きちんと授業をする先生					
8. 授業時間外も、学生の質問に対して丁寧に答えてくれる先生					
9. 勉強以外の面でも気軽に相談できる先生					
10. 「もう一度この先生に教わりたい」と思わせる先生					

(5) 「先生」に関して、気になっている点や改善して欲しいと思っている点などがあれば、下に自由に記入してください。

■ 学生生活に関して

(6) クラスメートとあなたに関してお聞きします。各質問に対して、当てはまる回答を1つ選んで○をつけてください。

	1	2	3	4	5
1. クラスメートは、熱心に学ぶ人が多いと思う					
2. 自分は、熱心に学んでいると思う					
3. クラスメートは、思いやりがある人が多いと思う					
4. 自分は、思いやりがあると思う					
5. クラスメートは、積極性がある人が多いと思う					
6. 自分は、積極性があると思う					
7. クラスメートは、明るい性格の人が多いと思う					
8. 自分は、明るい性格だと思う					
9. クラスメートは、社会や学校のルールやマナーを守っていると思う					
10. 自分は、社会や学校のルールやマナーを守っていると思う					
11. クラスメートは、目標を持って学生生活を送っている人が多いと思う					
12. 自分は、目標を持って学生生活を送っていると思う					

(7) 「学生生活」に関しての評価をお聞きします。各質問に対して、当てはまる回答を1つ選んで○をつけてください。

	1	2	3	4	5
1. 友人関係は充実している					
2. クラブ活動は充実している					
3. クラスがよくまとまっている					
4. クラスの雰囲気は自分に合っている					
5. 高専祭、校内体育大会、意見発表会など、学校の行事は充実している					

(出典 「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」 PP. 115～117)

(資料 9-1-②-2)

「授業に関して アンケート」

(8) 「学生生活」で気になっている点や改善して欲しいと思っている点があれば、下に自由に記入してください。

■ 施設や設備などに関して

(9) 「施設や設備」に関して、気になる点や改善した方が良くと思う箇所などがあれば、場所と内容を記入してください。「どこか、どのような点」と分かりやすく記入してください。

どこか?	どのような点?

■ その他、金沢高専に関して

(10) その他、金沢高専に関しての評価をお願いします。各質問に対して、当てはまる回答を1つ選んで○をつけてください。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
1. 金沢高専で学ぶことで自分の目標に近づいている	1	2	3	4	5
2. 学生生活は充実している	1	2	3	4	5
3. 金沢高専が好きである	1	2	3	4	5
4. 金沢高専の学生であることに誇りを持っている	1	2	3	4	5

(11) その他、金沢高専で気になっている点や改善して欲しいと思っている点があれば、下に自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

(出典 「平成16年度 KTC総合アンケート調査結果」 PP. 115～117)

観点 9-1-③ 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点にかかる状況)

- ・平成15年度に実施したKTC総合アンケートで、卒業生と就職先企業の人事担当者からの意見をいただきました。このアンケート調査は、5年サイクルで継続して実施する予定です。(資料 9-1-③-1)、(資料 9-1-③-2)
 - ・本校教員が毎年就職先・インターンシップ先企業を訪問して、直接企業の担当者や卒業生から意見をいただくことにしています。
 - ・アンケート結果や訪問による意見は、学務会議に報告されています。
- (分析結果とその根拠理由)
- ・KTC総合アンケートを毎年企業担当者や卒業生に行うことは、費用の面や調査対象の方々の負担を考えると無理があると判断し、5年サイクルでの実施としたものです。
 - ・毎年行っている教員の就職先・インターンシップ先企業への訪問は、企業担当者との円滑な人間関係の中で適切に意見を聞かせていただけていると考えています。
 - ・アンケートや訪問による意見の内容は学務会議に報告され、本校の教育に対する評価として、教育改善の検討に反映されていると考えています。

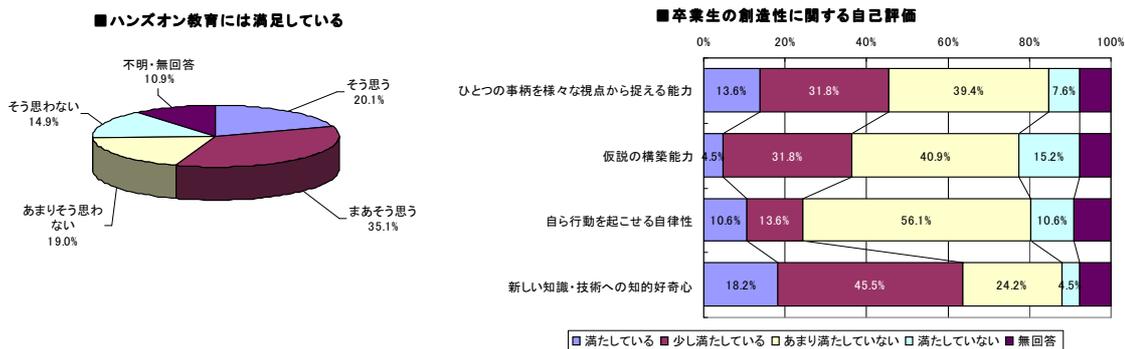
(資料 9 - 1 - ③ - 1)

「卒業生の創造性に関する自己評価」

<5-2> 独自の努力目標に関して

? 創造力を高める教育に関して

- 金沢高専が努力目標として掲げている「創造力を高める教育」に関して、どのように評価しているかに関して見たところ、下記のような結果となった。なお、今回は単年度分であるが、次回以降は経年変化を見ることで、努力目標がどの程度達成できているかを確認することになる。
- まず、「ハンズオン教育」に関する満足度に関しては、20.1%が「そう思う」と回答しており、「まあそう思う」の35.1%を加えると55.2%が満足していることになる。「ハンズオン教育」は学科としてみると比較的満足度は高いといえるが、この評価を上げることが創造力を高めることにつながるという。
- 「卒業生の能力」の中で「創造力」に関係すると思われる項目の4つをピックアップした。これを見ると「知的な好奇心」があるという回答は63.7%と多めであったが、「仮説構築能力」「自律性」などが低めであり、「自ら行動を起こし創造的な仮説を構築する」といった分野の能力開発が必要になるものと思われる。



(出典 「平成15年度 KTC総合アンケート調査結果」 P. 66)

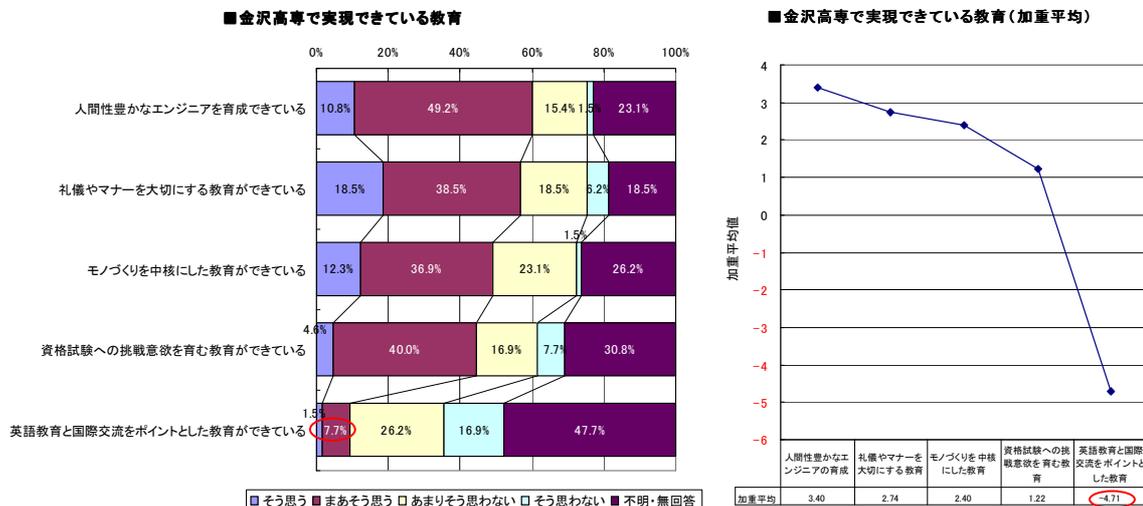
(資料 9 - 1 - ③ - 2)

「企業からの評価に関して」

<6-1> 企業からの評価に関して

? 金沢高専で実現できている教育

- 企業に対して金沢高専の教育の評価を聞いたところ、「不明・無回答」が多かったものの比較的良好な評価を得られたといえる。
- 「人間性豊かなエンジニア育成」に関しては60.0%ができており、同様に「礼儀やマナーを大切にしている教育」では57.0%、「モノづくりを中核にした教育」では49.2%、「資格試験への挑戦意欲を育む教育」は44.6%ができておりという評価であった。
- そして、最も評価が低かったのは「英語教育と国際交流をポイントとした教育」であり、できていると評価する回答は9.2%にとどまり、加重平均でもマイナスとなった。
- 学生からは「国際交流活動」「英語」の2つの授業分野の評価は高かったが、企業からの評価は非常に厳しいものであった。業務の中で英語を必要としないためにそのような観点で金沢高専の卒業生を見てないという可能性も考えられるが、学校として力を入れている分野でもあり、広報や情報提供によって特徴として定着させていくべきだと思われる。



(出典 「平成15年度 KTC総合アンケート調査結果」 P. 69)

観点 9-1-④ 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校の「KTC教育評価委員会」は、学園理事会の諮問機関である「十年委員会」に直結しており、学園全体による組織的対応の必要な事項に関して、学園理事会の指導のもとすみやかに対応される仕組みとなっています。また、本校自らの改善努力に関しては「十年委員会」への報告の中で、常に外部の視点に基づく問題意識を持つことが求められ、KTC教育評価委員会の構成教員により計画的かつ組織的な改善が促されていると考えています。
- ・授業アンケートや総合アンケートの結果等に基づく改善は、学生満足度の向上を目的とした授業改善の取り組みを最優先しております。
- ・アンケートの分析の中で、高学年の学生の満足度が低いと認識しています。その原因の一つに学生自身の修学に対する目標が、本校に入学できたことへの安心感から希薄になってしまったことがあると考えています。そのため平成17年度から1年生を対象にキャリアデザイン教育の導入を図ることにしました。
- ・学生の意欲の触発は重要な課題です。在学中の5年間を漫然と過ごすのではなく、1日1日を大切にしていく目的で、1日一感動運動を平成17年から全学生を対象に実施することにしました。

（分析結果とその根拠理由）

- ・「KTC教育評価委員会」での本校教育の報告が「十年委員会」になされる中で、「情報教育」および「英語教育」の重要性とその向上について、さらなる努力が促されてきました。本校は、十年委員会の意見を踏まえ、特色の充実と強化を図るため、学園理事会の協力を得て「国際コミュニケーション情報工学科」の設置に至りました。
- ・授業アンケートや総合アンケートの結果に基づく改善は、その成果が得られるには時間がかかると思いますが、教室における授業改善の取り組みが着実に行われていると認識しています。
- ・平成17年から実施するキャリアデザイン教育や、1日一感動運動の展開が、学生の意欲の触発に繋がるよう努力してまいります。

観点 9-1-⑤ 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

（観点にかかる状況）

- ・校長は毎年実施している各教員との面談において、各教員から提出される「教育の抱負及び実施に関する報告書」、「教育改善への取組と今年度の目標」、「授業アンケートの結果」について必要な改善点の指摘を行っています。
- ・学科長や各教科の主任は、本校が企画する「見せ合い授業」（資料 9-1-⑤-1 「見せ合い授業の趣旨と要領」）とは別に不定期に所属教員の授業を参観したり、自身の授業を所属教員に参観させるなど「見せ合い授業」の取り組みを行っています。
- ・一般教科においては、数学と専門教育との連携の重要性を認識し、専門科目に関連する数学教育項目の教育法について、各学科と協議を繰り返してきております。

- ・英語教科においては、週に一度、英語教員が集まり授業内で実施した指導技術、活動、教材そして小テストに対する学生の反応や結果等について検討し、その内容やレベルについて意見を出し合い学生のニーズを満たし、満足度を高める授業を追求しています。また、日本人教員の授業で学習した文法や語彙がネイティブスピーカー教員のコミュニケーション重視の授業で活かされるよう、両者の間で授業の進度や連携を常に確認しています。
- ・電気情報工学科においては、学科改組に伴う教育実績を参考に、創造実験の段階的構築内容に対する必要な細部科目や教育手法、創造実験指導書の構成と将来の方向（進路指導を含む）について協議し、教育改善を図ろうとしています。
- ・機械工学科においては、主として、創造実験教育について教員が集まり、教育改善について検討しています。機械工学科創造実験(モノづくり)担当教員が提供する技術的課題、技術教育事例や失敗事例について意見を交換し、指導上の留意点やノウハウを共用することによって、モノづくり授業運営を図っています。平成16年度から採用したポートフォリオ方式のロボット製作指導法は、このような討議から得られたヒントにより実施しているものです。
- ・国際コミュニケーション情報工学科においては、学科教育の進展に伴って得られた教育実績を参考に学科目標や科目内容に応ずる教育手法や重点項目、学生が具備すべきスキルレベルの整合性ある運用などについて協議しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・校長は面談を通じて各教員の教育改善活動の状況を把握しています。
- ・毎年校長に提出されている「教育の抱負及び実施に関する報告書」「教育改善への取組と今年度の目標」は全教員に公開され、各教員の教育改善に生かされていると認識しています。
- ・授業アンケート結果も全教員に公開されており、各教員の教育改善に生かされていると認識しています。
- ・教育の評価改善について最も大切なことは当事者である教員自身の気付きにあると考えています。校長や各責任教員との取り組みの中で気付きが生まれ、各教員が教育向上の目標を設定し、努力する仕組みができていると考えています。

(資料 9-1-⑤-1)

「見せ合い授業の趣旨と要領」

平成 16 年 12 月 7 日

教務主事

平成 16 年度見せ合い授業の趣旨と要領

趣旨：

わかりやすい授業、魅力があふれる授業を行なうための情報交換のために
見せ合い授業を行なう。

要領：

本年度は 12 月に 5 回の授業について実施する。日程は別紙。

担当者は香林利男、金光 学、今澤明男、氏家亮子、原 孝美の 5 名とする。

放課後（7 限、または 8 限）を使い、正規の授業として実施する。

原則として 1 階多目的実験室で実施するが、教室等も使用する。

全教員は 2 回以上見学する。

授業終了後、別室（会議室）において見学者は感じたこと、参考になったことを
述べ合う。

アンケート（記名式）を実施する。集計したものを公表する。

日程：

番号	実施日	曜日	時限	担当者	クラス	教室	科目名
1	12月7日	火曜	8	金光	M 3	M 3 教室	材料力学 I
2	12月14日	火曜	8	今澤	E 5 A E 5 B	合同講義室	システム工学
3	12月17日	金曜	7	香林	D 2	D 2 教室	電気回路 I
4	12月20日	月曜	7	氏家	D 1	D 1 教室	基礎数学 II
5	12月20日	月曜	7	原	M 1	M 1 教室	物理学 I

観点 9-1-⑥ 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点にかかる状況)

- ・教員の研究については、教員が独自に行う研究ではなく、学生が参加できることが重要であるとの考え方から、校長は常に学生の参加による研究活動の推進を強く求めています。また、本校の創造技術教育研究所は、ハンズオン教育を研究する視点で研究活動を推進しており、研究成果が直接的に教育や授業の創意工夫に直結する仕組みを作っています。(資料 9-1-⑥-1「創造技術教育(コンテスト指導レポート)」)

(分析結果とその根拠理由)

- ・教員の研究については、学園が運営する研究支援機構が支援しています。文部科学省の科学研究費補助金の採択件数が少数に留まっていることから、今後、さらなる努力が必要であると認識しています。一方、本校が推進している「教育を研究する」「学生と共にモノ作りをする」等の、学生に視点を当てた研究活動は、本校教育の改善及び活性化に繋がるものとしてその成果を「創造技術教育」や教育成果発表会(講演論文集)(資料 9-1-⑥-2「平成15年度教育成果発表会」としてまとめ、教員間のFD活動に活かしています。

(資料 9-1-⑥-1)

「創造技術教育 (コンテスト指導レポート)」

ハンズオン部におけるロボコン指導

古屋栄彦

(金沢工業高等専門学校・機械工学科)

Getting ready for a robot contest
Shigehiko Furuya

This report describes the robot contest support of a Kanazawa Technical College hands-on club. Our supporting method and the reflection are described. And, it explains our new supporting method. A big feature for support is a method of guiding becoming of the number of production team three team and the automatic control machines. The feature is to support the student by the coach with the club adviser. We are devising a better method to support the student's creative activity.

(Key Word) Robot, Contest, Club

1. はじめに

アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテストは、全ての高等専門学校(63校)が参加する全国規模の教育イベントで、1988年から毎年開催されている。各高専から2チームがエントリーし、全国8地区(北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・近畿・中国・四国・九州沖縄)で地区大会が開催され、そこで選抜されたチームにより全国大会が行われている。本校ではアイデア大賞受賞を目指し、ハンズオン部員を中心としたロボット製作が行われている。本報告は本校の学生支援の取り組みを述べるものである。

2. ロボコン参加学生の波及効果

アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテストは、全国の高等専門学校が参加する全国規模の教育イベントであり、工業系の学生の創造的思考力と技術力を全国規模で展開する唯一の大会である。従来から入学する多くの学生はNHKによるこの大会の放送を見て育っており、高専ロボットコンテストについては認知度が高い。そんな中、自分もいつかは高専ロボコンに出場してみたいという大きな夢と希望を持って高専を受験する積極的な中学生も多い。本校では平成16年度入学生

ではこの傾向が特に顕著で、1年生の1割である14名の学生がハンズオン部に入部し活動を行っている。しかも、電気情報工学科1名以外は全員機械工学科であり、機械工学科ではなんとクラスの4分の1の学生が活動を行っていることになる。我々教職員は彼らの夢の実現に向けた支援を行い、「やればできる」、「夢はかなう」という成功体験を実現させるチャンスである。そして、成功体験を持った彼らがリーダー的な存在となりクラスでの授業を引張り、さらに高い目標に向かって取り組む姿勢がクラス内に及ぼす影響は計り知れない。

3. ロボット製作学内支援体制

平成16年度は、学生のロボコン製作指導をハンズオン部顧問(2名)、安全監督の代行をロボコン委員(3名)が受け持ち、図1のようなイメージで学生支援を行った。基本的に顧問2人による指導で、本学園の技師は、学生に対して加工や電気回路設計に対してスポット的なアドバイスを行っている。

現在の主力となる学生が活躍していたころ(平成14~15年度)の傾向としては、勝負に常に勝つことを意識し、相手ロボットの特徴に応じて動作を変える複雑なロボットを考える傾向があった。

創造技術教育 第5巻第1号 2005年2月

(出典 「創造技術教育」第5巻 第1号2005年2月 P.13)

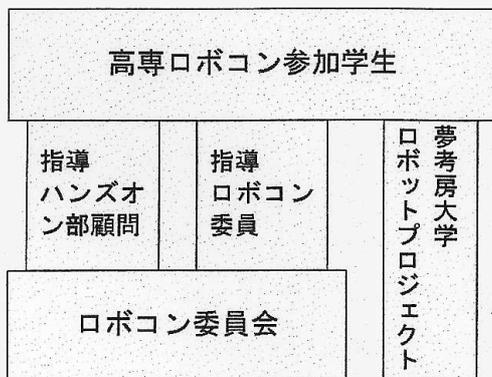


図1 平成16年度学生支援体制

しかし、平成15年度に、1年生のときからロボット製作に青春をかけてきた5年生チームによるロボット「サシウス」では、自分たちのロボットのアイデアをどのようにしたら発揮できるかという点を従来以上に重要視した取組みを行った。実際、彼らの思いは的中し、審査員の推薦により9年ぶりに念願の全国大会出場を達成した。彼らが製作したロボットや彼らの加工技術力は、我々指導者とのハンズオン部員間に共通する具体的なかたちとなり、大きな財産となっている。

平成16年度は、この「サシウス」をヒントに、とにかく最高得点を目指すアイデアのロボットを確実に製作し、練習と改良期間を設けることを重要視し取り組むという学生方針を明確にした。そして、ロボットの完成日を地区大会1ヶ月前とし、改良期間を必ず設けることを学生間の約束事項として定め、支援方法を検討した。

【加工方法・加工技術支援】

ロボットコンテスト参加では、ロボットのアイデアがもっとも重要な要素であるが、そのアイデアが現実のものとして完成しなければ大会には出場できない。そのため、加工技術の習得も学生支援にとって重要な要素である。そこで、これまで、学生のアイデア検討および製作技術力の向上を目指した部内ロボットコンテストを顧問が企画し行っていた。しかし、平成16年度は学生が自

分たちのウイークポイントを認識しそれを補える競技を学生自ら企画する指導を行い、部内対抗ロボットコンテストを行った(図2)。また、本学園の夢考房(工学設計教育センター)が年度末に開催しているH8マイコン講習会には学生と顧問が参加し部内の技術レベルアップにも努めた。平成17年度のロボットコンテストでは自動操縦ロボットが必要となることが大きく予測される。そのため、エンコーダやPWM制御などマイコンについてハンズオン部独自の課題を検討し、マイコン活用講習会などの教育支援が今後は必要である。

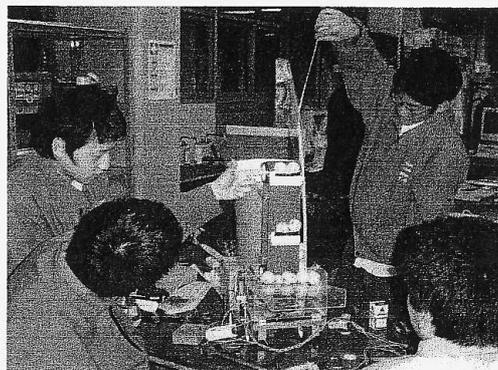


図2 部内対抗ロボットコンテスト

【アイデア検討のための学生支援】

アイデア検討に関する支援として、学生が毎日ロボットに関するディスカッションや加工ができる空間を機械科実験室内に確保した(図3)。また、「サシウス」を始め過去の全国大会出場ロボットの調査や、本校のこれまでのロボット製作報告書の閲覧等ができるよう、ハンズオン部員が利用できるコンピュータのユーザ設定を行い活用できる環境を構築した。そして、新入生の加工練習を兼ねて競技場の一部を製作し展開場所および保管場所の確保(図4)を行った。その結果、図5のようなアイデア図面をまとめることができた。

【製作スケジュール支援】

設計はほぼ予定通りに進んだが、製作スケジュールは若干予定をオーバーした。しかし、練習時間を十分確保する為に、ロボコン委員の協力の下

放課後 18 時以降の学生の安全監督業務を行った。その結果、機械加工中の事故や怪我を発生させることなく、地区大会の 3 週間前に初練習を行うことができた。数年前では積み重なった遅れを取り戻すことができず、大会数日前まで練習が行えないこともあったことを考えると、3 週間の改良期間が取れたことは、学生が成長していることも挙げられるが、学生支援の質とタイミングが学生と一体化しつつあることを示すものと思われる。また、他の地区大会での状況を一部フィードバックしロボットの改善策に役立てることもできた。



図 3 学生ミーティングの様子

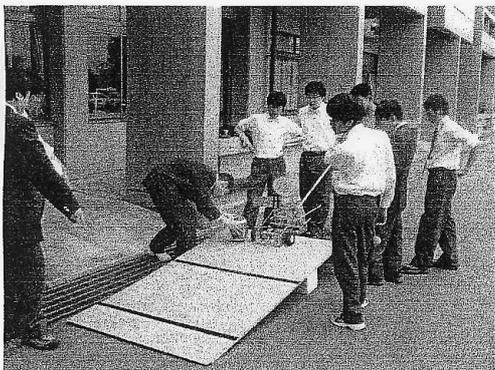


図 4 簡易競技場の製作とアイデア検討

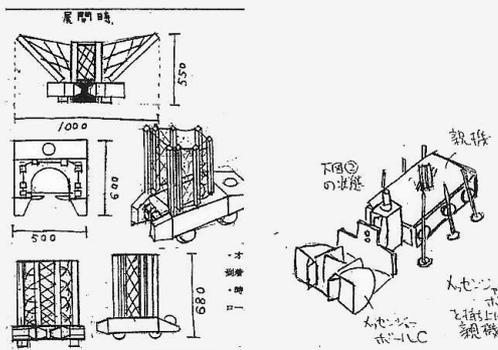


図 5 アイデア図面

予定が遅れた主な原因は、これまで赤外線リモコンを用いたロボット操縦による競技であったが、メッセージボールという自動操縦マシンが必要であった。高専ロボコンではこのような自動操縦マシンはこれまでなく、また、地区大会直前まで明確化されないルールもあるなど、学生指導に迅速な対応をとることができなかった点が挙げられる。平成 17 年度は自動操縦ロボットが再び必要となることが予測されるため、この点については支援方法の改善が必要である。

4. 東海北陸地区大会
【A チームロボット (OOFIM)】
特徴的な機能は競技ルールで最高得点を目指したロボットであることが挙げられる。しかし、自動操縦マシンの動作不良により、得点のために最も重要な花 (キャッチャー) が開かず惜敗した。しかし、アイデアは評価されエキビジョンに出場し、アイデアをアピールすることができた (図 6)。

4. 東海北陸地区大会

【A チームロボット (OOFIM)】

【B チームロボット (Mars Walker)】
ユニークなロボットで高得点を目指したロボットである。競技の設定である火星探査をイメージし、車輪で移動するのではなく歩行により移動し、確実に得点するロボットを目指した (図 7)。

【表彰式】

地区大会では、ルールの設定に沿った火星探査の歩行型ロボットというユニークな形状と得点動作の確実性が評価されて、B チームは HONDA 賞を受賞した (図 8)。全国大会の出場はかなわなかったものの、学生の達成感は大変大きなものであった。

【表彰式】

5. 平成 17 年度の支援体制
これまで赤外線コントロールによって 1 台のロボットによる対戦競技であったが、平成 16 年度

5. 平成 17 年度の支援体制

これまで赤外線コントロールによって 1 台のロボットによる対戦競技であったが、平成 16 年度

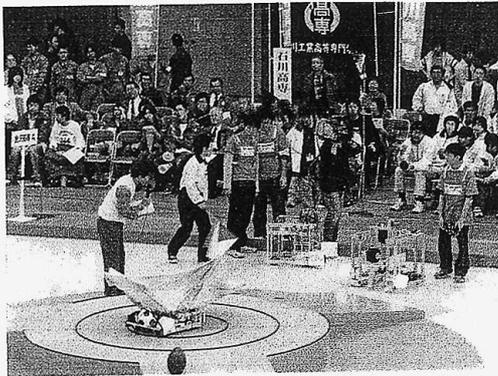


図6 Aチームロボット (OOFIM)

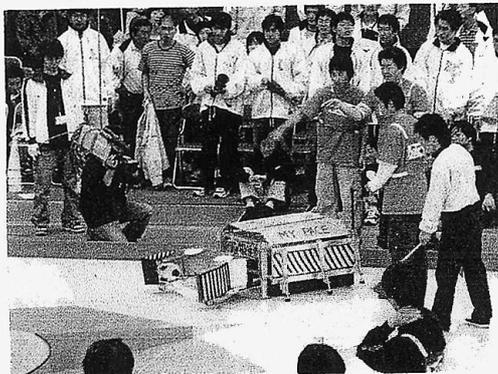


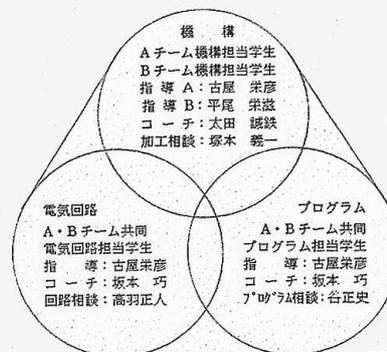
図7 Bチームロボット (Mars Walker)



図8 表彰式 HONDA 賞受賞

は自動制御による動作するマシン（メッセージャーボール）の出現があり、平成 17 年度は、自動制御ロボットの必要性がさらに高まることが予想される。また、17 年度はハンズオン部以外に本学園の夢考房プロジェクトのひとつである高専ロボットプロジェクトにおいても、NHK アイデア対

決全国高専ロボコンへの出場を検討しているため、大会参加以来はじめて3台のロボット製作チームにより活動が行われる。そのため、学生へのアドバイスをより迅速にかつ適切に行うには、指導者間の連携を活かし一体となり、支援を行っていくことが重要である。平成 17 年度は、つぎの2点を中心に学生支援の検討を行う（図9）。①支援者の専門性を活かし、ロボットの機構、電気回路、プログラムと競技場製作支援の4班に分ける。②各班間の連携を密にするため、全学生と支援者による定期的なミーティングを行う。



芸術デザイン 指導: 平尾栄彦、 竹内 諭	競技場製作支援 総指揮: 山科哲次 加工相談: 館 昭	安全監督代行者 高専ロボコン委員 林 孝広、原 孝 美、堀 隆一
-----------------------------	-----------------------------------	---

図9 平成 17 年度学生支援体制

6. おわりに

ハンズオン部でのロボットコンテスト参加の目標は、全国大会優勝・ロボコン大賞受賞である。しかし、特定の指導者の豊富な経験のみに頼る支援ではなく、学生の持つ知識と探究心によって、学生自らの行動力でロボットを作り上げられるような支援を目指したい。つまり、学生自らの夢を実現するための1つの経験をここで学び、別の夢や目標にも向かって行ける力を付ける教育を目指している。そのため、本校教員と工学設計教育センターの技師がチームを組み連携して学生支援を行う平成 17 年度の取組みは、今後の取組みの基礎となり、大きく発展できると確信している。

(資料 9-1-⑥-2)

「教育成果発表会」

創造設計Ⅳ

ーポートフォリオ方式の適用ー

ーA Study on Portfolio Method for Teamwork Hands-Onー

山田 弘文^{*}、松井 洋^{*}、平尾 栄滋^{*}

Hirohumi YAMADA, Hiroshi MATSUI, Eiji HIRAO

キーワード：チーム物づくり、教育法、製作活動、ポートフォリオ

Keywords：team work hands-on, educational method, working activity, portfolio

1 はじめに

物づくり教育は、問題発見・解決型の初級技術者を育成するには効果的であることから、多くの教育現場で多用されている。教育での物づくりには、物づくりの全過程を個人の学生が担当する部類のものと、複数の学生がチームを組み 1 つの物を完成させる部類のものがある。この内、チーム物づくりは、その活動を通じ工学技術のほか社会性や人間性も陶冶できるとして、近年急速に普及している。

ところが上記長所の反面、チーム構成員に能力差や取り組み姿勢に差がある場合には、授業停滞や学生の対人関係混乱などが発生する欠点がある。これら欠点を排除し適切な指導を達成するためには、教員が学生作業の全過程を指導監督する必要があるが、指導人時が不足しているのが現状である。

本報告では、チーム物づくりに際し、学生に教育の最終目標を明示するとともに達成のための長期計画を立案させ、これに必要な各作業時間作業を教員が総括的に助言し、実施結果を自己申告する方式(以下

※ 金沢工業高等専門学校機械工学科

〒921-8601 石川県金沢市久安 2-270

ポートフォリオ方式と呼ぶ)を導入したところ、2/3 のチームに効果が見られたので報告する。

2 金沢高専機械工学科の物づくりの現状

本学科の物づくりは、図 1 の経緯がある。

平成 7 年以前	統一課題付与方式による物づくり (サッカーロボ/組、万力、筆立て等)
平成 11 年以降	チーム物づくり (6 名/組み) (基礎的な校内案内ロボット)
平成 16 年	ポートフォリオ方式導入

図 1 金沢高専機械工学科の物づくり経緯

本教育は機械工学科の物づくり最終科目で、これを達成するため図 1 の積み上げ教育をしている。



図 2 金沢高専機械工学科の物づくり教育構成

3 ポートフォリオ方式について

ポートフォリオとは、「必要な場合、作業の例として使用する資料集や経緯書集」と考えることができる。

本科目ではこれを拡大解釈し、

「作業に必要な目標、アドバイス、作業実施結果及び作業見積りのための個人記録、ノート」と位置付け、

- (1)学生個人(チーム)の作成計画、目標等
- (2)作成のための参考(アドバイスを含む)事項
- (3)作業実績、反省事項の控え
- (4)教員指導事項控え及び伝達簿

の役割を持たせることにした。統一書式を図2に示す。

年月日(曜日)	氏名	担当役職
実施細科目	役職としての細目	
細目で達成すべき目標	達成した内容	
(学生記入欄)	(学生記入欄)	
(兼 指導事項記入欄)		
障害・不足・反省事項	次回等の参考事項	
(学生記入欄)	(学生、教員記入欄)	

図3ポートフォリオ記入用統一書式

学生は毎教育時間終了後、当該書類を提出する。教員は、学生の自己申告内容を点検し評価、必要なアドバイスを記入及び各チームや個人に対して教員が処置すべき事項の承知等を行う。ポートフォリオの作成状況は年間成績の30%として評価される。

4 物づくり指導に現れた効果

当該指導方式の長所は(1)学生がチームの一員として自らを管理できる (2)教員は学生の製作活動を比較的正しく把握できる (3)教員が教育に必要な対策を取ることが出来る(4)教師と学生間のコミュニケーションがとれる (5)物づくり個人活動記録を作成できる ことである。

また、この方式を採用した結果、(1)半数のチームは製作が計画どおり進捗した(2)製品の完成度が高まった (3)無駄部品数が減少した(4)学生が作文に慣れた等の成果が確認できた。表に進捗度の前年度比較を、図3、図4に平成15年度及び16年度作品例を示す。

表 ポートフォリオの効果比較表

平成15年度実績		平成16年度実績	
15.4	基礎事項教育	16.4	同左
15.5	同上	16.5	同上
15.6	基本設計、モックアップ	16.6	同左
15.7	部品要求、部品購入	16.7	同左
15.8	(夏期休暇)	16.8	同左
15.9	製作開始・製作	16.9	同左
15.10	製作	16.10	同左
15.11	製作	16.11	同左
15.12	製作	16.12	同左、完成1コチーム
16.01	製作	17.01	完成2,チーム報告書作成
16.02	製作、完成5,未完1 (未完:補習で完成)	17.02	完成3コチーム,全完 個人活動レポート作成
総括:作業遅れは個人に起因し、掌握できない。		総括:作業遅れは、部品不具合に起因する。	

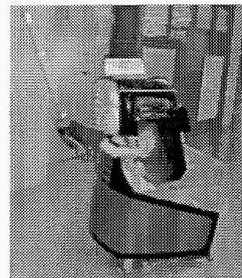


図4 15年度作品例

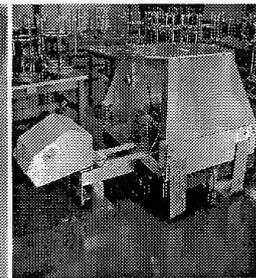


図5 16年度作品例

5 指導方式に関する検討

当該指導方式は長所が多く、更に発展させることにより効果が上がると考えられる。現状では、教員3名に対し学生40名であり、自己申告方式のみでは指導不十分である。相互評価方式等を導入して効果を上げたい。一方、申告書評価には、相当の時間が必要である。

6 むすび

ポートフォリオ方式は、チーム物づくりに有効である。

(出典 「平成16年度 教育成果発表会」 PP. 9~10)

観点9-2-① ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点にかかる状況)

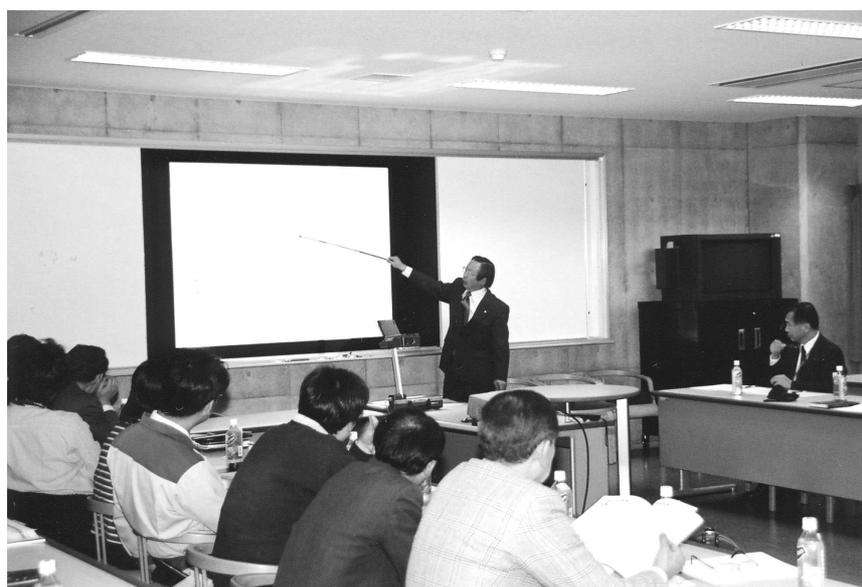
- ・本校では、毎年開催している「教育成果発表会」(資料9-2-①-1)が、教育方法や授業改善の事例発表を通じて教員相互の研修会としての役割を担っていると考えています。また、学園が毎年開催する「FD研修会」に、本校の教員も参加し、授業におけるプレゼンテーション方法等について勉強する機会を得ています。
- ・平成16年度から全教員が参加する「見せ合い授業」を実施しました。授業や教室運営のあり方について、教員相互が連携し改善に取り組む仕組みにしています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・「教育成果発表会」や「見せ合い授業」は、全教職員が参加する本校の重要行事に位置付けされており、そこで行われる討議は、教育現場における教員相互の連帯を高める効果をもたらされていると考えています。また、学園が実施するFD研修会には、本校の全教員が一度は参加しており、自らの授業方法に役立てています。

(資料9-2-①-1)

「教育成果発表会 実施風景」



観点9-2-② ファカルティ・ディベロップメントが教育の質の向上や授業の改善に結びついているか。

(観点にかかる状況)

- ・教育成果発表会で報告され、討議された内容は、その後も報告者や意見発表者に対して問い合わせや個別指導の申し出がなされています。発表会を基点とする、こうした日常的な教育改善活動によって、個々の教員の優れた教育実践例のノウハウが共有されているものと認識しています。また、多年にわたり継続して行われている学園のFD研修会は、授業の創意工夫を図るものとして定着しています。(資料9-2-②-1「FD研修会」)

(分析結果とその根拠理由)

- ・校長は、毎年全教員に「教育の抱負及び実施に関する報告書(自己点検自己評価書)」の提出を求め、点検の上、全教員との面談を実施しています。その際、校長は、模範となる取り組みの詳細を教育成果発表会での発表に繋げています。教育成果発表会では、各教員の教育手法等の取り組みや授業の改善について協議され、教員間の連携が強固になることで組織的な教育の質の向上に繋がっていると考えています。
- ・英語教科を担当する教員が集まり、英語科としての教員用便覧「英語科ガイドラインズ」を作成しています。これは、教育成果発表会での発表資料を基礎に、学生に英語教科の授業を教える際の基準となるティーチングガイドとして、英語科の教育目標や学生への指導上の留意点、授業運営技術などをまとめたものです。

(資料 9-2-②-1)

「FD研修会」

学習意欲を高める授業をめざし

新任教員を対象にKIT-FD研修会

KIT-FD研修会は、本学の教育システムを理解し、“学生の学習意欲を高めるためのわかりやすい授業を行う授業改善”として、本学のFD (Faculty Development) 活動の一環とし

て実施するものである。研修会は「プレゼンテーション技法」の内容を中心に、7月6日(火)から9日(金)と7月13日(火)から16日(金)の2回、新たに大学教員として着任された方を主な対象に、計31名が参加して8号館8・201教室で実施した。

<スケジュール表>

日 時間	7月6日(火) 7月13日(火)	7月7日(水) 7月14日(水)	7月8日(木) 7月15日(木)	7月9日(金) 7月16日(金)
9:30 12:00	オープニング ・[講義] ○教育システム ○工学設計教育の取り組み ○教育点検評価と改善活動 ○修学指導について	・[講義] プレゼンテーションの基本 ・[講義] 視聴覚教材	・[講義] 質疑応答 ・[演習] プレゼンテーション(2) 12分/1人 (ビデオ撮影)	・[演習] グループ討議 -問題の発見 -原因の明確化
13:00 17:00	・[演習] 自己紹介 5分/1人 (ビデオ撮影) ・[講義・演習] ○授業の設計について -学習目標、行動目標 -評価方法の設定 ○指導計画書の記入	・[演習] プレゼンテーション(1) 2教室に分 10分/1人 (ビデオ撮影) ・[演習] 個別クリニック (相互評価)	・[講義] プレゼンテーションのまとめ ・[講義] 問題発見・解決型 グループ討議 テーマ:「学生の学習意欲を高めるために」	-解決策の作成 -発表準備 -発表 20分/1グループ (ビデオ撮影) 参加者:学長他 ・クロージング

(出典 「旦月会」 平成16年8月号 P.22)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・本校が毎年実施している「教育成果発表会」は、本校の教育・研究の情報共有の場として、さらには、改善のための討議の場として機能しています。
- ・校長が毎年実施する教員との個別面談が「教育成果発表会」の重要性を教員に徹底する効果をもたらしています。

(改善を要する点)

- ・平成15年度と平成16年度のKTC授業アンケートやKTC総合アンケートの結果として、改善の傾向が顕著に現れるところまでには至っていません。引き続き改善への継続した取り組みが必要であると認識しています。

(3) 基準9の自己評価の概要

各教員から教育の抱負及び実施に関する報告書が提出され、それに基づく校長の評価が行われているほか、校長と教員の面談、各教員の次年度の計画立案に関する教育改善への取り組みと今年度の目標の作成など、教育実践目標を念頭に置きつつ、教育の状況について評価を適切に実施できる体制が整備され、機能しているとともに、これらの結果を各教員の次年度の計画立案に結び付けるなど、教育の質の向上、改善に結び付けるシステムとなっており、継続的な方策が講じられています。さらには、平成15年度からは、KTC教育評価委員会によりKTC総合アンケート及び授業アンケートが実施され、学生、教職員、卒業生等の意見集約を行っており、その結果についての報告書が発行されていますが、これらのアンケートは実施されたばかりであり、これらの結果が具体的な教育への改善に反映され成果を得られるまでには至っていません。このほか、本校は「ハンズオン教育」に力を入れ、これを研究する視点で研究活動が推進されており、教員の研究成果が教育へ還元されている例が創造技術教育として取りまとめられているなど、研究活動が教育の質の改善に寄与していると考えています。

ファカルティ・ディベロップメントについては、教育方法や授業改善の事例発表を行う教育成果発表会を毎年実施しているほか、学園主催のFD研修会に教員が参加し、授業におけるプレゼンテーション方法等を学ぶ機会を持つなど、組織として実施されています。この教育成果発表会は、単なる事例発表の場にとどまらず、教育・研究の情報共有の場として、さらには、授業改善のための検討の場として機能しており、教員個々人の取り組みは報告集（教育改善への取組と今年度の目標）としてまとめられるなど、教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると考えています。

以上のとおり、教育の状況に関する点検・評価及びその結果に基づく改善の状況、及び教員の資質の向上を図るための取り組みの状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準10. 財務

(1) 観点ごとの自己評価

観点10-1-① 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は、高等専門学校設置基準に定められる校地、校舎、図書、設備を有しており、基準を超える充実した教育環境を学生に提供できていると考えています。また、債務について本校は「0」であり、法人全体としても適正な状況にあると考えています。(資料10-1-①-1「貸借対照表」、(資料10-1-①-2「財産目録」、(資料10-1-①-3「収支計算書」)
- ・資産は学校法人として所有しており、それぞれ大学・高専が使用することになっています。土地については、共用としています。また、建物、教室等については使用区分を明確にし、図書館・学生厚生施設(食堂等)は大学と共用使用しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校の運営母体である学園の全面的な支援を得て、充実した教育研究活動が継続できていると考えています。本校の規模において、単独で大きな資産を保有することなく、金沢工業大学との共用によって実現できている現在の教育環境は、本校にとって満足できるものとなっています。

(資料10-1-①-1)

「貸借対照表」

学校法人金沢工業大学
貸借対照表
平成17年3月31日

(単位 千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	67,825,443	固定負債	6,986,148
土 地	18,712,746	長 期 借 入 金	4,459,393
建 物	23,526,319	退 職 給 与 引 当 金	2,412,939
構 築 物	1,628,022	そ の 他 の 負 債	113,816
機 器 備 品	6,514,289		
図 書	1,608,853	流動負債	6,518,874
引当特定資産	14,861,849	短 期 借 入 金	739,241
その他の資産	973,365	前 受 金	5,519,783
		そ の 他 の 負 債	259,850
流動資産	15,099,294		
現 金 預 金	14,172,585	負 債 の 部 合 計	13,505,022
その他の資産	926,709		
		第1号基本金	64,414,920
		第2号基本金	2,121,937
		第3号基本金	1,250,322
		第4号基本金	830,000
		消費収支差額	802,536
		基本金・消費収支差額の部合計	69,419,715
資 産 の 部 合 計	82,924,737	負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 合 計	82,924,737

(資料10-1-①-2)

「財産目録」

学校法人金沢工業大学
財 産 目 録

(単位 千円)

科 目	平成16年度末	
一 資 産 額		
(一) 基本財産		
1 土 地(団地)		
野々市・久安校地	175,973.39 m ²	7,511,018
松任校地	52,278.00 m ²	1,722,173
天池校地	205,746.00 m ²	525,759
大額校地	71,305.00 m ²	6,872
2 建 物		
(1) 校 舎	159,674.87 m ²	21,057,860
3 図 書	465,374 冊	1,608,853
4 校具、教具及び備品	61,203 点	6,514,289
5 その他の資産		3,704,032
(二) 運用財産		
1 現金、預金		
現金 現金手許有高		4,271
普通預金		14,168,314
2 積立金		12,739,912
3 有価証券		
利付国債		0
その他の有価証券		540,877
4 不動産		11,738,953
5 その他の資産		1,081,554
(三) 収益事業用財産		0
合 計		82,924,737
二 負 債 額		
1 固定負債		
(1) 長期借入金		
日本私立学校振興・共済事業団		3,497,710
その他の長期借入金		961,683
(2) 退職給与引当金		2,412,939
(3) その他の固定負債		113,816
2 流動負債		
(1) 短期借入金		739,241
(2) 前 受 金		5,519,783
(3) 未 払 金		84,959
(4) その他の流動負債		174,891
合 計		13,505,022

(資料10-1-①-3)

「収支計算書」

学校法人金沢工業大学
収支計算書
平成16年4月1日から
平成17年3月31日まで

(資金収支計算書)

(単位 千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	11,381,968	11,383,004	△ 1,036	人件費支出	5,800,349	5,776,550	23,799
手数料収入	237,062	238,307	△ 1,245	教育研究経費支出	3,294,450	3,262,650	31,800
寄付金収入	75,690	82,335	△ 6,645	管理経費支出	1,784,092	1,671,162	112,930
補助金収入	2,000,985	2,006,080	△ 5,095	借入金等利息支出	152,496	152,496	0
資産運用収入	263,957	288,687	△ 24,730	借入金等返済支出	550,422	549,462	960
資産売却収入	0	52	△ 52	施設関係支出	1,192,551	1,180,582	11,969
事業収入	192,387	235,261	△ 42,874	設備関係支出	826,199	825,983	216
雑収入	178,368	183,076	△ 4,708	資産運用支出	130,054	130,054	0
借入金等収入	600,000	600,000	0	その他の支出	347,893	339,506	8,387
前受金収入	5,427,570	5,519,783	△ 92,213	(予備費)	(32,383)		
その他の収入	673,630	690,386	△ 16,756	資金支出調整勘定	17,617	△ 181,527	17,617
資金収入調整勘定	△ 6,483,203	△ 6,535,026	51,823	次年度繰越支払資金	△ 177,000	△ 14,172,585	4,527
前年度繰越支払資金	13,187,558	13,187,558	0		13,816,849	14,172,585	355,736
収入の部合計	27,735,972	27,879,503	△ 143,531	支出の部合計	27,735,972	27,879,503	△ 143,531

(消費収支計算書)

(単位 千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	11,381,968	11,383,004	△ 1,036	人件費	5,659,201	5,636,073	23,128
手数料	237,062	238,307	△ 1,245	教育研究経費	5,601,009	5,574,895	26,114
寄付金	122,625	131,866	△ 9,241	(うち減価償却額)	(2,306,559)	(2,308,254)	(△ 1,695)
補助金	2,000,985	2,006,080	△ 5,095	管理経費	1,945,307	1,831,263	114,044
資産運用収入	263,957	288,687	△ 24,730	(うち減価償却額)	(161,215)	(160,891)	(324)
資産売却差額	0	0	0	借入金等利息	152,496	152,496	0
事業収入	192,387	234,494	△ 42,107	資産処分差額	113,300	112,027	1,273
雑収入	178,368	183,583	△ 5,215	徴収不能額	0	0	0
帰属収入合計	14,377,352	14,466,021	△ 88,669	(予備費)	50,000		50,000
基本金組入額合計	△ 1,191,731	△ 1,179,030	△ 12,701	消費支出の部合計	13,521,313	13,306,754	214,559
消費収入の部合計	13,185,621	13,286,991	△ 101,370	当年度消費収入	△ 335,692	△ 19,763	
				(支出△)超過額			
				前年度繰越消費収入	822,299	822,299	
				超過額			
				翌年度繰越消費収入	486,607	802,536	
				超過額			

観点10-1-② 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点にかかる状況)

- ・経常的収入に関しては独立採算制をベースにしていますが、法人全体でのバランスの中で教育活動に支障なく対応できていると認識しています。(資料 10-1-②-1 「金沢工業高等専門学校収入収支等」)

(分析結果とその根拠理由)

- ・経常的収入については、法人からの助成を受けてバランスを確保しています。
- ・一部学科の入学定員割れや中途退学者の増加による学生数の減少によって、学生生徒納付金収入が漸減しています。
- ・経常費補助金のうち「地方高等教育機関活性化」の特別補助金が制度変更となり、本校への補助が打ち切られたことが、現在の法人助成に繋がっています。
- ・長期的には授業料等の値上げも視野に入れた改善が必要と考えていますが、現時点においては本校の特色化を推進し、安定した入学志願者の確保に全力を傾けることが法人全体の方針として合意されています。

(資料 10-1-②-1)

「金沢工業高等専門学校収入支出等」

項目	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
学生生徒等納付金収入	604,854	567,190	535,077	527,770	503,762
手数料収入	2,706	3,273	2,737	3,146	2,908
寄付金収入	3,107	1,636	2,871	1,451	1,067
補助金収入	216,067	210,975	221,817	159,584	178,744
その他の収入	42,900	33,267	21,880	14,792	13,962
法人より助成	83,968	123,786	45,458	133,553	26,482
計	953,602	940,127	829,840	840,296	726,925

項目	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
人件費支出	670,325	629,383	568,640	519,765	485,125
教育研究経費支出	175,780	167,682	161,099	172,117	162,074
管理経費支出	59,339	61,980	65,734	67,951	67,746
施設関係支出	6,951	19,103	12,084	46,014	3,395
設備関係支出	18,707	61,979	22,283	34,449	8,585
その他の支出	22,500	0	0	0	0
計	953,602	940,127	829,840	840,296	726,925

区分	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
件数	9	5	4	4	5	4
金額	15,500	7,100	6,800	4,800	6,900	7,100

区分	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
件数	8	5	5	2	1
金額	4,407	3,700	1,850	1,300	350

観点10-2-① 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点にかかる状況)

- ・校長の教育研究方針のもと、各学科長が中心となり予算原案を作成し校長に提出されます。校長は各学科長と調整後、学校の予算として学園予算事務局に提出します。提出された予算は、予算編成審議会の審議、評議員会の意見を聞き、最終的に学園理事会において承認決定されます。
- ・予算編成方針は法人全体として策定されます。このため校長は常に理事長に対し、本校における学務の進捗状況や新たな計画について面談の中で報告、説明しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・決定された本校の予算は、学園予算事務局より本校の予算関係者に伝達されます。
- ・学園の全体予算は、学内報「旦月会」に掲載され全教職員に周知されます。
- ・本校の将来計画や施設・設備計画、教育充実に係わる新規計画については、校長が理事長と面談を行い、重点項目については学園の予算編成方針の中に位置付けられ、関係者に伝達明示されます。

観点10-2-② 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点にかかる状況)

- ・本校としては、経常収支において法人助成を必要とする状況にあります。
- ・法人全体とすれば、いわゆる不採算部門との見方もありますが、本校が、昭和37年（1962年）に全国私立高等専門学校で設置第1号として、本法人が最初に設置した高等教育機関であり、技術者養成をめざす学園の教育理念実現の重要な役割を担って今日まで努力してきたものです。
- ・法人全体の計画の中で今後とも十分なる教育研究活動が行える財政的基盤があると考えています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・法人からの助成によって適切な教育研究活動が行えていると考えています。
- ・ここ近年の支出超過は法人にとって負担であることは事実であります。しかしながら、設置の歴史的背景と、今日まで社会に必要とする多数の人材を輩出してきた実績を考えると、今後とも負担の軽減を目指し、収支改善に努力してまいります。

観点10-2-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の予算は、前述の通り校長の教育研究方針により教員を中心として編成されています。予算編成時に各目的に応じた教育研究に必要な予算の配分がなされます。決定された予算は事務局長が予算管理責任者となり、目的に沿って適正に執行されているかを校長に報告します。

(分析結果とその根拠理由)

- ・予算原案の作成から、完了報告書の作成に至る一連の予算関連業務に、教員が係わることによって、本校の財務状況や予算の仕組みを理解する教員が増えてきたと考えています。
- ・過去5年間の教育研究経費の目的別執行額は次の通りです。各目的別の執行額は本校の教育研究を遂行するには十分であり、また、学生1人当たりの教育研究経費支出額においても、私立大学法人（医歯系除く）の平均を超えています。(資料10-2-③-1「学生一人当たりの教育研究経費支出」)

(資料10-2-③-1)

「学生一人当たりの教育研究経費支出」

教育研究経費支出内訳

(単位 千円)

項 目	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
授業運営	12,817	15,818	12,882	14,993	18,504
実験実習費	23,820	24,695	22,205	23,913	27,532
情報教育	33,858	28,948	27,494	24,897	14,734
厚生補導費	12,950	11,625	12,946	15,448	11,260
教員研究活動(旅費等)	8,374	6,457	5,978	6,275	6,010
海外研修・国際交流	6,267	7,736	8,584	6,594	6,217
光熱水費・建物維持費	33,011	29,818	28,105	30,517	28,278
共通施設等の利用による	44,683	42,585	42,905	49,479	49,539
計	175,780	167,682	161,099	172,116	162,074

学生1人当たりの教育研究経費支出

(単位 千円)

区 分	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
金沢工業高等専門学校	240	245	244	260	246
私立大学法人平均(医歯系除く) (今日の私学財政より)	205	215	223	232	---

観点10-3-① 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点にかかる状況)

- ・学園全体の財務諸表を学内報である「旦月会」及び学内イントラネットによって公表してきました。平成17年7月からホームページ及び保護者等への配付誌である「専・もはら」に掲載します。
- (分析結果とその根拠理由)
- ・法人の財務諸表等については適切な形で公表されているものと認識しています。

観点10-3-② 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点にかかる状況)

- ・学園に監査室が設置されています。監査室は毎年理事長監査を実施し、各部局や研究室等における備品等の点検を行い、財産管理の適正を図っています。また、監査室では経常費補助金等の外部資金の適正な執行に関する監査を常時行っています。
 - ・監査法人による監査は、平成16年度では、延べ106名によって実施されています。
- (分析結果とその根拠理由)
- ・財務運営の健全性を図るべく適切な監査体制が構築され、実施されていると考えています。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・各教員が予算業務に係わることで、本校の財政運営の理解が進み、適切な予算計画と経費支出に繋がっていると認識しています。
- ・本校の特色を進展させることが安定した志願者を得ることと考えています。これは、学園との共通認識であり、学園の積極的な支援に結びついています。

(改善を要する点)

- ・経常収支において、資金の留保が困難な状況は、財政的に健全とは言えず、長期的な視点で学費の見直しを考えています。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校の目的に沿った教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な財政基盤として校地・校舎・設備等の資産を有するとともに、学生生徒納付金、寄附金収入、手数料等の諸収入ほか、法人から学校運営に必要な経費を受けるなど経常的な収入が確保されています。

予算編成における財務に関する計画は建学の精神の具現化など教育活動等に関する基本政策及び主な事業については、評議員会の審議を経て、学園理事会で決定し、学内報「旦月会」で教職員に明示され、学内関係部署に対して適切に予算配分されています。また、経常的な予算に関しては、学科長を中心に学内の関係教員の要望や意見を聞き策定されており、適切に配分執行されています。

財務諸表の公表については、平成17年7月からホームページ及び、「専(もはら)」に掲載し公表することとしており、適切に対応できていると考えます。監査の状況については、監査室による内部監査と公認会計士による外部監査の両面によって健全な財務運営が行われていると考えています。

以上のとおり、学校の財務基盤の保有状況、及び収支に関する計画の履行状況、財務公開や監査の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。

基準11. 管理運営

(1) 観点ごとの自己評価

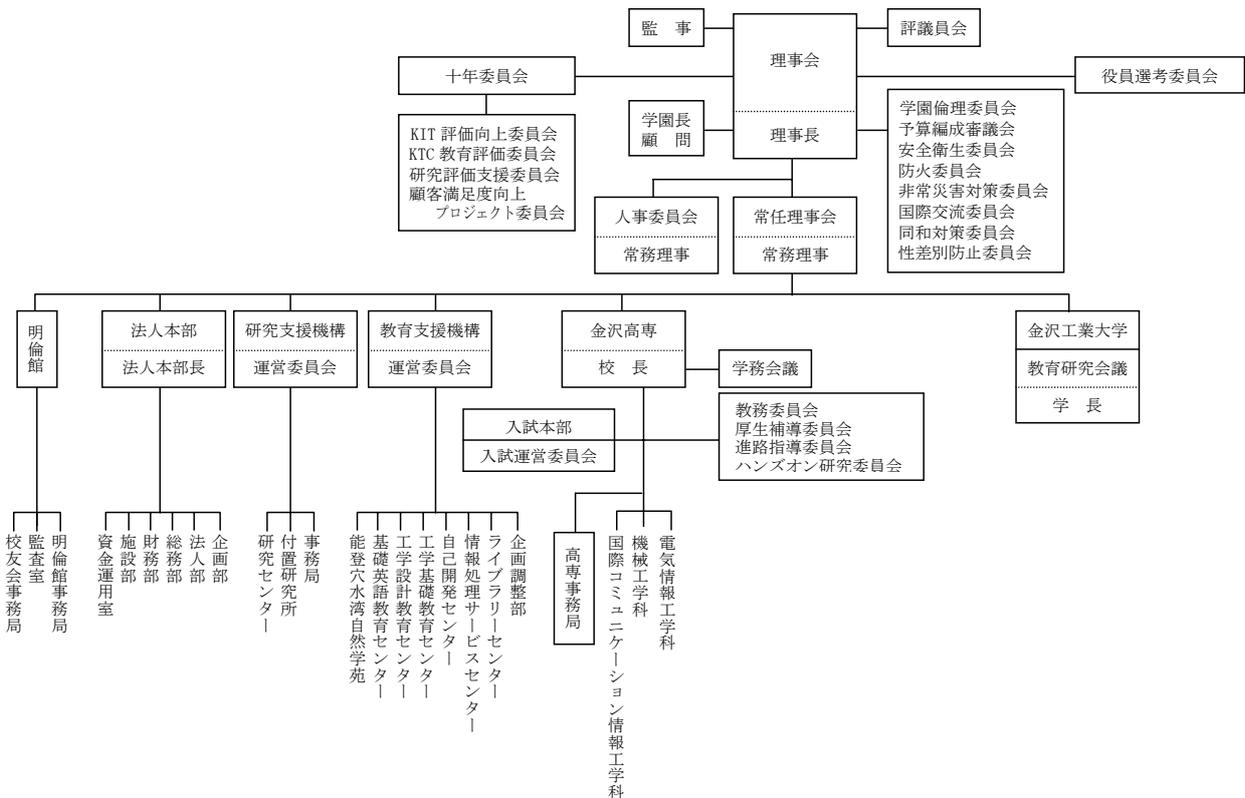
観点11-1-① 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える体制となっているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の管理運営は、校長を中心とする指導体制が整っていると考えています。校長は、学園の理事として学園の意思決定に参画し、また学園人事委員会及び予算編成審議会、安全衛生委員会、国際交流委員会、研究支援機構運営委員会、教育支援機構運営委員会等、学園の常設委員会の委員として本校を代表して参画しています。(資料11-1-①-1「学校法人金沢工業大学運営組織図」)
- ・本校は、教務主事、学生主事、進路指導主事、研究主事及び各学科長、事務局長による校長の補佐体制が整備されています。各主事及び各学科長、事務局長は、校長の指導に基づき校務を分担しています。(資料11-1-①-2「学校法人金沢工業大学管理規則」)
- ・本校には、各主事が長を務める入試、教務、厚生補導、進路指導、ハンズオン研究等の委員会やこれらの専門部会が組織されており、本校の意思決定を支えています。

(資料11-1-①-1)

「学校法人金沢工業大学運営組織図」



(資料11-1-①-2)

「学校法人金沢工業大学管理規則」

第5章 教育支援機構及び研究支援機構

(教育支援機構)

第13条 本法人に教育支援機構を置き、企画調整部、ライブラリーセンター（LC）、情報処理サービスセンター、工学基礎教育センター、工学設計教育センター、基礎英語教育センター、自己開発センター、穴水湾自然学苑及び天池自然学苑をもって構成する。

2 教育支援機構の運営は運営委員会が行い、委員長及び委員は理事長が任ずる。

(企画調整部)

第14条 企画調整部に業務改善室、企画委員会を置く。

2 企画調整部長は、所掌事務を統轄する。

(ライブラリーセンター)

第15条 ライブラリーセンター（LC）に業務部、SL室、ライティングセンター及び生涯学習室を置く。

2 業務部に業務課、情報課、参考調査課及びPMC運営室を置く。

3 SL室にSL事務室を置く。

4 ライティングセンターにライティングセンター事務室を置く。

5 生涯学習室に学習課を置く。

6 ライブラリーセンター館長（LC館長）は、理事長が任ずる。

7 LC館長は、LCに所属する教職員を指揮監督し、所掌事項を掌理する。

8 副館長は、館長を補佐し、所掌事務を統轄する。

(情報処理サービスセンター)

第16条 情報処理サービスセンターにシステム部及びAV室を置く。

2 システム部に電子計算機課を置く。

3 AV室に技術課を置く。

4 情報処理サービスセンターの所長は、理事長が任ずる。

5 所長は、情報処理サービスセンターの所掌事項を掌理する。

(工学基礎教育センター)

第17条 工学基礎教育センターに事務室を置く。

2 工学基礎教育センターの所長は、理事長が任ずる。

3 所長は、工学基礎教育センターの所掌事項を掌理する。

(工学設計教育センター)

第18条 工学設計教育センターに夢考房、スポーツ考房を置く。

2 工学設計教育センターの所長は、理事長が任ずる。

3 所長は、工学設計教育センターの所掌事項を掌理する。

(基礎英語教育センター)

第18条の2 基礎英語教育センターに事務室を置く。

2 基礎英語教育センターの所長は、理事長が任ずる。

3 所長は、基礎英語教育センターの所掌事項を掌理する。

(自己開発センター)

第19条 自己開発センターに事務室及び学習指導室を置く。

- 2 自己開発センターの所長は、理事長が任ずる。
- 3 所長は、自己開発センターの所掌事項を掌理する。

(能登穴水湾自然学苑、天池自然学苑)

第20条 能登穴水湾自然学苑及び天池自然学苑に事務室を置く。

- 2 能登穴水湾自然学苑及び天池自然学苑の学苑長は、理事長が任ずる。
- 3 学苑長は、当該自然学苑の所掌事項を掌理する。

(研究支援機構)

第21条 本法人に研究支援機構を置く。

- 2 研究支援機構の運営は運営委員会が行い、委員長及び委員は、理事長が任ずる。
- 3 研究支援機構に事務局をおき、研究支援課、研究企画課及び研究推進課を置く。
- 4 研究支援機構事務局長は、理事長が任ずる。
- 5 研究支援機構事務局長は、事務局職員を指揮監督し、研究支援機構全般に関する事務を統括する。

(金沢工大附置研究所)

第22条 金沢工大附置研究所は、人間情報システム研究所、高度材料科学研究開発センター、先端電子技術応用研究所、光電磁場科学応用研究所、光電相互変換デバイスシステム研究開発センター、IT研究所、心理科学研究所及びゲノム生物工学研究所により構成する。

- 2 各研究所の所長は、理事長が任ずる。
- 3 研究所の所長は、特定の研究に関する事項を掌理する。

(金沢工大研究センター)

第23条 金沢工大研究センターは、時事問題研究所、材料システム研究所、地域計画研究所、日本学研究所、科学技術応用倫理研究所、先端材料創製技術研究所、産学連携室、通信技術研究所、生活環境研究所、未来デザイン研究所、知的財産科学研究所、場の研究所、情報通信フロンティア研究所及び高専創造技術教育研究所の各研究プロジェクトにより構成する。

- 2 各研究プロジェクトの長は、理事長が任ずる。
- 3 研究プロジェクトの長は、研究プロジェクトに関する事項を掌理する。

第6章 高専

(副校長)

第24条 高専に副校長を置くことができる。

- 2 副校長は、校長の意見を聴いて理事長が任ずる。
- 3 副校長は、校長の命を受け、校長の職務を補佐し、校長事故あるときは校長の職務を代行する。

(教学組織)

第25条 高専に教務主事、学生主事、進路指導主事及び研究主事を置く。

- 2 前項の主事は、校長の意見を聴いて理事長が任ずる。
- 3 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他の教育に関する事項を掌理する。
- 4 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関する事項を掌理する。
- 5 進路指導主事は、校長の命を受け、学生の進路指導に関する事項を掌理する。
- 6 研究主事は、校長の命を受け、教員及び学生の研究に関する事項を掌理する。

- 7 その他必要とする主事を置くことができる。
- 8 教務主事、学生主事、進路指導主事及び研究主事を補佐するため、それぞれ副主事を置くことができる。

(科長)

第26条 高専の電気情報工学科、機械工学科及び国際コミュニケーション情報工学科に科長を置く。

- 2 高専の電気情報工学科、機械工学科及び国際コミュニケーション情報工学科に副科長を置くことができる。
- 3 科長及び副科長は、校長の意見を聴いて理事長が任ずる。
- 4 科長は、校長の命を受け、学科に関する事項を掌理する。
- 5 副科長は、科長を補佐する。

(高専事務局)

第27条 高専に高専事務局を置く。

- 2 高専事務局長は、理事長が任ずる。
- 3 高専事務局長は、高専事務局職員を指揮監督し、教学に関する事務を処理する。

第7章 法人本部

(明倫館)

第28条 本法人に明倫館を置き、明倫館事務局、監査室及び校友会事務局をもって構成する。

- 2 監査室に監査委員を置く。
- 3 校友会事務局に庶務課を置く。
- 4 監査室長及び校友会事務局長は、所掌事務を統括する。

(法人本部の組織)

第29条 本法人に法人本部を置き、企画部、法人部、総務部、財務部、施設部及び資金運用室をもって構成する。

- 2 役員室の組織は、別に定める。
- 3 企画部に企画課、CS室、広報課及び国際交流室を置く。
- 4 法人部に人事課、委託事業室、保健センター及び校史編纂委員会を置く。
- 5 総務部に総務課、文書課、東京事務所及び広坂事務所を置く。
- 6 財務部に経理課、会計課、管財課及び不動産管理課を置く。
- 7 施設部に営繕課、防災課、管理課及び電気課を置く。
- 8 企画部、法人部、総務部、財務部、施設部の各部長及び資金運用室長は、理事長が任ずる。
- 9 企画部、法人部、総務部、財務部、施設部の各部長及び資金運用室長は、所掌事務を統括する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 31～34 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

- ・学園の寄附行為細則(資料11-1-①-3「学校法人金沢工業大学寄附行為細則」)は、第14条において理事長職務の権限委譲を定め、本校の教育・研究の責任者を校長としています。これにより、校長が本校の教育・研究の最高意思決定者として規則上の位置付けが明確にされています。教学の責任者としての校長の意思は、学園及び本校において尊重される伝統的な風土が形成されていると考えています。
- ・校長が学園の委員に参画することにより、本校の発展に係わる情報発信や意思決定が適切に行われ

ています。

- ・本校のように比較的小規模な学校においては、校長を中心とする指導体制の確立は重要であり、全教職員の協力を得て、教育・研究の充実発展を目指す必要があると考えています。校長を中心とする補佐体制は、各主事及び学科長のもとに各種委員会等を組織し、全教職員が校務運営に参加する本校独自の体制の要として十全な機能を発揮していると考えています。

(資料11-1-①-3)

「学校法人金沢工業大学寄附行為細則」

第3章 理事会

(理事会及び委任機関)

第13条 法令及び寄附行為に定める評議員会に付議すべき事項、その他この法人の業務に関する重要な事項について決定するため、毎年3月、5月、10月及び12月に定例理事会を開催する。ただし、緊急を要する案件が生じたときは、臨時の理事会を開催することができる。

2 前項に定める事項は、次の各号に掲げるものをいう。

- (1) この法人及びこの法人が設置する学校の管理運営に関する基本方針
- (2) この法人の理事、評議員、監事及び理事長の選任
- (3) この法人が設置する学校の学長及び校長の選任
- (4) 予算、借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。)及び重要な資産(運用財産を除く。)の処分
- (5) 事業計画
- (6) 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- (7) 決算の承認
- (8) 寄附行為の変更
- (9) 合併
- (10) 目的たる事業の成功の不能による解散
- (11) 学則の変更
- (12) 理事会が行う規則等の制定及び変更
- (13) 寄附金品の募集
- (14) その他この法人の業務に関する重要事項であって理事会が必要と認めるもの

3 理事会の運営については、別に定める理事会規則による。

4 理事会は、寄附行為第13条第1項の規定に基づき、第2項に定める事項以外の日常の業務は常任理事会に、人事に関する業務は人事委員会に、それぞれ委任する。

(経営と教学の職務)

第14条 理事長は、寄附行為第14条に基づき、この法人の業務を総理するに当たっては、建学の精神に基づく伝統と学風を尊重して経営と教学の職務を行うものとし、それぞれ次の責任者にその権限を委譲する。

- (1) 経営の責任者は、法人本部長とする。
 - (2) 教学の責任者は、金沢工業大学にあっては学長、金沢工業高等専門学校にあっては校長とする。
- 2 常務理事は、前項各号の責任者に対する指導、助言及び調整を行う。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 17～18 抜粋)

観点11-1-② 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の管理運営組織は、管理部門を法人本部に、支援部門を教育支援機構及び研究支援機構に、教
学に係わる事務は本校事務局において実施運営が図られています。こうした運営組織を有機的につ
なぎ、機能するために、校長、事務局長は日常的に各部門の担当者と連携を図っています。(資料11
-1-②-1「事務分掌規程」)

(分析結果とその根拠理由)

- ・学生に優れた教育環境を提供し、特色ある教育展開を可能にしている現状は、これを支える本校及
び学園の管理運営組織が適切に機能していると考えています。また、全教員がそれぞれの役割の中
で本校の運営に直接係わる体制は、本校の特色であり、管理運営の円滑化に大きく貢献していると
考えています。

(資料11-1-②-1)

「事務分掌規程」

事務分掌規程

第1条 管理規則に定めのある事務分掌は、この規程の定めるところによる。

第2条 法人本部

大学、高専における教育、研究の充実発展と円滑な法人運営の実施を目的とする。

<企画部の基本業務>

- (1) 学生募集活動の戦略立案と推進に関する業務
- (2) 広報活動に関する業務
- (3) マーケティングに関する業務
- (4) 顧客満足度向上に関する業務
- (5) 国際交流に関する業務

◎ 企画課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生募集活動の企画、実施に関する事項
- (2) 市場動向調査、分析等のマーケティングに関する事項

◎ CS室においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 日本経営品質賞への対応に関する事項
- (2) 学園行動規範に基づく点検、評価に関する事項
- (3) 学生、教職員へのアンケートに関する事項
- (4) 他大学、組織等の活動にかかわる情報収集、分析に関する事項

◎ 広報課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 広告媒体による広報活動の企画、実施に関する事項
- (2) 広報印刷物の企画、編集、発行に関する事項
- (3) 広報にかかわるイベントの企画、開催に関する事項
- (4) 報道機関等の外部機関や諸団体への対応に関する事項
- (5) 校章、記章、施設表示等のデザイン及び字体などの管理に関する事項

◎ 国際交流室においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 外国との学術、研究及び文化交流に関する事項
- (2) 留学、語学研修等の学生交流にかかわる支援、指導に関する事項
- (3) 国際交流プログラムの企画、実施に関する事項
- (4) 教職員及び研究者の派遣、受け入れに関する事項
- (5) 外国語による学園資料の作成に関する事項
- (6) 外国語ラウンジの運営に関する事項

<法人部の基本業務>

- (1) 理事会、評議員会等に関する業務
- (2) 法人の公印の押印、保管等に関する業務
- (3) 教職員の人事、研修に関する業務
- (4) 役員の秘書業務

◎ 人事課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教職員の任免、異動、服務に関する事項
- (2) 教職員の給与、退職金に関する事項
- (3) 教職員の福利厚生及び健康管理に関する事項
- (4) 教職員の教育研修に関する事項
- (5) 教職員の人事記録及び証明書類の発行に関する事項
- (6) 日本私立学校振興・共済事業団に関する事項
- (7) 労働保険に関する事項
- (8) 派遣職員、アルバイト等の受け入れに関する事項
- (9) 役員の秘書業務に関する事項

◎ 委託事業室においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 食堂、清掃等の学園業務の事業委託に関する事項

◎ 保健センターにおいては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教職員及び学生の健康診断、診療受付に関する事項

◎ 校史編纂委員会においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 校史編纂資料の整理、保管、編集に関する事項

<総務部の基本業務>

- (1) 法人の庶務全般に関する業務
 - (2) 法人にかかわる諸規則の制定、改廃等に関する業務
 - (3) 法人にかかわる申請、許認可、届出等に関する業務
 - (4) 関係諸官庁及び諸団体との連絡調整に関する業務
- ◎ 総務課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 法人の式典及び行事の運営に関する事項
 - (2) 行事、見学等の調整に関する事項
 - (3) 部課長会議の会議運営に関する事項
 - (4) 慶事、弔事に関する事項
 - (5) 諸団体への加盟審査等の管理に関する事項
 - (6) 郵便物の配送、発送等の取扱いに関する事項
 - (7) 通達、連絡、調整に関する事項
 - (8) 代表電話の受付に関する事項
 - (9) 稟議書の受付、整理保管に関する事項
 - (10) 出張の申請受付、発令に関する事項
 - (11) 役員車両、公用車両の運行、管理に関する事項
 - (12) 教職員の駐車証の発行に関する事項
 - (13) 電話回線、携帯電話等の管理に関する事項
 - (14) 寄附金の募集、寄贈品等の受け入れに関する事項
 - (15) 登記、印鑑登録に関する事項
 - (16) 理事長の特命に関する事項
 - (17) その他渉外全般に関する事項
- ◎ 文書課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 諸規則の制定、改廃等に関する事項
 - (2) 公文書等の受付、回付、発送及び保存に関する事項
 - (3) 且月会報の企画、編集、発行に関する事項
- ◎ 東京事務所においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 関係諸官庁への申請、許認可、届出、報告等に関する事項
 - (2) 関係諸官庁及び諸団体との連絡調整に関する業務
 - (3) 諸情報の収集、分析、整理に関する事項
 - (4) 近在の研究所、分室、施設等の運営及び支援に関する事項
 - (5) 学会、研究会、講演会等の運営及び支援に関する事項
- ◎ 広坂事務所においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 関係諸官庁及び諸団体との連絡調整に関する業務
 - (2) 諸情報の収集、分析、整理に関する事項
- <財務部の基本業務>
- (1) 資金全般に関する業務
 - (2) 法人会計の出納に関する業務
 - (3) 設備、備品などの購入、運用に関する業務
 - (4) 財産の管理に関する業務
- ◎ 経理課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 資金計画及び予算編成に関する事項
 - (2) 予算執行に関する事項
 - (3) 決算に関する事項
 - (4) 会計監査に関する事項
 - (5) 国及び地方公共団体の補助金等に関する事項
 - (6) 借入金に関する事項
 - (7) 財務諸表に関する事項
 - (8) 土地、建物、構築物の財産管理に関する事項
- ◎ 会計課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 現預金の出納、保管に関する事項
 - (2) 諸納付金の収納、督促に関する事項
 - (3) 資金繰りに関する事項
 - (4) 債権、債務の管理に関する事項

- (5) 寄附金の受納に関する事項
- (6) 会計諸帳票の整理、保管に関する事項
- ◎ 管財課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 設備、備品、消耗品等の購入、調達に関する事項
 - (2) 設備、備品等の保守、管理に関する事項
 - (3) 設備、備品等の財産管理に関する事項
- ◎ 不動産管理課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 不動産の取得と管理に関する事項
 - (2) 植林保育事業に関する事項
- <施設部の基本業務>
 - (1) 施設、設備等の整備、管理運営に関する業務
 - (2) 環境保全に関する業務
 - (3) 防災、警備等に関する業務
- ◎ 営繕課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 施設、設備等の保全管理及び営繕に関する事項
 - (2) 工事等の管理運営に関する事項
 - (3) 施設、設備の設計図面等の整理保管に関する事項
 - (4) 電気、水道、ガス、空調、電話及び衛生諸施設等の維持管理と運営に関する事項
 - (5) 施設の清掃及び環境、衛生面の維持管理に関する事項
 - (6) 公害対策及び廃棄物等の処理に関する事項
 - (7) 省エネルギー、リサイクルの推進に関する事項
- ◎ 防災課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 防災、防犯設備の維持管理に関する事項
 - (2) 警備の実施に関する事項
 - (3) 防災に関する啓蒙と防災訓練の実施に関する事項
 - (4) 諸行事の実施に伴う施設管理に関する事項
- ◎ 管理課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 施設部の庶務全般に関する事項
 - (2) 関係諸官庁への申請、許認可、届出、報告等に関する事項
- ◎ 電気課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 電気諸設備の保安と維持管理に関する事項
- <資金運用室の基本業務>
 - (1) 有価証券等による資金の運用、管理に関する業務
 - (2) 資金運用にかかわる情報の収集と分析に関する業務

第5条 教育支援機構

教育活動の推進に積極的に取り組み、教育の振興を図ることを目的とする。

<企画調整部の基本業務>

- (1) 教育研究にかかわる中長期計画原案の立案及び情報の収集、整理、分析、提言に関する業務
- (2) 教育支援機構の運営に関する業務
- ◎ 業務改善室においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 業務プロセスの改善の提言、推進に関する事項
 - (2) 業務改善にかかわる諸規程の策定に関する事項
 - (3) 日本経営品質賞のフレームワークに沿った業務プロセスの改善に関する事項
- ◎ 企画委員会においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 諸企画の調査、実施、情報収集に関する事項
 - (2) 企画プロジェクトの運営に関する事項

<ライブラリーセンターの基本業務>

在学生、卒業生、地域社会に対し学術情報、文献等を提供するとともに専門領域にかかわる教育研究の振興を図るため、以下の業務に積極的に取り組むものとする。

<業務部の基本業務>

- (1) ライブラリーセンターの管理運営に関する業務
- (2) 蔵書、資料等の受け入れ及び管理に関する業務
- (3) 学術情報、文献等の調査に関する業務

- (4) PMCの運営に関する業務
- ◎ 業務課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) カウンターサービス業務に関する事項
 - (2) 諸機関、諸団体との連絡調整に関する事項
 - (3) 利用者登録に関する事項
 - (4) ライブラリーセンターの施設管理及び利用に関する事項
 - (5) 展示室の企画、運営に関する事項
 - (6) マルチメディア考房の運営に関する事項
- ◎ 情報課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 図書・資料の選書、発注、受け入れ、登録、配架に関する事項
 - (2) 図書・資料の貸出し、返却及び督促に関する事項
 - (3) 学術雑誌等の受け入れ、製本に関する事項
 - (4) 寄贈資料の受け入れ、登録に関する事項
 - (5) 図書及び資料検索システムの運用に関する事項
- ◎ 参考調査課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) レファレンス業務に関する事項
 - (2) 学術情報及び文献の調査、提供に関する事項
 - (3) 外部データベースの利用に関する事項
 - (4) 他大学の図書館及び諸機関との文献複写等の相互協力に関する事項
 - (5) ライブラリーセンター情報誌の企画、編集、発行に関する事項
- ◎ PMC運営室においては、次の事務をつかさどる。
- (1) レコードの受け入れ、分類、整理及び調査に関する事項
 - (2) レコードプレーヤー等の維持管理に関する事項
 - (3) レコードジャケット展等の開催に関する事項
 - (4) FMエヌワンの番組制作支援に関する事項
- < S L 室の基本業務 >
- (1) 専門教育にかかわる調査、指導に関する業務
 - (2) 専門基礎教育の支援に関する業務
- ◎ S L 事務室においては、次の事務をつかさどる。
- (1) S L 会議の運営に関する事項
 - (2) 専門教育にかかわる調査、情報提供等に関する事項
 - (3) 専門基礎教育に係わる学習相談に関する事項
 - (4) 専門基礎教育教材の開発に関する事項
 - (5) 利用ガイダンス等の支援に関する事項
 - (6) 講習会の企画、実施に関する事項
 - (7) 著作権、著作権に関する事項
 - (8) 国際会議の企画、開催に関する事項
- < ライティングセンターの基本業務 >
- (1) 学生の日本語文章作成能力の向上にかかわる相談、指導に関する業務
 - (2) 修学基礎教育の支援に関する業務
- ◎ ライティングセンター事務室においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 論文作成能力向上に資する調査、情報提供等に関する事項
 - (2) 論文作成にかかわる学習相談に関する事項
 - (3) 論文作成にかかわる教材開発に関する事項
 - (4) 小論文の添削に関する事項
- < 生涯学習室の基本業務 >
- (1) 生涯学習の振興に関する業務
- ◎ 学習課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 生涯学習に資する調査、研究に関する事項
 - (2) 放送大学との単位互換協定にかかわる連絡調整に関する事項
 - (3) 卒業生への生涯学習の促進と情報提供に関する事項
 - (4) 地域における生涯学習の普及促進と機会提供に関する事項
- < 情報処理サービスセンターの基本業務 >
- コンピュータ、ネットワーク等の I T (情報技術) による教育研究の支援及び I T 関連教育の振興を図るため、以下の業務に積極的に取り組むものとする。

<システム部の基本業務>

- (1) コンピュータ及びネットワークの運用管理に関する業務
- (2) 教育と修学を支援する情報システムの企画、開発に関する業務
- (3) マルチメディア教材の開発に関する業務
- ◎ 電子計算機課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 大型計算機及びサーバーコンピュータの運用に関する事項
 - (2) 教育用、事務用パソコンのハード及びソフトの管理に関する事項
 - (3) ネットワークの運用管理に関する事項
 - (4) 高度情報通信技術を用いた情報システムの設計、開発、運用に関する事項
 - (5) 教材コンテンツの開発支援に関する事項

<AV室の基本業務>

- (1) AV設備、装置の運用に関する業務
- (2) AV教材の記録、編集及び開発に関する業務
- ◎ 技術課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 放送設備及びAV装置の維持管理に関する事項
 - (2) AV I Sの運用管理に関する事項
 - (3) 学校教育無線局の運用、保守に関する事項
 - (4) AV機器の貸出しに関する事項
 - (5) 行事、講演会等の記録、編集、保存に関する事項
 - (6) AV教材の開発に関する事項
 - (7) FMエヌワンの技術支援に関する事項

<自己開発センターの基本業務>

- 人間力の獲得と資格取得による総合的な能力向上の振興を図るため、以下の業務に積極的に取り組むものとする。
- (1) 資格取得の指導、促進に関する業務
 - (2) 人間力獲得に必要な教育訓練の企画、実施に関する業務
 - ◎ 事務室においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 資格試験にかかわる講習会の企画、運営、管理に関する事項
 - (2) 資格取得の啓蒙と資格試験の受験案内、受付に関する事項
 - (3) 試験会場の誘致及び設営、運営に関する事項
 - (4) 資格試験の情報収集、調査に関する事項
 - ◎ 学習指導室においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 教育課程や進路職種に関連した資格や能力の調査、指導に関する事項
 - (2) 人間力獲得のための各種講座の企画、開催に関する事項

<工学基礎教育センターの基本業務>

- 数学、物理、化学分野の工学基礎教育の振興を図るため、以下の業務に積極的に取り組むものとする。
- (1) 工学基礎教育の支援に関する業務
 - (2) 学習相談に関する業務
 - ◎ 事務室においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 工学基礎教育の支援に関する事項
 - (2) 学習相談に関する事項
 - (3) 入学前教育の支援に関する事項
 - (4) 基礎教育教材の開発に関する事項

<工学設計教育センターの基本業務>

- 工学設計教育等の実技教育の振興を図るため、以下の業務に積極的に取り組むものとする。
- (1) 実技教育の支援に関する業務
 - (2) 夢考房の管理運営に関する業務
 - (3) スポーツ考房の管理運営に関する業務
 - ◎ 夢考房においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 工学設計教育、工学基礎実技教育、工学専門実技教育の支援に関する事項
 - (2) 実験設備、機器の運用管理に関する事項
 - (3) 夢考房施設の運営及び設備、工具類の管理に関する事項

- (4) 夢考房の利用促進及びものづくり講座の企画、開催に関する事項
- (5) 講習会の実施及び技術指導に関する事項
- (6) 夢考房プロジェクト活動の指導に関する事項
- ◎ スポーツ考房においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) アスレチック、エアロビクス等による基礎体力向上に関する事項
 - (2) アスレチック機器の維持管理に関する事項
- <基礎英語教育センターの基本業務>

英語分野の人間形成基礎教育の振興を図るため、以下の業務に積極的に取り組むものとする。

 - (1) 人間形成基礎教育の支援に関する業務
- ◎ 事務室においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 英語教育にかかわる実施計画の企画、立案に関する事項
 - (2) 英語教育科目についての調査、研究に関する事項
 - (3) 英語教育教材の開発に関する事項
- <能登穴水湾自然学苑の基本業務>
 - (1) 人間形成教育の支援に関する業務
- ◎ 事務室においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 学苑で実施される授業の支援に関する事項
 - (2) 学苑の管理運営に関する事項
 - (3) 学苑の施設、設備等の保全管理に関する事項
- <天池自然学苑の基本業務>
 - (1) スポーツ及び研究諸施設の運営に関する業務

第6条 研究支援機構

- 研究活動の推進に積極的に取り組み、教育研究の振興を図るとともに着実な研究成果をあげることを目的とする。
- <研究支援機構事務局の基本業務>
 - (1) 研究活動の推進と支援に関する業務
 - (2) 産学協同研究の推進と支援に関する業務
 - (3) ベンチャーの育成、支援等に関する業務
 - ◎ 研究支援課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 学協会、研究会等の開催支援に関する事項
 - (2) 科学研究費補助金、助成金、委託研究等の収支管理に関する事項
 - (3) 研究設備、器材、環境等の整備充実と管理に関する事項
 - (4) 附置研究所、研究所の支援に関する事項
 - (5) 派遣留学、出張の取扱いに関する事項
 - (6) 研究業績の管理に関する事項
 - ◎ 研究企画課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 研究プロジェクトの企画、推進に関する事項
 - (2) 科学研究費補助金、助成金、委託研究等の情報収集、申請に関する事項
 - (3) 研究員の受け入れに関する事項
 - ◎ 研究推進課においては、次の事務をつかさどる。
 - (1) 産学協同研究の開拓に関する事項
 - (2) ベンチャーの育成、支援に関する事項
 - (3) 連携大学院との連絡調整に関する事項
 - (4) 特許等の知的所有権の申請、管理に関する事項

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 PP. 36～47)

観点11-1-③ 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の管理運営に係わる規定は、学園管理規則によって定められ、さらに、これに基づいた諸規則が整備されています。(資料11-1-③-1 「金沢工業高等専門学校関係規則集目次」)

(分析結果とその根拠理由)

- ・管理運営の根幹となる校長の補佐体制については、学校法人金沢工業大学管理規則「第6章 高専」(資料11-1-①-2)に規定されており、これに基づき管理運営体制が適切に整備されていると考えています。

(資料11-1-③-1)

「金沢工業高等専門学校関係規則集目次」

平成17年4月1日現在

金沢工業高等専門学校関係規則集目次

第1編 基本

第1章 建学綱領・寄附行為

- 学校法人金沢工業大学建学綱領【昭和40年2月】…………… 1
- 「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）KIT IDEALS
【平成14年4月1日】…………… 4
- 学校法人金沢工業大学寄附行為【平成17年4月1日改正】…………… 5
- 学校法人金沢工業大学寄附行為細則【平成17年4月1日改正】…………… 15

第2章 委員会等

- 学校法人金沢工業大学人事委員会規則【平成17年4月1日改正】…………… 22
- 予算編成審議会規則【平成6年6月1日改正】…………… 24
- 学校法人金沢工業大学安全衛生委員会規則【平成16年8月1日改正】…………… 25
- 性差別防止委員会規則【平成14年4月1日施行】…………… 26

第3章 管理運営

- 学校法人金沢工業大学管理規則【平成16年4月1日改正】…………… 27
- 事務分掌規程【平成16年4月1日改正】…………… 36
- 学校法人金沢工業大学の個人情報保護方針（プライバシー・ポリシー）
【平成17年4月1日施行】…………… 48
- 学校法人金沢工業大学の情報セキュリティポリシー【平成17年4月1日施行】…………… 49

第4章 点検・評価

- 十年委員会規程【平成11年4月1日改正】…………… 54
- KTC 教育評価委員会規程【平成16年4月1日改正】…………… 55
- 金沢工業大学顧客満足度向上プロジェクト委員会規程【平成11年4月1日施行】…………… 56

第5章 国際交流

- 国際交流委員会規程【平成10年4月1日改正】…………… 57
- 国際交流高専委員会規程【平成10年4月1日施行】…………… 58

第2編 金沢工業高等専門学校

第1章 学則

- 金沢工業高等専門学校学則【平成17年4月1日改正】…………… 59

第2章 学務会議、各種委員会等

- 金沢工業高等専門学校学務会議規程【平成16年4月1日改正】…………… 74
- 金沢工業高等専門学校教務委員会規程【平成16年4月1日施行】…………… 75
- 金沢工業高等専門学校キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程【平成16年4月1日改正】…………… 76
- 金沢工業高等専門学校厚生補導委員会規程【平成16年4月1日施行】…………… 78
- 金沢工業高等専門学校進路指導委員会規程【平成16年4月1日施行】…………… 79
- 金沢工業高等専門学校ハンズオン研究委員会規程【平成16年4月1日施行】…………… 80

第3章 任用、服務等

- 金沢工業高等専門学校教員任用基準【平成14年4月1日改正】…………… 81
- 金沢工業高等専門学校教員昇任基準【昭和61年4月1日施行】…………… 82
- 金沢工業高等専門学校教員の服務について【平成7年4月1日施行】…………… 83
- 金沢工業高等専門学校名誉教授規程【昭和56年4月1日施行】…………… 84
- 教職員に対する理事長表彰の取扱いについて【平成13年10月1日実施】…………… 85
- 性差別の防止に関する指針【平成11年4月1日施行】…………… 86

第4章 学務

- 金沢工業高等専門学校学習指導に関する実施規程【昭和37年4月1日施行】…………… 87
- 金沢工業高等専門学校外国留学に関する規程【平成17年4月1日施行】…………… 90

○金沢工業高等専門学校科目等履修生規程【平成17年4月1日改正】	92
○金沢工業高等専門学校研究生規程【平成17年4月1日改正】	93
○金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて【昭和63年4月1日施行】	95
○金沢工業高等専門学校入学試験の面接に係る申合せ【昭和63年4月1日施行】	97
第5章 厚生補導	
○金沢工業高等専門学校職業紹介業務運営規程【平成14年4月1日施行】	99
○金沢工業高等専門学校個人情報適正管理規程【平成14年4月1日施行】	100
○金沢工業高等専門学校特待生規程【平成16年4月1日改正】	101
○高専の特待生に関する細則【平成15年4月1日改正】	102
○金沢工業高等専門学校校長表彰・褒賞規程【昭和61年4月1日施行】	103
○金沢工業高等専門学校生活規定【平成17年4月1日改正】	105
○金沢工業高等専門学校服装規定【平成17年4月1日改正】	107
○金沢工業高等専門学校学生会会則【平成12年4月1日改正】	109
○育友会会則【平成10年4月1日改正】	112
第3編 大学・高専共通	
○学校法人金沢工業大学奨学支援規程【平成16年4月1日改正】	114
○理事長表彰者推薦内規【昭和57年3月10日施行】	116
○学校法人金沢工業大学学生弔慰金及び見舞金規程【平成15年4月1日改正】	118
○学校法人金沢工業大学学生弔慰金及び見舞金規程取扱内規【平成5年6月1日改正】	120
第4編 学術研究	
第1章 研究倫理	
○学校法人金沢工業大学研究倫理規程【平成15年4月1日施行】	121
第2章 運営	
○金沢工業大学研究支援機構規程【平成10年4月1日改正】	122
第3章 研究センター・プロジェクト	
○金沢工業大学研究センター規程【平成16年4月1日施行】	124
第4章 発明・知的所有権	
○学校法人金沢工業大学発明等取扱規程【平成13年8月1日施行】	126
第5章 受託研究	
○学校法人金沢工業大学受託研究取扱規程【平成16年4月1日施行】	131
第5編 教育支援	
第1章 運営	
○金沢工業大学教育支援機構規程【平成13年4月1日施行】	140
○金沢工業大学教育支援機構教育支援組織規程【平成13年4月1日施行】	141
第2章 組織	
○金沢工業大学ライブラリーセンター設置規程【平成4年4月1日改正】	142
○ライブラリーセンター利用について【平成14年9月3日改正】	143
○金沢工業大学情報処理サービスセンター規程【平成8年4月1日改正】	144
○金沢工業大学情報処理サービスセンター管理規則【平成8年4月1日改正】	146
○金沢工業大学基礎英語教育センター規程【平成14年4月1日施行】	148
○金沢工業大学穴水湾自然学苑規程【平成4年4月1日改正】	149
○学校法人金沢工業大学自己開発センター規程【平成16年4月1日実施】	150
第6編 同窓会等	
○こぶし会（金沢工大学園同窓会）会則【平成16年6月1日改正】	152
○金沢工業高等専門学校同窓会会則【平成16年6月1日改正】	158

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 目次)

観点11-2-① 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点にかかる状況)

- ・ 学園理事会の諮問機関として、理事長及び外部有識者によって組織された「十年委員会」(資料11-2-①-1「十年委員会規程」)が設けられています。本校の「KTC教育評価委員会」(資料11-2-①-2「KTC教育評価委員会規程」)は、十年委員会の専門委員会として本校の教育・研究に係わる状況について、校長を通じて適宜報告することになっています。十年委員会の意見は、学園理事会として受け止め、学園の管理運営に反映すると共に、本校の教育・研究の改善に活かしています。

(資料11-2-①-3「第12回十年委員会」:訪問調査時閲覧資料)

- ・ 十年委員会は、本学園の経営方針を説明し、本校の生き残りを賭けた特色化の方向性について評価していただく場としてあります。本校の将来計画や管理運営、高等教育に対する企業や社会の要望など、本学園の戦略策定の上、重要な位置付けにあります。本校の平成15年の学科改組計画は、平成14年6月開催の十年委員会において校長が報告し意見をいただく中で実現が果たされたものです。
- ・ また校長は、創造性教育の充実を図るために「金沢高専夢考房」の設置を学園理事長に上申し、学園理事会では平成5年4月開催の第1回十年委員会の意見を踏まえ、本校特色化推進の重要施策として、金沢高専創造実験棟(金沢高専夢考房棟)を平成5年7月に開設いたしました。

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 外部有識者による意見は、多様であり、学園全体に係わる点や本校で独自に対応すべき点等があります。十年委員会における校長の学務報告に対する有識者からの意見聴取は、多数の学園関係者の出席の中で行われ、今後の教育・研究の方向性や改善等が共有されてきたと考えています。
- ・ 十年委員会からは、特に、本校の特色化の推進を図ることが求められています。国際コミュニケーション情報工学科は、社会的情勢の推移を踏まえ、本校教育の最大の特色とするハンズオン教育と並び、従来実施してきた情報教育と英語教育の充実強化を図り、国際的に通用する語学力と情報技術を駆使でき得る創造性に溢れたエンジニアの育成を目的とする学科として設置しました。

(資料11-2-①-1)

「十年委員会規程」

十 年 委 員 会 規 程

第1条 学校法人金沢工業大学に理事会の諮問機関として十年委員会(以下「委員会」という。)を置く。

第2条 委員会は本法人の建学の精神に基づく教育・研究の充実発展を図るため、教育・研究並びに経営の、計画及び状況を点検し評価する。

第3条 委員会は理事長及び理事長が委嘱する学外の有識者5名から10名以内で構成する。

第4条 委員会に委員の互選により議長を置く。

第5条 委員会は年1回以上開催することとし、招集は議長の求めに応じ、理事長が行う。

第6条 委員会には教育・研究並びに経営の、計画及び状況を報告説明するため、必要な教職員を出席させる。

第7条 委員会に次の専門委員会を置く。

- (1) 研究評価支援委員会(研究)
- (2) K I T評価向上委員会(教育)
- (3) K T C教育評価委員会(教育)
- (4) 顧客満足度向上プロジェクト委員会(経営)

第8条 専門委員会の長は委員会の求めに応じ、委員会に出席し報告しなければならない。

第9条 委員会の事務は、常務理事を事務長とし、法人職員が担当する。

附 則

- 1 この規程は、平成4年11月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成11年4月1日改正施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.54)

(資料11-2-①-2)

「KTC教育評価委員会規程」

K T C 教育 評 価 委 員 会 規 程

(委員会の目的)

第1条 この規程は、管理規則第4条第1項第3号ロに定めるKTC教育評価委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

(委員会の設置)

第2条 委員会は、金沢工業高等専門学校（以下「本校」という。）が実施する教育活動全般についての自己及び外部点検評価の結果を確認することで、建学の精神に基づく教育活動の活性化となお一層の教育改革の推進に資することを目的とする。

(委員会の役割)

第3条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 教務主事及び研究主事
- (2) 学科長
- (3) 校長が指名する者
- (4) 事務局長

2 教務主事は、委員長となり会務を主宰する。

(委員会の運営)

第4条 委員会は、委員長が招集し議長を務める。

2 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

3 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

4 委員長は、委員会で審議した事項を十年委員会に報告するため、委員会報告を取り纏め校長に提出しなければならない。

5 委員長は、委員会報告を校長に提出するにあたり、本校の各種委員会との円滑な連携を図るため、事前に報告内容について学務会議の同意を得なければならない。

(委員会の事務)

第5条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

附 則

- 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成16年4月1日から改正施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P. 55)

観点11-3-① 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校では、毎年、全教員が校長に提出する「教育の抱負及び実施に関する報告書」を作成し、また創造技術教育研究所による「創造技術教育」を作成しています。さらに、平成15年度から「授業アンケート」や、在学生、卒業生、企業に対して本校の総合的な満足度を調査する「KTC総合アンケート」の結果報告集を作成しています。これらは、教職員や本校の教育・研究に直接的に係わる学園関係者に配布することで情報共有を推進しています。
- ・学生に対するアンケート結果の公表は、その内容の一部をホームページに掲載しています。
- ・保護者には、金沢工業高等専門学校だより「専（もはら）」を配付し、アンケート結果の一部や本校の教育活動等の情報を提供し、育友会（保護者会）で意見を収集しています。

（分析結果とその根拠理由）

- ・教育・研究の実施主体である各教員の「教育の抱負及び実施に関する報告書」や、創造技術教育研究所でまとめた教育に関する「創造技術教育」（研究報告書）は、いずれも各教員による自己点検評価とその改善に関する意見の集約であり、本校の教育実態を適切に表わすものと考えています。組織及び運営や施設・設備が、教育・研究に適した状況にあるかは、必要に応じて各教員の意見や要望から改善が図られているものと考えています。さらに、学生及び保護者からの意見については、各教員が個別に対応する他、学務会議（KTC教育評価委員会）等において討議され、教育・研究の向上に役立っていると認識しています。
- ・一方で、各教員による教育・研究に関する報告書やアンケート結果は、自己点検・評価における改善活動の中での利用に留まっており、公表についても十分でないと感じています。更なる教育・研究の改善充実を図るためには、学生及び保護者といった、本校の直接の利害関係者に対して、これらを公表していくことが必要であると認識しています。

観点11-3-② 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

（観点にかかる状況）

- ・KTC教育評価委員会での案件等は、校長によって「十年委員会」に報告され、十年委員会委員から意見が述べられます。この意見は、校長によって教務委員会、厚生補導委員会、進路指導委員会、ハンズオン研究委員会の各委員会に報告され、具体的な運営方法の検討を行います。一方、改善にかかる施策が学園の各部門において立案され、組織的に実施される仕組みとなっています。
- ・各教員の教育・研究に関する自己点検評価の現状は、報告書としてまとめられ、それらを教職員及び学園関係者に配布することで、それぞれの意見が各教員に寄せられます。さらに、校長と各教員との個別面談による自己点検評価や、「教育成果発表会」による教職員間の意見交換等は、教育・研究の質を向上させる仕組みとしています。
- ・授業アンケート結果の検証と改善については、現在、授業の改善に向けた取り組みを先行して実施しております。今後、アンケート結果に基づく各教員の改善、努力について学生との情報共有に基づく意見交換ができないか検討していくことを考えています。

（分析結果とその根拠理由）

- ・十年委員会委員から学園理事会にもたらされた改善提言は、本校ならびに学園の各支援機構に対す

る場合も学園理事長の直接的な指示による学園全体による組織的な活動として位置付けられ、その改善が図られる仕組みがあると考えています。

- ・日常的な教育・研究に係わる改善は、各教員と校長の個別面談や教育成果発表会による意見交換を通じて行われる仕組みが整っていると考えています。また、授業アンケート結果についても、すでに授業の改善、取り組みが行われております。今後は、各委員会を中心にアンケート結果に基づく検討、改善を学生との話し合いを進める中で、さらなる進展を図ってまいります。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・各教員による報告書の作成と、それに基づく校長との面談は、本校教育・研究の改善を図る基盤となっています。
- ・毎年実施している教育成果発表会は、学生の現状を踏まえた教員相互の討議の場として、教育の現状を確認し、さらなる向上への取り組みを生み出す場となっています。
- ・十年委員会による第三者評価は、さまざまな見解から本校の方向性が示され、本校ならびに学園の各組織に対して組織的な改善活動が展開されると共に、評価結果が本校の特色化に向けた改善に寄与していると考えています。

(改善を要する点)

- ・学生や保護者へのアンケート等の公表が十分行われていない点について、さらなる努力を行ってきたいと考えています。

(3) 基準11の自己評価の概要

本校の校長は、学園の理事として理事会の意志決定に参画するとともに、本校の教学に関して理事長からの権限委譲を受けており、教育目的を達成するための効果的な意志決定を行える体制となっています。校長の補佐体制は、教務主事、学生主事、進路指導主事、研究主事、学科長及び事務局長から構成され、校長の指示によりそれぞれの校務を分担しており、有効に機能しています。学校の管理運営のための組織は学校法人全体として構築されており、管理部門を法人本部で、教育及び研究の支援部門を教育支援機構と研究支援機構で、教学部門を併設大学と本校に区分し、それぞれが学校の目的を達成するために適切に機能していると考えています。これら管理運営に関する規程は管理規則によって定められ、これに基づき諸規程が整備されています。

学園理事会に諮問機関として理事長及び外部有識者による十年委員会が組織され、学校法人の教育・研究・経営全般にわたる将来計画や状況の点検・評価が行われ、外部有識者の意見が適切な形で本校の管理運営に反映されています。

十年委員会及びその専門委員会であるKTC教育評価委員会は、本校を含めた学校法人全体の現状や改革の方針等の報告や、それに対する評価、討議、意見の陳述等を行っており、教育・研究、組織運営等の総合的な状況に対する評価機能の一部を担っています。また、KTC教育評価委員会は、平成15年度よりKTC授業アンケート及びKTC総合アンケートを実施し、学生、卒業生、関連企業、教職員から、教育・研究、施設・設備や学校への要望などの多様な項目に関する意見の聴取が行われています。両アンケートについてはその内容が結果報告集としてまとめられ、教職員、学校法人関係者に公表されていますが、現状では、評価に基づく改善の成果が得られるまでには至っていません。十年委員会が行う学校法人全体に係る総合的な状況に対する評価については、本校の各種委員会に報告され、改善の施策が検討されるシステムが整えられており、国際コミュニケーション情報工学科の

設置や金沢高専夢考房の設置などの具体的な改善に結び付いています。

以上のとおり、管理運営体制及び事務組織の整備状況、外部有識者の意見の反映の状況、及び学校の総合的な状況に関する自己点検・評価の実施状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。